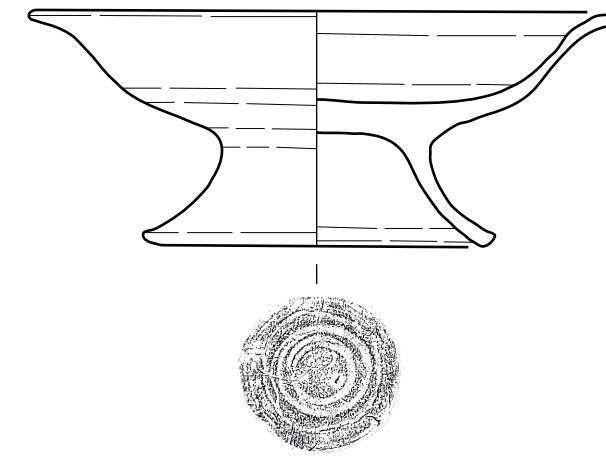


平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書



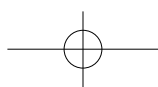
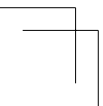
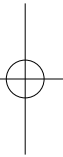
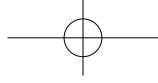
2019

水戸市教育委員会

平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

2019

水戸市教育委員会

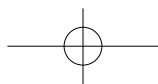
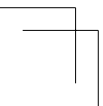
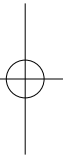
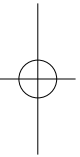
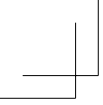




三ノ町遺跡調査状況（北から）



軍民坂遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物跡 SB01 柱穴 P2 遺物検出状況（西から）

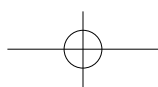
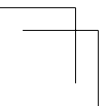
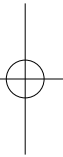
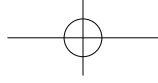




軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑 SK07 遺物検出状況（南から）



軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑 SK07 土層断面（南から）



ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は、平成 21 年度に水戸市内において実施した国庫補助による試掘・確認調査、本発掘調査、立会調査の報告書です。

平成 21 年度に実施した試掘・確認調査は 96 件に及び、個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした本発掘調査を 5 件、開発に伴う工事立会調査を 14 件実施しました。この数は県内でもトップクラスです。本書には、これらの調査によって得られた縄文時代から江戸時代に及ぶ数々の興味深い成果が盛り込まれております。

仙光内遺跡（第 3 地点）において実施した工事立会調査では、本遺跡において初見となる古墳時代後期の土師器や平安時代の須恵器が出土するとともに、近世から近代にかけての土器や陶磁器などが出土しました。

下入野富士山遺跡（第 1 地点）において実施した試掘調査では、本市でも調査事例の乏しい 11 世紀代の竪穴建物跡が検出され、平安時代半ば頃の庶民の生活の一端を垣間見ることのできる成果が得られました。

丹下一ノ牧野馬土手跡では、土塁とそれに並行する堀跡を検出するとともに、18 世紀頃の土器・陶磁器類が出土し、第 9 代水戸藩主徳川斉昭により開設された桜野枚の一部を構成するものである可能性が高いことが判明しました。

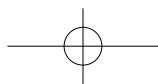
本市が力を注いでいる歴史まちづくり事業のひとつである横山大観生誕の地整備事業に伴い実施した、三ノ町遺跡（第 1 地点）の確認調査においては、17 世紀後半から 19 世紀前半にかけての生活面と武家屋敷の伴う土器・陶磁器類が大量に検出され、横山大観が生まれた酒井家の屋敷の遺構・遺物が地下に良好な状態で保存されていることが確認されました。

それぞれの調査面積・期間はささやかなものですが、その成果を一つ一つ積み重ねていくことにより、水戸の歴史をより豊かなものにし、郷土の歴史的資源を活かした風格のあるまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様、並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が、かけがえのない郷土の文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただけることを期待し、ごあいさつといたします。

平成 31 年 3 月

水戸市教育委員会
教育長 本多 清峰



例 言

1. 本書は平成 21 年度に国・県費の補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した水戸市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査時の体制は以下のとおりである。

(平成 21 年)

事 務 局	鯨岡 武	水戸市教育委員会教育長
	内田秀泰	水戸市教育委員会事務局教育次長
	宮崎賢司	同文化振興課大串貝塚ふれあい公園所長
	山戸祐子	同嘱託員
	大津郁子	同嘱託員
	荒蒔周平	同嘱託員
整理担当者	川口武彦	同文化財主事
	色川順子	同嘱託員

3. 整理作業は以下の体制で平成 22 年以降も継続して実施した。

事 務 局	本多清峰	水戸市教育委員会教育長 (平成 24 年 10 月 5 日～)
	会沢俊郎	水戸市教育委員会事務局教育次長 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)
	中里誠志郎	同教育次長 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)
	七字裕二	同教育次長 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)
	増子孝伸	同教育次長 (平成 30 年 4 月 1 日～)
	五上義隆	同埋蔵文化財センター所長 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	飯村博史	同埋蔵文化財センター所長 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)
	長谷川仁	同埋蔵文化財センター所長 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
	関口慶久	同埋蔵文化財センター所長 (平成 29 年 4 月 1 日～)
	渥美賢吾	同埋蔵文化財センター文化財主事／主幹 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	新垣清貴	同埋蔵文化財センター文化財主事／主幹 (平成 28 年 4 月 1 日～)
	廣松滉一	同埋蔵文化財センター文化財主事 (平成 30 年 4 月 1 日～)
	金子千秋	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)
	三浦健太	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)
	額賀大輔	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	鈴木達也	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	鈴木 学	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)
	昆 志穂	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 26 年 4 月 1 日～)
	丸山優香里	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 26 年 6 月 1 日～)
	下山はる奈	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
	染井千佳	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 29 年 5 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)
	松浦史明	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 29 年 4 月 1 日～)
	大津郁子	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)
	田中恭子	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)
	木村貴子	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)
	木本雪佳	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日)
	大谷純奈	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 25 年 7 月 1 日～平成 26 年 11 月 30 日)
	菅谷瑛奈	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 27 年 6 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
	有田洋子	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 29 年 4 月 1 日～)
	山戸祐子	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)
	杉山洋子	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)
整理担当者	米川暢敬	同埋蔵文化財センター文化財主事／主幹 (平成 22 年 4 月 1 日～)
	色川順子	同埋蔵文化財センター嘱託員 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

坂本幸子 同埋蔵文化財センター嘱託員（平成 24 年 10 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）
太田有里乃 同埋蔵文化財センター嘱託員／主事（平成 25 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

4. 発掘調査と整理作業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

石川 勉，石崎寿子，石崎洋子，榎澤由紀江，海老原四郎，岡野政雄，小山司農夫，片西登美江，加藤利男，川又恵美子，河原井俊吉郎，久保木きよ子，久保田馨，栗原芳子，黒須秀昭，鈴木潤一，高柳悦子，高安幸且，飛田とし子，富田 仁，中山忠雄，廣水一真，福原雅美，三浦健太，皆川明子，皆川幸子，村上巧兒，山崎武司，渡辺恵子

整理作業参加者

安島町子，飯田貴代子，石原幸子，小澤弥代，柏千枝子，郡司由紀子，斉藤千左乃，杉崎明美，鈴木加代子，須藤裕美，田上雪枝，橋本祥子，人見よね子，平根真由美，広瀬文子，深澤貞子，三浦悦子，山戸祐子，和田正治

5. 本書の執筆は，各現場の担当者が分担して行ない，全体の編集には米川・関口・色川・坂本があたった。出土遺物については図化および観察表作成，解説文執筆を色川・坂本・渥美・米川・関口・川口が分担した。

6. 本書に関わる資料は，水戸市教育委員会が保管している。

7. 遺構の写真撮影は現場担当者が行った。

8. 発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く感謝いたします（五十音順・敬称略）。

【個人】 青山俊明，稲田健一，今尾文昭，梅田由子，大塚初重，大橋泰夫，岡本東三，川崎純徳，瓦吹 堅，木本挙周，黒澤彰哉，小杉山大輔，後藤一成，後藤孝行，後藤道雄，斎藤弘道，佐々木義則，鈴木素行，田中 裕，谷口陽子，日高 慎，吹野富美夫，三井 猛，宮内良隆，谷仲俊雄，山中敏史，横倉要次

【機関】 文化庁文化財部記念物課，茨城県教育庁文化課

凡 例

1. 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。
2. 遺構断面図及び土層堆積図の標高は，その都度図中に示している。
3. 本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修 2000 年版）に従った。
4. 引用・参考文献は，一括して本書の最後に提示した。
5. 表紙に使用した遺物の実測図は，下入野富士山遺跡（第 1 地点）出土の土師器（足高高台碗）である。

目 次

あいさつ

例言・凡例・目次

第 1 章 平成 21 年度の発掘調査と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第 2 章 開発に伴う試掘調査／確認調査／個人住宅建築に伴う本発掘調査・・・・・・・・・・ 9

第 1 節 酒門・吉田地区

- 2-1-1 酒門小学校遺跡（第 2 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 2-1-2 大鋸町遺跡（第 11 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 2-1-3 谷田古墳群（第 11 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 2-1-4 吉田古墳群（第 7 地点第 1 次～第 3 次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 2-1-5 吉田古墳群（第 8 地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 2-1-6 周知外（吉田古墳群近接）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

2-1-7	福沢古墳群 (第3地点)	16
2-1-8	福沢古墳群 (第4地点)	17
2-1-9	福沢古墳群 (第5地点)	18
2-1-10	福沢古墳群 (第8地点)	19
2-1-11	薬王院東遺跡 (第2地点第3次)	20
2-1-12	乗越沢遺跡 (第1地点)	21
第2節 緑岡地区		
2-2-1	若林遺跡 (第1地点第3次)	22
2-2-2	若林遺跡 (第1地点第4次)	23
2-2-3	杳掛遺跡 (第2地点)	25
2-2-4	杳掛遺跡 (第4地点)	26
第3節 赤塚地区		
2-3-1	高天原遺跡 (第2地点)	27
2-3-2	坏遺跡 (第11地点第1・2次)	28
2-3-3	坏遺跡 (第13地点)	30
2-3-4	赤塚遺跡 (第5地点第2次)	32
2-3-5	河和田城跡 (第11地点)	34
2-3-6	河和田城跡 (第12地点)	35
2-3-7	周知外 (河和田城跡近接)	36
2-3-8	仙光内遺跡 (第3地点)	36
2-3-9	丹下一ノ牧野馬土手跡	39
第4節 山根地区		
2-4-1	南仲坪遺跡 (第5地点)	42
2-4-2	新田遺跡	43
2-4-3	般若寺遺跡	43
第5節 渡里地区		
2-5-1	文京1丁目遺跡 (第1地点)	44
2-5-2	西原遺跡 (第1地点)	46
2-5-3	堀遺跡 (第14地点)	47
2-5-4	堀遺跡 (第19地点)	47
2-5-5	堀遺跡 (第20地点)	48
2-5-6	堀遺跡 (第21地点)	50
2-5-7	西原古墳群 (第14地点)	51
2-5-8	渡里町遺跡 (第10地点 (台渡里第53次))	52
2-5-9	台渡里官衙遺跡 (台渡里第43次)	54
2-5-10	アラヤ遺跡 (台渡里第55次)	55
2-5-11	台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	56
2-5-12	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	58
2-5-13	台渡里廃寺跡 (台渡里第61次)	64
第6節 国田地区		
2-6-1	南台遺跡 (第2地点)	65
第7節 飯富地区		
2-7-1	大井古墳群 (第1地点)	66
2-7-2	馬場尻跡	67
2-7-3	大部平太郎屋敷跡 (第1地点)	68
第8節 旧市内・その他・市街地		
2-8-1	三ノ町遺跡 (第1地点)	69
2-8-2	偕楽園 (常磐公園)	74

第9節 常澄地区

2-9-1 上平遺跡	75
2-9-2 高原遺跡 (第3地点)	76
2-9-3 下入野富士山遺跡 (第1地点)	77

第10節 内原地区

2-10-1 遠台遺跡 (第4地点)	78
2-10-2 舟塚古墳 (第1地点)	79
2-10-3 田島古墳群 (第1地点)	80
2-10-4 一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	83
2-10-5 息栖台遺跡 (第1地点)	84

第3章 平成20年度の発掘調査追加報告 (補遺)

3-1 周知外 (安楽寺遺跡近接)	86
3-2 薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	86
3-3 平ナ山窯跡群	88
3-4 中河内遺跡 (第3地点)	88
3-5 寺内遺跡 (第2地点)	89
3-6 軍民坂遺跡 (第4地点)	90

引用・参考文献	132
---------	-----

図版目次

第1図 調査対象となった遺跡の位置	5	第24図 福沢古墳群 (第3地点) のトレンチ配置	16
第2図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (1)	6	第25図 福沢古墳群 (第4地点) の位置	17
第3図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (2)	7	第26図 福沢古墳群 (第4地点) のトレンチ配置	17
第4図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (3)	8	第27図 福沢古墳群 (第5地点) の位置	18
第5図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (4)	9	第28図 福沢古墳群 (第5地点) のトレンチ配置	18
第6図 酒門小学校遺跡 (第2地点) の位置	10	第29図 福沢古墳群 (第5地点) 出土遺物	18
第7図 酒門小学校遺跡 (第2地点) のトレンチ配置	10	第30図 福沢古墳群 (第8地点) の位置	19
第8図 酒門小学校遺跡 (第2地点) 出土遺物	10	第31図 福沢古墳群 (第8地点) のトレンチ配置	19
第9図 大鋸町遺跡 (第11地点) の位置	11	第32図 薬王院東遺跡 (第2地点第3次) の位置	20
第10図 大鋸町遺跡 (第11地点) の位置	11	第33図 薬王院東遺跡 (第2地点第3次) のトレンチ配置	20
第11図 大鋸町遺跡 (第11地点) 出土遺物	11	第34図 薬王院東遺跡 (第2地点第3次) 出土遺物	20
第12図 谷田古墳群 (第11地点) の位置	12	第35図 乗越沢遺跡 (第1地点) の位置	21
第13図 谷田古墳群 (第11地点) のトレンチ配置	12	第36図 乗越沢遺跡 (第1地点) のトレンチ配置	21
第14図 谷田古墳群 (第11地点) 出土遺物	12	第37図 乗越沢遺跡 (第1地点) 出土遺物	21
第15図 吉田古墳群 (第7地点第1次) の位置	13	第38図 若林遺跡 (第1地点第3次) の位置	22
第16図 吉田古墳群 (第7地点第1次) のトレンチ配置	13	第39図 若林遺跡 (第1地点第3次) のトレンチ配置	22
第17図 吉田古墳群 (第7地点第1次) 出土遺物	13	第40図 若林遺跡 (第1地点第4次) の位置	23
第18図 吉田古墳群 (第8地点) の位置	14	第41図 若林遺跡 (第1地点第4次) のトレンチ配置	23
第19図 吉田古墳群 (第8地点) のトレンチ配置・遺構検出状況	14	第42図 若林遺跡 (第1地点第4次) 出土遺物	24
第20図 吉田古墳群 (第8地点) 出土遺物	14	第43図 杵掛遺跡 (第2地点) の位置	25
第21図 周知外 (吉田古墳群近接) の位置	15	第44図 杵掛遺跡 (第2地点) のトレンチ配置	25
第22図 周知外 (吉田古墳群近接) のトレンチ配置・遺構検出状況	15	第45図 杵掛遺跡 (第4地点) の位置	26
第23図 福沢古墳群 (第3地点) の位置	16	第46図 杵掛遺跡 (第4地点) のトレンチ配置・遺構検出状況	26

第 47 図	高天原遺跡（第 2 地点）の位置	27	第 95 図	渡里町遺跡（第 10 地点（台渡里第 53 次））の位置	52
第 48 図	高天原遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	27	第 96 図	渡里町遺跡（第 10 地点（台渡里第 53 次））のトレンチ配置	52
第 49 図	坏遺跡（第 11 地点第 1・2 次）の位置	28	第 97 図	渡里町遺跡（第 10 地点（台渡里第 53 次））出土遺物	53
第 50 図	坏遺跡（第 11 地点第 1・2 次）のトレンチ配置	28	第 98 図	台渡里官衙遺跡（台渡里第 43 次）の位置	54
第 51 図	坏遺跡（第 11 地点第 1・2 次）出土遺物	29	第 99 図	台渡里官衙遺跡（台渡里第 43 次）のトレンチ配置	54
第 52 図	坏遺跡（第 13 地点）の位置	30	第 100 図	台渡里官衙遺跡（台渡里第 43 次）出土遺物	54
第 53 図	坏遺跡（第 13 地点）のトレンチ配置	30	第 101 図	アラヤ遺跡（台渡里第 55 次）の位置	55
第 54 図	坏遺跡（第 13 地点）出土遺物	31	第 102 図	アラヤ遺跡（台渡里第 55 次）出土遺物	55
第 55 図	赤塚遺跡（第 5 地点第 2 次）の位置	32	第 103 図	台渡里廃寺跡（台渡里第 57 次）の位置	56
第 56 図	赤塚遺跡（第 5 地点第 2 次）のトレンチ配置	32	第 104 図	台渡里廃寺跡（台渡里第 57 次）のトレンチ配置	56
第 57 図	赤塚遺跡（第 5 地点第 2 次）出土遺物	33	第 105 図	台渡里廃寺跡（台渡里第 57 次）出土遺物	57
第 58 図	河和田城跡（第 11 地点）の位置	34	第 106 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の本発掘調査範囲	58
第 59 図	河和田城跡（第 11 地点）のトレンチ配置	34	第 107 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の本発掘調査区遺構配置	59
第 60 図	河和田城跡（第 12 地点）の位置	35	第 108 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の遺構土層断面図（1）	60
第 61 図	河和田城跡（第 12 地点）のトレンチ配置	35	第 109 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の遺構土層断面図（2）	61
第 62 図	周知外（河和田城跡近接）の位置	36	第 110 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の遺構土層断面図（3）	60
第 63 図	周知外（河和田城跡近接）採集遺物	36	第 111 図	アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）出土遺物	62
第 64 図	仙光内遺跡（第 3 地点）の位置	36	第 112 図	台渡里廃寺跡（台渡里第 61 次）の位置	64
第 65 図	仙光内遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置・遺構検出状況・土層模式図	37	第 113 図	台渡里廃寺跡（台渡里第 61 次）のトレンチ配置	64
第 66 図	仙光内遺跡（第 3 地点）出土遺物	38	第 114 図	台渡里廃寺跡（台渡里第 61 次）出土遺物	64
第 67 図	丹下一ノ牧野馬土手跡の位置	39	第 115 図	南台遺跡（第 2 地点）の位置	65
第 68 図	丹下一ノ牧野馬土手跡の調査範囲	39	第 116 図	南台遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	65
第 69 図	丹下一ノ牧野馬土手跡のトレンチ配置・測量調査平面図	40	第 117 図	大井古墳群（第 1 地点）の位置	66
第 70 図	丹下一ノ牧野馬土手跡の遺構検出状況・トレンチ1西壁土層断面図	40	第 118 図	大井古墳群（第 1 地点）のトレンチ配置	66
第 71 図	丹下一ノ牧野馬土手跡出土遺物	41	第 119 図	馬場尻遺跡の位置	67
第 72 図	南仲坪遺跡（第 5 地点）の位置	42	第 120 図	馬場尻遺跡採集遺物	67
第 73 図	南仲坪遺跡（第 5 地点）のトレンチ配置	42	第 121 図	大部平太郎屋敷跡（第 1 地点）の位置	68
第 74 図	南仲坪遺跡（第 5 地点）出土遺物	42	第 122 図	大部平太郎屋敷跡（第 1 地点）のトレンチ配置	68
第 75 図	新田遺跡の位置	43	第 123 図	大部平太郎屋敷跡（第 1 地点）出土遺物	68
第 76 図	新田遺跡採集遺物	43	第 124 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）の位置	69
第 77 図	般若寺遺跡の位置	43	第 125 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	69
第 78 図	般若寺遺跡採集遺物	43	第 126 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）出土遺物（1）	70
第 79 図	文京一丁目遺跡（第 1 地点）の位置	44	第 127 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）出土遺物（2）	71
第 80 図	文京一丁目遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	44	第 128 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）出土遺物（3）	72
第 81 図	西原遺跡（第 1 地点）の位置	46	第 129 図	三ノ町遺跡（第 1 地点）出土遺物（4）	73
第 82 図	西原遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	46	第 130 図	偕楽園（常磐公園）の位置	74
第 83 図	西原遺跡（第 1 地点）出土遺物	46	第 131 図	偕楽園（常磐公園）の現状変更申請地とトレンチ配置	74
第 84 図	堀遺跡（第 14 地点）の位置	47	第 132 図	偕楽園（常磐公園）出土遺物	75
第 85 図	堀遺跡（第 14 地点）のトレンチ配置	47	第 133 図	上平遺跡の位置	75
第 86 図	堀遺跡（第 19 地点）の位置	47	第 134 図	上平遺跡採集遺物	75
第 87 図	堀遺跡（第 19 地点）のトレンチ配置	48	第 135 図	高原遺跡（第 3 地点）の位置	76
第 88 図	堀遺跡（第 20 地点）の位置	48	第 136 図	高原遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置	76
第 89 図	堀遺跡（第 20 地点）のトレンチ配置	49	第 137 図	高原遺跡（第 3 地点）出土遺物	76
第 90 図	堀遺跡（第 14・19・20 地点）出土遺物	49	第 138 図	下入野富士山遺跡（第 1 地点）の位置	77
第 91 図	堀遺跡（第 21 地点）の位置	50	第 139 図	下入野富士山遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	77
第 92 図	堀遺跡（第 21 地点）のトレンチ配置	50	第 140 図	下入野富士山遺跡（第 1 地点）出土遺物	77
第 93 図	西原古墳群（第 14 地点）の位置	51	第 141 図	遠台遺跡（第 4 地点）の位置	78
第 94 図	西原古墳群（第 14 地点）のトレンチ配置	51	第 142 図	遠台遺跡（第 4 地点）のトレンチ配置	78

第143 図	舟塚古墳（第1地点）の位置	79	第165 図	軍民坂遺跡（第4地点）掘立柱建物跡柱穴及び土坑（1）	97
第144 図	舟塚古墳（第1地点）のトレンチ配置	79	第166 図	軍民坂遺跡（第4地点）第6号土坑（SK06）	98
第145 図	田島古墳群（第1地点）の位置	80	第167 図	軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑（SK07）	99
第146 図	田島古墳群（第1地点）のトレンチ配置・遺構検出状況	81	第168 図	軍民坂遺跡（第4地点）第10号土坑（SK10）	100
第147 図	田島古墳群（第1地点）出土遺物	82	第169 図	軍民坂遺跡（第4地点）第11号土坑（SK11）	101
第148 図	一戦塚遺跡（第1地点第2次）の位置	83	第170 図	軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑（SK12）	102
第149 図	一戦塚遺跡（第1地点第2次）のトレンチ配置	83	第171 図	軍民坂遺跡（第4地点）第15号土坑（SK15）	103
第150 図	息栖台遺跡（第1地点）の位置	84	第172 図	軍民坂遺跡（第4地点）第5号土坑出土遺物	103
第151 図	息栖台遺跡（第1地点）のトレンチ配置	84	第173 図	軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（1）	104
第152 図	息栖台遺跡（第1地点）出土遺物	84	第174 図	軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（2）	105
第153 図	平成20年度追加報告遺跡の位置	85	第175 図	軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（3）	106
第154 図	周知外（安楽寺遺跡近接）出土遺物	86	第176 図	軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（4）	107
第155 図	薬王院東遺跡（第2地点第2次）出土遺物	87	第177 図	軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（5）	108
第156 図	平ナ山窯跡群採集遺物	88	第178 図	軍民坂遺跡（第4地点）第11号土坑出土遺物	109
第157 図	中河内遺跡（第3地点）出土遺物	89	第179 図	軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（1）	110
第158 図	寺内遺跡（第2地点）出土遺物	89	第180 図	軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（2）	111
第159 図	軍民坂遺跡（第4地点）の遺構配置	90	第181 図	軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（3）	112
第160 図	軍民坂遺跡（第4地点）第1号竪穴建物跡（SI01）	92	第182 図	軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑出土遺物（4）	113
第161 図	軍民坂遺跡（第4地点）掘立柱建物跡柱穴及びピット	92	第183 図	軍民坂遺跡（第4地点）第15号土坑出土遺物	114
第162 図	軍民坂遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物跡柱穴及び土坑	94	第184 図	軍民坂遺跡（第4地点）第3・6・10・19・20・22・23・26・36号土坑出土遺物	114
第163 図	軍民坂遺跡（第4地点）掘立柱建物跡柱穴及び土坑（1）	96	第185 図	軍民坂遺跡（第4地点）出土石器（1）	116
第164 図	軍民坂遺跡（第4地点）第1号掘立柱建物跡・第1号竪穴建物跡・3号・11号・12号土坑・遺構外出土古代遺物	96	第186 図	軍民坂遺跡（第4地点）出土石器（2）	117

表目次

第1 表	開発に伴う試掘・確認調査一覧	1/3	第8 表	SB05 柱穴一覧表	91
第2 表	個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧	4	第9 表	SB01 柱穴一覧表	93
第3 表	開発に伴う工事立会調査一覧	4	第10 表	軍民坂遺跡（第4地点）縄文時代遺構一覧表	95
第4 表	アラヤ遺跡（台渡里第59次）検出遺構一覧	63	第11 表	土器・陶磁器・瓦観察表	118/131
第5 表	SB02 柱穴一覧表	90	第12 表	石器観察表	131
第6 表	SB03 柱穴一覧表	91	第13 表	金属器観察表	131
第7 表	SB04 柱穴一覧表	91	第14 表	銭貨観察表	131

第1章 平成21年度の発掘調査と概要

平成21年度の水戸市内遺跡発掘調査は、59遺跡90地点（周知外5地点含む）がその対象となった。その内訳は、開発に係わる試掘・確認調査96件であった。

開発に係わる試掘・確認調査では、24遺跡34地点で遺構が検出され、32遺跡46地点（周知外1地点含む）で遺物が出土した（第1表）。事業計画と試掘・確認調査によって得られた成果を比較したところ、大半は工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため、工事立会あるいは慎重工事の扱いとなり、本発掘調査の実施が必要であると判断されたものは5件であった（第2表）。確認調査のうち、台渡里官衙遺跡（台渡里第54次）の調査成果については、別途刊行している概要報告書（渥美・川口 2011）に収録している。

本発掘調査の対象となった5件のうち、堀遺跡（第9地点）については、区画毎に報告すると、全体像が不鮮明になるため、本書では第2表に調査の概要のみを記し、詳細については別途、刊行を予定している報告書に収録する。

同様に台渡里官衙遺跡（第56次・58次）の調査成果についても、平成20年度に実施した台渡里官衙遺跡（台渡里第41次）調査と同一遺構を地点を違えて調査した内容であり、一体的に報告すべき内容であるため、別途刊行する報告書に収録する予定である。

アラヤ遺跡（台渡里第59次）の調査成果については本書に収録した。また、工事立会の扱いとなり、立会調査の際に遺構・遺物が出土した地点が4箇所ある（第3表）。遺構・遺物が出土されなかった遺跡（地点）の位置は第2～5図のとおりである。

第1表 開発に伴う試掘・確認調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査 担当者	遺構	遺物	掲載頁
1	酒門小学校遺跡 (第1地点)	酒門町 1427-1	2月10日	個人住宅建築	4.5	渥美賢吾	—	—	
2	酒門小学校遺跡 (第2地点)	酒門町字千束 1436-3の一部	3月10日	個人住宅建築	8.64	米川暢敬	—	○	10
3	周知外 (酒門小学校遺跡近接)	酒門町 1453-2	9月24日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
4	大鋸町遺跡 (第11地点)	元吉田町字狐塚 2341-13, 2342-8, -13	11月12日	個人住宅建築	27	川口武彦・ 渥美賢吾	○	○	11
5	高天原遺跡 (第2地点)	河和田1丁目 1541-2	2月19日	土地調査	9.35	渥美賢吾	○	○	27
6	坪遺跡 (第11地点第1次)	河和田1丁目 2430-1, 2432, 2433	6月18日～19日	土地調査	50.25	米川暢敬	○	○	28
7	坪遺跡 (第11地点第2次)	河和田1丁目 2430-1, 2431, 2432, 2433, 2435	9月2日	高齢者専用賃貸住宅建設	43	米川暢敬	—	○	28
8	坪遺跡 (第12地点)	河和田町 2507, 2508-1	10月13日	共同住宅建築	24	米川暢敬	—	—	
9	坪遺跡 (第13地点)	河和田1丁目 1637-1, 1638	2月10日	共同住宅建築	12.8	渥美賢吾	○	○	30
10	若林遺跡 (第1地点第3次)	見和3丁目 1389-1	7月21日	個人住宅建築	6	米川暢敬	○	○	22
11	若林遺跡 (第1地点第4次)	見和3丁目 1389-6～-10, -15	7月28日～29日	宅地造成工事	36	米川暢敬	○	○	23
12	若林遺跡 (第1地点第5次)	見和3丁目 1389-13	10月13日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
13	文京1丁目遺跡 (第1地点)	文京1丁目 1898-6外3筆	8月26日～27日	土地調査	112	渥美賢吾・ 米川暢敬	○	○	44
14	西原遺跡 (第1地点)	渡里町 3387-50, -131	10月23日	個人住宅建築	5.4	渥美賢吾	—	○	46
15	南台遺跡 (第2地点)	上国井町字阿川台 4079-2	4月28日	個人住宅建築	8	渥美賢吾	○	○	65
16	東照宮境内遺跡 (第2地点)	宮町2丁目6	9月29日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
17	東照宮境内遺跡 (第3地点)	宮町2-73-1	2月8日	社務所建設	30	関口慶久	—	—	
18	赤塚遺跡 (第5地点-2次)	河和田3丁目 2536	6月16日～18日	市営住宅建替	274.3	米川暢敬	○	○	32
19	柳河町遺跡 (第1地点)	柳河町 381	1月18日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
20	西大野B遺跡 (第1地点)	東大野町字大久保前 343-2, -3, -4	6月1日	個人住宅建築	10.1	渥美賢吾・ 米川暢敬	—	—	
21	茨城高等学校遺跡 (第2地点)	八幡町 7-7	12月25日	個人住宅建築	3.74	関口慶久	—	—	

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査 担当者	遺構	遺物	掲載頁
22	堀遺跡 (第9地点区画No.9)	渡里町字高野台 3309-1	12月15日	個人住宅建築	11	関口慶久	○	○	
23	堀遺跡 (第9地点区画No.10)	渡里町字高野台 3314-5	7月13日	個人住宅建築	12.5	渥美賢吾・ 米川暢敬	○	○	
24	堀遺跡 (第9地点区画No.11)	渡里町字高野台 3314-4	8月24日	個人住宅建築	11.75	渥美賢吾	○	○	
25	堀遺跡 (第14地点)	堀町字馬場東 342-2, -3	4月27日	個人住宅建築	13	渥美賢吾	○	○	47
26	堀遺跡 (第19地点)	堀町 293-1, -8	10月23日	個人住宅建築	12.24	渥美賢吾	○	○	47
27	堀遺跡 (第20地点)	堀町字前ノ内 395-1	11月24日	共同住宅建築	38	関口慶久	—	○	48
28	堀遺跡 (第21地点)	渡里町字高野台 3228-7, -10, -11	12月15日	個人住宅建築	10.5	関口慶久	○	○	50
29	下荒句遺跡 (第6地点)	双葉台 4丁目 243-21	4月21日	宅地造成工事	87.8	関口慶久・ 米川暢敬	—	—	
30	下荒句遺跡 (第7地点)	双葉台 4丁目 243-43, -139	9月9日	個人住宅建築	11.5	米川暢敬	—	—	
31	谷田古墳群 (第10地点)	谷田町 763-3, 773-5	7月28日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
32	谷田古墳群 (第11地点)	酒門町 587-5, 589-4, -6	8月25日	共同住宅建築	37	米川暢敬	—	○	12
33	吉田古墳群 (第6地点)	元吉田町 107-1	4月16日	個人住宅建築	10	渥美賢吾	—	—	
34	吉田古墳群 (第7地点第1次)	元吉田町 84-10	8月12日	宅地造成工事	15	米川暢敬	○	○	13
35	吉田古墳群 (第7地点第2次)	元吉田町 84-16	10月30日	個人住宅建築	6	渥美賢吾	—	—	
36	吉田古墳群 (第7地点第3次)	元吉田町 84-10, -12, -17	10月30日	個人住宅建築	6	渥美賢吾	—	—	
37	吉田古墳群 (第8地点)	元吉田町 102-1	9月24日～25日	宅地造成工事	74	米川暢敬	○	○	14
38	福沢古墳群 (第3地点)	米沢町 429-7	4月16日	個人住宅建築	6	渥美賢吾	—	○	16
39	福沢古墳群 (第4地点)	米沢町 429-1, -4, -8, -10	6月9日～10日	共同住宅建築	132.5	米川暢敬	○	—	17
40	福沢古墳群 (第5地点)	米沢町 421-1, -3	6月8日	個人住宅建築	12.6	米川暢敬	—	○	18
41	福沢古墳群 (第6地点)	米沢町 421-1, 420-5	6月8日	個人住宅建築	7.92	米川暢敬	—	—	
42	福沢古墳群 (第7地点)	米沢町 421-1, -3, 420-5	6月8日	個人住宅建築	7.26	米川暢敬	—	—	
43	福沢古墳群 (第8地点)	米沢町字上組 420-1	11月12日	個人住宅建築	28.5	川口武彦・ 渥美賢吾	○	○	19
44	愛宕山古墳群 (第2地点)	愛宕町 2023-1	5月15日	個人住宅建築	14	米川暢敬	—	—	
45	愛宕山古墳群 (第3地点)	愛宕町 2200-1, -2	12月7日	一戸建住宅(賃貸) 建築	6	米川暢敬	—	—	
46	大井古墳群 (第1地点)	飯富町 3516-1～3482	9月10日	狭あい道路整備工事	13	米川暢敬	—	○	66
47	台渡里宮衙遺跡 (台渡里第54次)	渡里町字長者山 3119 外	7月8日～8月28日	重要遺跡範囲確認調査	189.4	川口武彦・ 荒蒔周平	○	○	
48	河和田城跡 (第11地点)	河和田町 486-1, -3, 484-1, 3	5月18日～20日	宅地造成工事	216	関口慶久・米 川暢敬	○	○	34
49	河和田城跡 (第12地点)	河和田町字中道 3810-1, -5, 3810-4 の一部	2月19日	個人住宅建築	12.6	渥美賢吾	—	○	35
50	周知外 (河和田城跡近接)	河和田町 2894-4, -40	9月7日～8日	桜川公民館建替工事	117	米川暢敬	—	—	
51	南仲坪遺跡 (第5地点)	加倉井町字元光山 341-6, 340-3	6月4日	事務所兼工場建設	30	米川暢敬	○	○	42
52	渡里町遺跡 (第10地点(台渡里 第53次))	渡里町字前原 2819-1	7月13日～15日	共同住宅建築	90	渥美賢吾・ 米川暢敬	○	○	52
53	清水遺跡 (第1地点)	大塚町 2011-2	11月9日	個人住宅建築	6	関口慶久	—	—	
54	葉王院東遺跡 (第2地点-3次)	元吉田町字東組 573-2	12月16日	宅地造成工事	142.5	関口慶久	—	○	20
55	周知外 (三ツ児塚古墳群近接)	田野町 1798	6月29日～7月1日	墓地造成工事	30.25	米川暢敬・ 渥美賢吾	—	—	
56	周知外 (三ツ児塚古墳群近接)	田野町 1798	3月24日	墓地造成工事	19	米川暢敬	—	—	
57	北原遺跡 (第2地点)	中丸町 515-1	8月19日	携帯電話通信基地局 建設	4	米川暢敬	—	—	
58	乗越沢遺跡 (第1地点)	元石川町 645-6, -3	6月1日	個人住宅建築	9.75	渥美賢吾・ 米川暢敬	—	○	21

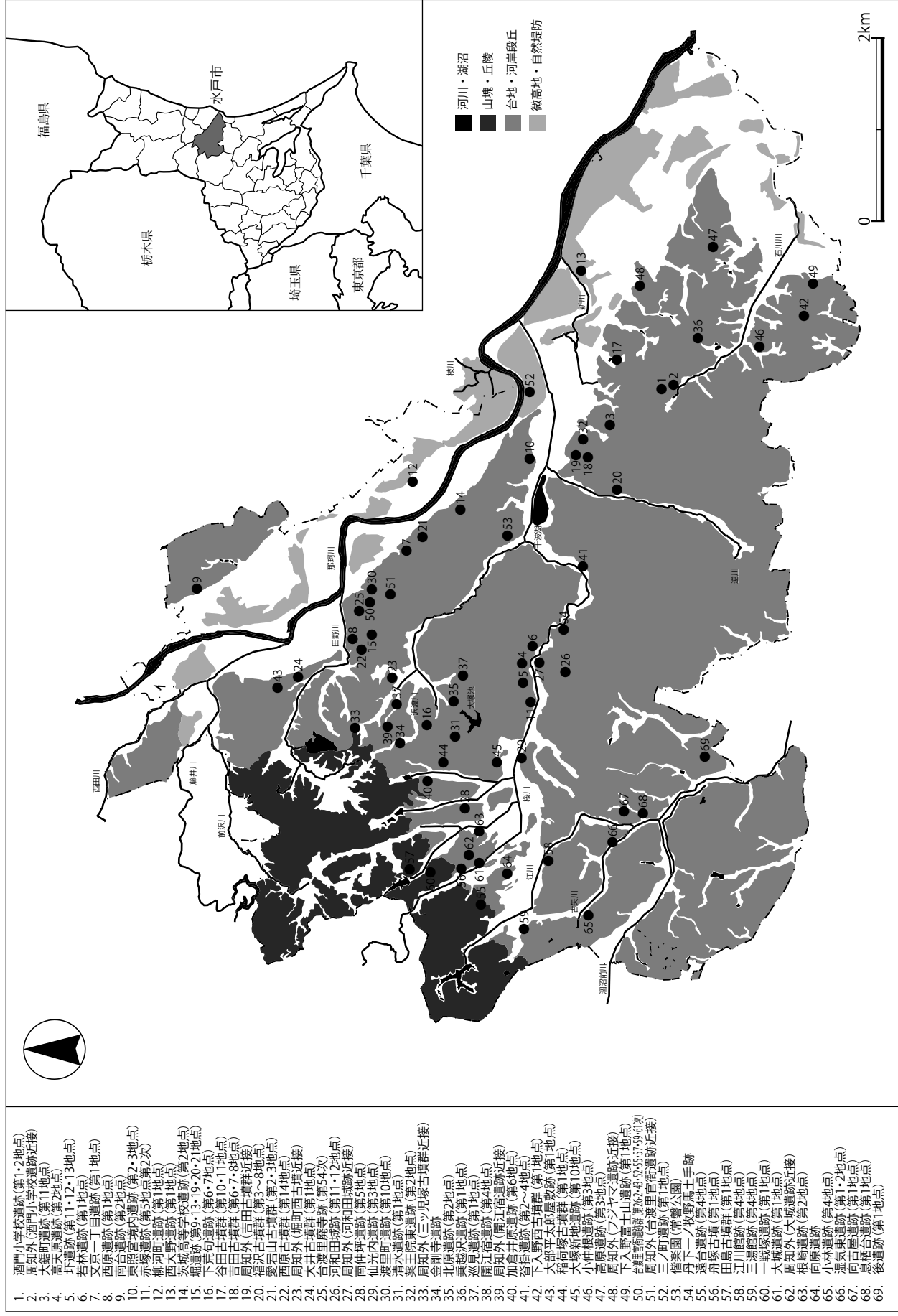
No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査 担当者	遺構	遺物	掲載頁
59	巡見遺跡 (第1地点)	赤塚2丁目2030-23	8月4日	個人住宅建築	10.95	米川暢敬	—	—	
60	開江宿遺跡 (第4地点)	開江町長田1507番の一部	11月9日	個人住宅建築	18	関口慶久	—	—	
61	加倉井原遺跡 (第6地点)	加倉井町字原1297-2	1月26日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
62	香掛遺跡 (第2地点)	見川町2563-212	7月21日	個人住宅建築	6	米川暢敬	○	—	25
63	香掛遺跡 (第3地点)	見川町2563-373	1月18日	個人住宅建築	6	米川暢敬	—	—	
64	香掛遺跡 (第4地点)	見川町2570-1, -4	1月21日	宅地分譲	41.25	米川暢敬	○	○	26
65	下入野西古墳群 (第1地点)	下入野町字水走1923-3, -5	2月24日	障害者介護施設建設	44.6	米川暢敬	—	—	
66	大部平太郎屋敷跡 (第1地点)	飯富町3621-1	9月10日	個人住宅建築	6	米川暢敬	○	○	68
67	稲荷塚古墳群 (第1地点第2次)	大塚町字谷津1756-3, 1757-4, -8	3月8日	個人住宅建築	11.68	米川暢敬	—	—	
68	大塚新地遺跡 (第10地点)	大塚町238-1	8月19日	個人住宅建築	10.5	米川暢敬	—	—	
69	小仲根遺跡 (第3地点)	元石川町2252-4	7月31日	個人住宅建築	15.6	米川暢敬	—	—	
70	高原遺跡 (第3地点)	大場町1101-1	4月2日	個人住宅建築	8.8	渥美賢吾・ 米川暢敬	—	○	76
71	下入野富士山遺跡 (第1地点)	下入野町字富士山2013-1	7月6日～8日	土砂採取	12.5	米川暢敬	○	○	77
72	台渡里官衙遺跡 (台渡里第26次第2次)	渡里町2873-2外8筆	12月4日	商業施設建設	23.76	関口慶久	—	—	
73	台渡里官衙遺跡 (台渡里第52次)	渡里町字念仏久保2538-1	4月22日	個人住宅建築	6	渥美賢吾	—	—	
74	アラヤ遺跡 (台渡里第55次)	渡里町2953-1	7月16日	個人住宅建築	23	米川暢敬	○	○	55
75	台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	渡里町字宿屋敷3001-3, 2998-4	10月23日, 11月17日～18日	個人住宅建築	11.5	渥美賢吾・ 川口武彦	—	○	56
76	台渡里廃寺跡 (台渡里第61次)	渡里町字前原2844-2	1月25日	共同住宅建築	21.75	渥美賢吾	○	○	64
77	周知外 (台渡里官衙遺跡近接)	堀町字立原1075-11外2筆	1月6日	高齢者専用賃貸住宅建設	74	米川暢敬	—	—	
78	三ノ町遺跡 (第1地点)	城東2-8-51(酒井家屋敷地跡)	6月22日～26日	横山大観生誕の地整備 に伴う範囲確認調査	52.5	関口慶久	○	○	69
79	偕楽園(常磐公園)	常磐町1-5977, 5999	10月27日	現状変更	12.58	関口慶久	—	○	74
80	丹下一ノ牧野馬土手跡	河和田町101外	10月19日～12月2日	宅地造成工事	測量1,440 試掘12.8	渥美賢吾	○	○	39
81	遠台遺跡 (第4地点)	杉崎町721-3	4月10日	個人住宅建築	14	渥美賢吾	—	○	78
82	舟塚古墳群 (第1地点)	大足町舟塚1290-2	3月29日	個人住宅建築	10	米川暢敬	○	—	79
83	田島古墳群 (第1地点)	三野輪98-2, 大足町1526-1, 1508	3月15日～18日	那珂川沿岸農業水利事業	33.4	米川暢敬	○	○	80
84	江川館跡 (第4地点)	内原町568-2	7月27日	個人住宅建築	24.75	米川暢敬	—	—	
85	三湯館跡 (第1地点)	三湯町436-9, -10	7月22日	個人住宅建築	14	米川暢敬	—	—	
86	三湯館跡 (第2地点)	三湯町436-6, -7, -12, -13	7月22日	個人住宅建築	9.5	米川暢敬	—	—	
87	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	牛伏町181-1	4月9日	個人住宅建築	24	渥美賢吾	○	○	83
88	大城遺跡 (第1地点)	大足町字深町1933-1	3月29日	個人住宅建築	6.1	米川暢敬	—	—	
89	周知外 (大城遺跡近接)	大足町1933-2	9月9日	個人住宅建築	5	米川暢敬	—	—	
90	根崎遺跡 (第2地点)	大足町522-1	8月24日	店舗建設	9	米川暢敬	—	—	
91	小林遺跡 (第4地点)	小林町1413-1, 804-2, 1412	2月17日	宅地造成工事	68	米川暢敬	—	—	
92	湿気東遺跡 (第1地点)	鯉淵町2745-1	5月15日	個人住宅建築	10.5	米川暢敬	—	—	
93	湿気東遺跡 (第2地点)	鯉淵町字三ノ割2722	1月14日	個人住宅建築	8	米川暢敬	—	—	
94	向古屋遺跡 (第1地点)	鯉淵町字一ノ割1384-3	1月14日	個人住宅建築	10.1	米川暢敬	—	—	
95	息栖台遺跡 (第1地点)	鯉淵町1119-2, 1124	6月4日	個人住宅建築	12	米川暢敬	—	○	84
96	後遺跡 (第1地点)	高田町字後424-1	12月7日	個人住宅建築	9	米川暢敬	—	—	

第2表 個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧

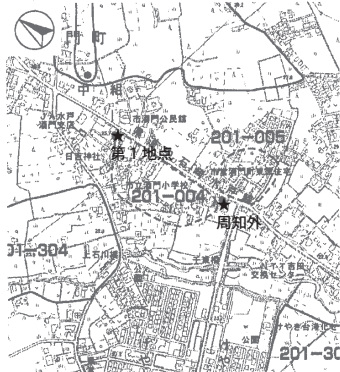
No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物	掲載頁
1	堀遺跡 (第9地点区画 No.10)	渡里町字高野台 3314-5	7月21日～ 8月21日	136	渥美賢吾	掘立柱建物1(奈良), 土坑16 (近世以降カ), ビット95(古代)	土師器・須恵器(奈良・平安), 瓦(古 代), 土器(近世), 銭貨(近世)	—
2	堀遺跡 (第9地点区画 No.9)	渡里町字高野台 3309-1	1月19日～ 3月4日	70.55	米川暢敬	掘立柱建物1(古代), 火葬墓1(中 世), 整穴状遺構1(中世), 地下式坑 1(中世), 土坑4(中世以降カ), ビッ ト23(古代以降), 性格不明遺構1	土師器・須恵器(奈良・平安), 瓦(古代)	—
3	台渡里官衙遺跡 (台渡里第56次)	渡里町 2771-13	9月15日～ 11月17日	73	米川暢敬	溝跡1・ビット1(古墳), 溝跡1・ビット2(古 墳～奈良), 礎石建物跡1(奈良・平安)	土師器・須恵器(古墳～奈良・平安), 炭化米・鉄釘・鉄滓(奈良・平安)	—
4	台渡里官衙遺跡 (台渡里第58次)	渡里町 2771-14	12月1日～ 12月24日	90	米川暢敬	溝1(古墳), ビット11(年代不詳)	土師器・須恵器(古墳～奈良・平安)	—
5	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	渡里町 2953-1	12月15日～ 1月13日	119.5	渥美賢吾	掘立柱建物跡1(奈良・平安), 土坑5(奈良・ 平安4, 近世以降1), ビット44(古代ほ か), 溝3(近世以降), 性格不明遺構2	土師器・須恵器(奈良・平安), 瓦(古代)	58

第3表 開発に伴う工事立会調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (㎡)	調査担当者	遺構	遺物	掲載頁
1	南台遺跡 (第2地点)	上国井町字阿川台 4079-2	記録無	個人住宅 雨水浸透柵設置工事	—	渥美賢吾	—	—	—
2	赤塚遺跡	河和田3丁目地内 河和田1号線	記録無	公共下水道関連工事	—	渥美賢吾	—	—	—
3	赤塚遺跡	河和田3丁目地内 法定外道路	記録無	公共下水道関連工事	—	渥美賢吾	—	—	—
4	堀遺跡	堀町 827-2 外, 827-5 外 渡里 241・258 号線	8月17日	公共下水道関連工事	—	米川暢敬	—	—	—
5	周知外 (吉田古墳群近接)	元吉田町智内 市道駅南6号線	5月25日	側溝新設工事	2.9	渥美賢吾	○	—	15
6	西原古墳群 (第14地点)	渡里町字野木 3387-31 外 市道渡里 33 号線	4月1日	道路拡幅・側溝新設工事	3.4	渥美賢吾	—	○	51
7	周知外 (堀町西古墳群近接)	堀町畑地内 市道渡里 38 号線	2月17日	排水路新設工事	—	渥美賢吾	—	—	—
8	仙光内遺跡 (第3地点・第2・3次)	飯島町地内	6月23日 7月6日～10日	排水路新設工事	—	渥美賢吾	○	○	36
9	金剛寺遺跡	開江町地内 上中妻 32・33・34 号線	記録無	狭あい道路拡幅工事	—	渥美賢吾	—	—	—
10	周知外 (開江遺跡近接)	開江町 1186-1 外 市道渡里 247 号線	4月13日	河川排水路新設工事	—	渥美賢吾	—	—	—
11	周知外 (フジヤマ古墳近接)	栗崎超 1581-3 外 市道常澄 7-0058 号線	6月5日	側溝新設工事	2	渥美賢吾	—	—	—
12	台渡里官衙遺跡 (台渡里第43次)	渡里町 3009-1	6月11日	個人住宅 浄化槽埋設工事	—	渥美賢吾・ 米川暢敬	○	○	54
13	台渡里官衙遺跡	渡里町 2944-3 外 市道常磐 282 号線	4月15日	公共下水道新設工事	7.5	渥美賢吾・ 米川暢敬具	—	—	—
14	向原遺跡	中原町地内 市道向原 8-2261 号線	3月1日	公共下水道工事	—	渥美賢吾	—	—	—



第1図 調査対象となった遺跡の位置



酒門小学校遺跡 (第1地点)
集違い (酒門小学校近接)



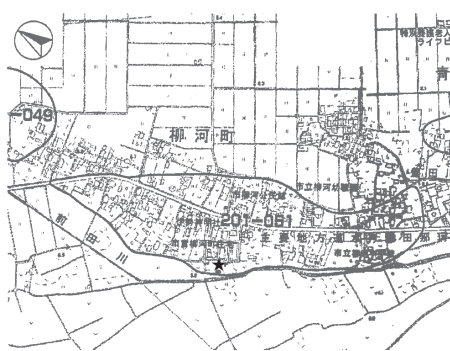
環遺跡 (第12地点)



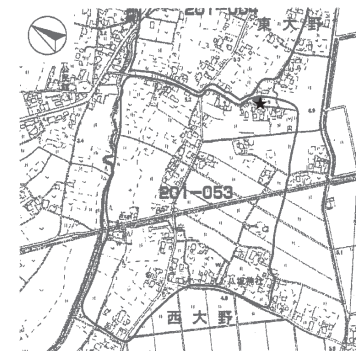
若林遺跡 (第1地点第5次)



東照宮境内遺跡 (第2・3地点)



柳河町遺跡 (第1地点)



西大野B遺跡 (第1地点)



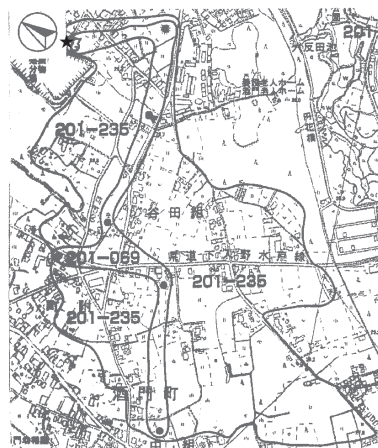
茨城高等学校遺跡 (第2地点)



堀遺跡 (第9地点区画No.9・10)



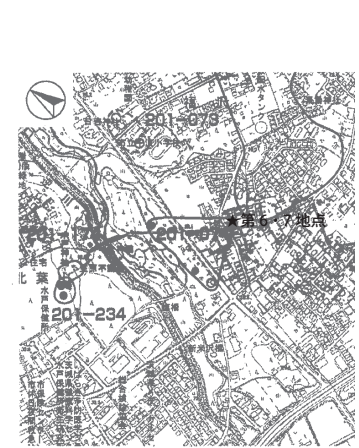
下荒匂遺跡 (第6・7地点)



谷田古墳群 (第10地点)

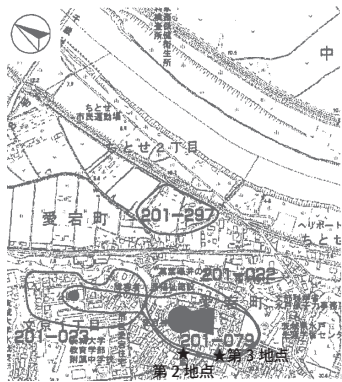


吉田古墳群 (第6地点・第7地点第2・3次)



福沢古墳群 (第6・7地点)

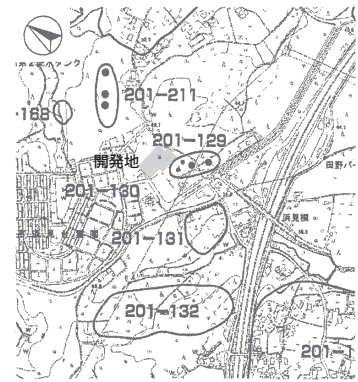
第2図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (1)



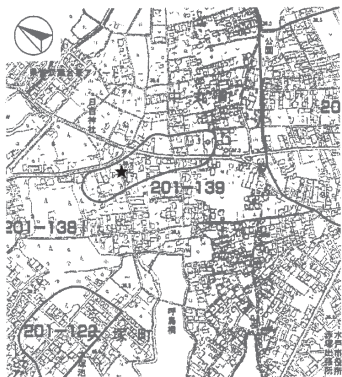
愛宕山古墳群 (第2・3地点)



清水遺跡 (第1地点)



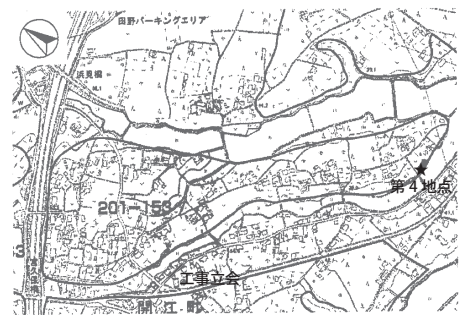
周知外 (三ツ見塚古墳群近接)



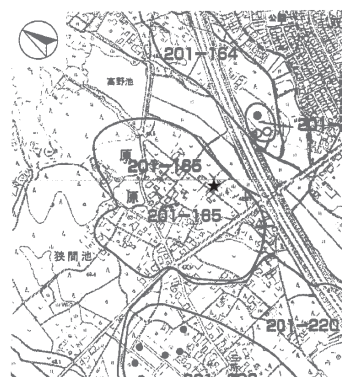
北原遺跡 (第2地点)



巡見遺跡 (第1地点)



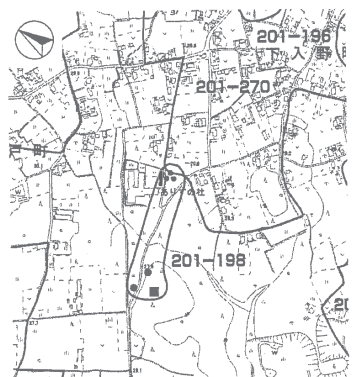
開江宿遺跡 (第4地点)
工事立会 周知外 (開江宿遺跡近接)



加倉井原遺跡 (第6地点)



沓掛遺跡 (第3地点)



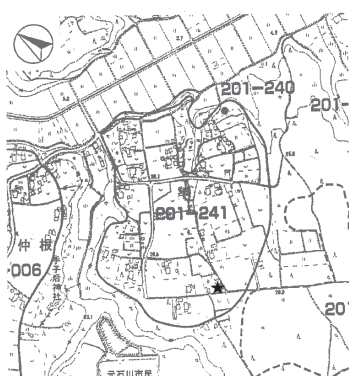
下入野西古墳群 (第1地点)



稲荷塚古墳群 (第1地点第2次)

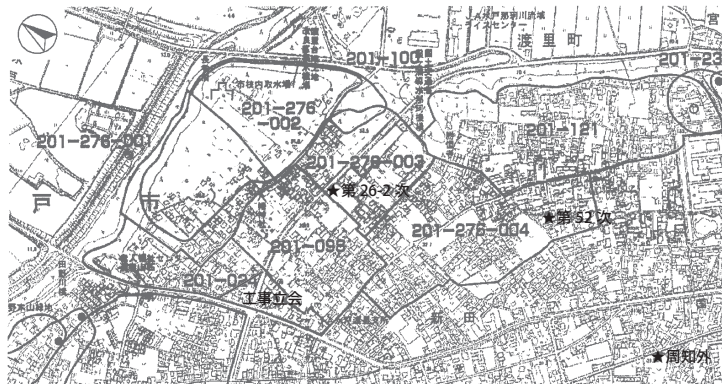


大塚新地遺跡 (第10地点)

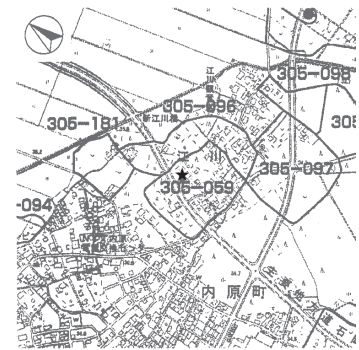


小仲根遺跡 (第3地点)

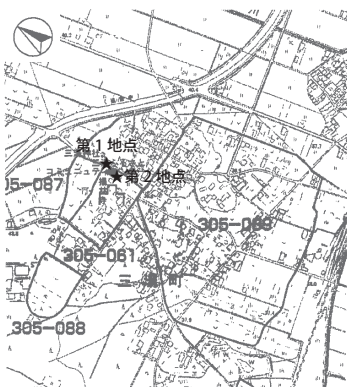
第3図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (2)



台渡里官衙遺跡 (第26次第2次・第52次・工事立会)
周知外 (台渡里官衙遺跡近接)



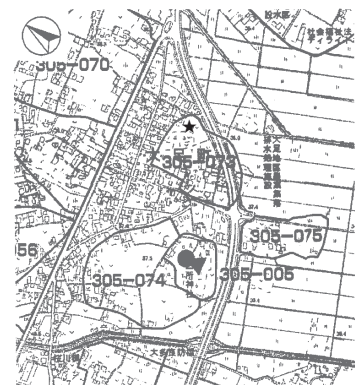
江川館跡 (第4地点)



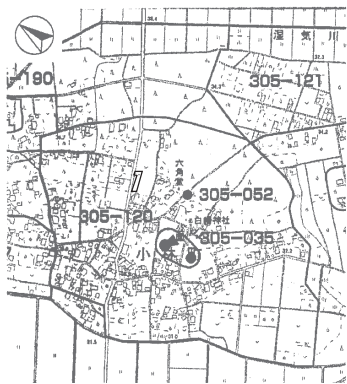
三湯館跡 (第1・第2地点)



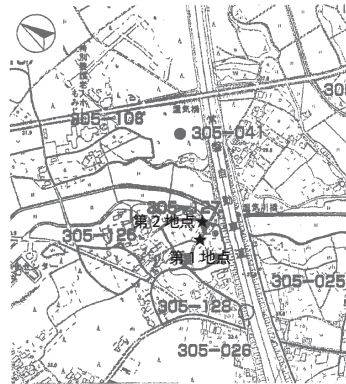
大城遺跡 (第1地点)
周知外 (大城遺跡近接)



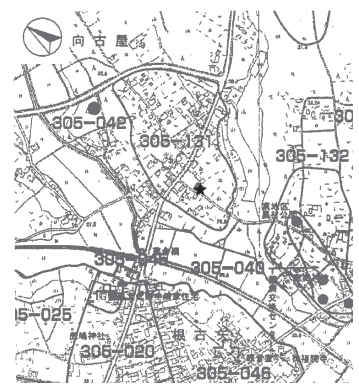
根崎遺跡 (第2地点)



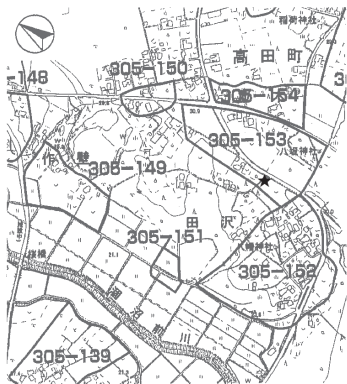
小林遺跡 (第4地点)



湿気東遺跡 (第1・第2地点)



向古屋遺跡 (第1地点)



後遺跡 (第1地点)

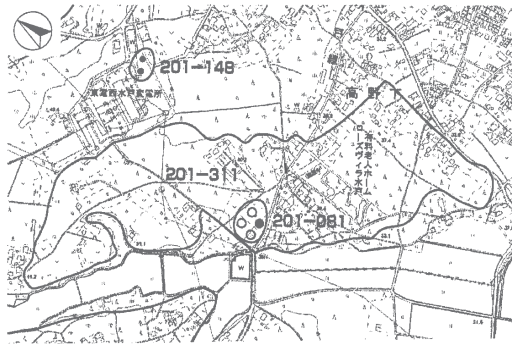


赤塚遺跡 工事立会



堀遺跡 工事立会

第4図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (3)



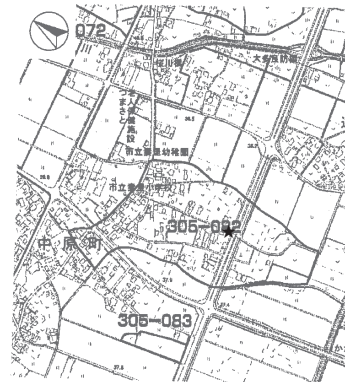
周知外 (堀町西古墳近接) 工事立会



金剛寺遺跡 工事立会



周知外 (フジヤマ古墳近接) 工事立会



向原遺跡 工事立会

第5図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置 (4)

第2章 開発に伴う試掘調査／確認調査／個人住宅建築に伴う本発掘調査

試掘調査 周知の遺跡の範囲内において実施するが、範囲外であっても現地踏査の結果、遺物が採集される場合、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、周知の範囲外においても試掘調査を適宜実施した。開発予定地内に数mの大きさのトレンチ(試掘溝)を設定し、重機(バックホウ)もしくは人力により、関東ローム層上面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構か否かの判断が困難な場合には、サブトレンチ等を適宜設定し、精査により遺構の確認を行った。また、遺跡の時期や遺構の正確を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた場合もある。遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げた。

確認調査 重要遺跡の範囲・内容確認や整備等の保存を目的として実施するもので、数mの大きさのトレンチ(試掘溝)を設定し、重機(バックホウ)もしくは人力により、遺構確認面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構の性格や時期を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた。遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、必要最小限を取り上げた。

個人住宅建築に伴う本発掘調査 個人住宅建築に伴う試掘調査の結果と開発内容を照合し、記録保存が必要と判断された場合に、掘削により影響の及ぶ申請建物部分及び合併浄化槽埋設箇所のうち遺構が確認された箇所を対象とし、重機(バックホウ)により、関東ローム層上面まで表土を除去し、遺構の精査を行い、確認された遺構を調査の対象とした。遺物は表土一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げた。

第1節 酒門地区

2-1-1 酒門小学校遺跡（第2地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市酒門町字千束 1436-3 の一部

開発面積 265.79 m²

調査期間 平成 22 年 3 月 10 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分および合併浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し（第7図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×3m。地表下85cmで、本来ソフトローム層の下位にて確認されるはずのハードローム層に到達した。遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 1.2m×2.2m。地表下25cmで、トレンチ1と同様、本来ソフトローム層の下位にて確認されるはずのハードローム層が検出された。遺構・遺物は確認されなかった。（米川）

(2) 出土遺物

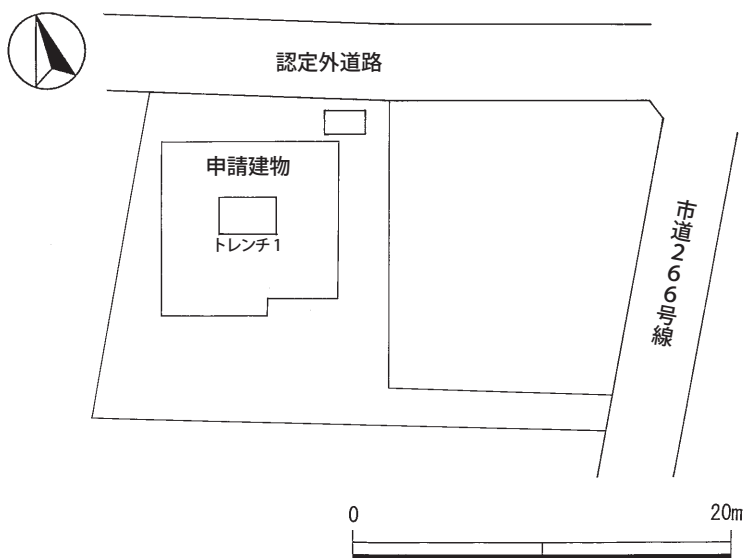
第8図-1は寛永通報（新寛永）であり、トレンチ以外からの出土である。（坂本）

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

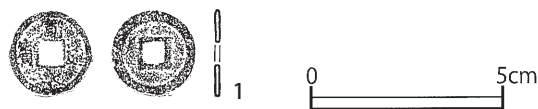
調査区壁面の観察から、確認されたローム層の直上は全て宅地造成時の盛土であり、この造成は相応の切土を伴うものであったと判断される。これにより、当該地点に関しては、往事の生活面は残存していないものと判断された。このことから、今般の土木工事については、慎重工事が相当であるとした。（米川）



第6図 酒門小学校遺跡（第2地点）の位置



第7図 酒門小学校遺跡（第2地点）のトレンチ配置



第8図 酒門小学校遺跡（第2地点）出土遺物

2-1-2 大鋸町遺跡 (第11地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市元吉田町字狐塚 2341-13, 2342-8, -13

開発面積 291.18 m²

調査期間 平成21年11月12日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦・渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分にトレンチを2箇所設定し(第7図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 11m×1.5m。地表下90cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、古墳時代中期後葉～後期初頭頃の竪穴住居跡1軒(SI01)および古代以降の所産とみられる溝1条(SD01)が検出された。遺物は竪穴住居跡の覆土層から土師器の坏および甕が、トレンチ内の遺構確認面から近世以降とみられる土師質土器の播り鉢片、カワラケ片が出土した。

トレンチ2 6m×1.5m。地表下75cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに、近現代の植栽痕とみられるプラン2基が確認されたが、近世以前に遡る遺構は確認されなかった。遺物は奈良・平安時代の須恵器・土師器片が少量出土した。(川口・渥美)

(2) 出土遺物

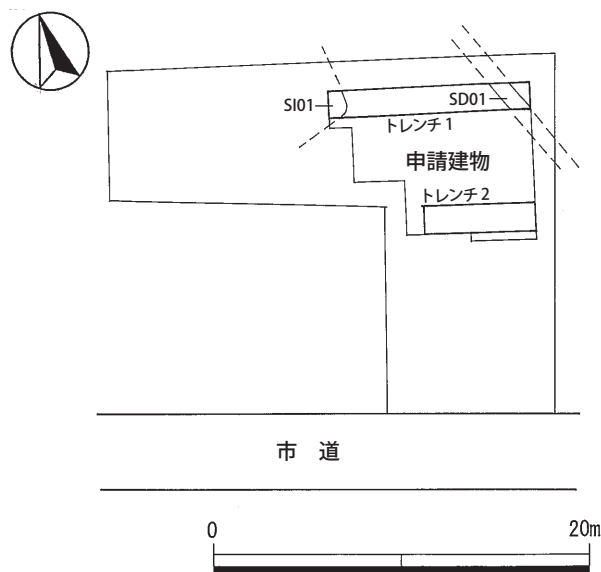
第11図-1は縄文土器である。波状貝殻文が施され、時期は縄文時代前期後半「浮島式」に位置付けられる。2はSI01出土の土師器坏である。時期は6世紀に位置付けられる。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

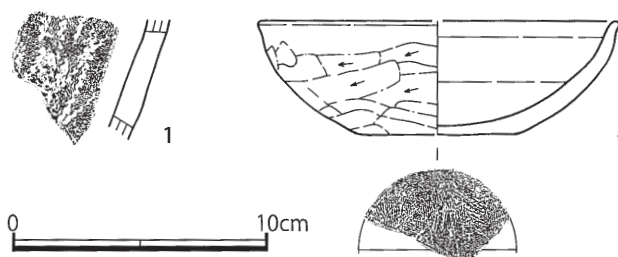
30cm以上の保護層は確保できるものの、基礎工事の際の掘削が部分的に保護層に及ぶ可能性があることから、工事立会が相当であるとした。(川口・渥美)



第9図 大鋸町跡(第11地点)の位置



第10図 大鋸町遺跡(第11地点)のトレンチ配置



第11図 大鋸町遺跡(第11地点)出土遺物

2-1-3 谷田古墳群（第11地点）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市酒門町 587-5, 589-4, -6
 開発面積 999 m²
 調査期間 平成 21 年 8 月 25 日
 調査原因 共同住宅建築
 調査担当 米川暢敬

調査概要 谷田古墳群は、那珂川南岸に位置する谷田台地の先端部から 800 m ほど奥まった地点、標高 28 ~ 29 m の平坦な台地上に立地する。現況は畑地及び山林であり、その中に古墳が散在している。当該古墳群内には、古墳時代前期の集落跡である町付遺跡が存在しており、その範囲を重複している。なお本調査地点は、調査時においては谷田古墳群の包蔵地内であったが、平成 24 年度実施の水戸市埋蔵文化財包蔵地分布地図改訂の後、町付遺跡の包蔵地内に位置付けられた。掲載している位置図（第 12 図）



第 12 図 谷田古墳群（第 11 地点）の位置

は改訂後の遺跡地図である。今般の調査は、開発対象地のうち浄化槽埋設部分および申請建物部分にトレンチを 2 箇所設定し（第 12 図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削を行った。（米川）

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 2 m × 5 m。掘削深度 1.3 ~ 1.4 m の時点で湧水を確認したため、トレンチの北西・南西にテストピットを設け、下層での状況を確認したところ、遺構確認面への到達前に著しい湧水を確認したため、この深度を以てそれ以上の調査は続行不可能と判断した。この湧水は西側に隣接する水田に起因するものと判断される。旧耕作土中からは古墳時代前期の土師器片が数点出土した。

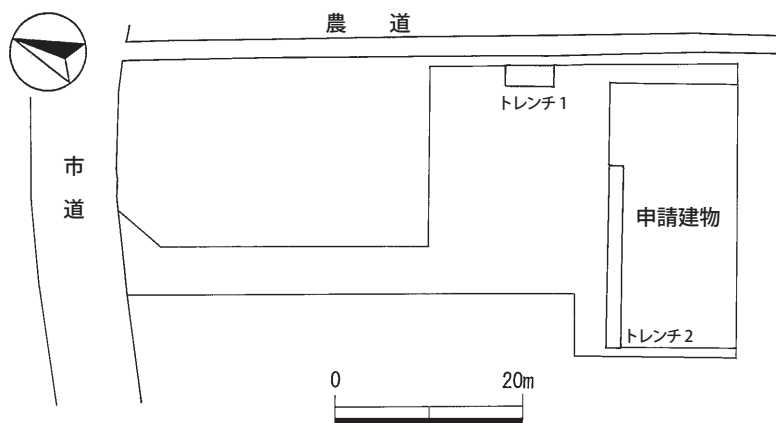
トレンチ 2 1.5 m × 18 m。地表下 35cm（西端）~ 1.2 m（東端）で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、耕作に係わる攪乱が所々に入っているのみで、遺構・遺物は確認されなかった。（米川）

(2) 出土遺物

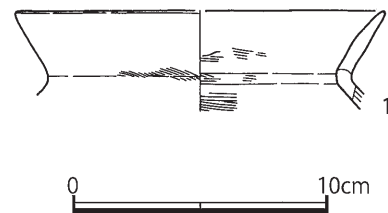
第 14 図は、土師器の甕である。4 世紀後半のものと考えられる。（坂本）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構は確認されず、また調査結果から当該地点は東に向かって下る谷地形であったことが推量され、地形的な制約から土地利用は希薄であったと判断されることから、慎重工事が相当であるとした。（米川）



第 13 図 谷田古墳群（第 11 地点）のトレンチ配置



第 14 図 谷田古墳群（第 11 地点）出土遺物

2-1-4 吉田古墳群（第7地点第1次～3次）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市元吉田町 84-10
 開発面積 536.79 m²
 調査期間 平成 21 年 8 月 12 日（第 1 次）
 平成 21 年 10 月 30 日（第 2・3 次）
 調査原因 宅地造成工事・個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬（第 1 次）
 渥美賢吾（第 2・3 次）

調査概要 本地点では宅地造成工事に基づく第 1 次調査、個人住宅建築に基づく第 2・3 次調査と、計 3 度にわたる調査が行われた。開発対象地のうち、路地状敷地舗装部分にトレンチ 1 を、宅地予定地内の各申請建物部分にトレンチ 2・3 を設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 16 図）。



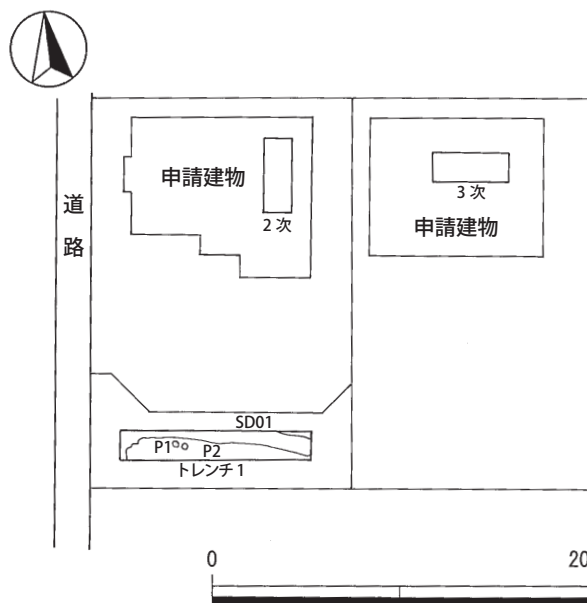
第 15 図 吉田古墳群（第 7 地点第 1～3 次）の位置

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 1.5 m × 10 m。地表下 90cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、L 字状の溝跡 1 条（SD01）とピット 2 基（P1・2）が確認された。遺物は SD01 の覆土上層から須恵器片が出土した。（米川）

トレンチ 2 1.5 m × 4 m。地表下 1.5 m で遺構確認面と考えられる暗褐色土に到達した。精査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかったため、さらに 20cm 掘り下げたが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

トレンチ 3 1.5 m × 4 m。地表下 1.5 m で遺構確認面と考えられる暗褐色土に到達した。精査の結果、遺構・遺物ともに、確認されなかった。（渥美）



第 16 図 吉田古墳群（第 7 地点第 1～3 次）のトレンチ配置

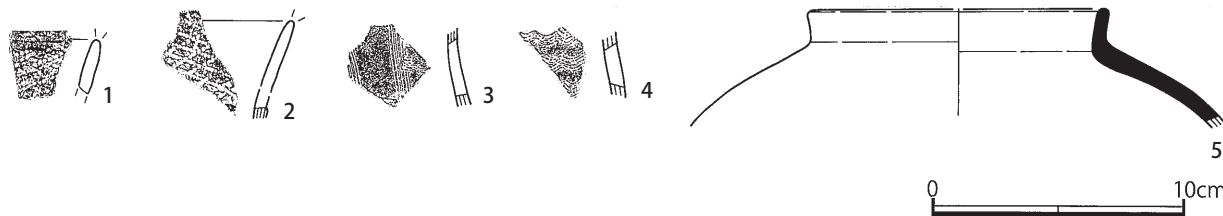
（2）出土遺物

第 17 図 -1 ～ 4 は SD01 出土の弥生土器である。弥生時代後期後半「十王台式」に位置付けられる。5 は須恵器の短頸瓶である。時期は 9 世紀前半で、木葉下産である。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

第 1 次 遺構・遺物が確認されたものの、30cm 以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。（米川）

第 2・3 次 遺構・遺物ともに確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（渥美）



第 17 図 吉田古墳群（第 7 地点第 1 次）出土遺物

2-1-5 吉田古墳群（第8地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市元吉田町 102-1

開発面積 2,327.57 m²

調査期間 平成 21 年 9 月 24 ~ 25 日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを5箇所設定し(第19図), 関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第18図 吉田古墳群（第8地点）の位置

(1) トレンチの概要

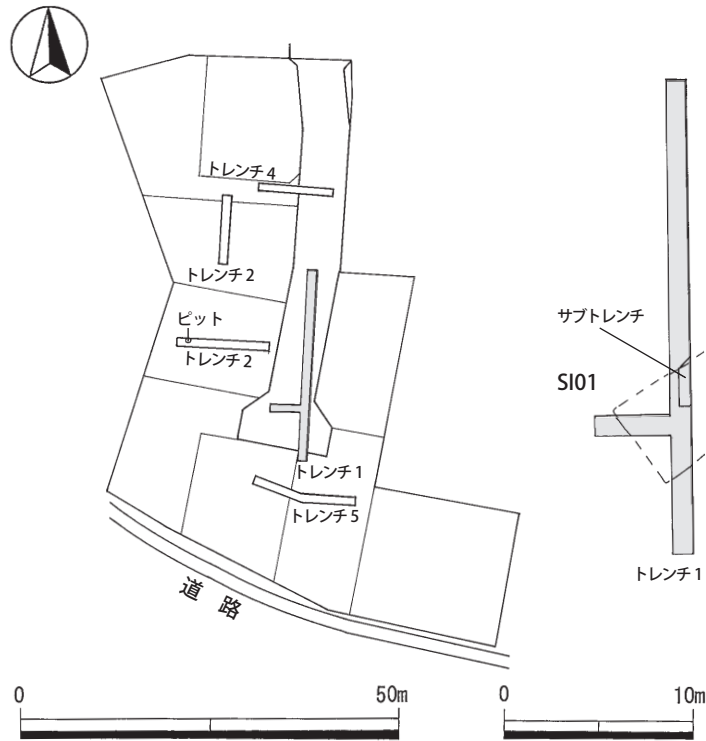
トレンチ1 1 m × 25 m。地表下 15cm で遺構確認面に到達した。トレンチ南部にて遺構を確認し, 性格・帰属年代解明のためトレンチの拡張, 遺構の一部掘り込みを実施したところ, 須恵器環が出土し, 当該遺構が8世紀後半(奈良時代)の竪穴住居跡であることが判明した。

トレンチ2 1 m × 9 m。地表下 15cm で遺構確認面に到達したが, 遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ3 1 m × 12 m。地表下 20cm で遺構確認面に到達し, ピット1基が検出されたが, 遺物は確認されなかった。

トレンチ4 1 m × 10 m。地表下 15cm で遺構確認面に到達したが, 遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ5 1 m × 14 m。地表下 30cm で遺構確認面に到達したが, 遺構・遺物は確認されなかった。(米川)



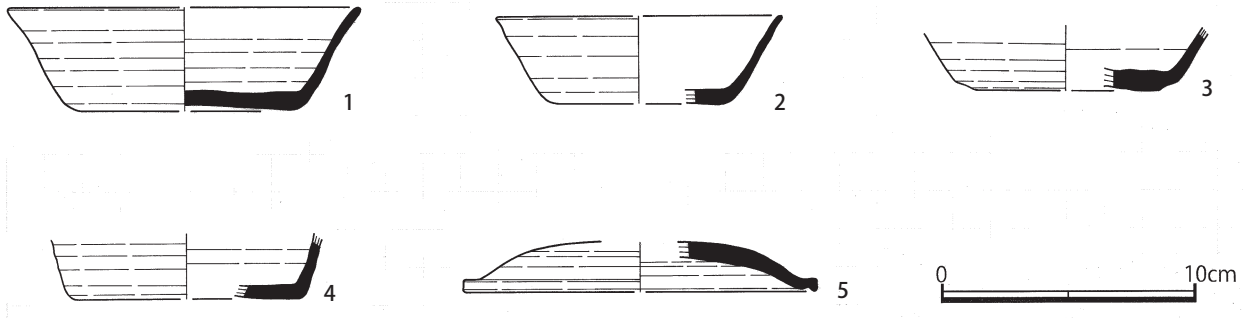
第19図 吉田古墳群（第8地点）のトレンチ配置・遺構検出状況

(2) 出土遺物

第20図1~5はSI01出土の須恵器である。1~4は無台環, 5は蓋である。すべて8世紀後半に位置付けられる。(坂本)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

埋蔵文化財が確認され, 計画の見直しを図ることとなったため届出は取り下げられた。(米川)



第20図 吉田古墳群（第8地点）出土遺物

2-1-6 周知外（吉田古墳群近接）

調査種別 工事立会調査

所在地 水戸市元吉田町智内 市道駅南6号線

開発面積 2.9 m²

調査期間 平成21年5月25日

調査原因 側溝新設工事

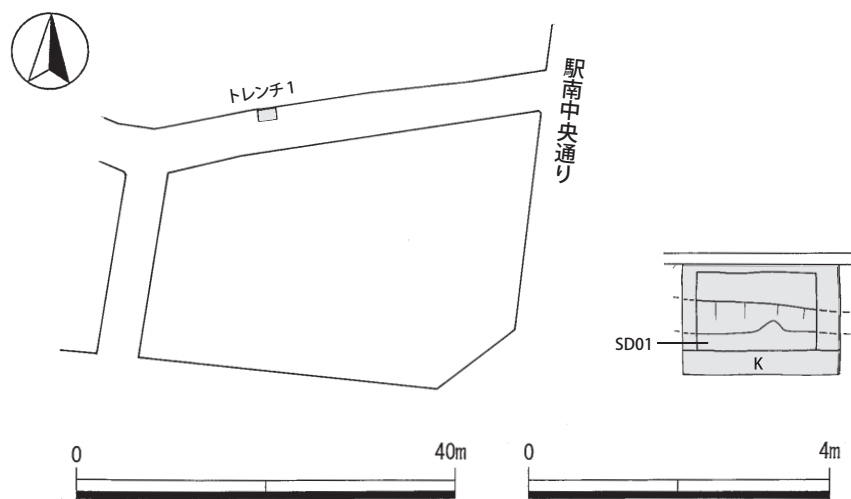
調査担当 渥美賢吾

調査概要 今般の土木工事は側溝新設工事である。工事に先立って1.45 m×2.0 mのトレンチを設定し（第22図）、掘削を行った。地表下50cmで遺構確認面たる関東ローム層上面が確認された。工事立会の結果、溝状遺構（SD01）が55～65cmの幅でトレンチに並行して確認された。溝自体は既設の水道管によって攪乱を受けており、溝の実際の幅はさらに広い。溝の深さは確認されたところで30cmを測る。覆土中から近世の在り系土器の細片と思しきものが僅かに出土した。また覆土の状況は、ほぼ単一の土層をなすことから、その時期は中世以前に遡る可能性は少ないと判断される。



第21図 周知外（吉田古墳群近接）の位置

ほぼ単一の土層をなすことから、その時期は中世以前に遡る可能性は少ないと判断される。（渥美）



第22図 周知外（吉田古墳群近接）のトレンチ配置・遺構検出状況

2-1-7 福沢古墳群（第3地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市米沢町 429-7

開発面積 330.44 m²

調査期間 平成 21 年 4 月 16 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

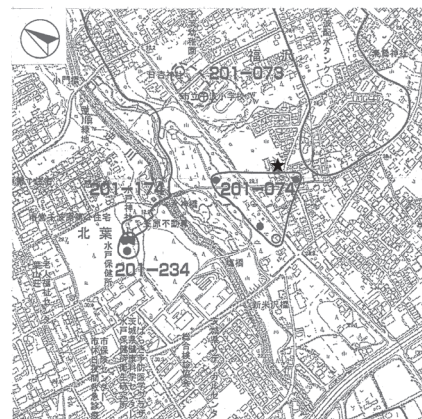
調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し（第 24 図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

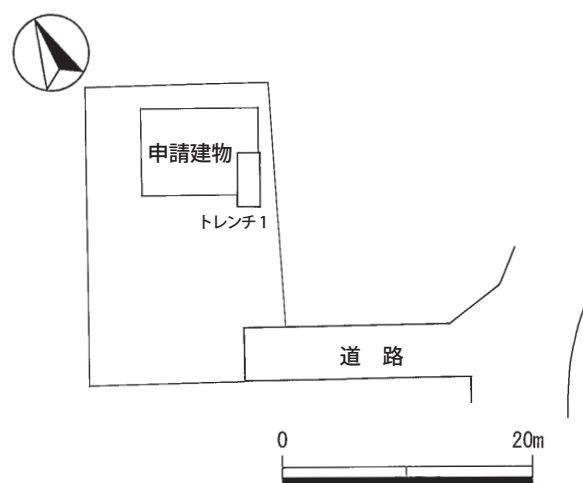
トレンチ 1 1.5 m × 4 m。地表下 80cm で関東ローム層上面が、その直上には 30cm ほどの暗褐色土層とローム層の間の漸移層が検出された。1 層ごとに精査して埋蔵文化財の有無を確認したが、トレンチ南側で確認された自然の落ち込みに被覆した黒褐色土層中から土師器の細片 1 点が出土したほかは、遺構・遺物は確認されることはなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。
(渥美)



第 23 図 福沢古墳群（第 3 地点）の位置



第 24 図 福沢古墳群（第 3 地点）のトレンチ配置

2-1-8 福沢古墳群（第4地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市米沢町 429-1,-4,-8,-10

開発面積 2,673 m²

調査期間 平成21年6月9日～10日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第26図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削を行った。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 2.5 m×45 m。地表下80cmで関東ローム層に到達し、検出作業を行ったが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

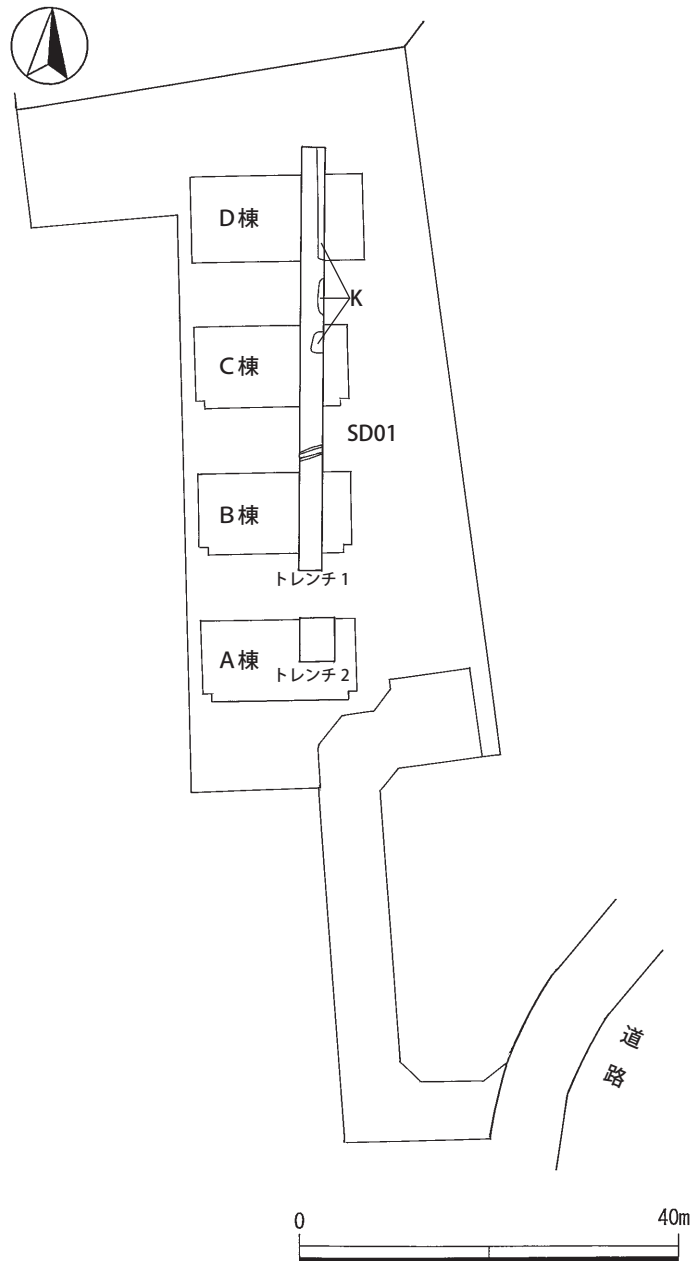
トレンチ2 4 m×5 m。地表下90cmで関東ローム層に到達し、検出作業を行った。溝跡1条（SD01）が確認されたが、それに伴う遺物の出土はなかった。SD01は、覆土の状況から近世以降の根切り溝と考えられる。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

確認された遺構は近世以降の根切り溝と判断され埋蔵文化財との認定が困難であること、また30cm以上の保護層が確保できることから、給排水管敷設部分については工事立会、そのほかの部分については慎重工事が相当であるとした。（米川）



第25図 福沢古墳群（第4地点）の位置



第26図 福沢古墳群（第4地点）のトレンチ配置

2-1-9 福沢古墳群（第5地点）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市米沢町 421-1,-3
 開発面積 210.03 m²
 調査期間 平成 21 年 6 月 8 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し（第 27 図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第 27 図 福沢古墳群（第 5 地点）の位置

(1) トレンチの概要

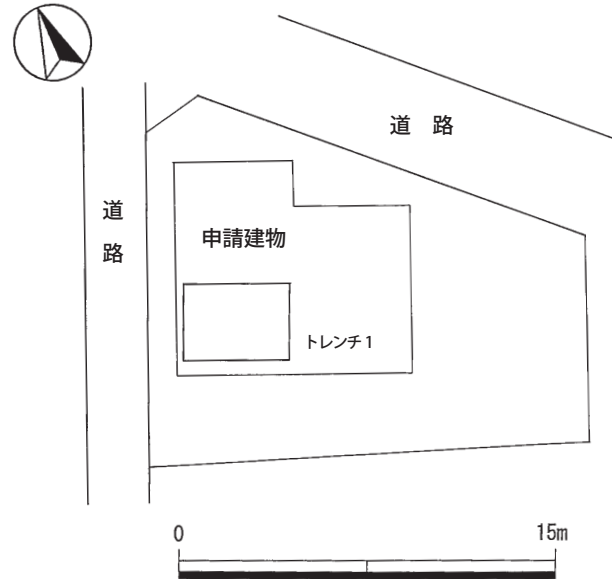
トレンチ 1 3 m × 4.2 m。地表下 1.0 m で関東ローム層に到達し、検出作業を行ったが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。（米川）

(2) 出土遺物

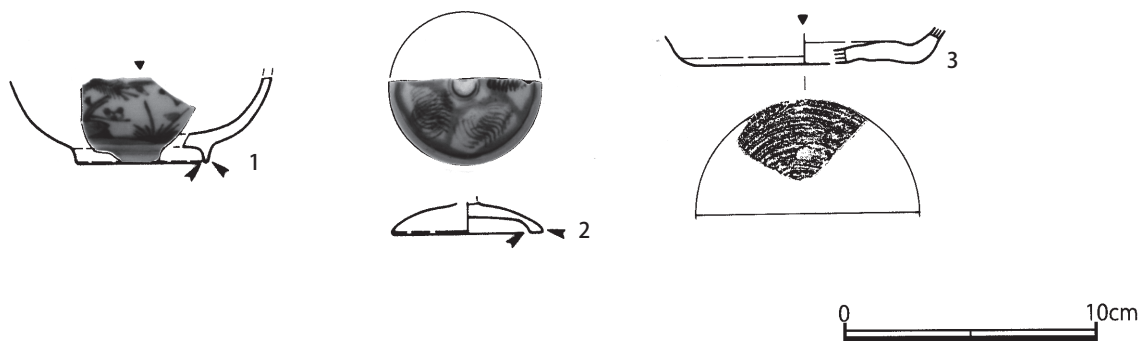
第 29 図は盛土中から出土した遺物である。1 は磁器の碗である。18 世紀以降の肥前産である。2 は磁器の急須の蓋である。時期は 1870 年代以降と考えられる。3 はかわらけで、時期は中・近世である。（坂本）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構及びそれに伴う遺物は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（米川）



第 28 図 福沢古墳群（第 5 地点）のトレンチ配置



第 29 図 福沢古墳群（第 5 地点）出土遺物

2-1-10 福沢古墳群（第8地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市米沢町 420-1

開発面積 443.75 m²

調査期間 平成 21 年 11 月 12 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦・渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを2箇所設定し（第30図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 9.5 m × 1.5 m。地表下 80cm で関東ローム層上面が確認されるとともに、近世以降の畝と見られる溝が検出された。遺物は出土しなかった。

トレンチ2 9.5 m × 1.5 m。地表下 1.0 m で関東ローム層上面が確認されるとともに、トレンチ1で確認された近世以降の畝の延長部分が検出された。遺物は、縄文時代の堆積層中から縄文時代前期の土器片が1点出土した。

（渥美）

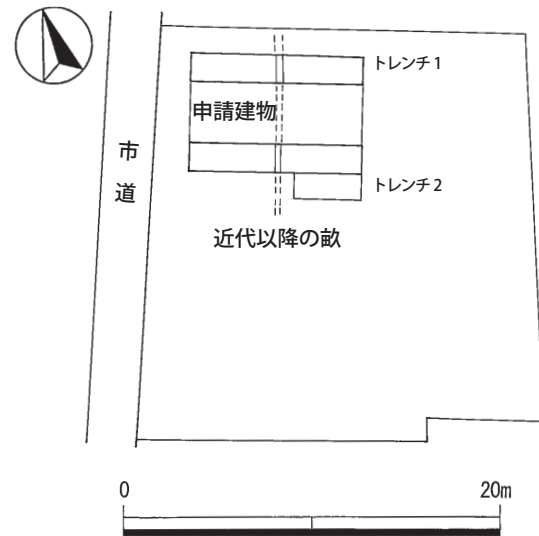
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

当該古墳群ではこれまで7地点において試掘・確認調査が行われているが、遺物は数地点で確認されているものの、古墳群に伴う遺構は確認されていない。本地点では縄文土器片が1点出土したものの、近世以前に遡る遺構は確認されていない。このことから、土地利用の希薄な空間であったと考えられ、今般の土木工事については慎重工事が相当であるとした。

（川口）



第30図 福沢古墳群（第8地点）の位置



第31図 福沢古墳群（第8地点）のトレンチ配置

2-1-11 薬王院東遺跡（第2地点第3次）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市元吉田町字東組 573-2
 開発面積 1,437.88 m²
 調査期間 平成 21 年 12 月 16 日
 調査原因 宅地造成工事
 調査担当 関口慶久

調査概要 本地点は平成 21 年 1 月に試掘調査を実施しており（第 2 次調査）、弥生時代後期の住居址と奈良・平安時代の住居址がトレンチ 2 より検出されている。今般の調査は第 2 次調査の結果を踏まえ、埋蔵文化財に影響が及ばないように検討された造成計画に基づく、再試掘調査である。調査は道路敷設予定部分にトレンチを 2 本設定し（トレンチ 3・4）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第 32 図 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次）の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ 3 1 m × 30 m。地表下 60cm で関東ローム層が確認された。確認面は攪乱が著しく、奈良・平安時代の土器片が確認されたものの、遺構は確認されなかった。

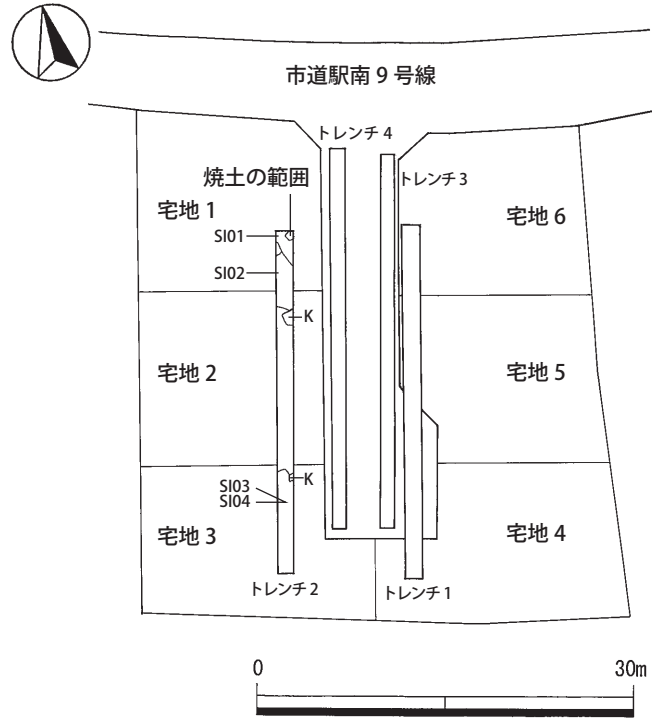
トレンチ 4 1 m × 30 m。地表下 60cm で関東ローム層が確認された。確認面は攪乱が著しく、奈良・平安時代の土器片が確認されたものの、遺構は確認されなかった。（関口）

(2) 出土遺物

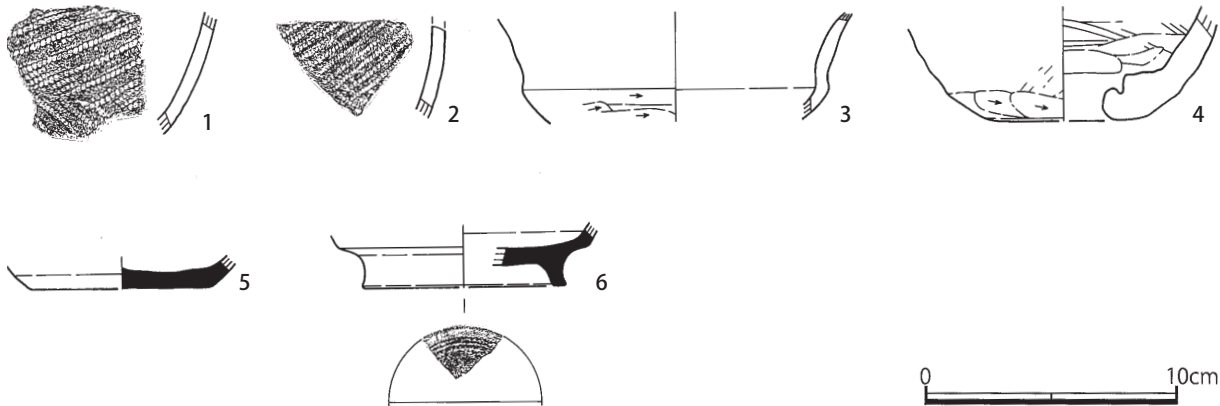
第 34 図 -1・2 は弥生土器である。時期は弥生時代後期後半である。3 は土師器の坏，時期は 6 世紀である。4 は土師器の甑，時期は古墳時代後期である。5・6 は須恵器である。時期は 8 世紀後半～9 世紀前半である。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

第 2 次調査トレンチ 2 で遺構が確認されたことから、今般の土木工事については、宅地 1～3 部分は雨水貯留槽及び排水管設置の際の工事立会が相当であるとした。その他の部分については、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第 33 図 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次）のトレンチ配置



第 34 図 薬王院東遺跡（第 2 地点第 3 次）出土遺物

2-1-12 乗越沢遺跡 (第1地点)

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市元石川町 654-6-3
 開発面積 440.64 m²
 調査期間 平成 21 年 6 月 1 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 渥美賢吾・米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し(第36図)、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第35図 乗越沢遺跡(第1地点)の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 1.5 m × 6.5 m。地表下 1.0 m で遺構確認面が検出された。遺構・遺物は確認されなかった。(米川)

(2) 出土遺物

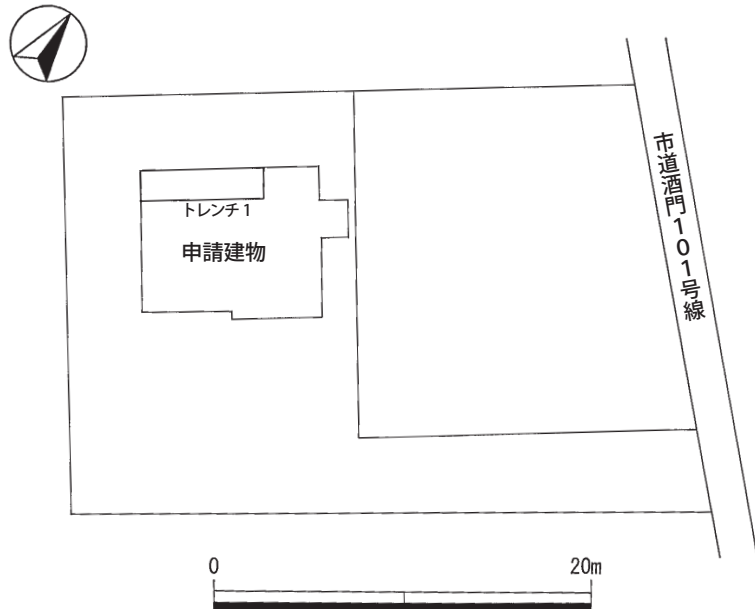
調査地点において遺物は確認されなかったが、周辺の畑地で土師器片や須恵器片が採集された。

第37図-1は須恵器の有台坏で、時期は9世紀に位置付けられる。2は瓦質土器で火鉢と考えられる。時期は近世以降と考えられる。(渥美)

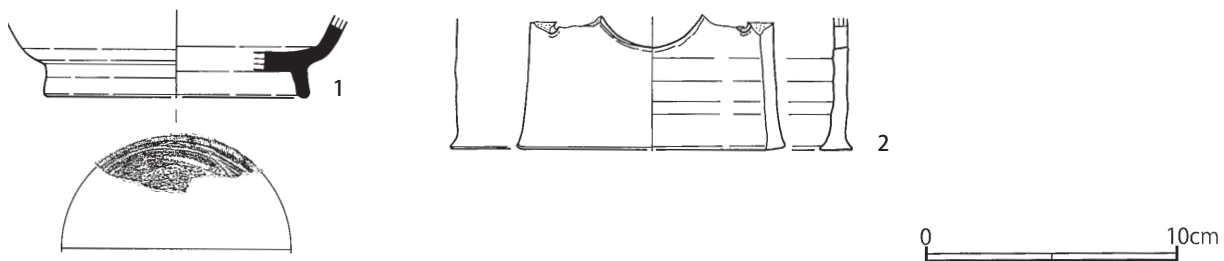
(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物ともに確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(米川)



第36図 乗越沢遺跡(第1地点)のトレンチ配置



第37図 乗越沢遺跡(第1地点)出土遺物

第2節 緑岡地区

2-2-1 若林遺跡（第1地点第3次）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市見和3丁目1389-1

開発面積 214.38 m²

調査期間 平成21年7月21日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し（第39図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

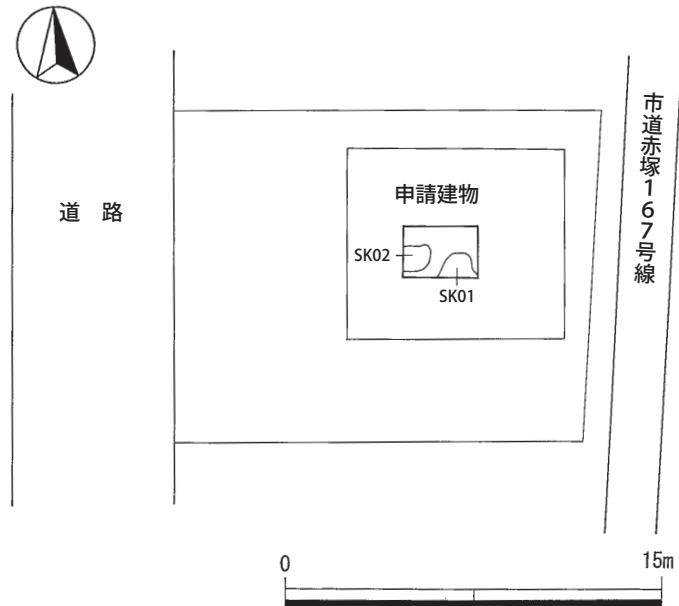
トレンチ1 2m×3m。地表下70cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、土坑2基（SK01・02）が検出された。帰属年代確定のため、SK01においてサブトレンチを設定し掘り込みを行ったところ、覆土から縄文土器片が出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。（米川）



第38図 若林遺跡（第1地点第3次）の位置



第39図 若林遺跡（第1地点第3次）のトレンチ配置

2-2-2 若林遺跡（第1地点第4次）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市見和3丁目 1389-6～-10,-15
 開発面積 1,313.45㎡
 調査期間 平成21年7月28～29日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬

調査概要 本地点のうち、私道敷設部分においては平成20年度に試掘調査および本発掘調査が実施され、縄文時代中期の住居跡および土坑群、中世の地下式墳、掘立柱建物跡が検出されている（第1・2次調査）。今般の調査では、開発対象地のうち宅地部分にトレンチを6箇所設定し（第41図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第40図 若林遺跡（第1地点第4次）の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×3m。地表下75cmで遺構確認面（関東ローム層）に到達し、土坑3基（SK01～03）が検出された。帰属年代特定のため、SK01に対し掘り込みを行ったところ、縄文土器片が出土した。

トレンチ2 2m×3m。地表下65cmで遺構確認面に到達した。竪穴住居跡1軒（SI01）、土坑1基（SK04）が検出された。SI01に対し、サブトレンチを設定し掘り込みを行ったところ、主柱穴を1基（P1）と硬化面を確認したが、遺構の覆土からは縄文土器片が少量出土するに留まった。

トレンチ3 2m×3m。地表下75cmで遺構確認面に到達し、土坑4基（SK05～08）が検出された。旧耕作土から多量の縄文土器片が出土した。

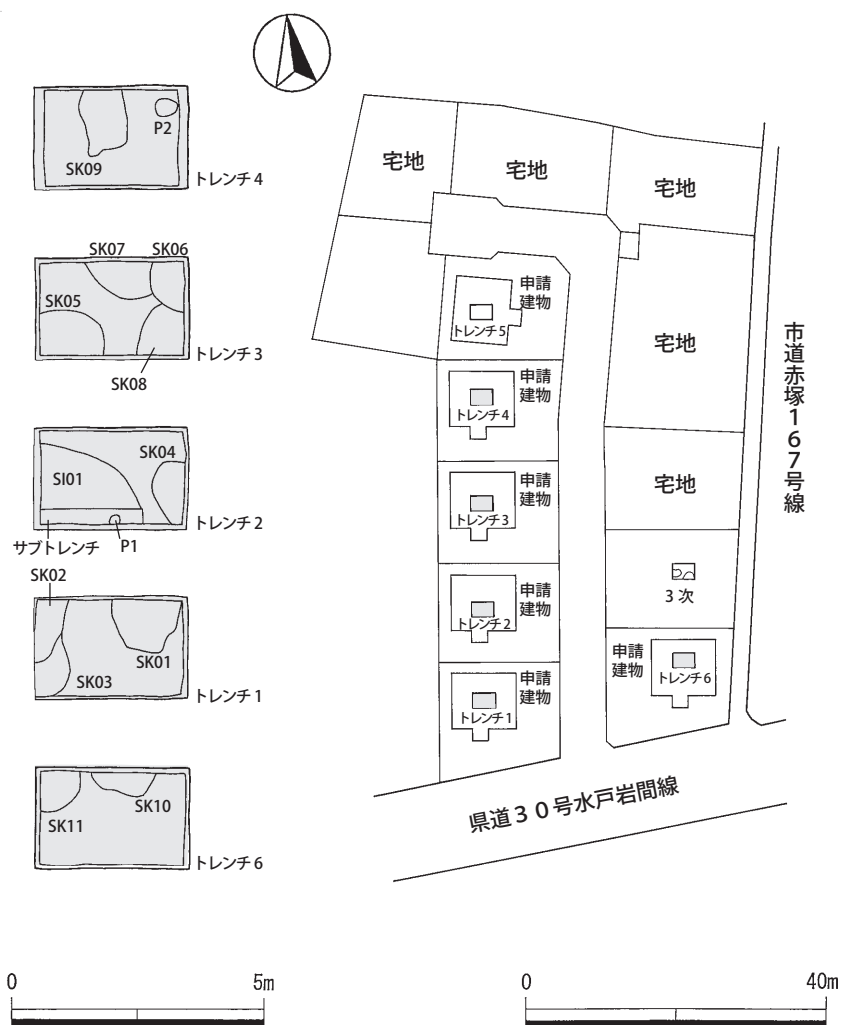
トレンチ4 2m×3m。地表下70cmで遺構確認面に到達し、土坑1基（SK09）、ピット1基（P2）が検出された。

トレンチ5 2m×3m。地表下85cmで遺構確認面に到達したが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ6 2m×3m。地表下65cmで遺構確認面に到達し、土坑2基（SK10・11）が検出された。

(2) 出土遺物

第42図-1はSK01出土、2～9はトレンチ出土の縄文土器である。1～4は隆起線文が施されている。5は沈線文、6は隆起線文と沈線文、



第41図 若林遺跡（第1地点第4次）のトレンチ配置・遺構検出状況

7は沈線文と撚糸文が施されている。8は隆起線文とあわせて棒状工具による刻み、沈線文が施されている。9は沈線文が施され、内面には炭化物が付着している。時期はすべて縄文時代中期である。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

全区画中、21年度の届出は1区画のみ(トレンチ4設定箇所)であった。遺構・遺物は確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。(米川)



第42図 若林遺跡(第1地点第4次)出土遺物

2-2-3 沓掛遺跡 (第2地点)

調査種別 試掘調査
所在地 水戸市見川町 2563-212
開発面積 330.57 m²
調査期間 平成 21 年 7 月 21 日
調査原因 個人住宅建築
調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し(第43図)、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

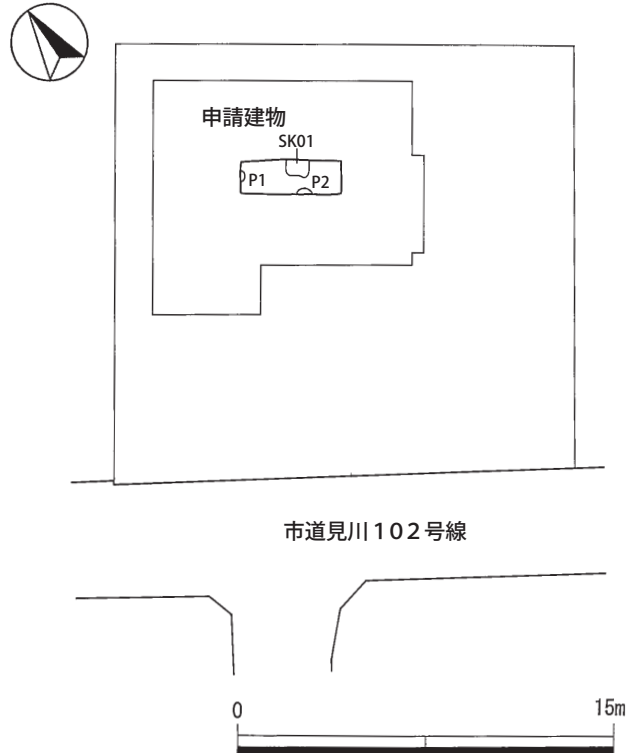
トレンチ 1 2 m × 3 m。地表下 70cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、土坑 2 基 (SK01・02) が検出された。帰属年代確定のため、SK01 においてサブトレンチを設定し掘り込みを行ったところ、覆土から縄文土器片が出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、30cm 以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。(米川)



第 43 図 沓掛遺跡 (第 2 地点) の位置



第 44 図 沓掛遺跡 (第 2 地点) のトレンチ配置

2-2-4 沓掛遺跡（第4地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市見川町 2570-1,-4

開発面積 688 m²

調査期間 平成22年1月21日

調査原因 宅地分譲

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを4箇所設定し(第46図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第45図 沓掛遺跡（第4地点）の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×6m。地表下55cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、土坑2基（SK01・02）、性格不明遺構（SX01）が検出された。SK01に対して一部掘り込みを実施したが、覆土上層から土師器と判断される土器小片が出土したのみで、年代等の確定には至らなかった。

トレンチ2 1.5m×7m。地表下85cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、ピット3基（P1・2・3）、竪穴住居跡と考えられるプラン（SI01）が検出された。3基のピットは直線的に並んでおり、掘立柱建物跡である可能性がある。遺物は出土しなかった。

トレンチ3 1.5m×6.5m。地表下65cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

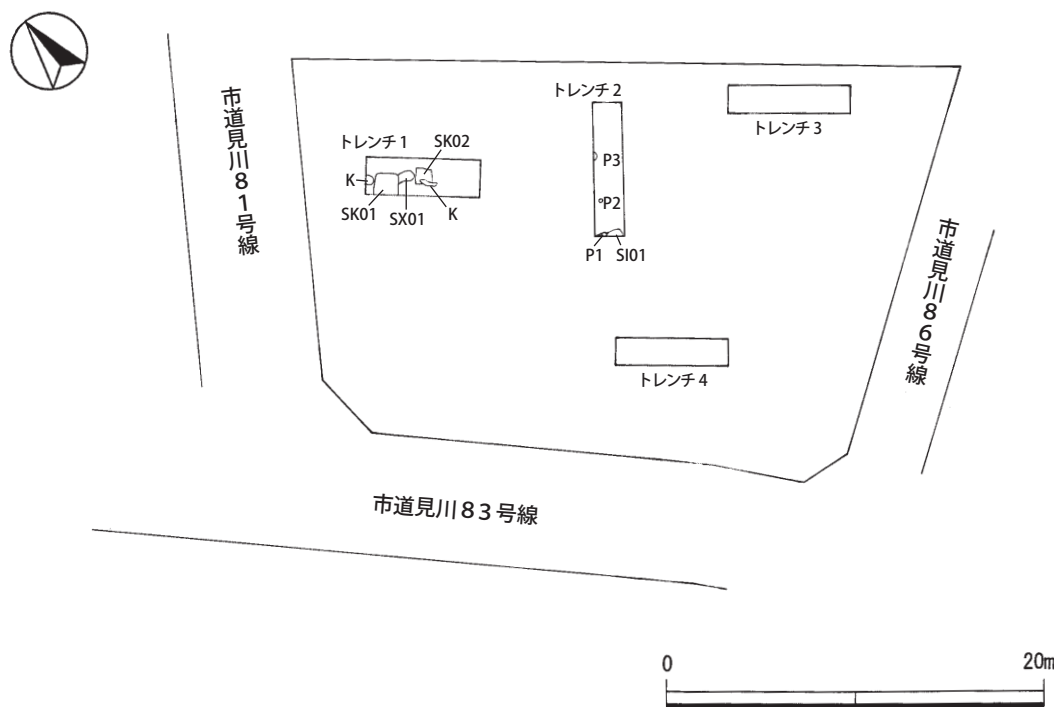
トレンチ4 1.5m×6m。地表下30cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。 (米川)

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

今般の土木工事は伐採・伐根工事を伴うものであると同時に、現状で生育している樹木は大変大きなものも多く、その根は相当の深度まで達していると十分に予測されることから、事業主との協議を経てもなお埋蔵文化財への影響は避けられないものと判断された。よって、遺構が検出されている西側部分（開発地のうち西側2/3部分）については、記録

保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。遺構が検出されていない東側部分（開発地のうち東側1/3部分）については、工事立会が相当であるとした。

(米川)



第46図 沓掛遺跡（第4地点）のトレンチ配置・遺構検出状況

第3節 赤塚地区

2-3-1 高天原遺跡（第2地点）

調査種別 試掘調査
所在地 水戸市河和田1丁目1541-2
開発面積 196 m²
調査期間 平成22年2月19日
調査原因 土地調査
調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し（第48図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

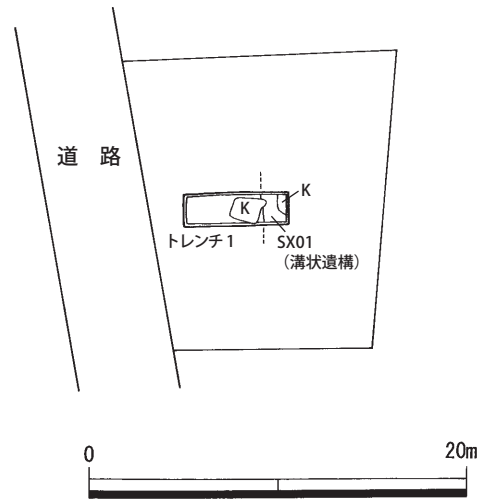
トレンチ1 1.7 m×5.5 m。掘削の結果、深さ1.0 mにわたって大きく攪乱を受けており、ブロック塀片や原付バイクの部品等の現代ごみが混入していた。地表下50～70cm程度のところが本来の遺構確認面たる関東ローム層上面とみられるが、一般の試掘トレンチ内では、おおむね1.0 m程度掘削を行わないと視認できない状況であった。ゴミ穴による攪乱は、トレンチの東半部でより深く入り込み、西半部ではやや浅い。トレンチ東半部において、二つの大きく深いゴミ穴により一部破壊されているものの、黒褐色土により埋没した埋蔵文化財を確認した。その性格について詳細は不明であるが、検出の状況から考えて、溝状遺構である可能性が高い（SX01）。なお検出を確認した面より、数点の土師器片の出土が確認された。外面にハケメ痕がみられることから、遺構・遺物ともに古墳時代前期のものであることが判明した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

埋蔵文化財が確認され、計画の見直しを図ることとなったため届出は取り下げられた。（渥美）



第47図 高天原遺跡（第2地点）の位置



第48図 高天原遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2-3-2 坏遺跡 (第11地点第1・2次)

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市河和田1丁目 2430-1,2431,2432,2433,2435
 開発面積 1,241.03 m²
 調査期間 平成21年6月18日～19日 (第1次)
 平成21年9月2日 (第2次)
 調査原因 土地調査 (第1次)
 高齢者専用賃貸住宅建設 (第2次)
 調査担当 米川暢敬

調査概要 第1次調査の段階では開発目的が未定であったため、対象地内中央やや東よりにトレンチを1箇所設定した(1次トレンチ1)。その後開発計画が定まり、第2次調査として防火水槽および消化水槽埋設予定地にトレンチを2箇所設定した(2次トレンチ1・2)(第50図)。調査は、重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。

(1) トレンチの概要

1次トレンチ1 2.5 m × 12 m, 1.5 m × 9 m, 1.5 m × 4.5 mでクランク状に設定した。地表下70cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。トレンチ南部で土坑状遺構が1基検出され、覆土からは縄文土器片が出土した。旧耕作土中からも縄文土器片が出土した。

2次トレンチ1 4 m × 7 m。地表下40cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。抜根による攪乱が確認されたのみで、遺構・遺物は確認されなかった。

2次トレンチ2 3 m × 5 m。地表下60cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。抜根による攪乱、ゴミ穴が確認されたのみで、遺構・遺物は確認されなかった。(米川)

(2) 出土遺物

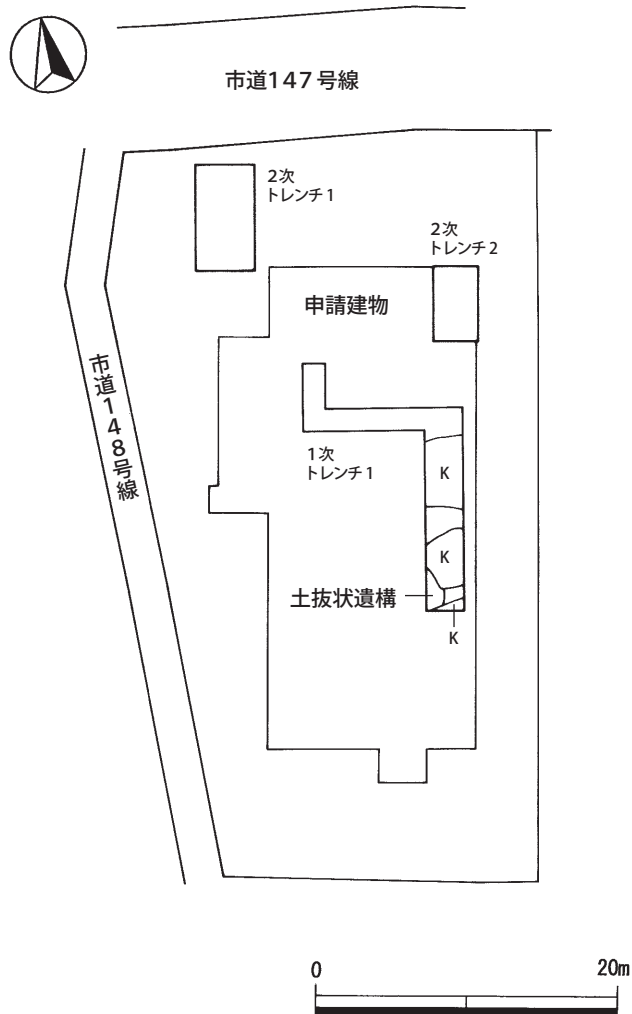
第51図-1～7は1次調査の旧耕作土中や2次調査時に表採された等のものである。1～3は縄文土器である。時期は縄文時代中期である。4は近代の焼締陶器である。5は焼締陶器の燈明受皿である。18世紀後半以降の在地産である。6は近世～近代の棧瓦である。7は粘板岩製の砥石である。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

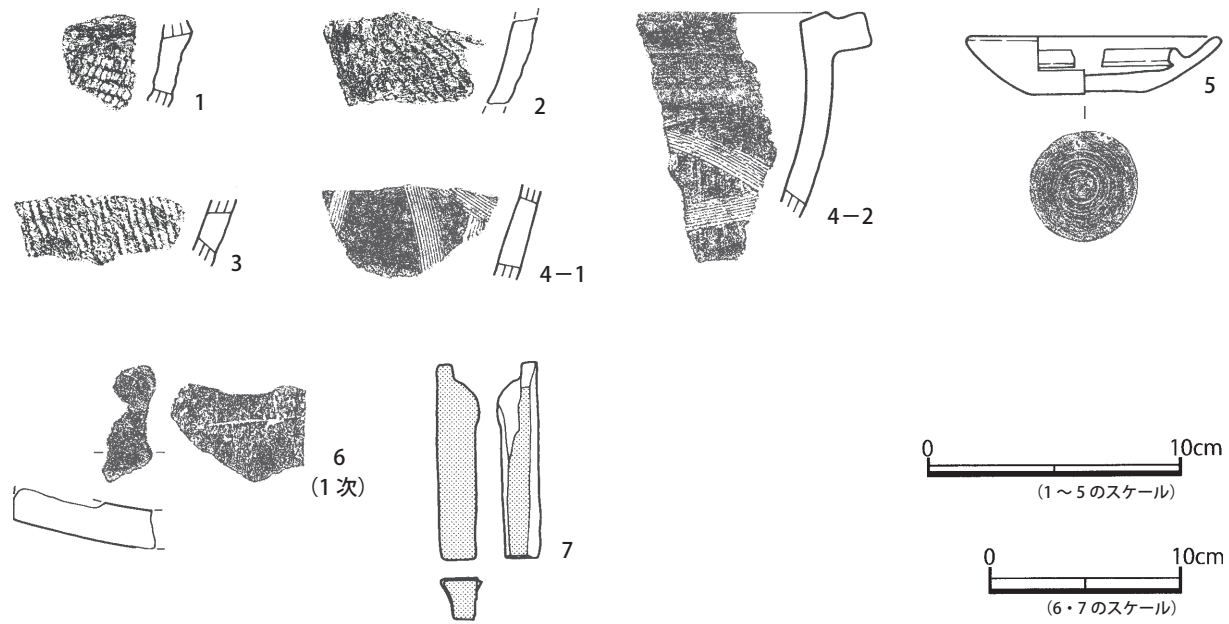
申請建物部分では遺構・遺物が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保可能であり、また防火水槽および消化水槽埋設予定地では遺構・遺物ともに確認されていないことから、今般の工事に際しては工事立会が相当であるとした。(米川)



第49図 坏遺跡(第11地点第1・2次)の位置



第50図 坏遺跡(第11地点第1・2次)のトレンチ配置



第51図 坏遺跡(第11地点第1・2次)出土遺物

2-3-3 坏遺跡 (第13地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市河和田1丁目 1637-1,1638

開発面積 644.89 m²

調査期間 平成22年2月10日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し(第52図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×6.4m。遺構確認面たる関東ローム層上面は、最も浅い西側のところで地表下55cm、最も深い東側のところで地表下90cmを測る。旧地形は西から東へ緩やかに傾斜して低くなっている。

西側では、4つの攪乱が切り合って認められ、トレンチ中央から東にかけて土坑3基(SK01～03)と溝状遺構1条が確認された。土坑の確認面において縄文土器深鉢口縁部片と被熱した拳大の礫が出土した。土坑の覆土は比較的明るい褐色土であり、これまでの調査成果と対比して、縄文時代中後期の遺構であると判断される。溝状遺構はこれら土坑群を切っており、覆土は暗い暗褐色を呈している。土坑群より時期は新しいと判断されるが、特定するには至らなかった。

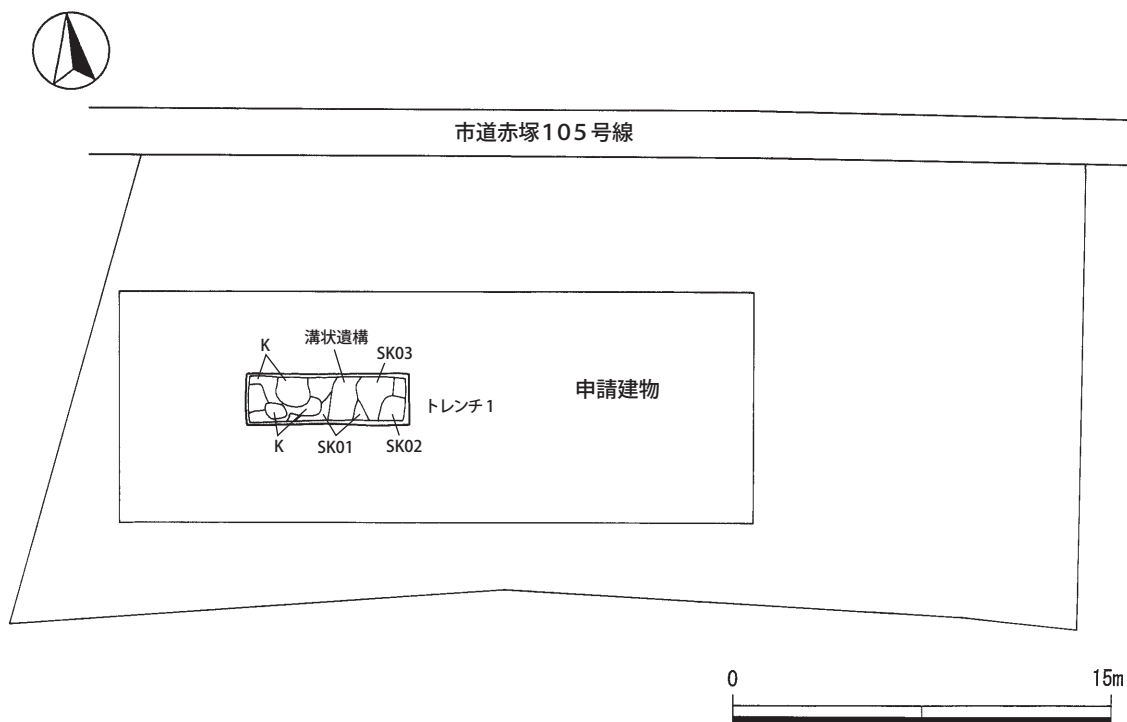
関東ローム層の堆積が示すように、当該地点周辺は、西から東へと緩やかに傾斜しており、この傾斜地に土坑群は営まれている。こうした知見から、おそらく当該地点は縄文時代集落の外縁部に位置するものと考えられる。

(2) 出土遺物

第54図-1は内耳鍋である。時期は15世紀後半～16世紀である。2は敲石・磨石で、石材は安山岩である。時期は縄文時代である。



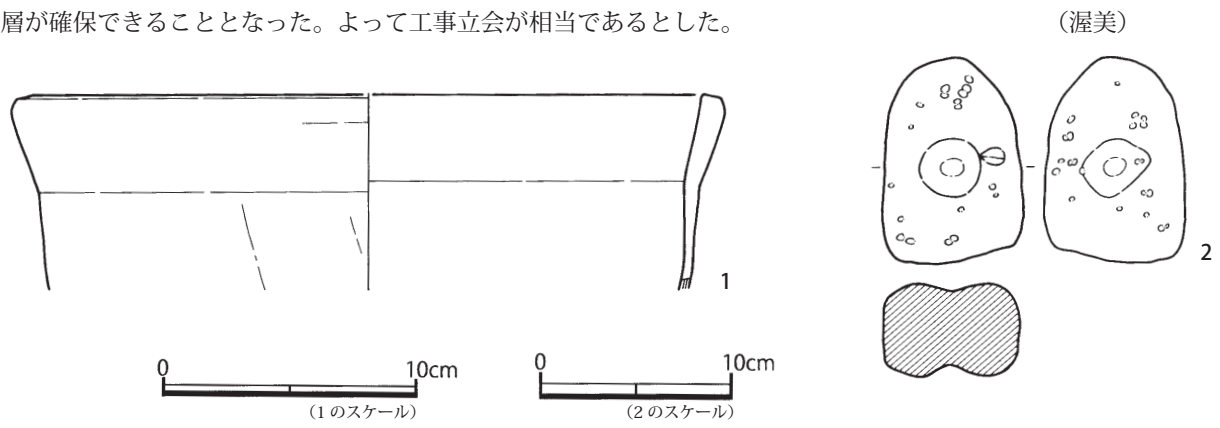
第52図 坏遺跡(第13地点)の位置



第53図 坏遺跡(第13地点)のトレンチ配置

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、事業者との協議の結果、現状から 10cm の盛土を行うことで 30cm 以上の保護層が確保できることとなった。よって工事立会が相当であるとした。



第 54 図 坑遺跡 (第 13 地点) 出土遺物

2-3-4 赤塚遺跡（第5地点第2次）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市河和田3丁目2536
 開発面積 3,200 m²
 調査期間 平成21年6月16日～18日
 調査原因 市営住宅建替工事
 調査担当 米川暢敬



第55図 赤塚遺跡（第5地点第2次）の位置

調査概要 開発対象地にトレンチを6箇所設定し（第56図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

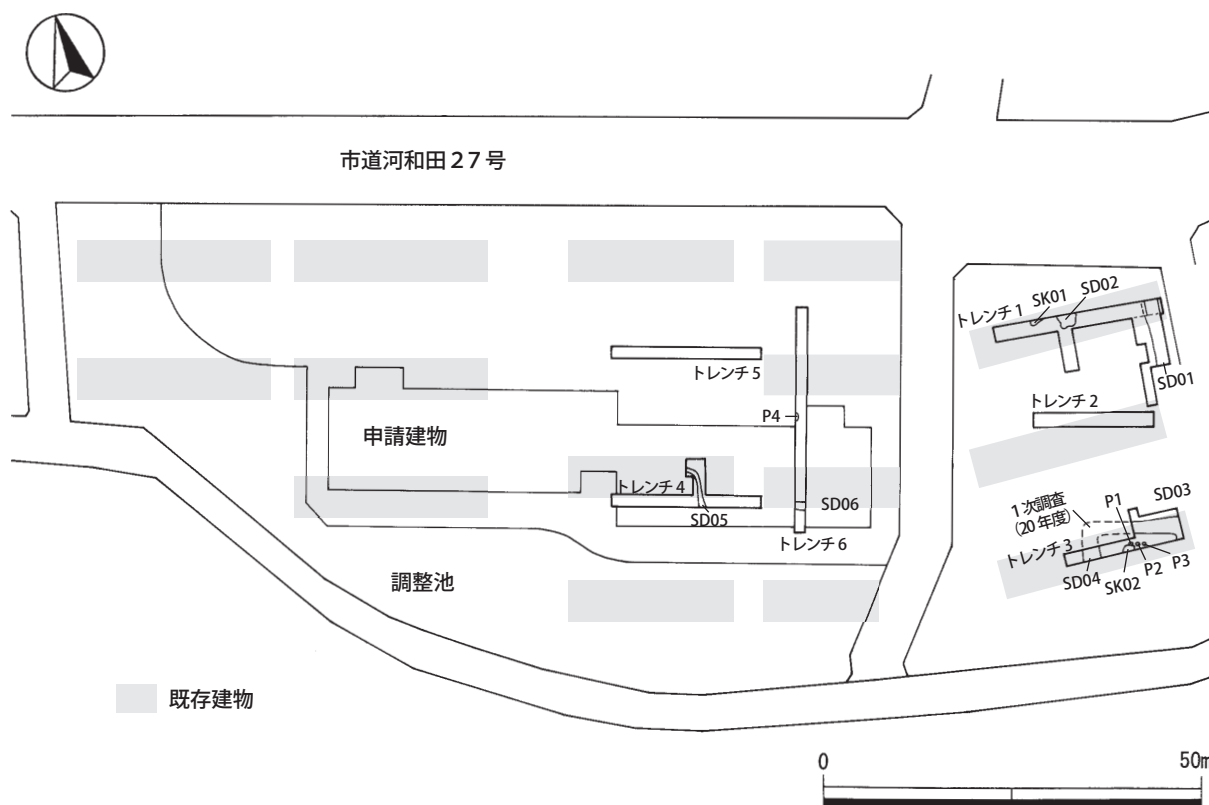
(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×22.5m。地表下90cmで遺構確認面である関東ローム層に到達し、溝跡1条（SD01）、溝状遺構1条（SD02）、土坑状遺構1基（SK01）が検出された。トレンチ中央部、東部で南方向に拡張を行い、SD01については、南北方向に直線的に延びることが確認された。

トレンチ2 2m×16m。地表下85cmで関東ローム層に到達した。精査を行ったが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ3 1.5m×16m。地表下85cmで関東ローム層が確認された。調査区西端、東端にて溝跡2条（SD03・04）、中央南端にて土坑状遺構（SK02）、ピット3基が確認された。トレンチ東端のSD03については北側に拡張を行い、西へ曲がることを確認され、覆土からはかわらけ片が出土した。検出された溝跡は何らかの区画として機能していた溝とも考えられよう。

トレンチ4 1.5m×20m。地表下60cmで関東ローム層が確認され、調査区中央で南北方向の溝跡1条（SD05）が検出された。北方向に拡張した結果、西へ曲がることを確認された。トレンチ3で検出された溝跡同様、SD05



第56図 赤塚遺跡（第5地点第2次）のトレンチ配置

も区画として機能していた溝と考えることができよう。

トレンチ5 1.5 m×20 m。地表下20cmで関東ローム層が確認され、精査を行ったが、遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

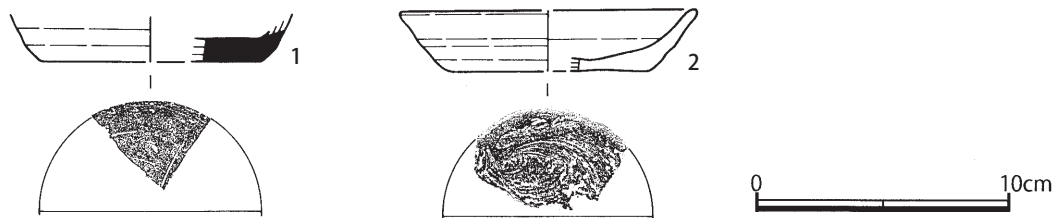
トレンチ6 1.5 m×30 m。トレンチ北端で地表下15cm，南端で地表下70cmで関東ローム層が確認された。精査の結果，溝跡1条（SD06），ピット1基（P4）が検出された。SD06からはかわらけ片が出土した。（米川）

（2）出土遺物

第57図-1は須恵器の坏である。2は中～近世のかわらけである。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

事業課との協議の結果，開発計画変更は困難であり，埋蔵文化財への影響が避けられないことから，今般の開発地のうち南部に位置する調整池建設予定地については，記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。そのほかの土木工事については，工事立会が相当であるとした。なお，記録保存を目的とした本発掘調査については，発掘調査報告書を刊行済みである（高野・米川 2011b）。（米川）



第57図 赤塚遺跡（第5地点第2次）出土遺物

2-3-5 河和田城跡 (第11地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市河和田町 486-1,-3,485-1,484-1,-3

開発面積 1,916.59 m²

調査期間 平成21年5月18日～20日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 関口慶久・米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、私道敷設部分にトレンチ1、宅地造成部分にトレンチ2を設定し(第59図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 1.5 m × 72 m。地表下70～80cmで関東ローム層が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

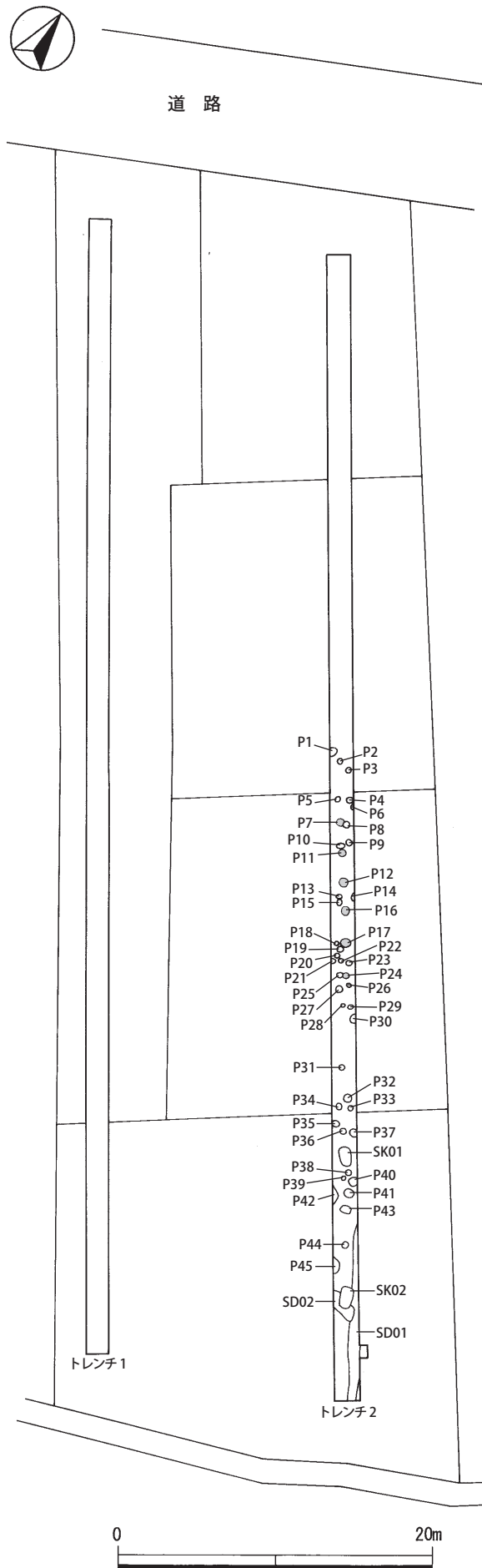
トレンチ2 1.5 m × 72 m。地表下60～80cmで関東ローム層が確認された。遺構は、トレンチ南半でピット群(P1～45)、土坑2基(SK01・02)、溝状遺構2条(SD01・02)が検出された。有意な配列を示すピットとしてはP7・11・12・16・17・24の6基が挙げられ、これらは約2mの間隔で直線的に並び建物跡である可能性が考えられる。遺物はP12覆土から鉄釘、SD01覆土から内耳土器片が出土した。出土遺物から、ピット列は近世、溝状遺構は中世に属するものと考えられよう。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

私道敷設部分で遺構・遺物が確認されたが、30cm以上の保護層が確保できることから、一般の土木工事については工事立会が相当であるとした。宅地部分については、新たな開発を行う際には文化財保護法第93条第1項の規定に基づき埋蔵文化財発掘の届出が必要とした。(米川)



第58図 河和田城跡(第11地点)の位置



第59図 河和田城跡(第11地点)のトレンチ配置

2-3-6 河和田城跡 (第12地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市河和田町字中道 3810-1,-4 の一部,-5

開発面積 685.32 m²

調査期間 平成22年2月19日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、浄化槽施設埋設部分および申請建物東にトレンチを2箇所設定し(第61図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 1.5 m × 6.4 m。地表下40cmで関東ローム層が確認された。攪乱が2箇所で見られたが、遺構は確認されなかった。遺物は土師器細片が1点出土した。

トレンチ2 1 m × 3 m。地表下95cmで関東ローム層の確認ができた。表土層20cmの直下は、約75cm厚で工業用残土の堆積が確認された。本来は地表下40～50cm程度のところに遺構確認面があったと推量される。遺構・遺物は確認されなかった。

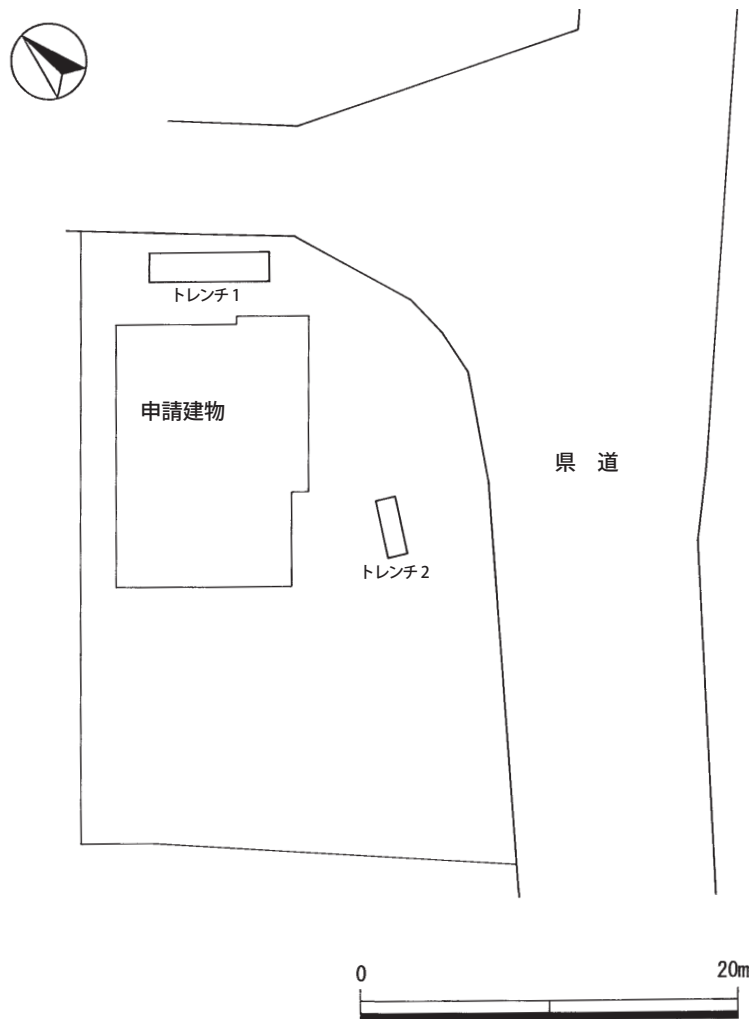
(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

設計計画では現地表から30cmの盛土が行われることから、トレンチ1の調査結果から鑑みても申請建物部分については30cm以上の保護層が確保可能である。またトレンチ2の成果から、大きく深い工業残土を含む攪乱が申請建物直下へ広がっていることが判明している。よって、盛土工事および雨水浸透柵設置工事に際しては工事立会、その他の土木工事については慎重工事が相当であるとした。

(渥美)



第60図 河和田城跡(第12地点)の位置



第61図 河和田城跡(第12地点)のトレンチ配置

2-3-7 周知外（河和田城跡近接）

調査種別 踏査

所在地 水戸市河和田町 2894-4,-10

踏査日 平成 21 年 5 月 12 日

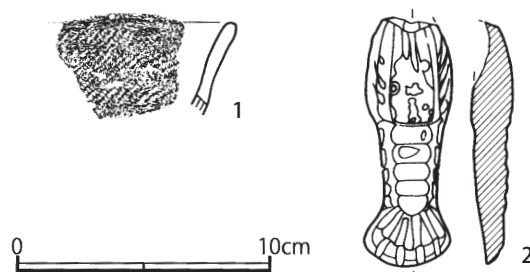
採集者 関口慶久

採集経緯 桜川公民館建替に伴う踏査

採集遺物 第 63 図-1 は縄文土器である。2 は海老の形状をした土製品である。型押による成形で、全面に黒色の彩色が施されている。時期は近代以降である。（関口）



第 62 図 周知外（河和田城跡近接）の位置



第 63 図 周知外（河和田城跡近接）採集遺物

2-3-8 仙光内遺跡（第 3 地点）

調査種別 工事立会調査

所在地 水戸市飯島町智内

調査期間 平成 21 年 6 月 23 日（第 2 次）

平成 21 年 7 月 6 日～ 10 日（第 3 次）

調査原因 排水路新設工事

調査担当 渥美賢吾

調査概要 本地点では計 3 度の調査が行われている。平成 20 年 10 月 27 日に実施した第 1 次調査では、開発対象地の東半部分においてトレンチを 4 箇所設定し立会調査を行ったが、トレンチ 3 より民窯系播鉢胴部片が 1 点出土したほかは、埋蔵文化財と思われるものは確認されなかった。

第 2 次調査はトレンチを 2 箇所設定し、遺構確認面である関東ローム層上面までに重機を用いて掘削し、遺構・遺物の有無を確認した。第 3 次調査はトレンチを 4 区設定し、遺構確認面である関東ローム層上面までに重機を用いて掘削し、遺構・遺物の有無を確認した。

(1) トレンチの概要

各トレンチの規模・調査面積は以下のとおりである。

2 次 トレンチ 1 1.25 m × 2.2 m

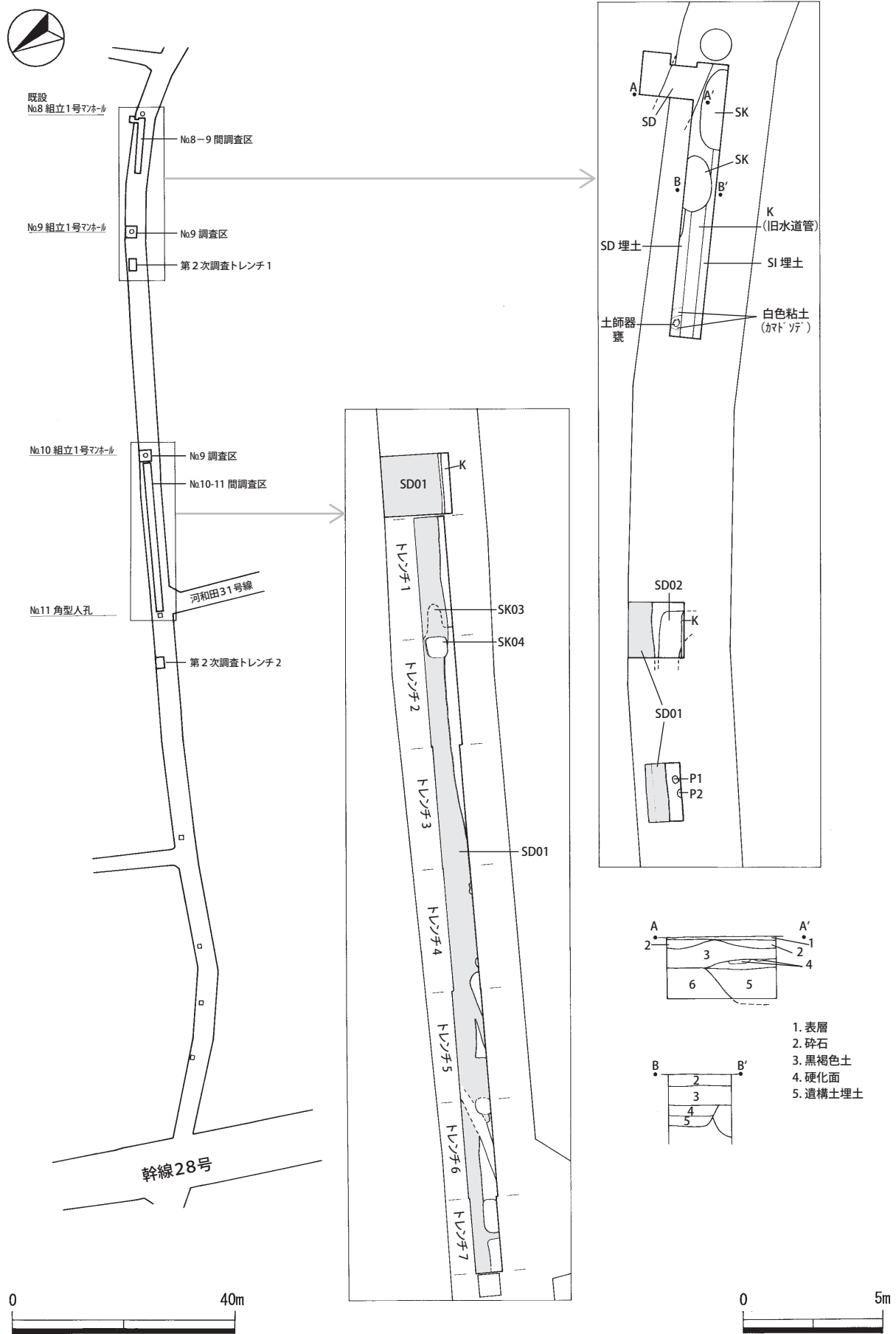
トレンチ 2 1.25 m × 2.1 m

3 次 組立マンホール No. 9 調査区 2.0 m × 2.0 m

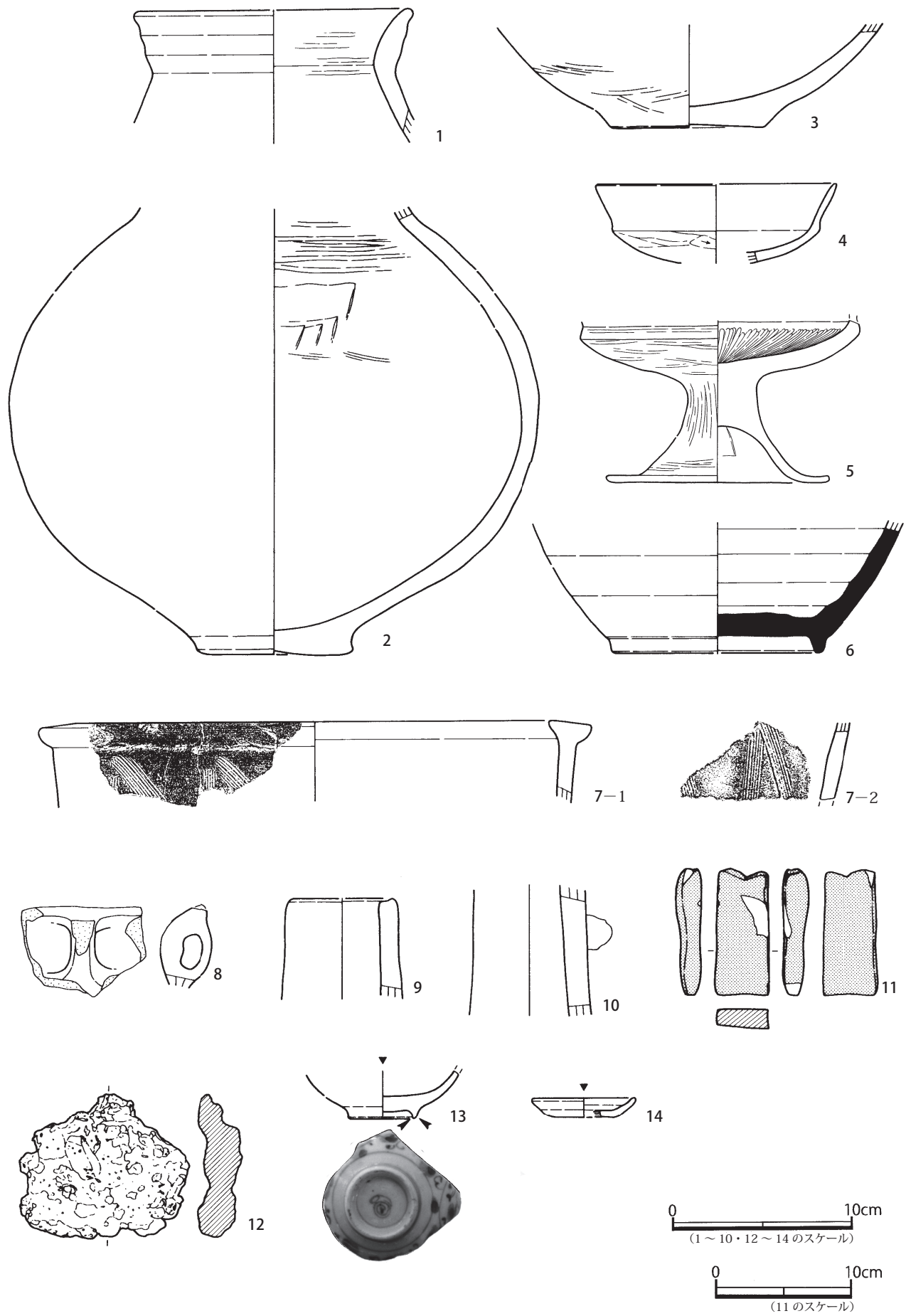
組立マンホール No. 10 調査区 2.5 m × 2.0 m



第 64 図 仙光内遺跡（第 3 地点）の位置



第 65 図 仙光内遺跡 (第 3 地点) のトレンチ配置・遺構検出状況・土層模式図



第 66 図 仙光内遺跡（第 3 地点）出土遺物

組立マンホールNo.8－9 調査区 14.24 m²

組立マンホールNo.10－11 調査区 28.16 m²

(2) 出土遺物

第66図-1～5は6世紀後半の土師器である。1～3は甕，4は坏，5は高坏である。6は須恵器の瓶で，時期は9世紀である。7は瓦質土器の火鉢で櫛歯状工具による文様が施されており，時期は近世～近代である。8は焙烙，9・10は羽口，11は砥石，12は鉄滓である。13は17世紀末～19世紀中頃の肥前産の磁器である。14は中・近世のかわらけである。

(渥美)

2-3-9 丹下一ノ牧野馬土手跡

調査種別 試掘・測量調査

所在地 水戸市河和田町101外

調査期間 平成21年10月19日～12月2日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 渥美賢吾

調査概要 平成21年6月中旬に，隣接する桜川西団地の居住者から，宅地分譲に伴う開発事業地内に堀があるが文化財ではないかとの通報を受けた。専門職員による現地踏査を行った結果，薬研状の堀と低い土塁が確認された。文献資料調査から，第9代水戸藩主徳川斉昭により天保4年から同6年にかけて開設された桜野牧跡の一部である可能性が高まった。事業用地の隣地の小字名が「丹下一ノ牧」であることから充分に推測された。

調査は，掘削前にまずトータルステーションを活用した平板測量を実施した。主曲線1m，計曲線20cmでコンタを作成し，堀および土塁と思しき地形を図化した(第69図)。その結果，牧跡に伴う堀および土塁である可能性が高まったことから，開発地内にトレンチを1箇所設定し，人力による掘削を行った(第70図)。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×6.4m。表土層30cmの直下に黒色土層が厚く堆積しているのが確認され，この黒色土層内から内耳土器や磁器碗など18世紀頃の土器・陶磁器類が一括で出土した。さらに掘削を行うと，堀底で深さ1.3mのところで砂利交じりの地山層に到達した。堀底幅のやや広い薬研状の堀となることが確認された。(渥美)

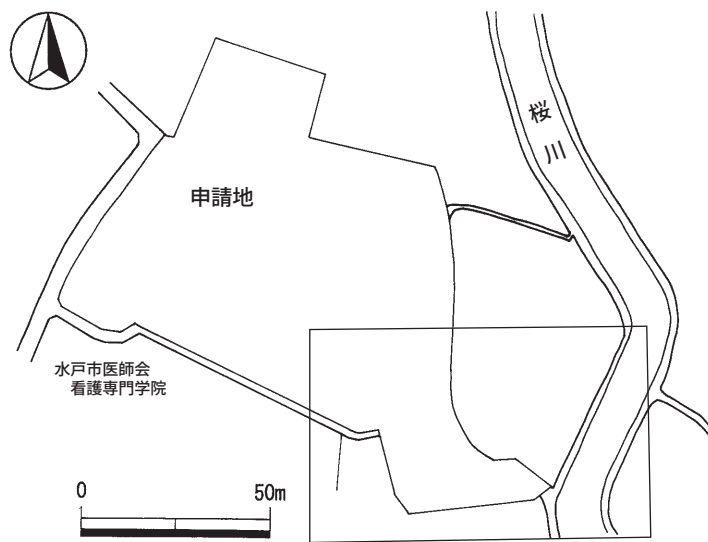
(2) 出土遺物

第71図-1は縄文土器である。隆起線文・押引文が施され，時期は縄文時代中期前半で「阿玉台式」に位置づけられる。2は18世紀後半以降の在産の磁器碗，3は18世紀末葉以降の瀬戸・美濃産の陶器である。4は18世紀後半以降の明石・堺系の焼締陶器・播鉢である。5は17世紀以降の焙烙である。

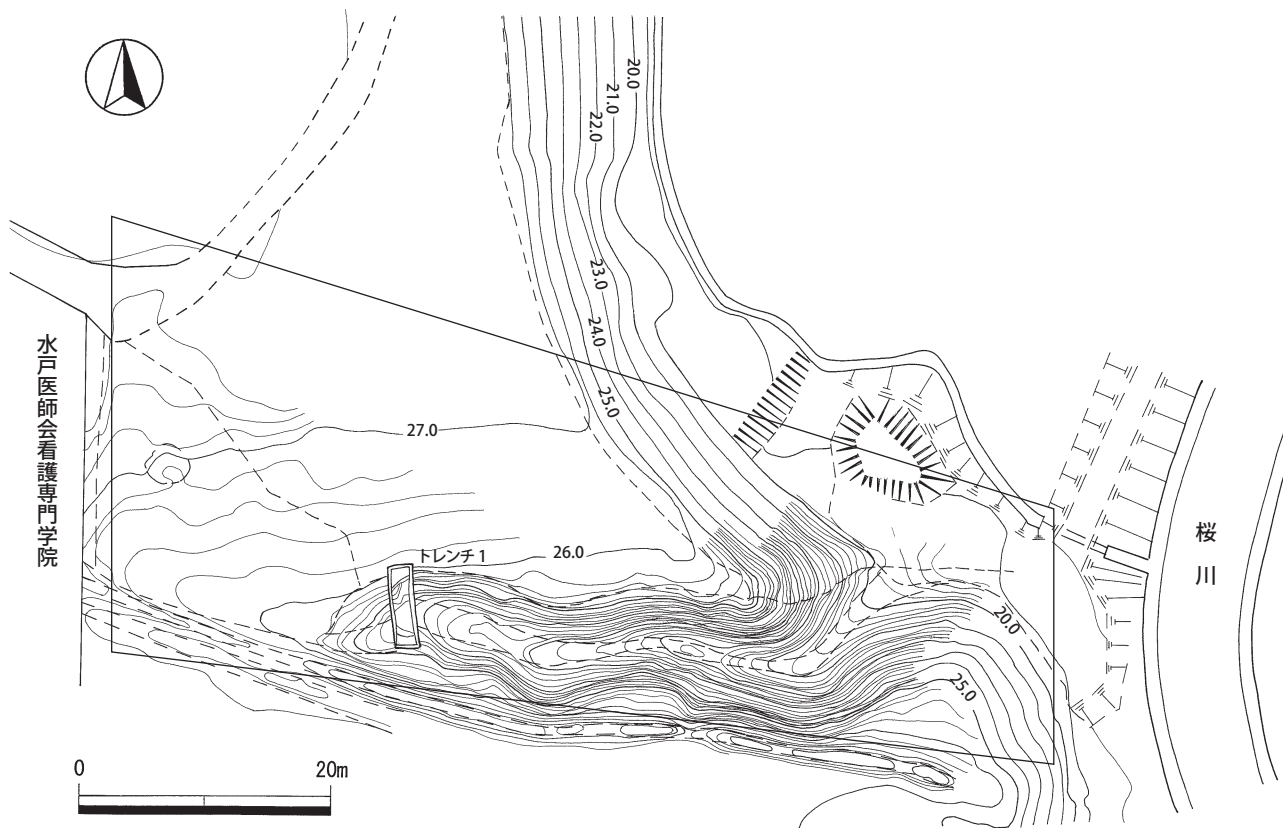
(坂本)



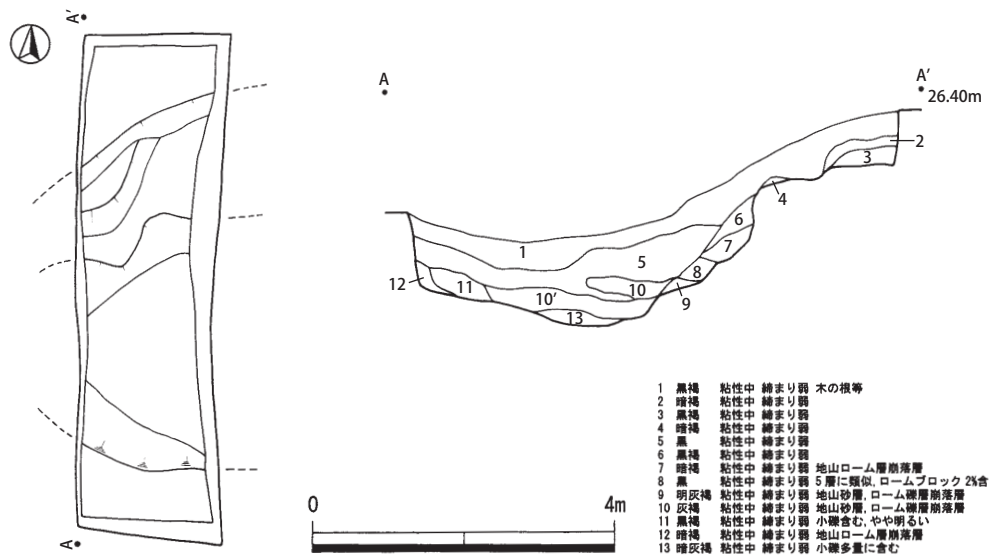
第67図 丹下一ノ牧野馬土手跡の位置



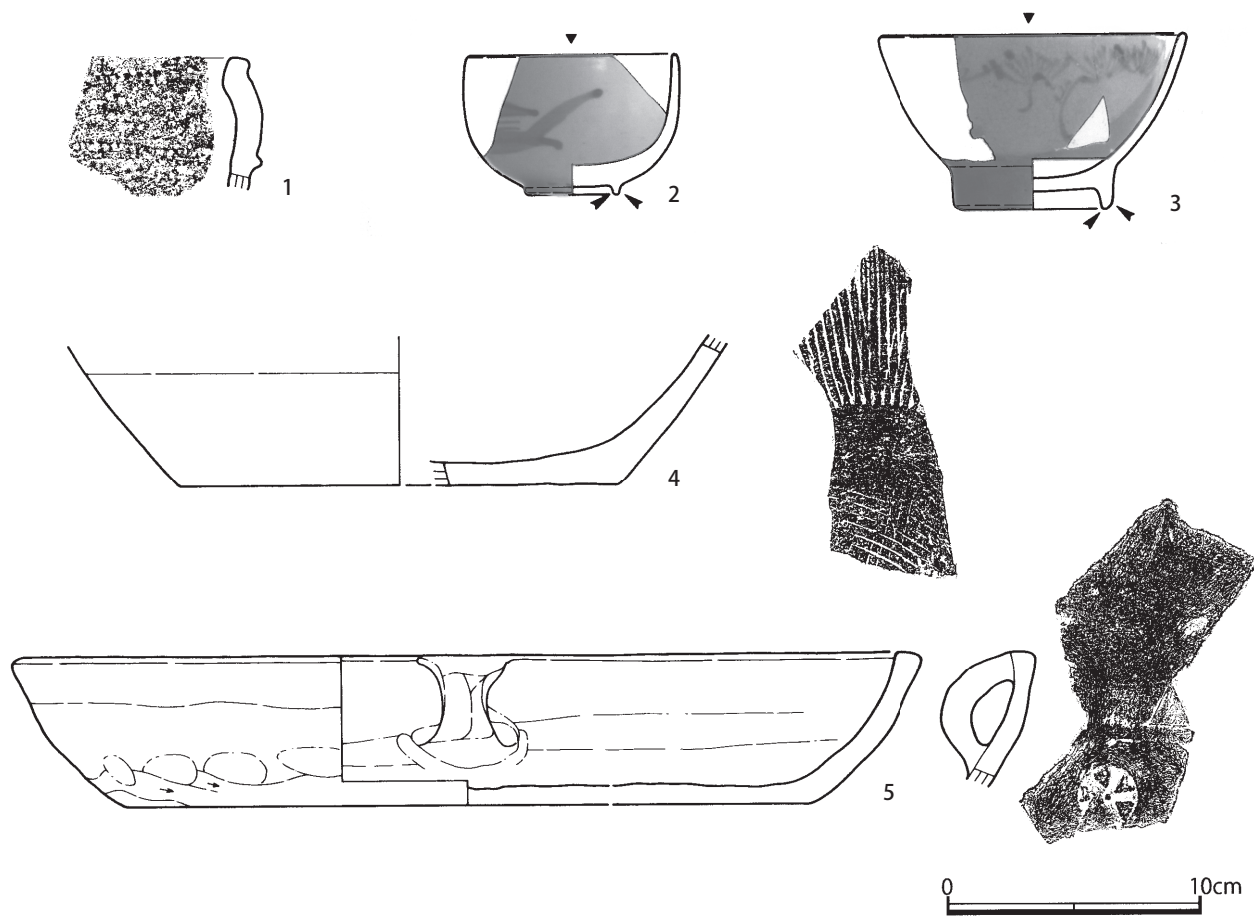
第68図 丹下一ノ牧野馬土手跡の調査範囲



第 69 図 丹下一ノ牧野馬土手跡のトレンチ配置・測量調査平面図



第 70 図 丹下一ノ牧野馬土手跡の遺構検出状況・トレンチ 1 西壁土層断面図



第71図 丹下一ノ牧野馬土手跡出土遺物

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

開発対象地のうち当該調査地点は、宅地造成に伴って盛土工事されるにとどまることから、必要な記録を作成し埋め戻しを行った。(渥美)

第4節 山根地区

2-4-1 南仲坪遺跡 (第5地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市加倉井町字元光山 341-6, 340-3

調査期間 平成 21 年 6 月 4 日

調査原因 事務所兼工場建設

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し(第72図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

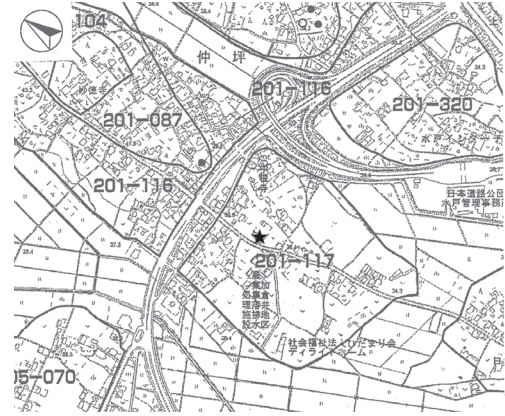
トレンチ1 3m×10m。地表下1.7mで関東ローム層に到達し、精査の結果、溝跡1条(SD01)、ピット2基(P1・2)が確認された。どちらの覆土からも平安時代の所産と判断される土師器片・須恵器片が出土したことから、これらの遺構は平安時代に属するものと判断される。(米川)

(2) 出土遺物

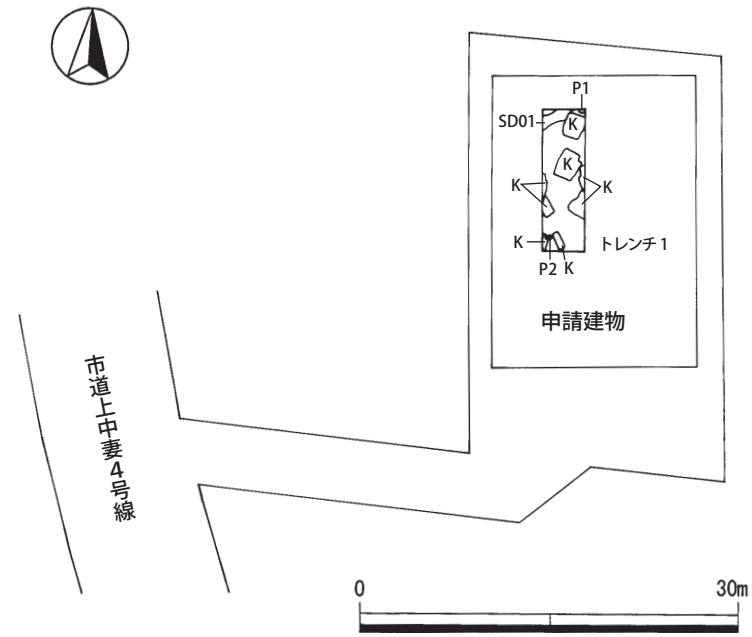
第74図-1・2は須恵器の無台坏である。時期は8世紀後半である。3は土師器の甕で、時期は8世紀後半～9世紀である。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

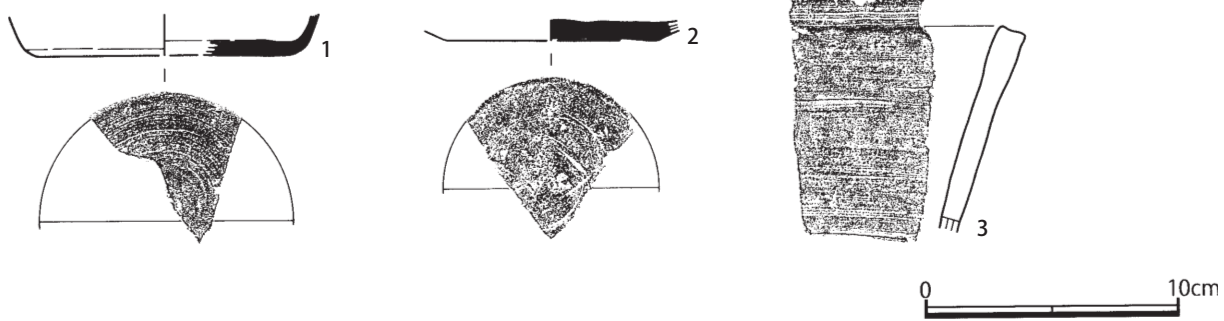
遺構・遺物が確認されたものの、事業者との協議の結果、盛土をすることで30cm以上の保護層が確保できたことになったため、工事立会が相当であった。(米川)



第72図 南仲坪遺跡(第5地点)の位置



第73図 南仲坪遺跡(第5地点)のトレンチ配置



第74図 南仲坪遺跡(第5地点)出土遺物

2-4-2 新田遺跡

調査種別 踏査

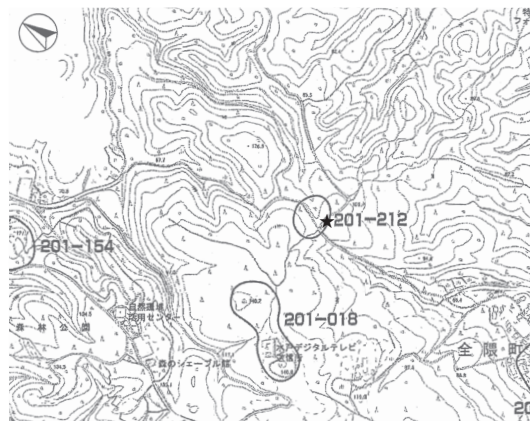
所在地 水戸市全隈町

踏査日 平成21年6月4日

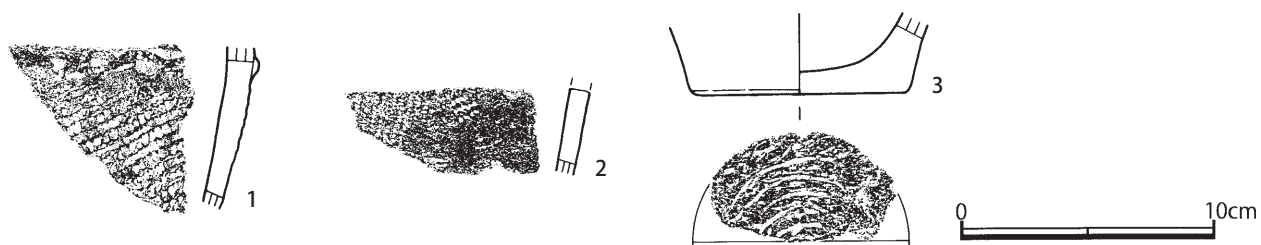
採集者 渥美賢吾

採集経緯 成沢吐水槽建設に伴う発掘調査現場の踏査

採集遺物 第76図-1～3は茨城県教育財団が実施した発掘調査区の道を挟んだ北・西側の斜面で採集された縄文土器である。3の底面には同心円状に沈線状の痕跡が認められる。これらの遺物の存在から遺構・遺物の展開は本発掘調査区のさらに外側へと展開している可能性が高い。(渥美)



第75図 新田遺跡の位置



第76図 新田遺跡採集遺物

2-4-3 般若寺遺跡

調査種別 踏査

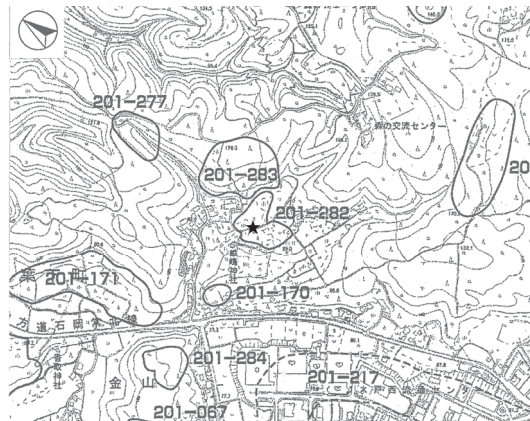
所在地 水戸市木葉下町

踏査日 平成21年11月19日

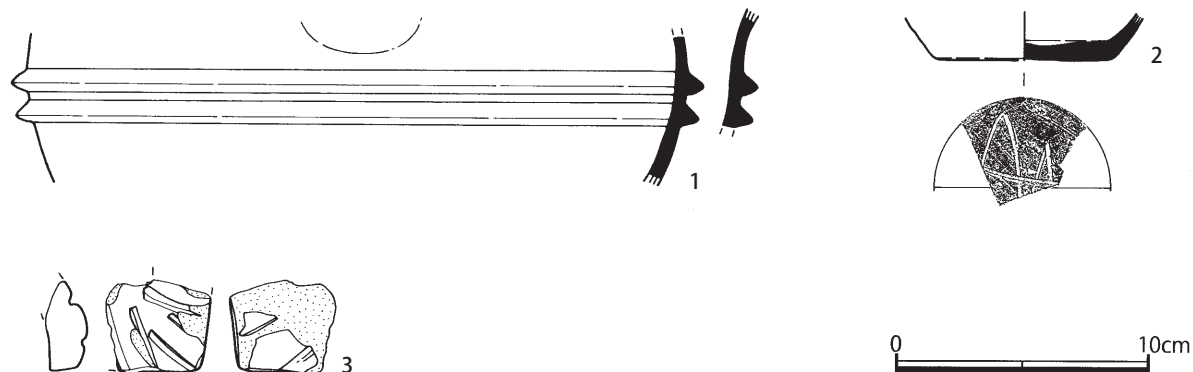
採集者 渥美賢吾

採集経緯 道路拡幅工事予定箇所の踏査

採集遺物 第78図-1は須恵器である。横走る2条の隆帯が貼付されており、その直上に直径5cmほどの円窓が穿たれている。2は須恵器の無台坏で、底面にヘラ記号が見られる。時期は8世紀後半～9世紀初頭である。3は瓦塔の屋蓋部片である。(渥美)



第77図 般若寺遺跡の位置



第78図 般若寺遺跡採集遺物

第5節 渡里地区

2-5-1 文京1丁目遺跡(第1地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市文京1丁目341-6, 340-3

開発面積 641.69 m²

調査期間 平成21年8月26日～27日

調査原因 土地調査

調査担当 渥美賢吾・米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し(第79図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

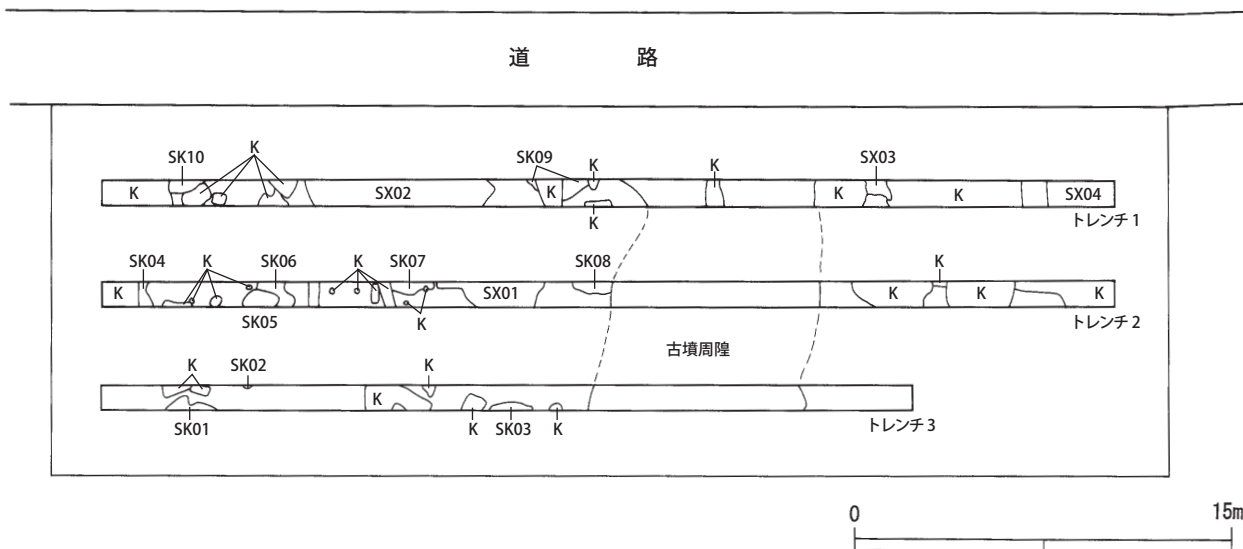
トレンチ1 1m×40m。地表下70cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。ゴミ穴や既存建物の基礎などの攪乱が入っているものの、土坑2基(SK9・10)、古墳に伴う溝(周障)、性格不明遺構3基(SX02～04)が検出された。

トレンチ2 1m×40m。地表下60cm(西端)～120cm(東端)で遺構確認面である関東ローム層に到達した。既存建物基礎などの攪乱が入っており、特に東端では深く攪乱を受けている。トレンチ内の確認面を平均すると、本来は地表下60～70cmに関東ローム層が存在したものと判断される。検出された遺構は土坑5基(SK04～08)、古墳周障、性格不明遺構1基(SX01)である。古墳周障の覆土上層からは、朝顔形埴輪を含む埴輪片が多量に出土し、個体数は1個体に止まるものではないであろう。SK04, 07からは縄文土器が出土したことから、これらは縄文時代の土坑と考えられよう。

トレンチ3 1m×32m。地表下60cm(西端)～100cm(東端)で遺構確認面である関東ローム層に到達した。ゴミ穴や既存建物の給排水設備などによる攪乱が入っており、特に東端では深く攪乱を受けている。トレンチ内の確認面を平均すると、本来は地表下60～70cmに関東ローム層が存在したものと判断される。検出された遺構は土坑3基(SK01～03)、古墳周障である。SK01からは縄文土器が出土したことから、縄文時代の土坑と考えられよう。



第79図 文京1丁目遺跡(第1地点)の位置



第80図 文京1丁目遺跡(第1地点)のトレンチ配置

調査区の制限もあるが、検出面での状況から考えて、円墳であると考えられる。周隍は確認面での計測であるが、上端幅は8.3～8.6 m程度である。トレンチ2における埴輪片の出土位置から考えれば、墳丘は周隍の西側に存在していたのであろう。確認された本墳の南方、同一丘陵上には国指定史跡愛宕山古墳をはじめとする愛宕山古墳群が存在しており、本墳もこの古墳群と一連のものと考えられ、愛宕山古墳群の範囲は当該地まで広がる可能性がある。(渥美)

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

照会者には、調査結果を報告し、開発を行う場合には、文化財保護法第93条第1項の規定に基づき、茨城県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財発掘の届出を提出する必要があること、遺跡の現状保存が困難な場合には、記録保存を目的とした本発掘調査について協力をお願いする旨、回答した。(渥美)

2-5-2 西原遺跡 (第1地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市渡里町 3387-50, -131

開発面積 253.38 m²

調査期間 平成 21 年 10 月 23 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、浄化槽埋設部分および申請建物部分にトレンチを2箇所設定し(第82図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 1.2 m×2 m。遺構確認面は地表下 1.0 mのところである。ゴボウ耕作によるトレンチャーの攪乱がみられたほかは、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 1 m×3 m。遺構確認面は地表下 1.0 mのところである。ゴボウ耕作によるトレンチャーの攪乱がみられたほかは、遺構・遺物は確認されなかった。

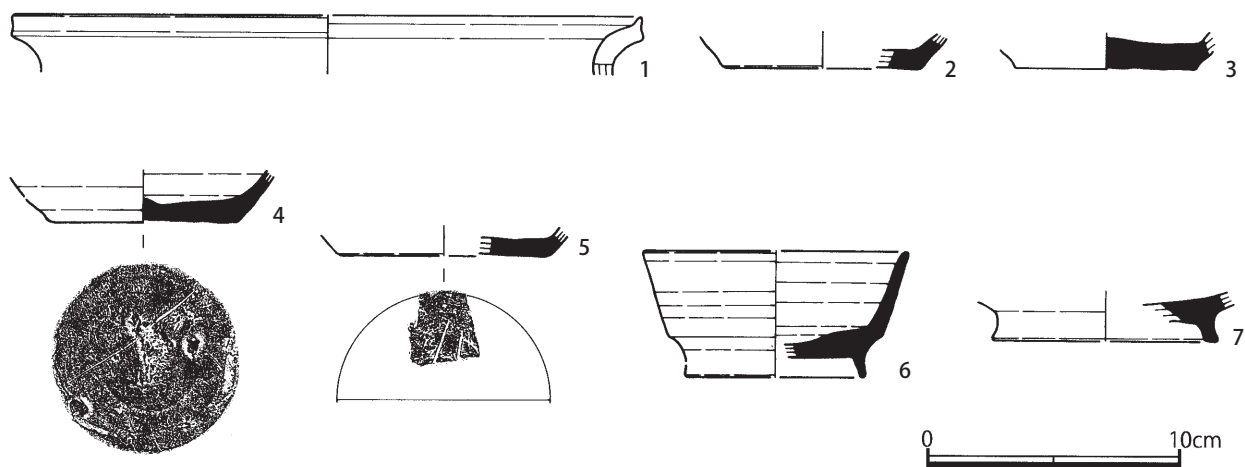
(2) 出土遺物

第83図-1は土師器の甕である。時期は8世紀後半～9世紀前半である。2～5は須恵器の無台坏で、時期は、2～4は9世紀、5は8世紀後半に位置付けられる。6・7は須恵器の有台坏である。時期は、6は9世紀前半、7は8世紀後半～9世紀前半である。4・5の底面にはヘラ記号がある。

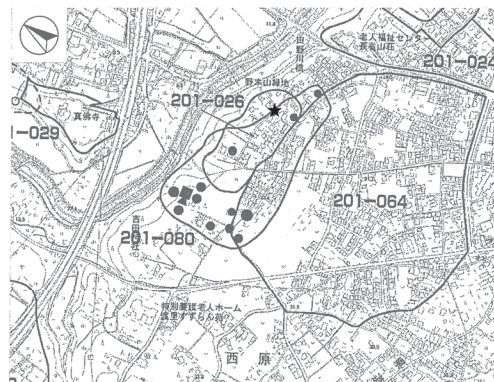
(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

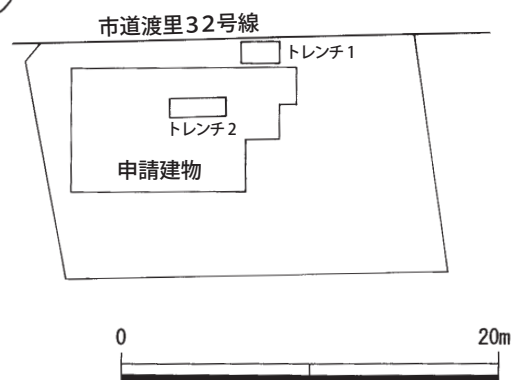
(渥美)



第83図 西原遺跡 (第1地点) 出土遺物



第81図 西原遺跡 (第1地点) の位置



第82図 西原遺跡 (第1地点) のトレンチ配置

2-5-3 堀遺跡 (第14地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市堀町字馬場東 342-2, -3

開発面積 308 m²

調査期間 平成 21 年 4 月 27 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し(第84図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 1.5 m × 6 m。遺構確認面は地表下 1.1 m のところである。ピット4基(P1~4)が確認された。さらに遺構を精査するため、半截を行った。その結果、掘り込みが浅く(20~30cm)、底面にアタリ痕跡などはみられなかったが、僅かながら須恵器片が出土した。このことにより、これらの遺構は奈良・平安時代に帰属するものと考えられる。

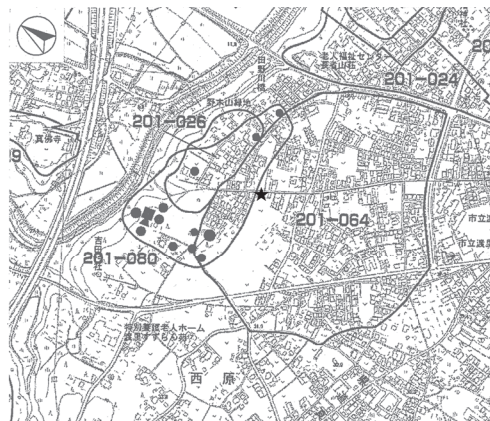
トレンチ2 1 m × 4 m。遺構確認面は地表下 95cm である。遺物の出土はみられなかったが、竪穴住居跡1軒(SI01)、ピット1基(P5)が確認された。

(2) 出土遺物

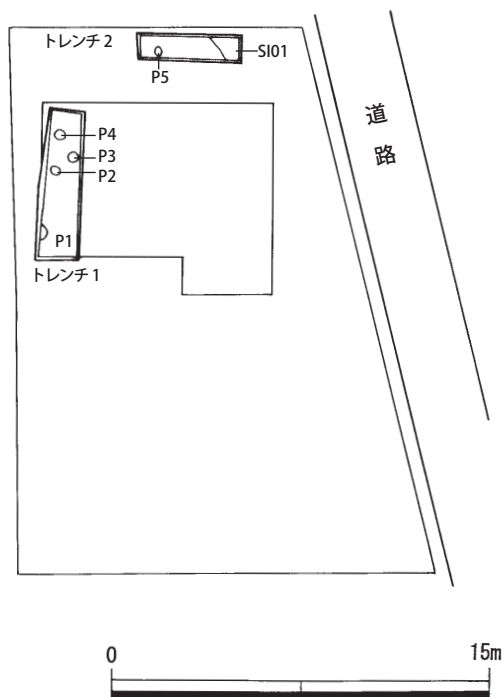
第90図-1は須恵器の坏蓋の摘み部で、時期は8世紀前半である。

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、申請建物部分については30cm以上の保護層が確保できること、浄化槽については埋設位置が変更になったことから、工事立会が相当であるとした。(渥美)



第84図 堀遺跡(第14地点)の位置



第85図 堀遺跡(第14地点)のトレンチ配置

2-5-4 堀遺跡 (第19地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市堀町 293-1, -8

開発面積 324.27 m²

調査期間 平成 21 年 10 月 23 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し(第87図)、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第86図 堀遺跡(第19地点)の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m×3m。遺構確認面は地表下50cmのところである。遺物の出土はみられなかったが、ピット1基(P1)が確認された。

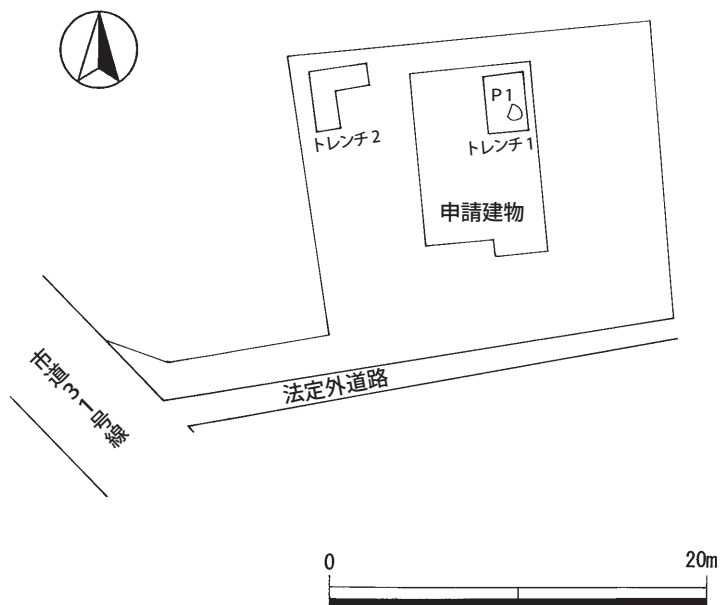
トレンチ2 1.2m×4.2mでL字状に設定した。遺構確認面は地表下20cmのところである。ゴボウ耕作等によるトレンチャーの攪乱がみられたほかは、何も確認されなかった。

(2) 出土遺物

第90図-2～7はすべて須恵器である。2～4は無台坏で、3の底面にはヘラ記号がみられる。5は有台坏、6は瓶、7は高盤である。時期はすべて9世紀前半に位置付けられる。

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、盛土工事、雨水浸透柵および排水管理設工事に際しては工事立会、その他の土木工事については慎重工事が相当であるとした。(渥美)



第87図 堀遺跡(第19地点)のトレンチ配置

2-5-5 堀遺跡(第20地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市堀町字前ノ内395-1

開発面積 754.59㎡

調査期間 平成21年11月24日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し(第89図)、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 15m×2m。地表下1.0mで関東ローム層上面が確認された。奈良・平安時代の土師器・須恵器片等が数点、現代耕作土中から出土したが、遺構は検出されなかった。

トレンチ2 4m×2m。地表下80cmで関東ローム層上面が確認された。遺構・遺物は検出されなかった。

(2) 出土遺物

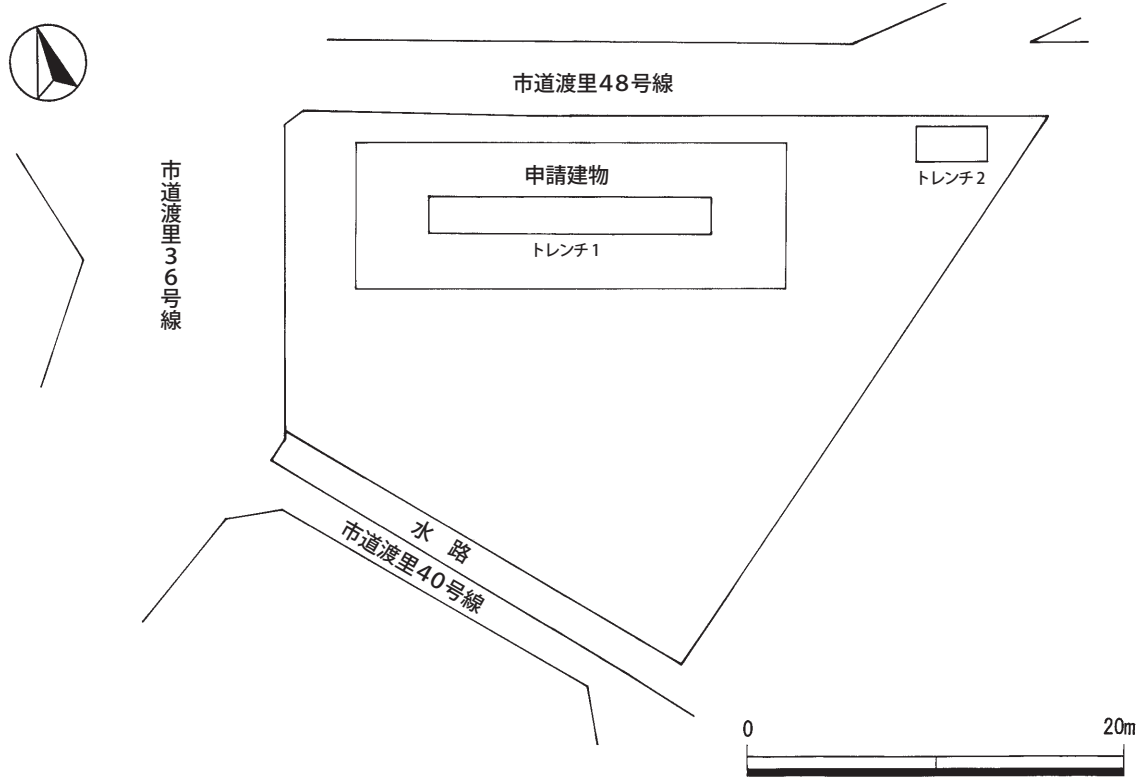
第89図-8は須恵器の甕である。外面は格子目文叩き、内面は青海波文の当て具痕が残されている。

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

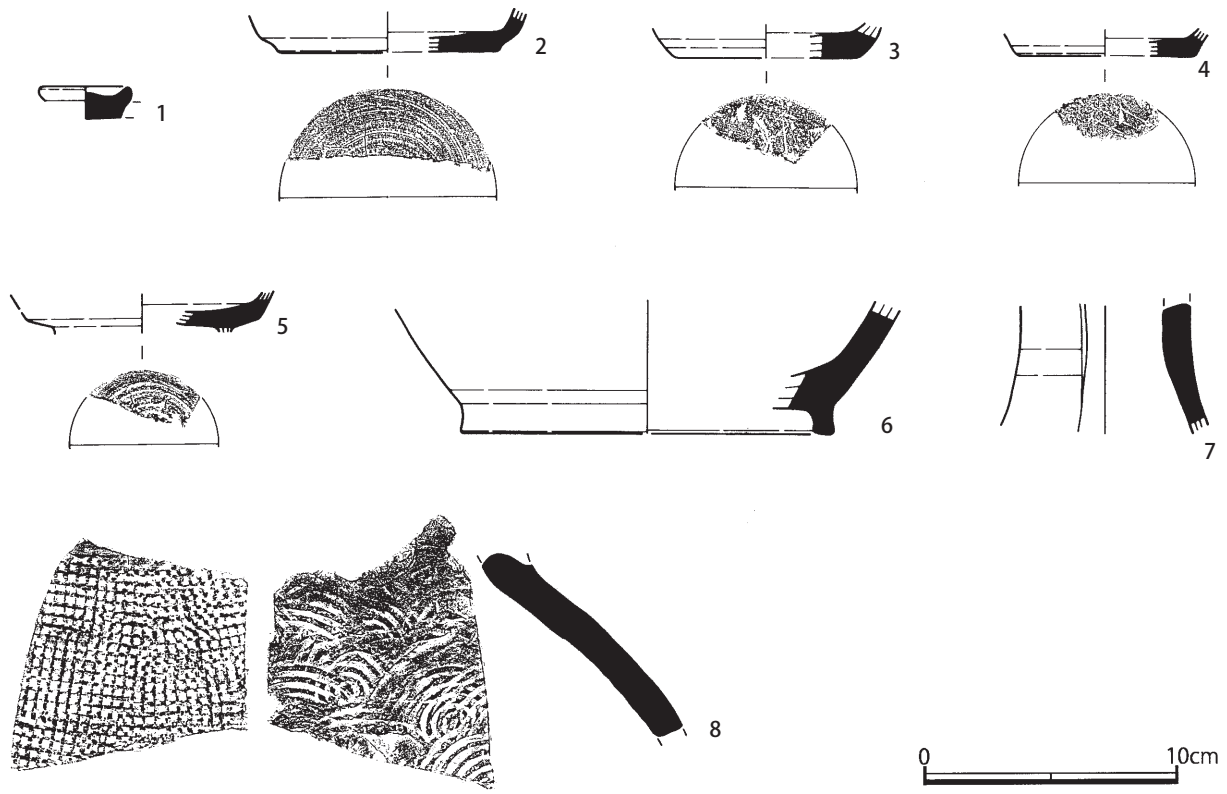
隣接する第12地点の試掘・確認調査では、地表下2.0m～1.4mにおいて奈良・平安時代の遺構確認面である関東ローム層上面が検出されており、本地点で確認した関東ローム層とのレベル差と遺構展開状況の相関関係は注視すべきといえよう。恐らくは西から東方向へ緩やかな谷が入り込んでいるものと思われ、その緩斜面にわずかながら奈良・平安時代の遺構が点在する、といった景観が想起される。本地点は遺跡の南端にあたり、土地利用が希薄な部分にあたるものと判断される。遺構も確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。(関口)



第88図 堀遺跡(第20地点)の位置



第89図 堀遺跡（第20地点）のトレンチ配置



第90図 堀遺跡（第14・19・20地点）出土遺物

2-5-6 堀遺跡 (第21地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市渡里町字高野台 3228-7, -10, -11

開発面積 224.63 m²

調査期間 平成21年12月15日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを1箇所設定し(第92図)、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 7m × 1.5m。地表下90cmで関東ローム層が確認された。奈良・平安時代の土器片と遺構3基が確認された(1号遺構, 2号遺構-P1・P2)。1号遺構は方形の土坑, 2号遺構は掘立柱建物跡である。

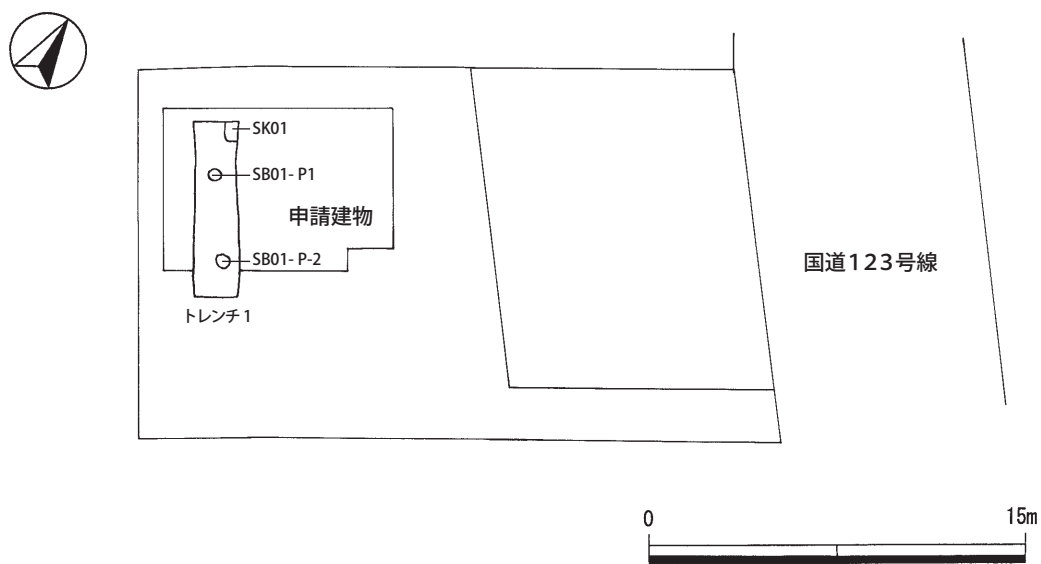
(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

埋蔵文化財が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できるため、雨水浸透枿・給排水管埋設工事および既存建物・ブロック塀基礎撤去工事に際しては工事立会、その他の土木工事については慎重工事が妥当であるとした。

(関口)



第91図 堀遺跡(第21地点)の位置



第92図 堀遺跡(第21地点)のトレンチ配置

2-5-7 西原古墳群（第14地点）

調査種別 工事立会調査

所在地 水戸市渡里町字野木 3387-31 地先～3366-10 地先

調査面積 3.4 m²

調査期間 平成21年4月1日

調査原因 道路拡幅・側溝新設工事

調査担当 渥美賢吾

調査概要 今般の土木工事は道路拡幅・側溝新設工事である。工事に先立って、トレンチを2箇所設定し（第94図）、掘削を行った。



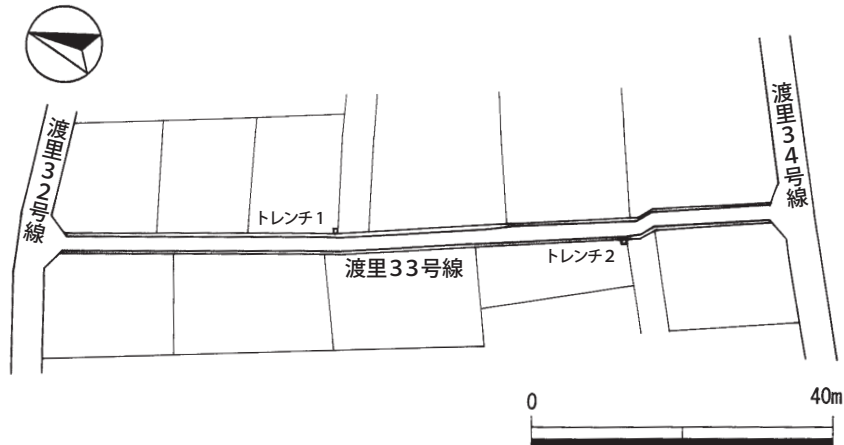
第93図 西原古墳群（第14地点）の位置

（1）トレンチの概要

トレンチ1 現況の道路境界線から40cm離し、1.3m×1.3mで設定した。地表下80cmで遺構確認面たる関東ローム漸移層が確認された。

遺構の存在は確認されなかったが、この付近周囲では多量の遺物が散布している状況が窺える。その多くは奈良・平安時代の須恵器であることから、この直近に8世紀後半から9世紀前半までの竪穴住居跡を中心とする集落が営まれていた可能性が高い。

トレンチ2 道路境界線に接して0.9m×1.9mで設定した。地表下90cmで関東ローム層上面が確認された。根穴等の攪乱2基がみられたのみで、埋蔵文化財等の存在は確認されなかった。（渥美）



第94図 西原古墳群（第14地点）のトレンチ配置

2-5-8 渡里町遺跡 (第10地点 (台渡里第53次))

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市渡里町字前原 2819-1
 開発面積 291.26 m²
 調査期間 平成21年7月13日～15日
 調査原因 共同住宅建築
 調査担当 渥美賢吾・米川暢敬
 調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し(第96図)、
 関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第95図 渡里町遺跡(第10地点(台渡里第53次))の位置

(1) トレンチの概要

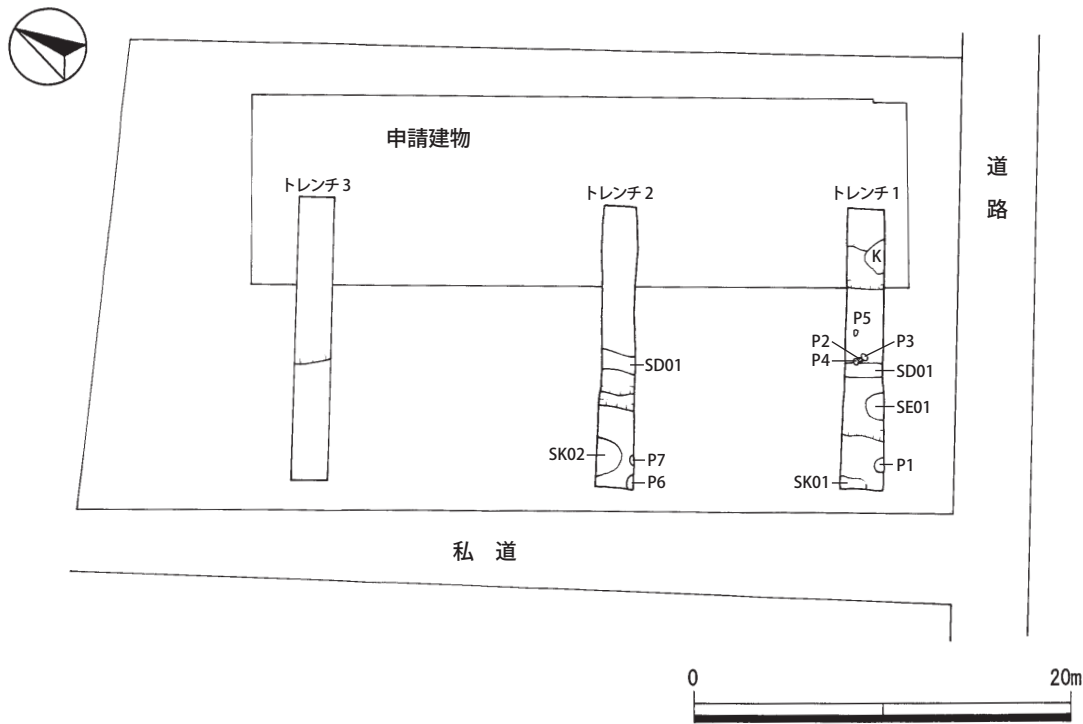
トレンチ1 2m×15m。トレンチ西側において地表下80cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。遺構は土坑1基(SK01), 溝跡1条(SD01), 井戸跡1基(SE01), ピット5基が検出された。SE01については、一部掘り込みを行ったが、掘り込み中に井戸である可能性が高まり、底面までかなりの深度があることが予想されたため、掘り込みを中断している。本遺構からは覆土中から播鉢片などが出土した。旧地形は東に向かって傾斜しており、トレンチの東側部分には谷が入り込んでいる。

トレンチ2 2m×15m。トレンチ西側において地表下1.3mで遺構確認面である関東ローム層に到達した。遺構は、土坑1基(SK02), 溝跡1条(SD01), ピット2基(P1・2)が検出された。SK02については一部掘り込みを行い、縄文土器片が出土した。SD01はトレンチ1で検出された溝跡と同一のものであると判断される。トレンチ1同様、本トレンチにおいても中央以東が谷である。

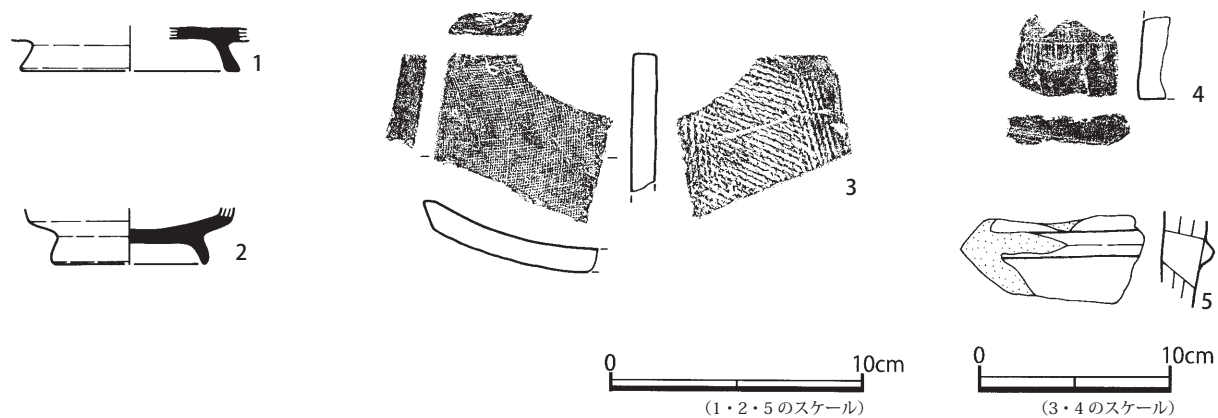
トレンチ3 2m×15m。トレンチ西側において地表下2.3mで遺構確認面である関東ローム層に到達した。このトレンチは全体が谷の中に位置する。谷はトレンチ中央部から傾斜がやや急になり、最深部では地表下3.4mを測る。遺構・遺物は確認されなかった。(米川)

(2) 出土遺物

第97図-1・2は須恵器の有台坏である。時期は、1が8世紀後半, 2が9世紀に位置付けられる。3・4は奈良・



第96図 渡里町遺跡(第10地点(台渡里第53次))のトレンチ配置



第 97 図 渡里町遺跡（第 10 地点（台渡里第 53 次））出土遺物

平安時代の平瓦である。5 は近世～近代の瓦質土器の鉢である。

（坂本）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたが，30cm 以上の保護層が確保できるため，慎重工事が妥当であるとした。

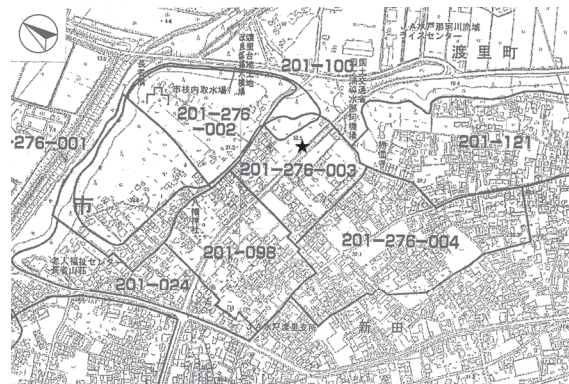
（米川）

2-5-9 台渡里官衙遺跡（台渡里第43次）

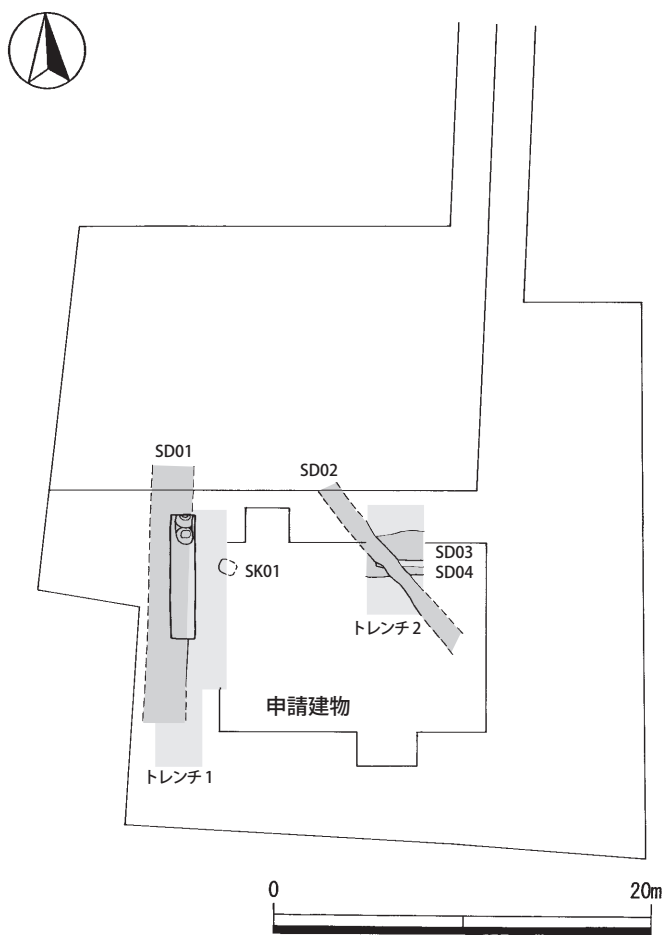
調査種別 工事立会調査
 所在地 水戸市渡里町字3009-1
 調査面積 8.45㎡
 調査期間 平成21年6月11日
 調査原因 個人住宅 浄化槽埋設工事
 調査担当 渥美賢吾・米川暢敬

調査概要 本地点では、個人住宅建築に基づく試掘調査が平成20年7月10日に実施され、トレンチ1においてSD01・SK01が、トレンチ2においてSD02～04が検出されている（渥美・色川・川口 2011）。今般の調査は、浄化槽埋設の際の工事立会調査である。

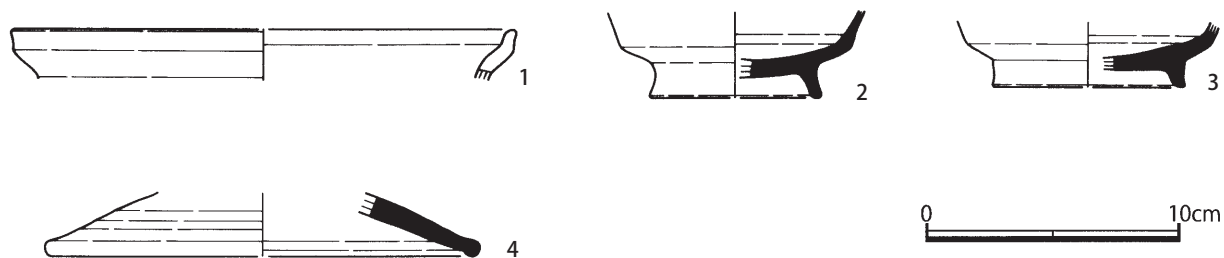
出土遺物 第100図-1は土師器の甕である。2～4は須恵器で、2・3は有台坏，4は蓋である。時期は、2が7世紀後半～8世紀前半、3・4が8世紀後半に位置付けられる。（色川）



第98図 台渡里官衙遺跡（台渡里第43次）の位置



第99図 台渡里官衙遺跡（台渡里第43次）のトレンチ配置



第100図 台渡里官衙遺跡（台渡里第43次）出土遺物

2-5-10 アラヤ遺跡（台渡里第55次）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市渡里町 2953-1
 開発面積 339.8 m²
 調査期間 平成21年7月16日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し（第102図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

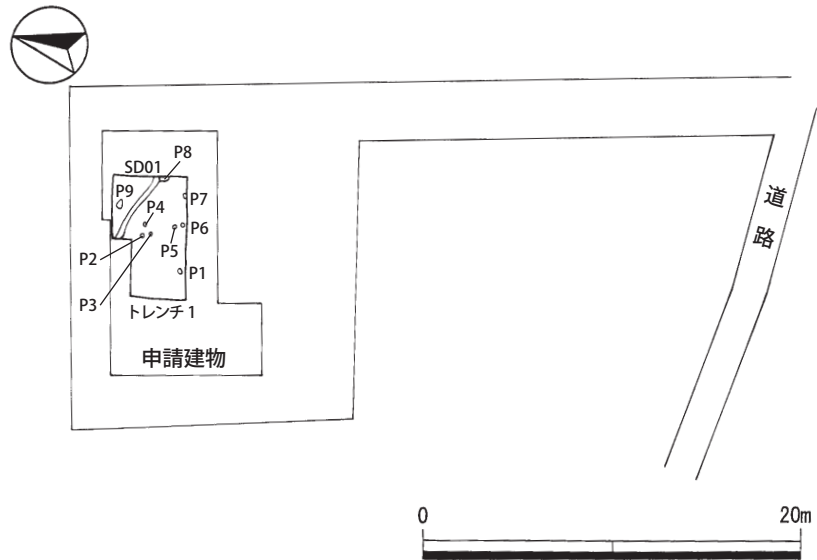
トレンチ1 3m×5mで設定し、遺構の検出にあわせ拡張を行った。地表下60cmで遺構確認面である黄褐色土層に到達し、精査を実施した結果、溝跡1条（SD01）、ピット9基が検出された。帰属年代解明のため、溝跡を一部掘り込んだが、遺物は土師器小片が1点出土するに留まった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

一般の土木工事は、基礎工法にパイル工法を採用するため、遺構の破壊は回避できないと判断された。よって、事前に記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。なお、本発掘調査の概要については、本書「2-5-12 アラヤ遺跡（台渡里第59次）」を参照願いたい（米川）



第101図 アラヤ遺跡（台渡里第55次）の位置

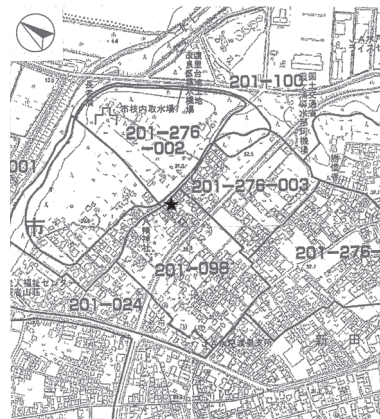


第102図 アラヤ遺跡（台渡里第55次）のトレンチ配置

2-5-11 台渡里廃寺 (台渡里第57次)

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市渡里町字宿屋敷 3001-3, 2998-4
 開発面積 207 m²
 調査期間 平成21年10月23日, 11月17日～18日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 渥美賢吾・川口武彦

調査概要 本地点では50次調査および二度にわたる57次調査と、計3度の調査が行われた。50次調査ではトレンチを2箇所設定し(トレンチ1・2)、地表下90cm前後で関東ローム層上面が確認された。大部分はイモ穴・植栽痕といった現代の攪乱で、中世陶器片や数点の古代瓦が攪乱層から出土した以外は、埋蔵文化財の痕跡は確認されなかった(川口武彦・色川順子編2011)。57次調査では、浄化槽埋設予定位置に、最終的に2箇所のトレンチを設定し(トレンチ3・4)、遺構確認面を目標に重機を用いて掘削した(第104図)。



第103図 台渡里廃寺跡(台渡里第57次)の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ3 1.2m×5m。地表下70cmで遺構確認面に達した。後世の攪乱を受けているものの、土坑・ピット4基が確認された。遺物は、掘削時に数点の土師器片が出土した。

トレンチ4 トレンチ3で遺構が確認されたため、浄化槽埋設位置が計画変更され、新たな埋設予定位置にトレンチ4を2.4m×2.4mで設定した。地表下80cmで遺構確認面に達した。トレンチ内に大きな攪乱があり、これらをすべて除去した結果、その直下より竪穴建物跡の床面と思しき硬化面を検出した。遺構の性格を正確に把握するため、さらに調査を進めた結果、覆土は大きく攪乱を受けて遺存状態は悪いものの、竪穴建物跡の南辺を検出し、さらに出入口ピットと思しきものを確認するに至った。出土遺物は須恵器・土師器・瓦であり、竪穴建物跡の年代は、奈良・平安時代に帰属するものと判断されるが、詳細な年代の特定には至らなかった。(渥美)

(2) 出土遺物

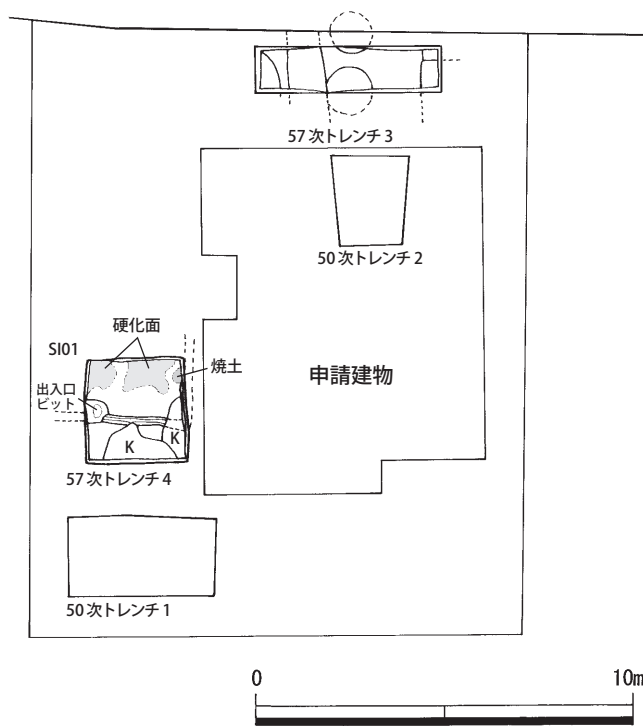
第105図-1・8はトレンチ3出土である。1は縄文土器、8は中世以降の鍋で、外面に炭化物の付着がみられる。2～7はトレンチ4のSI01出土である。2は7世紀後半～8世紀前半の土師器の甕、3・4は8世紀後半の須恵器の甕、有台坏である。5～7は奈良・平安時代の平瓦である。(川口)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

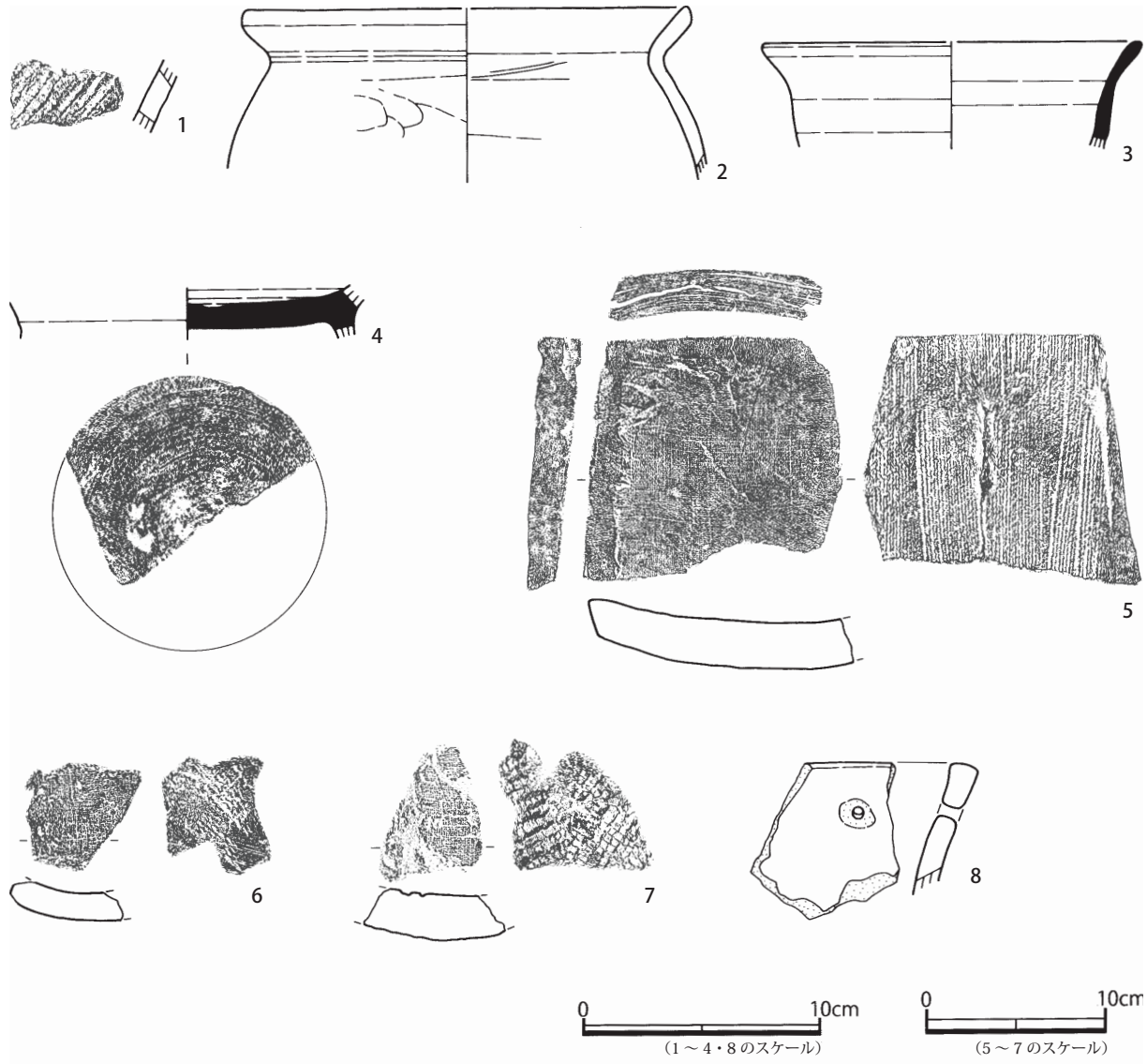
本来であれば、埋蔵文化財が確認されたことから、別途本発掘調査を行う必要があると判断される。しかしなが



市道常磐12号線



ら、トレンチ4の調査過程で攪乱土層を除去したため、浄化槽埋設箇所の遺構の完掘に至り、これ以上の調査を行う必要性がないことから、工事立会が相当であるとした。(渥美)



第105図 台渡里廃寺跡（台渡里第57次）出土遺物

2-5-12 アラヤ遺跡（台渡里第59次）

調査種別 本発掘調査

所在地 水戸市渡里町 2953-1

開発面積 119.5 m²

調査期間 平成21年12月15日～平成22年1月13日

検出遺構 掘立柱建物跡1, 土坑5, ピット47, 溝跡3, 性格不明遺構2

調査担当 渥美賢吾

調査概要

(1) 1号掘立柱建物跡 (SB01) 調査区の南東側で検出された, P36, P37, P39, P40 は並んでおり, 1棟の掘立柱建物跡を構成する可能性がある。桁行2間以上, 梁間1間以上, 桁行柱間は4.6尺, 梁間柱間は6尺とみられる。柱穴はいずれも円形を呈し, 直径0.25m～0.3m, 深さは0.2mから0.32m程度である。さほど規模の大きくない3×2間程度の側柱式の掘立柱建物の存在が想定される。

(2) 土坑 (SK01～SK05) 合計5基が検出された。規模などの詳細は第4表のとおりである。いずれも規格性のある形状をなしておらず, 遺物が出土したのはSK03のみである。

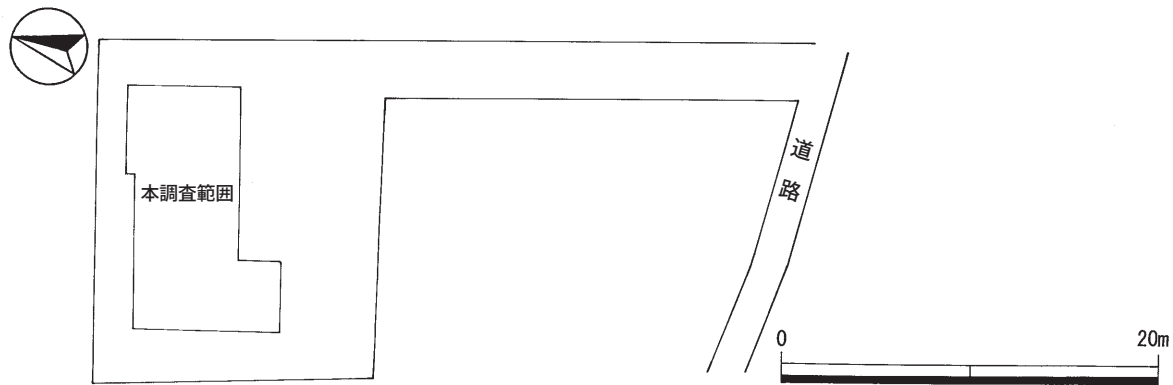
(3) ピット 合計47基が検出された。規模などの詳細は第4表のとおりである。遺物が出土したのはピット6のみである。

(4) 溝跡 (SD1～SD3) 合計3条が検出された。規模などの詳細は第4表のとおりである。遺物の出土がないため, 時期は不明であるが, 主軸もそれぞれ異なっており, 形状や規模からみて近世以降の可能性はある。

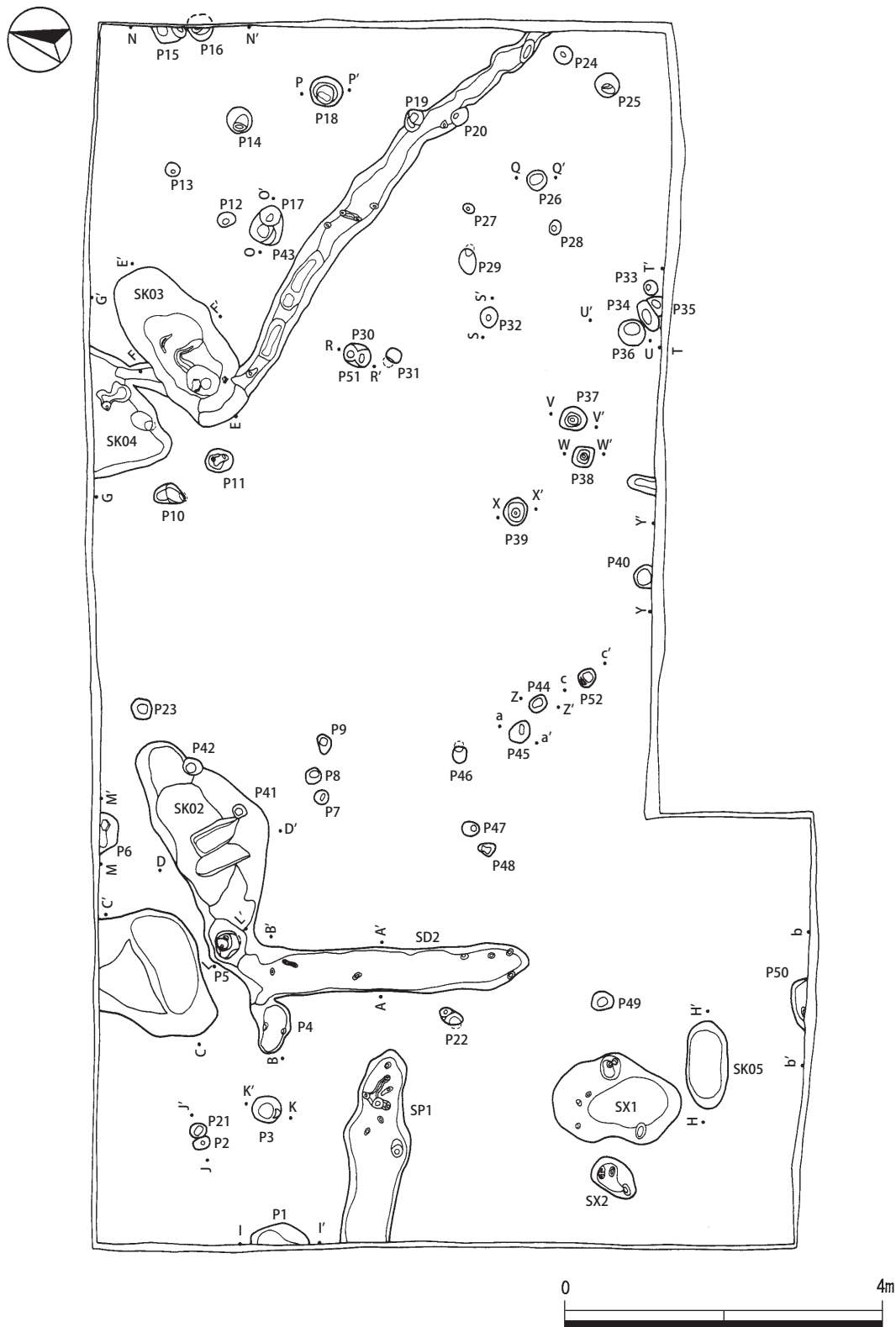
(5) 性格不明遺構 (SX1～SX2) 合計2基が検出された。規模などの詳細は第4表のとおりである。遺物が出土したのはSX01のみである。

出土遺物 第110図-1～8は須恵器である, 1～4は無台坏, 5～7は有台坏である。1の底面にはへら記号と糊圧痕が, 3の底面にへら記号が見られる。8は甕で, 平行線文の叩きが施されている。出土位置は, 1がSK03確認面, 5がSK03上層, 4がSX01, 7がピット6である。2・3・6・8は表土中の出土と表採資料である。

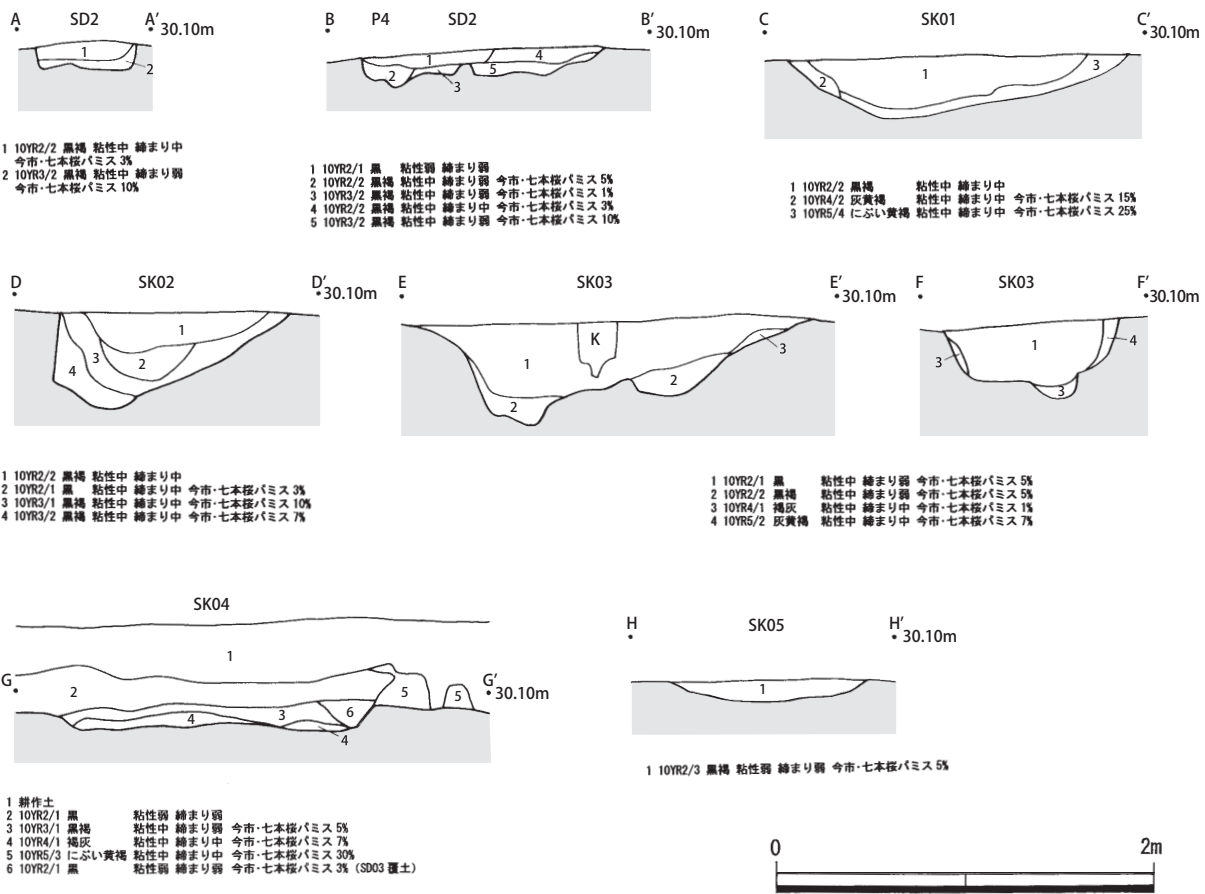
9～13は奈良・平安時代の瓦で, 9～12は平瓦, 13は丸瓦である。9はSK03下層とピット6中層出土のものが接合した資料である。凹面に布目圧痕を有し, 凸面には長縄叩きが施されており, 凹面の糸切痕と側面の形状から一枚作りと考えられる。10は凹面に布目圧痕, 凸面に梯子状格子叩きが施されている。11は凹面に布目圧痕, 凸面にへら削り痕を有する。12は凹面に糸切り痕と見られる痕跡を有し, 凸面はへら削りが施されている。13は凹凸面ともにへら削り痕が見られる。8・10～13は表土中の出土である。 (渥美)



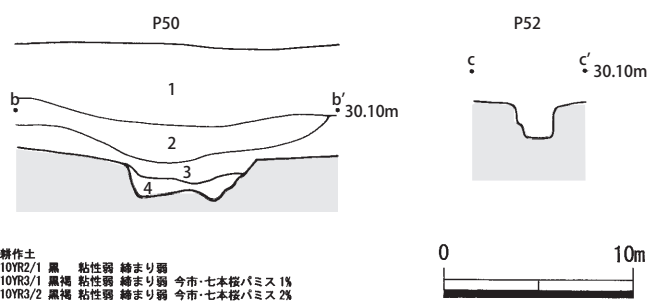
第106図 アラヤ遺跡（台渡里第59次）の本発掘調査範囲



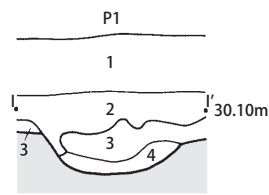
第 107 図 アラヤ遺跡（台渡里第 59 次）の本発掘調査区遺構配置



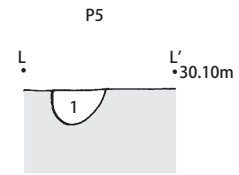
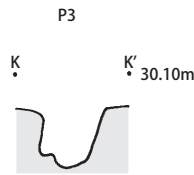
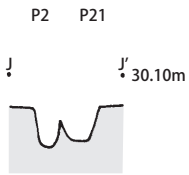
第 108 図 アラヤ遺跡 (台渡里第 59 次) の遺構土層断面図 (1)



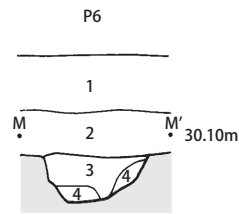
第 110 図 アラヤ遺跡 (台渡里第 59 次) の遺構土層断面図 (3)



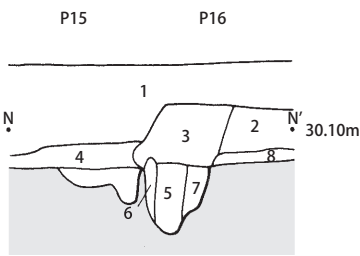
- 1 耕作土
- 2 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱
- 3 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり弱
- 4 10YR5/2 灰黄褐 粘性中 締まり中
- 今市・七本塚パミス 5%



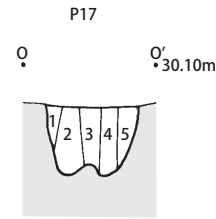
- 1 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱



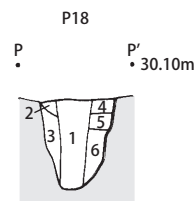
- 1 耕作土
- 2 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱
- 3 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり弱
- 4 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり中
- 今市・七本塚パミス 20%



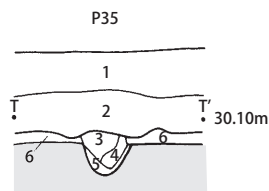
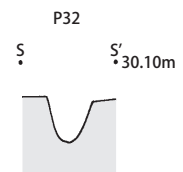
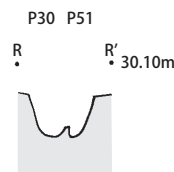
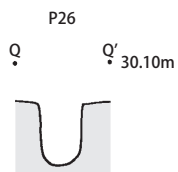
- 1 耕作土
- 2 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱
- 3 7.5YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 2%
- 4 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 1%
- 5 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 1%
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐 粘性中 締まり中 今市・七本塚パミス 15%
- 7 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 今市・七本塚パミス 7%
- 8 10YR4/2 灰黄褐 粘性中 締まり弱 今市・七本塚パミス 3%



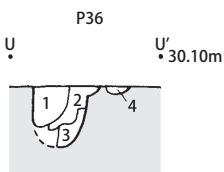
- 1 10YR5/4 にぶい黄褐 粘性中 締まり中 今市・七本塚パミス 15%
- 2 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 3%
- 3 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 今市・七本塚パミス 1%
- 4 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 1%
- 5 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 今市・七本塚パミス 3%



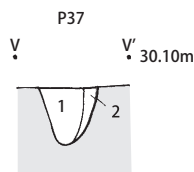
- 1 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 5%
- 2 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 2%
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐 粘性中 締まり中
- 今市・七本塚パミス 25%
- 4 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 2%
- 5 10YR4/2 灰黄褐 粘性中 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 15%
- 6 10YR5/3 にぶい黄褐 粘性中 締まり中
- 今市・七本塚パミス 25%



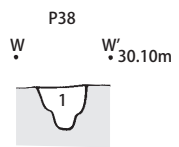
- 1 耕作土
- 2 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 15%
- 4 10YR3/2 黒褐 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 5%
- 5 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 7%
- 6 10YR4/2 灰黄褐 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 10%



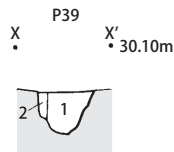
- 1 10YR3/1 黒褐 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 15%
- 2 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 3%
- 3 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり中 今市・七本塚パミス 7%
- 4 10YR3/2 黒褐 粘性弱 締まり弱



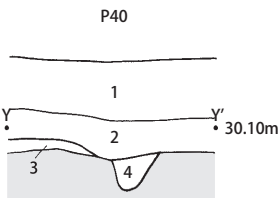
- 1 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 5%
- 2 10YR2/3 黒褐 粘性弱 締まり中
- 今市・七本塚パミス 7%



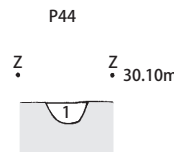
- 1 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 3%



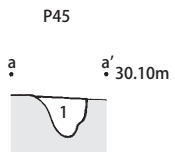
- 1 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 1%
- 2 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり中
- 今市・七本塚パミス 5%



- 1 耕作土
- 2 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり弱
- 3 10YR4/2 灰黄褐 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 10%
- 4 10YR5/2 灰黄褐 粘性弱 締まり弱 今市・七本塚パミス 3%



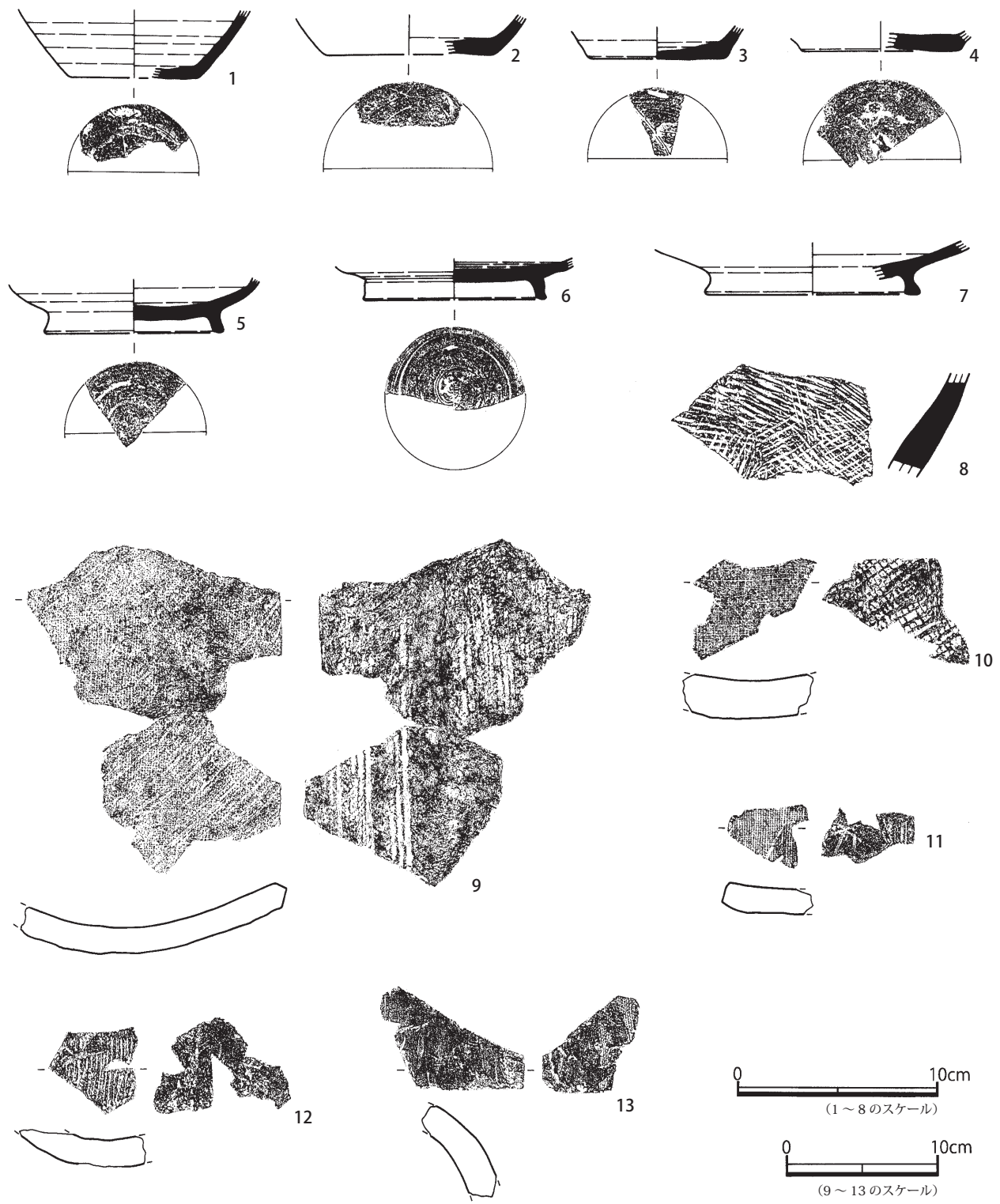
- 1 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 1%



- 1 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり弱
- 今市・七本塚パミス 1%



第109図 アラヤ遺跡(台渡里第59次)の遺構土層断面図(2)



第111図 アライヤ遺跡（台渡里第59次）出土遺物

第4表 アラヤ遺跡（台渡里第59次）検出遺構一覧

遺構名	種別	構造・形状	規模	備考
1号掘立柱建物跡(SB01)	掘立柱建物	側柱形式、桁行2間以上、梁間1間以上、桁行柱間は4.6尺、梁間柱間は6尺	主軸 N-15° -W、桁行 4.2m以上、梁間 3.6m以上 P36 東西 0.3m, 南北 0.3m, 深さ 0.32m P37 東西 0.3m, 南北 0.3m, 深さ 0.3m P39 東西 0.35m, 南北 0.3m, 深さ 0.2m P40 東西 0.3m, 南北 0.25m以上、深さ 0.2m	P36・P37・P39・P40 から構成
1号土坑(SK01)	土坑	皿状に落ち込む	東西 1.6m, 南北 1.5m以上、深さ 0.2~0.3m	
2号土坑(SK02)	土坑	不整形	東西 2.3m, 南北 1.7m, 深さ 0.25~0.5m	P5・P41・P42 と重複
3号土坑(SK03)	土坑	不整形	東西 2.0m, 南北 1.7m, 深さ 0.25~0.3m	SD3 と重複・連結
4号土坑(SK04)	土坑	不整形	東西 1.7m, 南北 1m以上、深さ 0.12~0.18m	
5号土坑(SK05)	土坑	長楕円形	東西 1.1m, 南北 0.5m, 深さ 0.1m	
1号ピット(P1)	ピット		東西 0.3m, 南北 0.8m, 深さ 0.2m	
2号ピット(P2)	ピット	円形	東西 0.15m, 南北 0.2m, 深さ 0.2m	P21 と隣接
3号ピット(P3)	ピット	円形	東西 0.3m, 南北 0.4m, 深さ 0.25~0.35m	
4号ピット(P4)	ピット	楕円形	東西 0.7m, 南北 0.4m	
5号ピット(P5)	ピット	楕円形	東西 0.55m, 南北 0.4m, 深さ 0.18m	P5・SK02 と重複
6号ピット(P6)	ピット		東西 0.5m, 南北 0.2m以上、深さ 0.15~0.25m	P4・SK02 と重複
7号ピット(P7)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m	
8号ピット(P8)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m	
9号ピット(P9)	ピット	略円形	東西 0.25m, 南北 0.2m	
10号ピット(P10)	ピット	楕円形	東西 0.25m, 南北 0.4m	
11号ピット(P11)	ピット	円形	東西 0.3m, 南北 0.35m	
12号ピット(P12)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.25m	
13号ピット(P13)	ピット	円形	東西 0.15m, 南北 0.2m	
14号ピット(P14)	ピット	円形	東西 0.3m, 南北 0.35m	
15号ピット(P15)	ピット		東西 0.25m以上、南北 0.4m, 深さ 0.1~0.2m	
16号ピット(P16)	ピット	円形	東西 0.2m以上、南北 0.35m, 深さ 0.38m	
17号ピット(P17)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.3m, 深さ 0.4m	P43 と重複
18号ピット(P18)	ピット	円形、柱痕跡 0.15cm	東西 0.4m, 南北 0.4m, 深さ 0.48m	
19号ピット(P19)	ピット	円形	東西 0.3m, 南北 0.25m	
20号ピット(P20)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m	
21号ピット(P21)	ピット		東西 0.2m, 南北 0.2m, 深さ 0.18m	P2 と隣接
22号ピット(P22)	ピット	円形	東西 0.3m, 南北 0.25m	
23号ピット(P23)	ピット	円形	東西 0.3m, 南北 0.3m	
24号ピット(P24)	ピット	円形	東西 0.25m, 南北 0.25m	
25号ピット(P25)	ピット	円形	東西 0.3m, 南北 0.3m	
26号ピット(P26)	ピット	円形	東西 0.25m, 南北 0.25m, 深さ 0.35m	
27号ピット(P27)	ピット	円形	東西 0.1m, 南北 0.15m	
28号ピット(P28)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.15m	
29号ピット(P29)	ピット	楕円形	東西 0.3m, 南北 0.25m	
30号ピット(P30)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m, 深さ 0.25m	P51 と重複
31号ピット(P31)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m	
32号ピット(P32)	ピット	円形	東西 0.25m, 南北 0.2m, 深さ 0.25m	
33号ピット(P33)	ピット	円形	東西 0.15m, 南北 0.2m	
34号ピット(P34)	ピット	楕円形	東西 0.4m, 南北 0.3m	
35号ピット(P35)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m以上、深さ 0.25m	
38号ピット(P38)	ピット	円形	東西 0.25m, 南北 0.3m, 深さ 0.22m	
41号ピット(P41)	ピット	円形	東西 0.15m, 南北 0.18m	
42号ピット(P42)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m	
43号ピット(P43)	ピット	円形	東西 0.4m, 南北 0.4m, 深さ 0.35m	P17 と重複
44号ピット(P44)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m, 深さ 0.1m	
45号ピット(P45)	ピット	円形	東西 0.3m, 南北 0.25m, 深さ 0.2m	
46号ピット(P46)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m	
47号ピット(P47)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.25m	
48号ピット(P48)	ピット	略円形	東西 0.2m, 南北 0.25m	
49号ピット(P49)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.3m	
50号ピット(P50)	ピット	隅丸方形カ	東西 0.65m, 南北 0.2m以上、深さ 0.18~0.2m	
51号ピット(P51)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.2m, 深さ 0.22m	P30 と重複
52号ピット(P52)	ピット	円形	東西 0.2m, 南北 0.25m, 深さ 0.2m	
1号溝(SD1)	溝	東側の底面にピットを伴う	主軸 N-100° -W、長さ 2.5m以上、幅 0.7~0.9m	
2号溝(SD2)	溝	北側及び南側の底面にピットを伴う	主軸 N-9° -W、長さ 3.7m, 幅 0.55~0.6m, 深さ 0.15~0.18m	P4・P5・SK02 と重複・連結
3号溝(SD3)	溝	西側及び東側の底面にピットを伴う	主軸 N-124° -E、長さ 3.7m, 幅 0.55~0.6m, 深さ 0.15~0.18m	SK03 と重複・連結
1号性格不明遺構(SK1)	不明	底面にピットを伴う	東西 1.2m, 南北 1.65m	
2号性格不明遺構(SX2)	不明	底面にピットを伴う	東西 0.55m, 南北 0.6m	

2-5-13 台渡里廃寺跡（台渡里第61次）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市渡里町字前原 2844-2
 開発面積 316.13 m²
 調査期間 平成22年1月25日
 調査原因 共同住宅建築
 調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し（第113図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 1.5 m × 8 m で設定した。遺構確認面の深度は地表下 80 cm である。トレンチ西半部で版築状遺構が広がる状況が確認され、この版築状遺構を切って黒褐色土の落ち込みが所々に確認できた。トレンチ南辺に接したところの落ち込みには、カマドと思しき焼土を伴った白色粘土で構築された遺構が付属していることから、これは竪穴建物跡と考えられる。またこの北東部でカマドと思しき遺構を切って土坑状の落ち込みを確認した。遺構としての性格が不明であったため、サブトレンチを設定して掘り下げた。その結果、大きな円形状になることから、当該以降は掘立柱建物跡の柱掘り方とも考えられるが、アタリ痕等は確認されず、明確に柱穴とは断定できなかった。

当初確認した版築状遺構の規模を確認するため、北方向へ 1.5 m × 6.5 m の拡張トレンチを設定し掘削した。その結果、版築状遺構は南北 6.5 m 以上を測るが、この遺構の東辺と北辺は、大きな黒褐色土の落ち込みが入り込んでおり、版築状遺構そのものの規模を確定するには至らなかった。また、黒褐色土の落ち込みが遺構であるのか攪乱であるのかについても、サブトレンチを設定し確認作業を進めたが、これらの落ち込みが版築状遺構を切って構築されていることは確認されたものの、遺構と判断するには至らなかった。（渥美）

（2）出土遺物

第114図-1は須恵器の蓋である。時期は8世紀前半に位置付けられる。

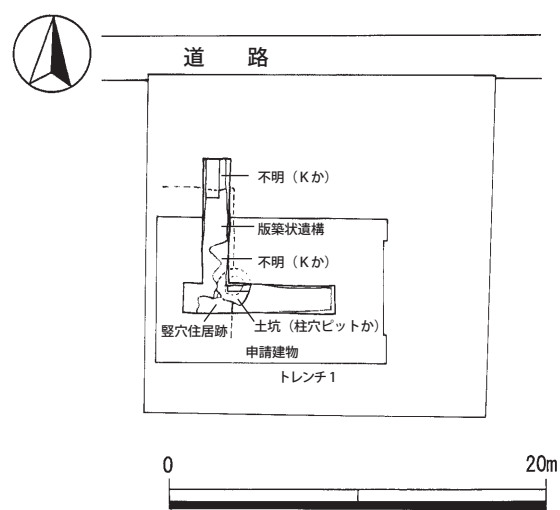
（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

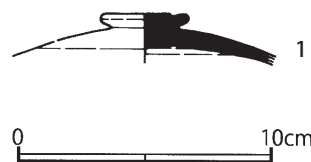
遺構・遺物が確認されたものの、30 cm 以上の保護層が確保できることから工事立会が相当であるとした。（渥美）



第112図 台渡里廃寺跡（台渡里第61次）の位置



第113図 台渡里廃寺跡（台渡里第61次）のトレンチ配置



第114図 台渡里廃寺跡（台渡里第61次）出土遺物

第6節 国田地区

2-6-1 南台遺跡（第2地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市上国井町字阿川台 4079- 2

開発面積 376.82 m²

調査期間 平成 21 年 4 月 28 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

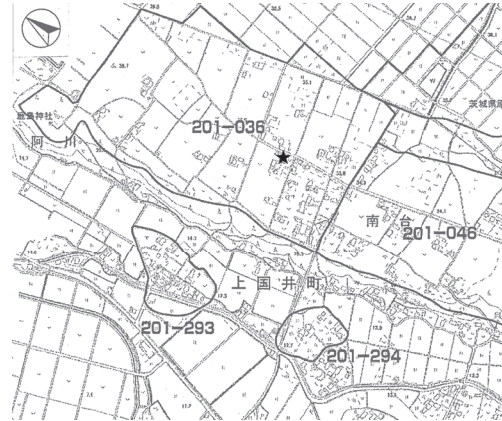
調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し（第116図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

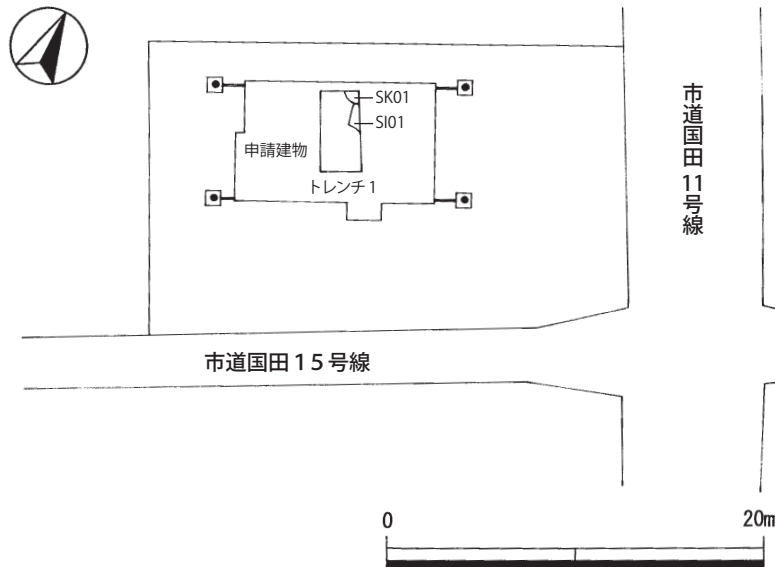
トレンチ1 2m × 4m。遺構確認面は地表下43.8～51.8cmのところである。南から北へ向かって低く傾斜している。トレンチ北半部で、竪穴建物跡1軒（S101）、土坑1基（SK01）が確認された。確認面の出土遺物から、S101は7世紀末から8世紀前葉のものと判断され、SK01はそれを切って構築されていることから、やや時期の下るものとみられる。確認された遺構プランを中心に、土師器・須恵器の出土が少量みられた。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

申請建物部分については30cm以上の保護層が確保できるものの、雨水浸透柵設置工事等については、範囲が狭小といえども、その掘削深度から埋蔵文化財への影響が及ぶことが考えられた。よって、今般の土木工事については工事立会が相当であるとした。



第115図 南台遺跡（第2地点）の位置



第116図 南台遺跡（第2地点）のトレンチ配置

（渥美）

第7節 飯富地区

2-7-1 大井古墳群（第1地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市飯富町 3516-1～3482

開発面積 572 m²

調査期間 平成21年9月10日

調査原因 狭あい道路整備工事

調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、セットバック予定箇所にトレンチを1箇所設定し（第118図）、遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

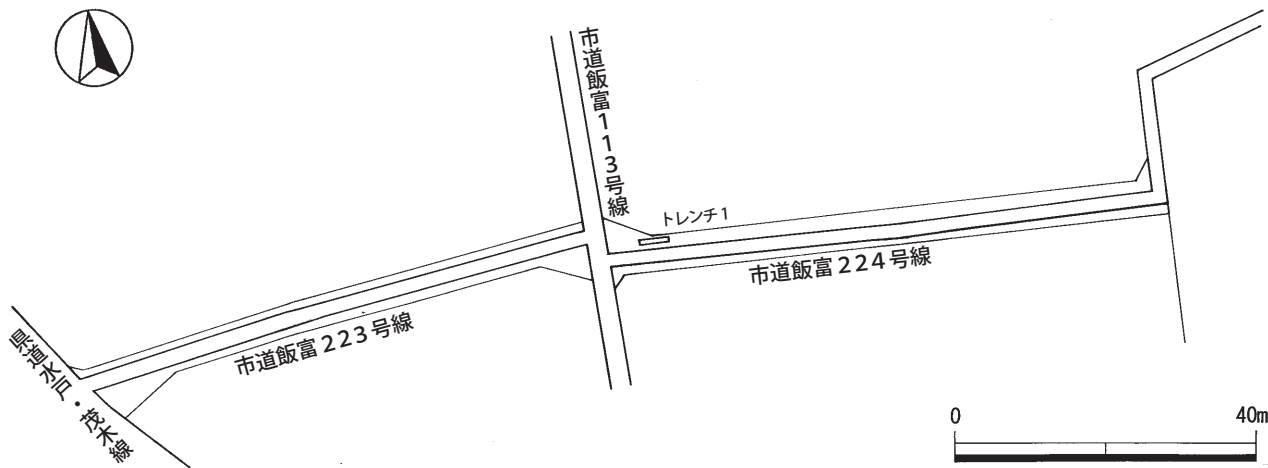
トレンチ1 1m×13m。地表下95～105cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。層序の確認より、本来の関東ローム層上面は地表下50～60cmに位置しており、その下約50cm前後はゴボウ耕作等により大きく攪乱を受けていることが確認された。遺物は土師器・須恵器が数点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

本調査地点周囲の畑地における遺物の散布状況から、延喜式式内社である大井神社に近いほど古代の遺物の散布が増加している様子が窺える。今般の調査において遺構は確認されなかったものの、本トレンチの東側には、遺構等の埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、工事着手前に確認調査を実施することが相当であるとした。（米川）



第117図 大井古墳群（第1地点）の位置



第118図 大井古墳群（第1地点）のトレンチ配置

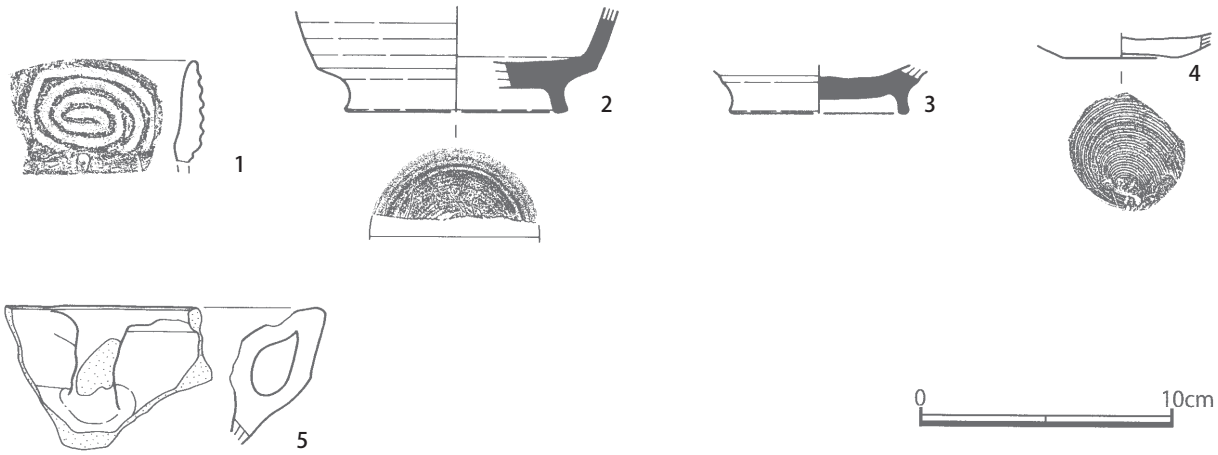
2-7-2 馬場尻遺跡

調査種別 現地踏査
 所在地 水戸市飯富町大井神社境内
 踏査日 平成21年6月25日
 採集者 渥美賢吾
 採集経緯 狭あい道路整備工事箇所を事前に確認するため、現地踏査した際に大井神社境内において採集。

採集遺物 第120図-1は縄文土器である。沈線文が施されている。2・3は須恵器の有台坏で、時期は9世紀に位置付けられる。4はかわらけ。



第119図 馬場尻遺跡の位置



第120図 馬場尻遺跡採集遺物

2-7-3 大部平太郎屋敷跡（第1地点）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市飯富町 3621-1
 開発面積 300 m²
 調査期間 平成 21 年 9 月 10 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分にトレンチを1箇所設定し（第122図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

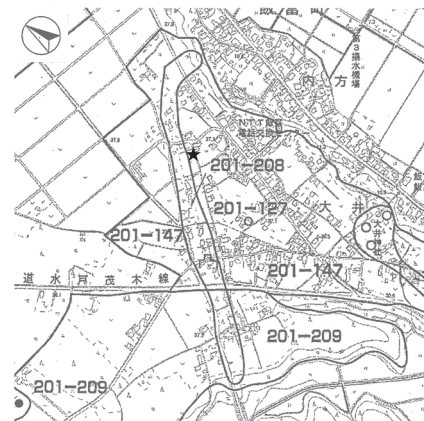
トレンチ1 2m×3m。地表下80cmで遺構確認面に到達した。精査の結果、調査区南側で方形を呈すると考えられるプランが検出され、性格解明のためサブトレンチを設け、掘り込みを実施したところ、10cm程度掘り下げたところで硬化面を確認した。これらから当該遺構は住居跡と考えられる。しかし覆土中から遺物が出土しなかったため、帰属年代確定には至らなかったものの、平面プラン・覆土から判断するに古代の住居跡と考えられる。（米川）

(2) 出土遺物

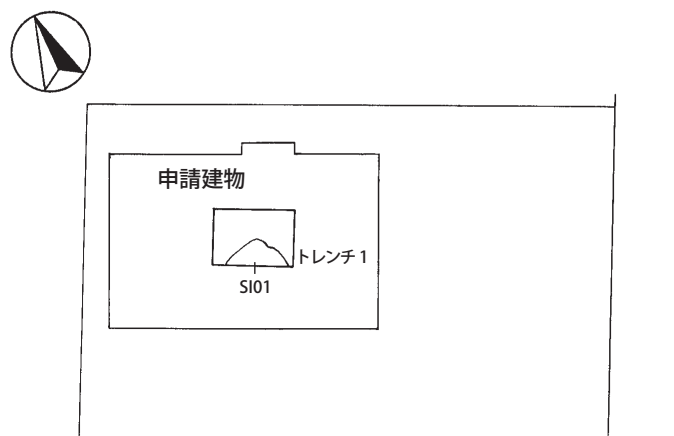
第122図-1・2は表採された遺物である。1は須恵器の無台坏である。2は須恵器で、おそらく無台の坏と思われる。1・2とも8世紀後半～9世紀前半の木葉下窯跡群産である。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

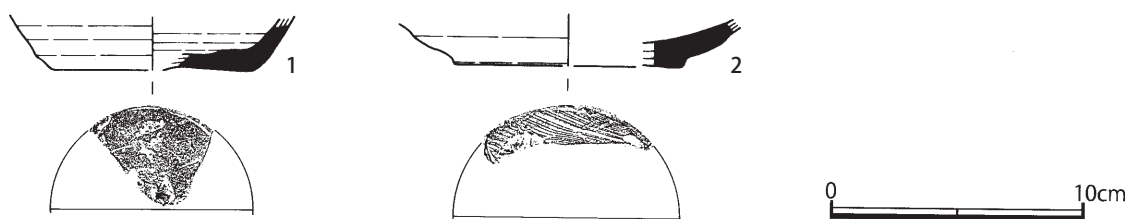
遺構が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、工事立会が相当であるとした。（米川）



第121図 大部平太郎屋敷跡（第1地点）の位置



第122図 大部平太郎屋敷跡（第1地点）のトレンチ配置



第123図 大部平太郎屋敷跡（第1地点）出土遺物

第8節 旧市内・その他・市街地

2-8-1 三ノ町遺跡（第1地点）

調査種別 確認調査

所在地 水戸市城東2丁目8-51

調査期間 平成21年6月22日～26日

調査原因 横山大観生誕の地整備に伴う範囲確認調査

調査担当 関口慶久

調査概要 本地区は、近世にあっては城下町の武家地であり、三ノ町と呼ばれていた。三ノ町と川崎町が交差する十字路の一角に水戸藩士酒井家の屋敷地があり、明治元（1868）年9月、横山大観は酒井捨彦の長男として生まれた。今次調査区はその酒井家屋敷地の一角にあたる。酒井家の敷地は分筆され、戦後に社宅や薬局などが建てられるなど市街地化が進んでいるものの、町割自体はおおむね近世期のままで、往時の景観を偲ばせている。今次調査の目的は、当該地域における近世武家地の遺構の遺存状況を把握するための調査である。調査区内で発生残土を処理せざるを得ないため、敷地の西半分を調査区とし、トレンチを1箇所設定し、掘削を行った。（関口）

（1）トレンチの概要

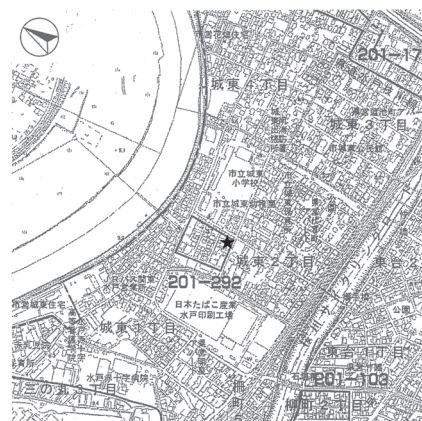
トレンチ1 15m×3.5mで設定した。現代の攪乱層が厚く堆積していたものの、地表下90cmから近世～近代遺構確認面が検出され、更に10cm下層から近世の遺構確認面（地山、褐色粘土層）が確認された。以下、各面における状況を記す。

近世～近代遺構確認面 本遺構確認面からは便所窠やコンクリート基礎など近代の遺構は確認されたが、近世の遺構は確認されていない。しかしながら本遺構確認面を成す整地層からは、近世遺物のみしか出土しないため、少なくとも整地は近世期（18世紀後半～19世紀前半か）に行われた可能性が高い。横山大観生誕の地という性格に照らし合わせれば、本遺構確認面がちょうど彼が生まれた時期の生活面にあたるものと思われる。

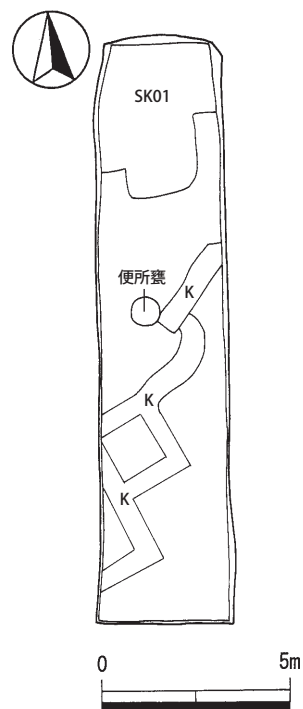
近世遺構確認面（地山） 地山面からは近世の廃棄土坑1基（SK01）が確認された。地山部分まで面下げした範囲は2.5m×5mに過ぎない限定された範囲だったため、敷地内における本地区の性格まで把握することは叶わなかったが、近世の遺構が本地区にパックされて遺存していることは間違いない。遺物の状況から17世紀後半～18世紀前半代に位置づけられる。（関口）

（2）出土遺物

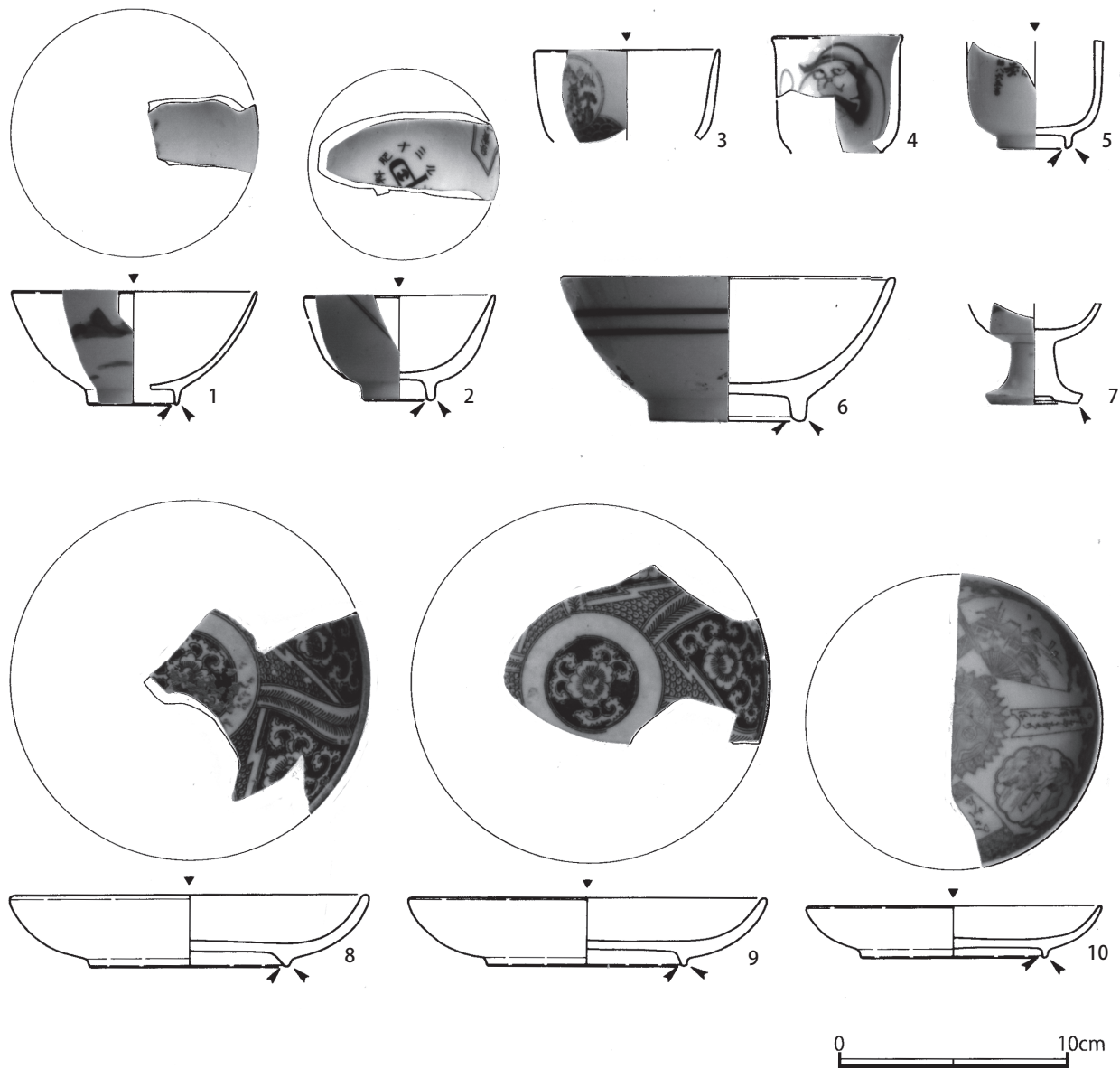
第126図～129図はすべてSK01出土である。第126図-1～10は磁器である。中でも1は七面焼であろうか、時期は1838年以降と考えられる。7は18世紀後半以降の在産の磁器の仏飯碗である。第127図-11・12は磁器である。11は肥前産で時期は近世、12は近現代に位置づけられる。13・14は陶器で、13は志野織部皿、14は志野皿である。15は磁器の土瓶、16は焼締陶器の急須である。第128図-17～29はかわらけ、30は土器の甕で、すべて近代のものと考えられる。第129図-31～33・36は硝子製品、34・35は磁器・代用品の化粧クリーム瓶である。34は美濃産で、1941～1945年戦時統制期のものである。37は近世の丸瓦である。（関口）



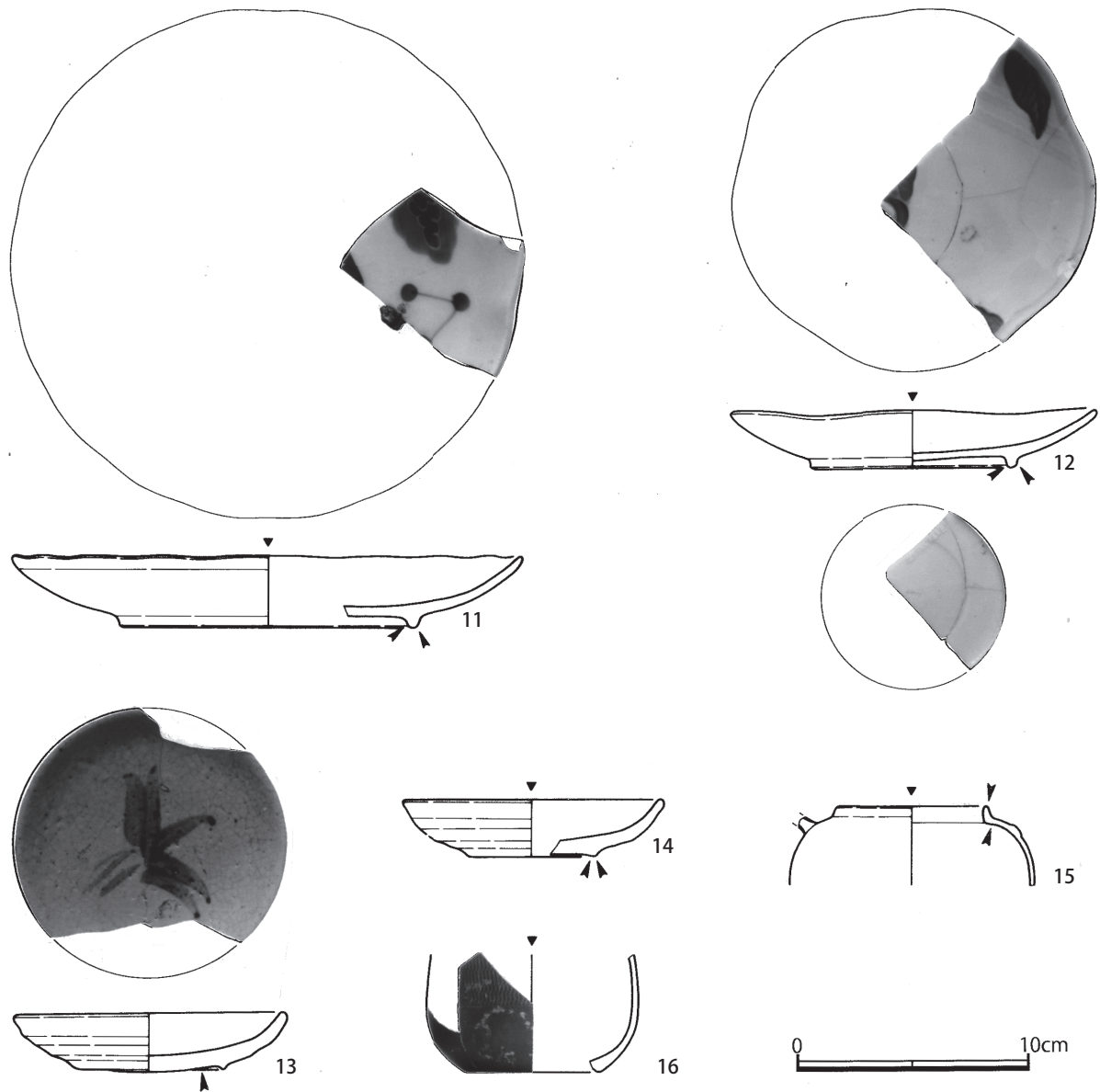
第124図 三ノ町遺跡（第1地点）の位置



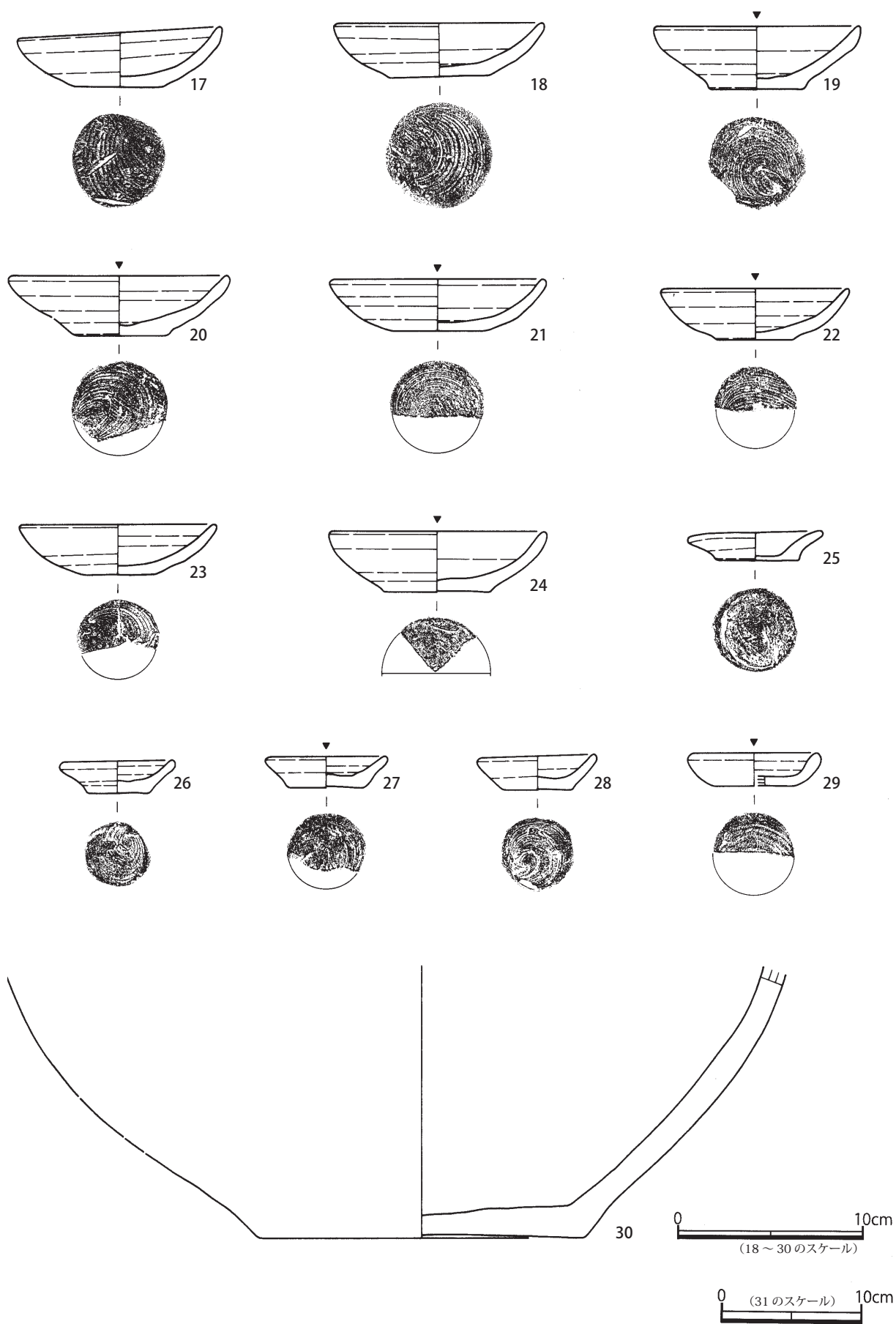
第125図 三ノ町遺跡（第1地点）のトレンチ配置



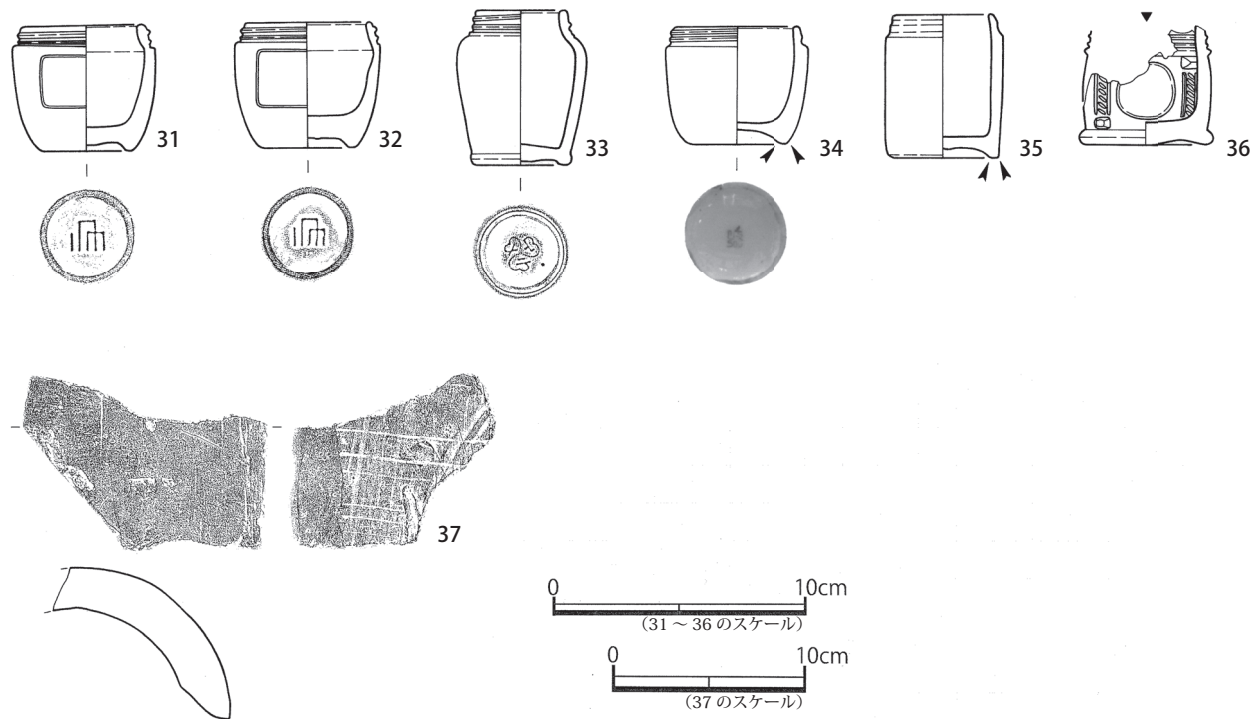
第126図 三ノ町遺跡（第1地点）出土遺物（1）



第 127 図 三ノ町遺跡 (第 1 地点) 出土遺物 (2)



第128図 三ノ町遺跡(第1地点)出土遺物(3)



第129図 三ノ町遺跡（第1地点）出土遺物（4）

2-8-2 偕楽園（常磐公園）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市常磐町1丁目 5977, 5999

調査期間 平成21年10月27日

調査原因 現状変更申請

調査担当 関口慶久

調査概要 偕楽園（常磐公園）は天保13（1842）年、第9代水戸藩主徳川齊昭が、弘道館員の修学休養の場として、また「衆と偕（とも）に楽しむ」という趣旨のもと、千波湖岸の景勝の地に造成・開園した。大正11年3月8日には国の史跡及び名勝に指定された。今般の調査は、現状変更申請地のうち、特殊部設置箇所および東・西側管路部にトレンチを4箇所設定し、関東ローム層上面を目標に人力にて掘削した。



第130図 偕楽園（常磐公園）の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ1 3.3m × 2.6m。地表下60cmで関東ローム層が検出された。攪乱が随所にみられる。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。

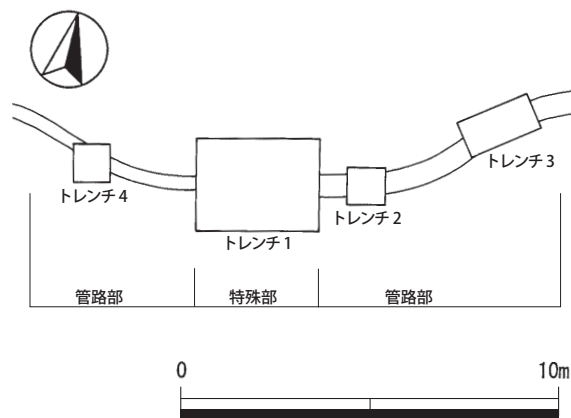
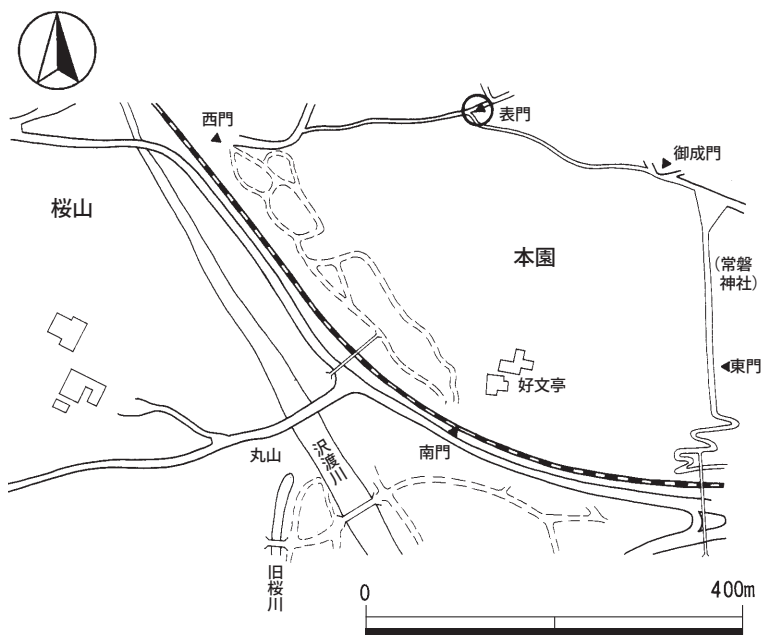
トレンチ2 1m × 1m。地表下60cmで関東ローム層が検出された。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。

トレンチ3 2m × 1m。地表下40cmで関東ローム層が検出された。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。

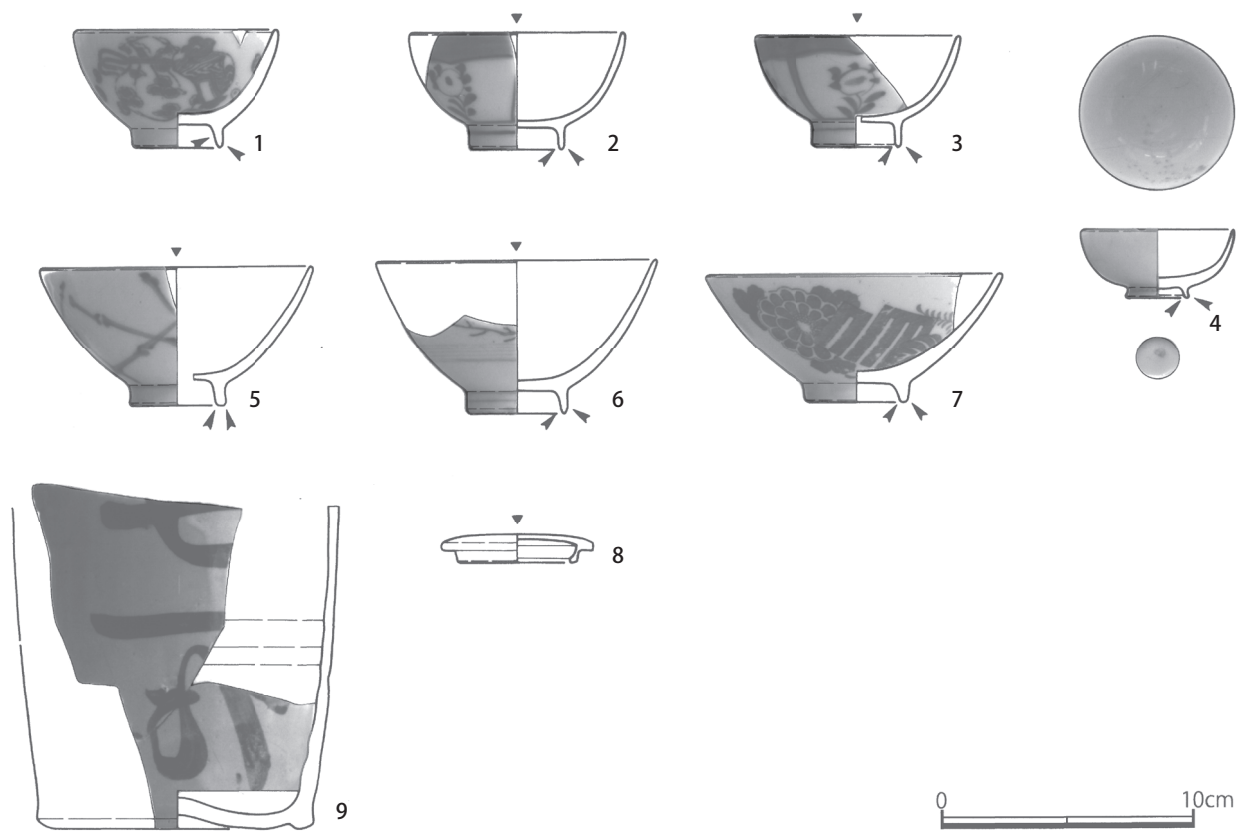
トレンチ4 1m × 1m。地表下90cmで関東ローム層が検出された。攪乱が著しい。近世以前に遡る遺構・遺物は検出されなかった。 (関口)

(2) 出土遺物

第132図-1～7・9は磁器で、そのうち2・3は瀬戸・美濃産である。6は美濃産で1941～1945年戦時統制期の碗で、底裏に陽刻で統制番号「岐71」とある。7は銅板絵付碗で、磁器は1880年以降である。8は焼締陶器の徳利で、「屋」「七一番」と鉄文字が施されている。 (坂本)



第131図 偕楽園（常磐公園）の現状変更申請地とトレンチ配置



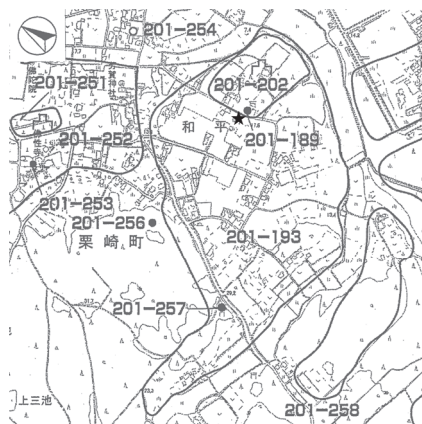
第132図 偕楽園（常磐公園）出土遺物

第9節 常澄地区

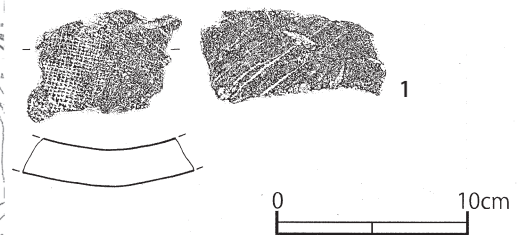
2-9-1 上平遺跡

調査種別 現地踏査
 所在地 水戸市栗崎町
 踏査日 平成21年4月28日
 採集者 渥美賢吾
 採集経緯 近隣における
 開発行為の事前協議の際、
 畑地で採集した。

採集遺物 第134図-1は
 奈良・平安時代の平瓦である。
 凸面にヘラ削り調整が
 施されている。 (渥美)



第133図 上平遺跡の位置



第134図 上平遺跡採集遺物

2-9-2 高原遺跡（第3地点）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市大場町 1101-1
 開発面積 558 m²
 調査期間 平成 21 年 4 月 2 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 渥美賢吾・米川暢敬

調査概要 開発対象地のうち、浄化槽埋設部分および申請建物部分にトレンチを2箇所設定し（第 136 図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 1 m × 2.8 m。遺構確認面までは地表下 40cm の深さである。盛土・表土の直下でローム層に到達したが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 2 1.5 m × 4 m。地表下 40cm まで掘削を行ったところで、本来ローム層直下で確認される固い粘土層が検出された。盛土・表土の堆積状況はトレンチ 1 と同様である。本トレンチを設定した部分では、遺構確認面となるはずの関東ローム層は失われているものと考えられる。トレンチ 1 と同等の掘削深度で確認された土層が異なることは、本来当該地点が傾斜地にあたり、東から西に傾斜していたことが考えられ、ローム層の残存状況もこれに対応するものと判断される。

（渥美）

（2）出土遺物

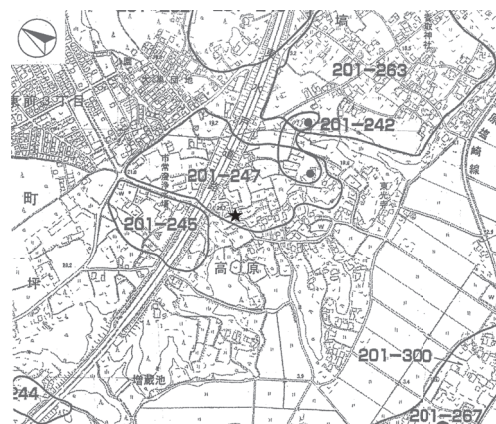
本地点の南側・北側斜面など、調査区周辺では土師器片・須恵器片などの遺物が表採された。第 137 図-1 も表採された遺物である。縄文土器で、底面には網代痕がみられる。

（色川）

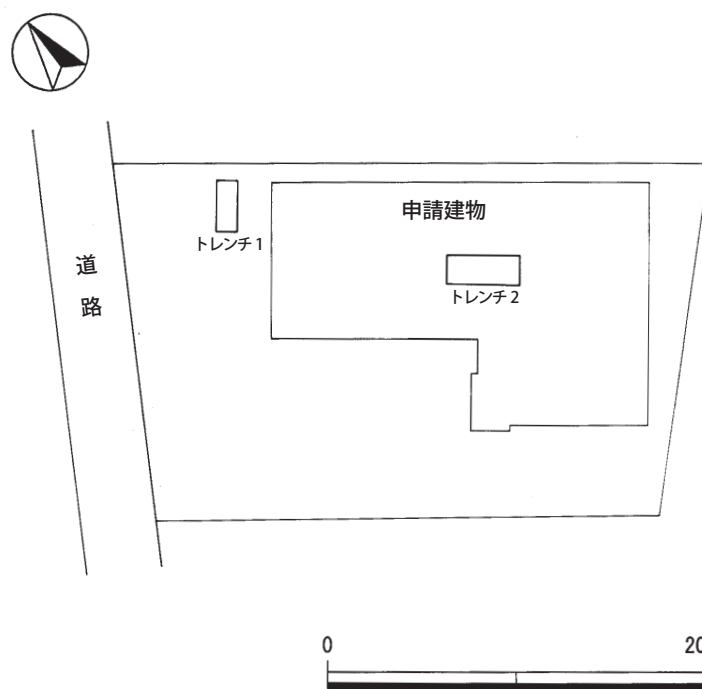
（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

本地点の調査では遺構・遺物は確認されなかったが、調査区周囲の遺物散布状況から、周辺において何らかの土地利用があったことは考えられる。原地形の改変は認められるものの、本地点が当該遺跡の辺縁部にあたることを考慮すれば、遺構密度の希薄な地点であった可能性が高い。よって、今般の土木工事については慎重工事が相当であるとした。

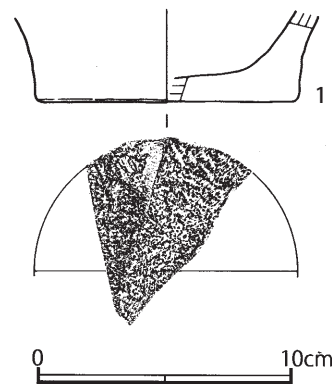
（渥美）



第 135 図 高原遺跡（第 3 地点）の位置



第 136 図 高原遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置



第 137 図 高原遺跡（第 3 地点）出土遺物

2-9-3 下入野富士山遺跡（第1地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市大場町 1101-1

開発面積 558 m²

調査期間 平成 21 年 4 月 2 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾・米川暢敬

調査概要 開発対象地内にトレンチを6箇所設定し（第139図）、関東ローム層上面を目標に人力にて掘削を行った。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 1m × 2m。地表下 50cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、竪穴住居跡1軒（SI01）が検出され、帰属年代解明のため掘り込みを行ったところ、土師器片が多数出土したことから、SI01 は平安時代中期の住居跡であると判断される。

トレンチ2 1m × 2m。地表下 50～70cm で関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

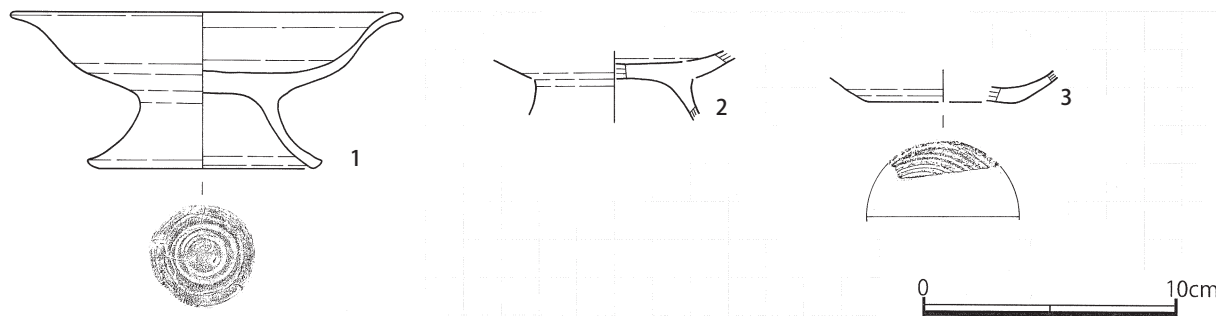
トレンチ3 1m × 3m。地表下 40cm で関東ローム層に到達した。精査の結果、竪穴住居跡1軒（SI02）が検出され、帰属年代解明のため掘り込みを行ったところ、土師器片および多数の土師器片が出土したことから、SI02 は平安時代中期の住居跡と判断される。

トレンチ4 1m × 2m。地表下 15cm で関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

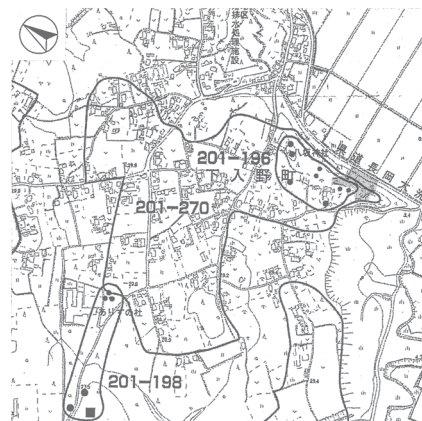
トレンチ5 1m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

トレンチ6 1m × 2m。地表下 15cm で関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。（米川）

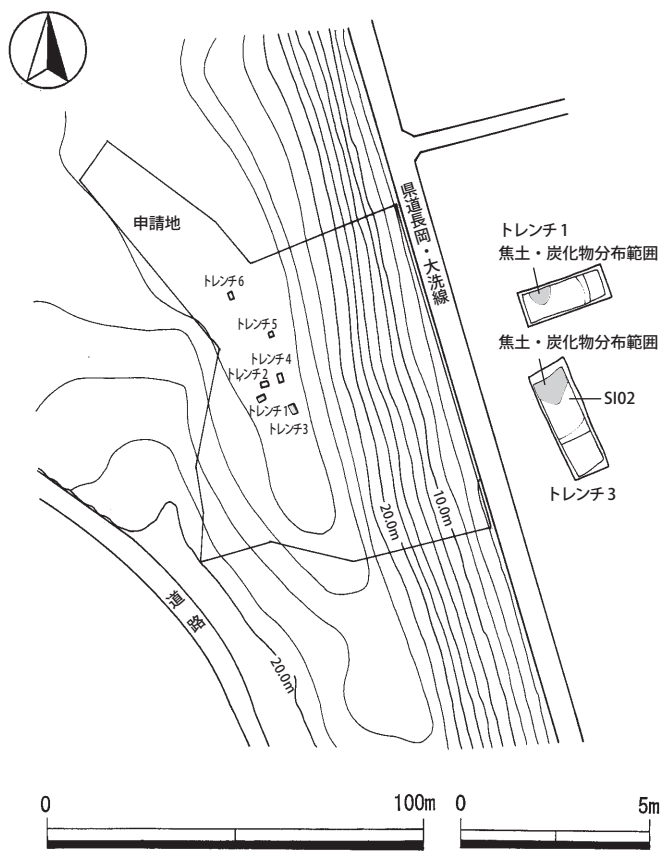
(2) 出土遺物



第 140 図 下入野富士山遺跡（第 1 地点）出土遺物



第 138 図 下入野富士山遺跡（第 1 地点）の位置



第 139 図 下入野富士山遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

第140図-1～3はトレンチ3で検出されたSI02出土の土師器である。1・2は高台付坏，3は皿で，時期は11世紀に位置づけられる。
(渥美)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

今回の調査で当該遺跡が台地の縁辺部にまで及ぶことが確認され，かつ本調査地点は遺構密度が高い部分に該当することが明らかとなった。このことから，今般の開発計画を実施する場合には，本発掘調査が必要であると判断された。
(米川)

第10節 内原地区

2-10-1 遠台遺跡(第4地点)

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市杉崎町721-3

開発面積 361.46㎡

調査期間 平成21年4月10日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し(第142図)，遺構確認面たる関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

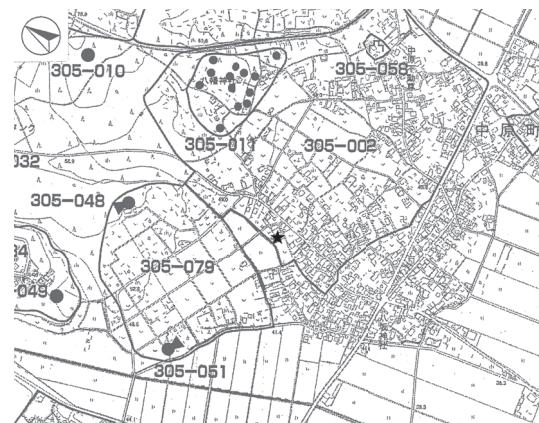
(1) トレンチの概要

トレンチ1 1.5m×5m。遺構確認面は地表下40cm程度の深さである。表土層たる耕作土層より数点の土器片が出土したが，その他には，遺構・遺物は確認されなかった。

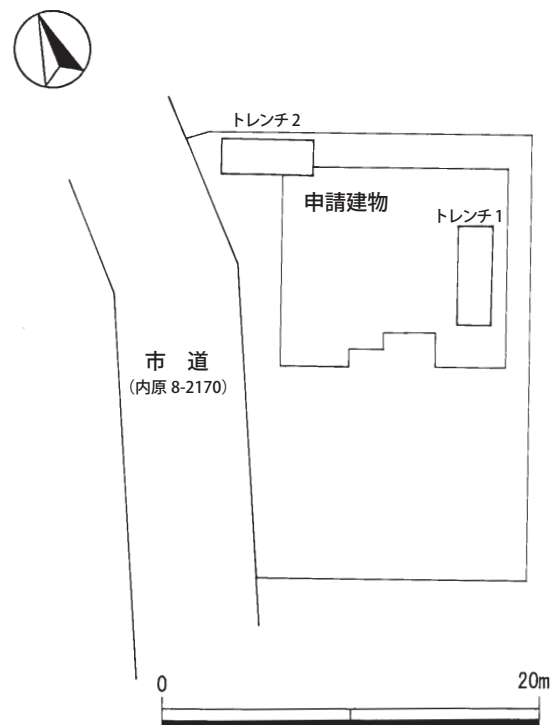
トレンチ2 1.5m×4.5m。耕作土層直下に黒色土層が厚く堆積し，流れ込みと思われる遺物細片数点が出土した。この黒色土層下の褐色土層(地表下70cm)が遺構確認面と考えられるが，遺構・遺物は確認されなかった。なお褐色土層下には白色粘土層がみえ，湧水が確認されたので，この下層に埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低い。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

耕作土層から数点の遺物が確認された以外は，埋蔵文化財は確認されなかったことから，慎重工事が相当であるとされた。
(渥美)



第141図 遠台遺跡(第4地点)の位置



第142図 遠台遺跡(第4地点)のトレンチ配置

2-10-2 舟塚古墳（第1地点）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市大足町字舟塚 1290-2
 開発面積 1,160 m²
 調査期間 平成22年3月29日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬

調査概要 舟塚古墳は、桜川左岸の標高41～42mの台地上に立地する舟塚古墳群内に存在する前方後円墳である。当該古墳は、その規模と墳形からこの古墳群における主墳と考えられる。墳丘は西側を道路によって大きく削られており、残存部分から推定される規模は、全長75m、後円部径35m、後円部高6mである。墳丘は2段築成であり、墳頂平坦部径10mである。墳頂部には忠魂碑が置かれている。

今般の調査は、開発対象地のうち申請建物部分にトレンチを1箇所設定し（第144図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に、重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 2m×5m。地表下45cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、舟塚古墳の周隍が確認された。

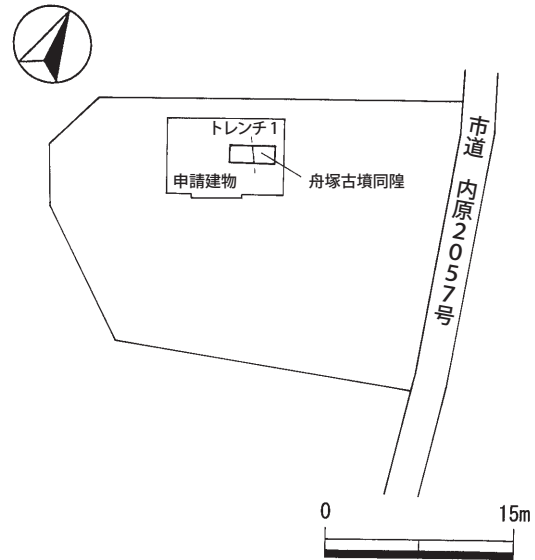
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたものの、事業者との協議の結果、盛土を行うことで30cm以上の保護層が確保できることとなったことから、工事立会が相当であるとした。

（米川）



第143図 舟塚古墳（第1地点）の位置



第144図 舟塚古墳（第1地点）のトレンチ配置

2-10-3 田島古墳群（第1地点）

調査種別 試掘調査

所在地 水戸市三野輪町 98-2, 大足町 1526-1, 1508

開発面積 約 6,000 m²

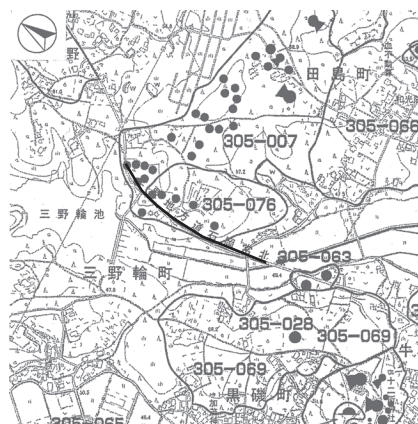
調査期間 平成 22 年 3 月 15 日～ 18 日

調査原因 那珂川沿岸農業水利事業に伴う仮設道路敷設

調査担当 米川暢敬

調査概要 田島古墳群は、田島町の和光院の北部に広がる標高 60～77 m の舌状台地一帯に位置し、東西 750 m、南北 500 m 程の範囲に、前方後円墳 3 基、円墳 40 基が存在する。当該古墳群はその立地から、東部、中央部、西部の 3 つの支群に分けられ、前述の 3 基の前方後円墳は全て東部支群に含まれる。このうち、本調査地点は西部支群内に位置する。

今般の調査では、開発対象地内にトレンチを 13 箇所設定し（第 146 図）、遺構確認面である関東ローム層上面を目標に、1～6 トレンチにおいては重機を用いて、7～13 トレンチにおいては人力にて掘削を行った。



第 145 図 田島古墳群（第 1 地点）の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 1 m × 2 m。地表下 55cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、第 24 号墳の周障が検出され、確認面において覆土中から埴輪片が出土した。

トレンチ 2 1 m × 2 m。地表下 60cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、第 24 号墳の周障が検出され、確認面において覆土中から埴輪片が出土した。

トレンチ 3 1 m × 4 m。地表下 55cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、第 28 号墳の周障が検出された。遺物は確認されなかった。

トレンチ 4 1 m × 4 m。地表下 45cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 5 1.1 m × 3 m。地表下 40cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、竪穴住居跡と思しき方形のプラン (SI01)、溝跡 1 条 (SD01) が検出された。遺物は確認されなかった。

トレンチ 6 1 m × 2 m。地表下 80cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、竪穴住居跡と思しき円形のプラン (SI02) が検出された。SI02 の確認面において、弥生土器が 1 点出土した。

トレンチ 7 1 m × 2 m。地表下 80cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 8 1 m × 2 m。地表下 25cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

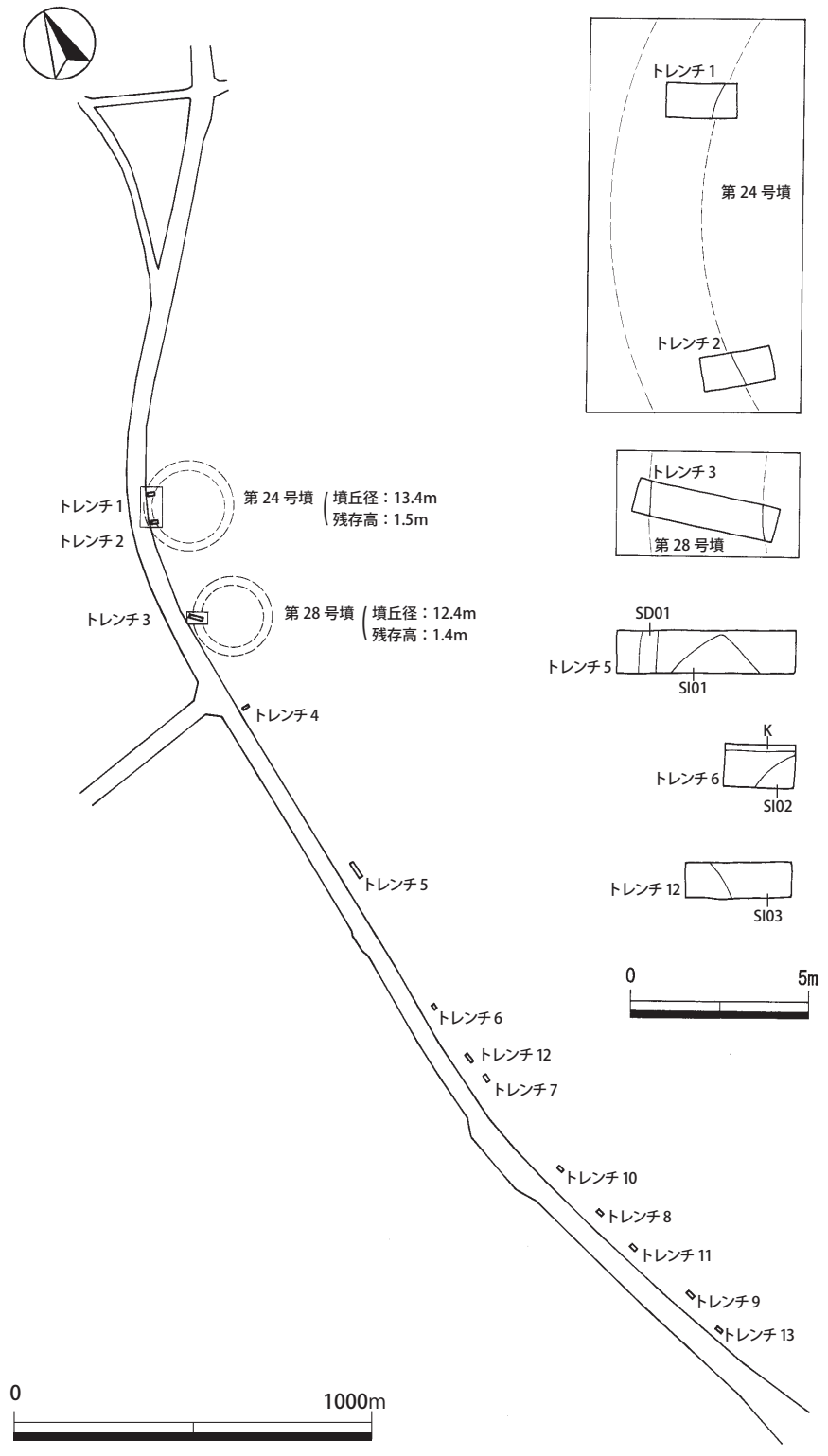
トレンチ 9 1 m × 2 m。地表下 45cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査の結果、遺構は確認されなかったが、トレンチ内から土師器片 1 点、須恵器片 1 点が出土した。

トレンチ 10 1 m × 2 m。地表下 35cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 11 1 m × 2 m。地表下 25cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 12 1 m × 3 m。地表下 1.0 m で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したところ、竪穴住居跡と思しき円形のプラン (SI03) が検出された。SI03 の確認面からは、弥生土器片が出土した。

トレンチ 13 1 m × 2 m。地表下 30cm で遺構確認面である関東ローム層に到達した。精査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

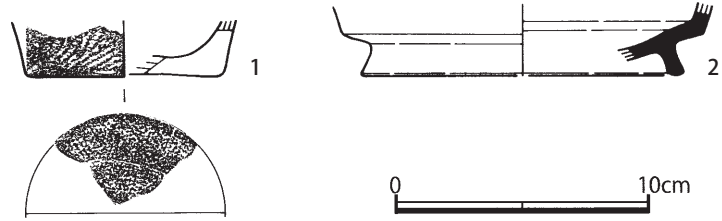


第146図 田島古墳群（第1地点）のトレンチ配置・遺構検出状況

(2) 出土遺物

第147図-1はトレンチ12のSI03上層出土の弥生土器である。RをS巻きした原体(軸不明)による縄文が施され、底面には布目痕がみられる。時期は弥生時代後期に位置付けられる。2は須恵器の有台坏で、時期は8世紀後半である。

(色川)



第147図 田島古墳群(第1地点)出土遺物

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

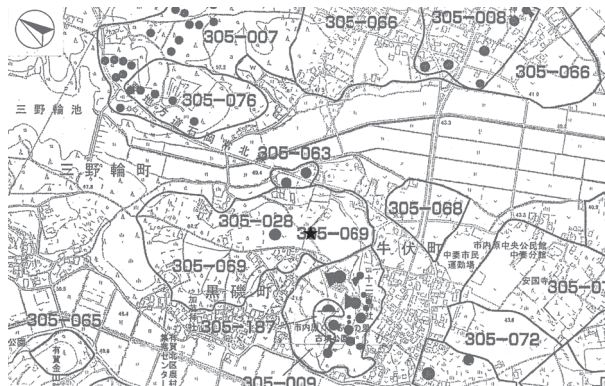
埋蔵文化財が確認されたが、保護措置が取られることとなった。

(米川)

2-10-4 一戦塚遺跡（第1地点第2次）

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市牛伏町 181-1
 開発面積 923.59 m²
 調査期間 平成 21 年 4 月 9 日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 渥美賢吾

調査概要 本地点では平成 20 年 6 月に墓地造成開発計画に基づく試掘調査を実施しており（第 1 次）、トレンチ 1～3 で奈良・平安時代のものとみられる竪穴建物跡 3 軒（SI01～03）が確認された。トレンチ 4・5 では遺物は出土したものの遺構は確認されなかった。

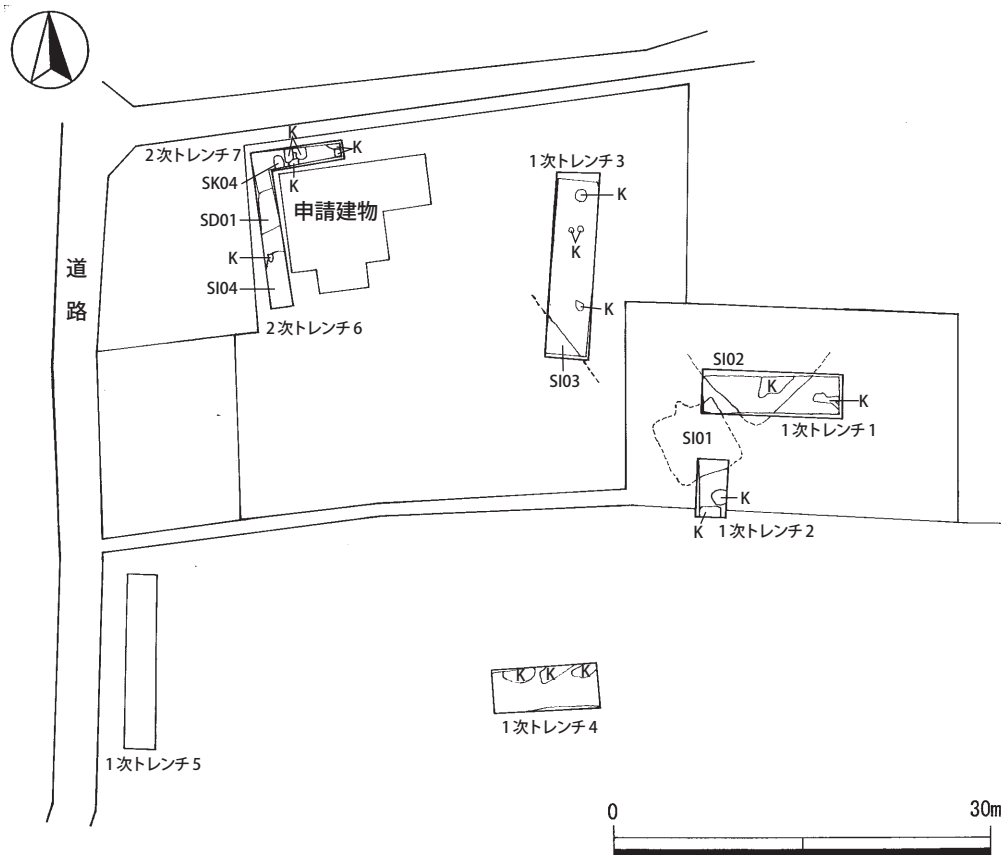


第 148 図 一戦塚遺跡（第 1 地点第 2 次）の位置

今般の調査は、事業計画が自己用住宅建設へ変更されたことに伴う再試掘調査である（第 2 次）。開発予定地のうち浄化槽埋設部分にトレンチを 1 箇所設定し（トレンチ 6・7、第 149 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ 6 1.5m × 11m。北側の一部が後世の攪乱を受けており、やや確認面を深く設定せざるを得なかったが、概ね地表下 20cm で関東ローム層上面が確認された。トレンチの南側で竪穴建物跡（SI04）が確認され、出土遺物から古墳時代前期のものと判断される。またその北側で確認された溝状遺構（SD01）では、遺構の性格把握のためサブトレンチを設定したが、遺物の出土が少なく、またすべてが覆土上層からの出土であったため帰属年代の確定に至らなかった。



第 149 図 一戦塚遺跡（第 1 地点第 2 次）のトレンチ配置

トレンチ7 1.5m × 5mで、トレンチ6からL字状に伸ばして設定した。西側の一部が後世の攪乱を受けており、やや確認面を深く設定せざるを得なかったが、概ね地表下20cmで関東ローム層上面が確認された。トレンチ6との交点付近では、焼土の広がる土坑(SK04)が確認されたほかは、すべてイモ穴・木の根等による現代の攪乱と考えられる。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、申請建物部分については30cm以上の保護層が確保できること、浄化槽埋設位置が変更となったことから、工事立会が相当であるとした。(渥美)

2-10-5 息栖台遺跡(第1地点)

調査種別 試掘調査
 所在地 水戸市鯉淵町1119-2, 1122-4
 開発面積 260.9㎡
 調査期間 平成21年6月4日
 調査原因 個人住宅建築
 調査担当 米川暢敬
 調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し(第151図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。



第150図 息栖台遺跡(第1地点)の位置

(1) トレンチの概要

トレンチ1 2m × 3m。地表下75cmで遺構確認面である関東ローム層に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。

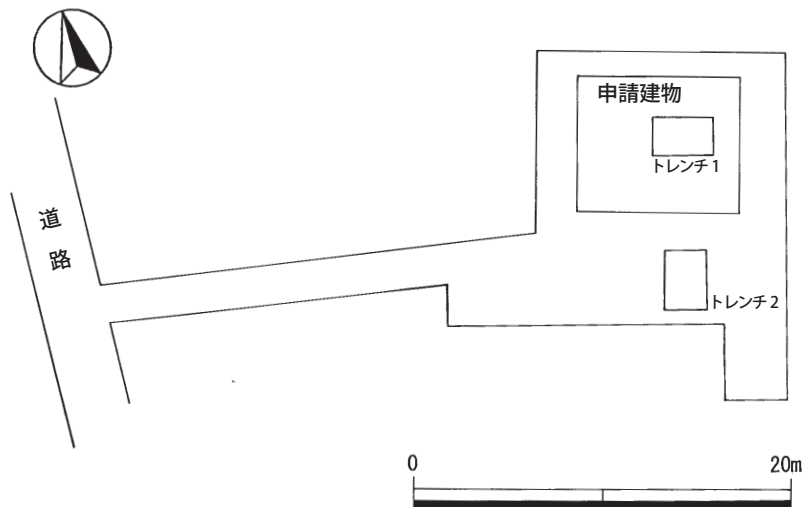
トレンチ2 2m × 3m。地表下75cmで遺構確認面である関東ローム層上面に到達した。遺構及びそれに伴うと考えられる遺物は確認されなかった。(米川)

(2) 出土遺物

第152図-1はトレンチ1の攪乱から出土した三足もしくは四足盤である。時期は9世紀～10世紀に位置付けられる。(色川)

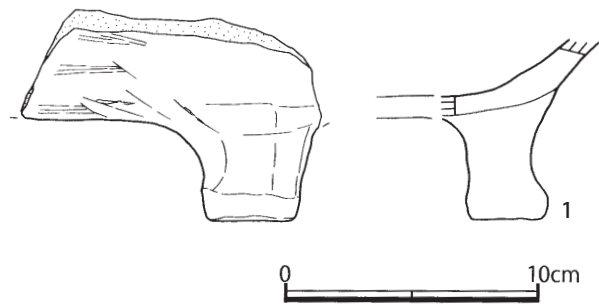
(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。



第151図 息栖台遺跡(第1地点)のトレンチ配置

(米川)



第152図 息栖台遺跡(第1地点)出土遺物

第3章 平成20年度調査の追加報告（補遺）

平成20年度に実施した調査のうち、記録保存を目的とした軍民坂遺跡（第4地点）の本発掘調査の詳細な報告を『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』に収録できていなかったため、本書において報告する。

また、周知外（安楽寺遺跡近接）、薬王院東遺跡（第2地点）、中河内遺跡（第3地点）、寺内遺跡（第2地点）において実施した試掘調査及び平ナ山窯跡群で採集した遺物についても、前掲報告書に収録できていなかったため、本書において報告する。周知外（安楽寺遺跡近接）、薬王院東遺跡（第2地点）、中河内遺跡（第3地点）、寺内遺跡（第2地点）、平ナ山窯跡群、軍民坂遺跡（第4地点）の位置は、第153図のとおりである。



周知外（安楽寺遺跡近接）



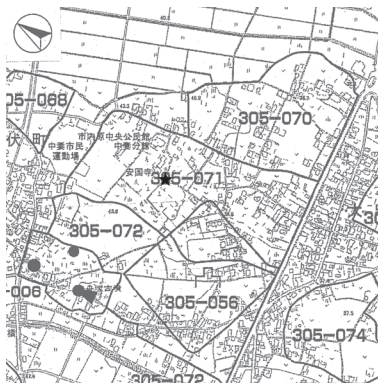
薬王院東遺跡（第2地点）



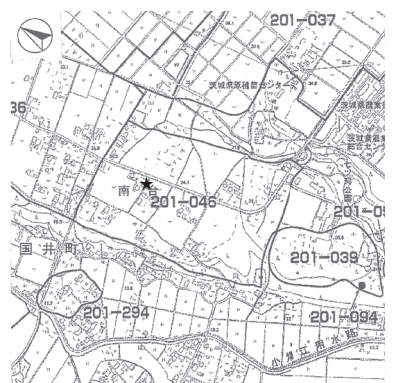
平ナ山窯跡群



中河内遺跡（第3地点）



寺内遺跡（第2地点）



軍民坂遺跡（第4地点）

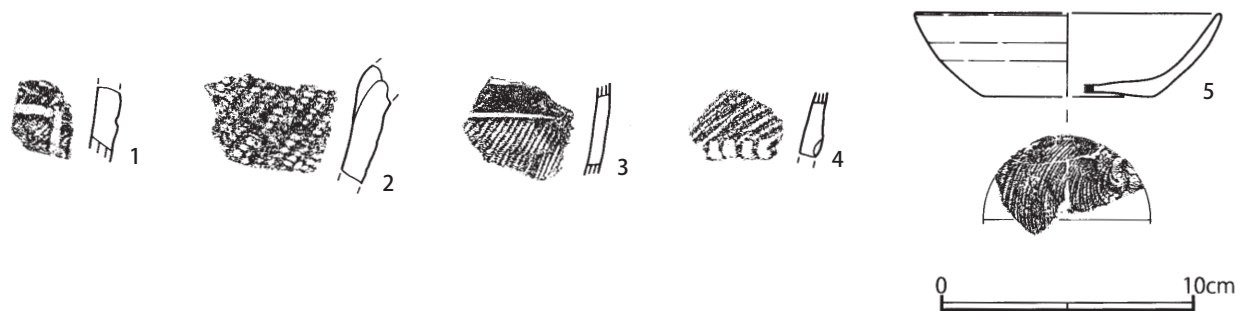
第153図 平成20年度追加報告遺跡の位置

3-1-1 周知外（安楽寺遺跡近接）

所在地 水戸市元吉田町 2056

調査概要 個人住宅建築に基づく試掘調査である。トレンチを1箇所設定したが、遺構は検出されなかった。遺物は表土層から縄文土器片等が数点出土した。（関口）

出土遺物 第154図-1～3は縄文土器である。1は押引文が施され、時期は縄文時代中期後半の「阿玉台式」に位置付けられる。4は弥生土器で、縄文および縄文原体による刺突文が施されている。時期は弥生時代後期「二軒屋式」に位置付けられる。5は土師器の無台坏で、時期は10世紀以降である。（色川）



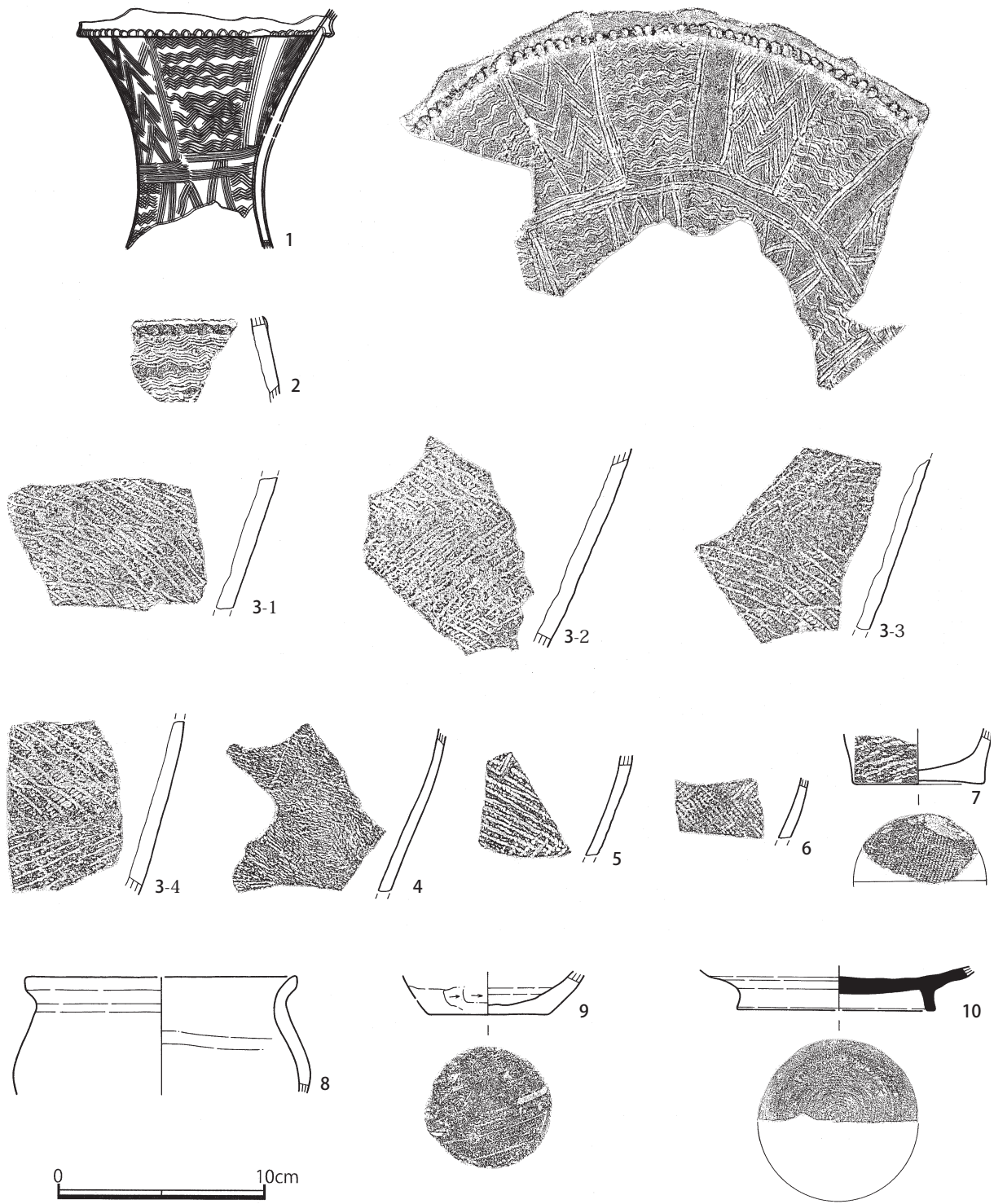
第154図 周知外（安楽寺遺跡近接）出土遺物

3-1-2 薬王院東遺跡（第2地点第2次）

所在地 水戸市元吉田町字東組 573-2, -10, -11, -12

調査概要 宅地造成工事に基づく試掘調査である。設定トレンチは2箇所。トレンチ1では遺構は確認されなかったが、トレンチ2において竪穴建物跡4棟（SI01～04）が確認された。SI01・02は弥生時代後期、SI03・04は8世紀後葉～9世紀前葉に位置付けられる。（関口）

出土遺物 第155図-1・3-4はSI01、3-1～3・4・5はSI02、6・7はSI03出土、2はトレンチ1出土の弥生土器である。1は複合口縁を呈し、複合部無文、下端に棒状工具による押捺がみられる。頸部は櫛歯状工具（4本）による縦位→横位区画・波状文・綾杉文が施されている。2は1条以上の隆帯および櫛歯状工具（5本）による波状文が施されている。3-1～4は同一個体の胴部片と考えられるが、接点はない。付加条第2種L×LとR×Rで羽状縄文が施されている。7は縄文LをS巻き（軸不明）した原体による縄文が施され、底面には布目痕がみられる。時期は、1～7全て弥生時代後期後半「十王台式」に位置付けられる。8はトレンチ1、9はトレンチ2表土から出土した土師器の甕である。時期は8世紀後半である。10はSI03出土の須恵器の有台坏である。時期は8世紀後半である。（色川）



第 155 图 藥王院東遺跡（第 2 地点第 2 次）出土遺物

3-1-3 平ナ山窯跡群

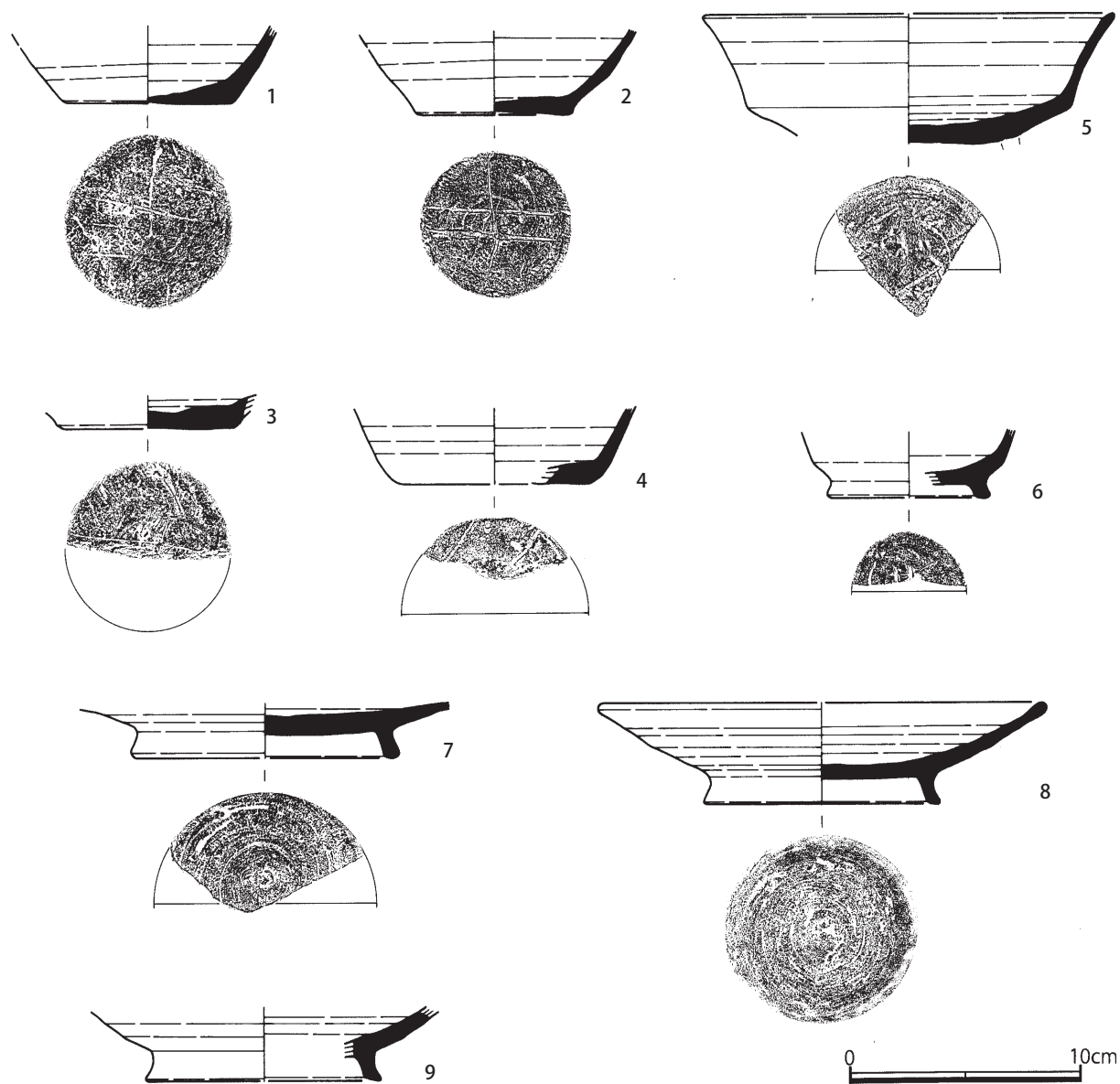
所在地 水戸市木葉下町 789-1 外

踏査日 平成 21 年 1 月 9 日

採集者 渥美賢吾・金子千秋

採集経緯 砂利岩石採取に伴う事前の現地踏査。集中して採集できる地点が 2 地点程あった。

採集遺物 第 156 図 - 1~9 は須恵器である。1~4 は無台坏で、底面にはヘラ記号がみられる。時期は 1・2 が 9 世紀後半、3・4 が 9 世紀前半である。5・6 は有台坏で、底面にはヘラ記号がある。いずれも 9 世紀前半である。7~9 は有台皿で、いずれも 9 世紀後半である。 (渥美)



第 156 図 平ナ山窯跡群採集遺物

3-1-4 中河内遺跡 (第 3 地点)

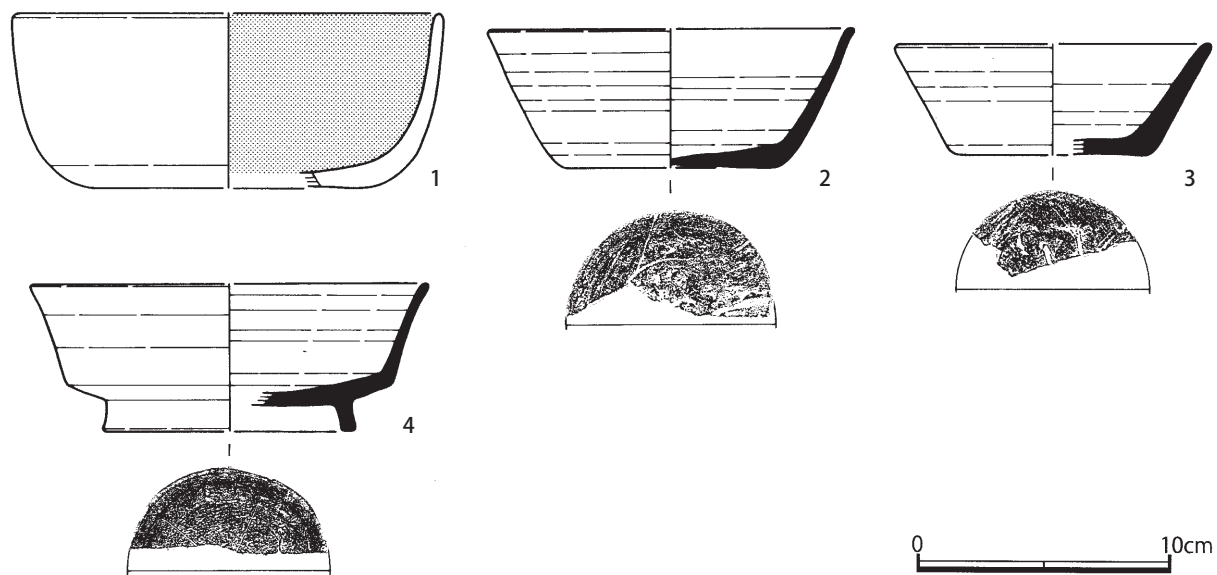
所在地 水戸市中河内町字中坪 194-1, -3~6

調査概要 個人住宅建築に基づく試掘調査である。設定トレンチは 1 箇所。地表下 90cm で遺構確認面たる暗褐色

色土層が検出され、8世紀後半代～10世紀前半代にかけての土師器・須恵器が一定量出土したが、遺構と認定できるものは確認されなかった。

出土遺物 第157図-1は土師器で内面黒色処理が施されている。2～4は須恵器の坏で、3・4は底面にヘラ記号がみられる。時期は、1・2が8世紀末～9世紀前半、3が8世紀後半、4が8世紀中葉に位置付けられる。

(渥美)



第157図 中河内遺跡(第3地点)出土遺物(アミ部分は黒色処理)

3-1-5 寺内遺跡(第2地点)

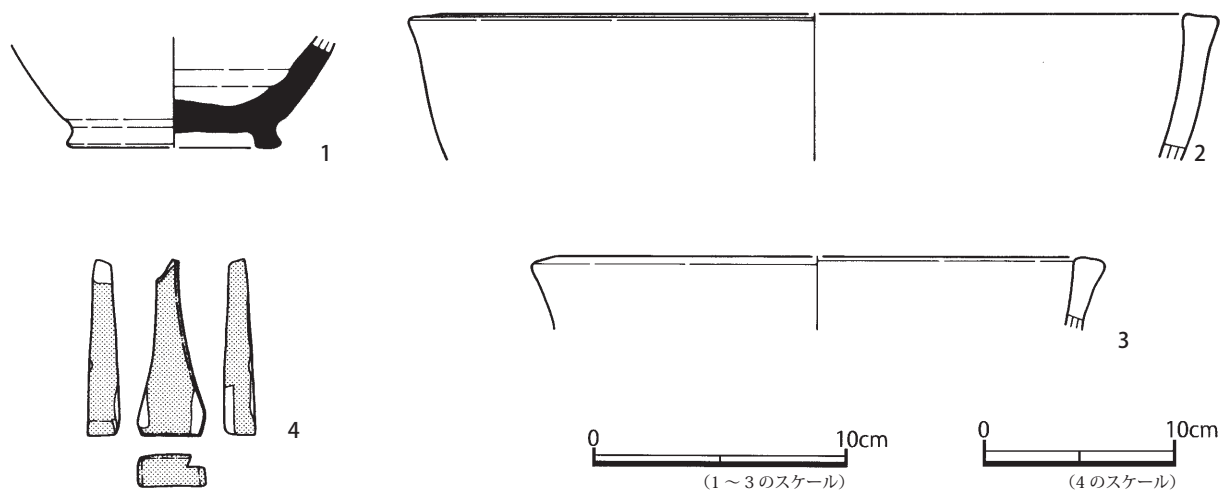
所在地 水戸市大足町字寺前 1189-3～5, 1190-1・2

調査概要 墓地造成工事に基づき、2度にわたり試掘調査を行った(第1・2次)。トレンチは1次調査で2箇所(トレンチ1・2)、2次調査で3箇所(トレンチ3～5)の計5箇所に設定した。遺構は、トレンチ1・3・4において掘跡2条が、トレンチ5において掘跡の他、性格不明土坑6基、ピット20基が検出された。遺物は、古墳時代～古代、中世、近現代の土器片等がそれぞれのトレンチから出土した。

(関口)

出土遺物 第158図-1は須恵器の長頸瓶で、平安時代に位置付けられる。2は中世以降の内耳鍋、3は近世以降の土器の鉢である。4は粘板岩製の砥石である。

(坂本)



第158図 寺内遺跡(第2地点)出土遺物

3-1-6 軍民坂遺跡 (第4地点)

所在地 水戸市上国井町 3585-1

調査面積 66 m²

調査期間 平成 21 年 1 月 22 日～3 月 19 日

検出遺構 竪穴建物跡 1 (古代 1), 掘立柱建物跡 5 (古代 1, 中世 4), 土坑 40・ピット 1 (縄文)

出土遺物 縄文土器, 土器片錘, 石器, 礫, 土師器, 須恵器

調査担当 渥美賢吾

調査概要 試掘調査で確認されていた, 縄文時代中期の竪穴状遺構 2 基と土坑 3 基を対象とするとともに, 申請建物により影響を受ける範囲を調査範囲とした (第 158 図)。なお, 遺構番号については, 概報 (渥美 2011) では 3 桁番号で図示したが, その後の整理過程で 2 桁番号に変更した。

(1) 中世以降の遺構

第 2 号掘立柱建物跡 (SB02)

位置 調査区の中央からやや南側の位置で検出された。

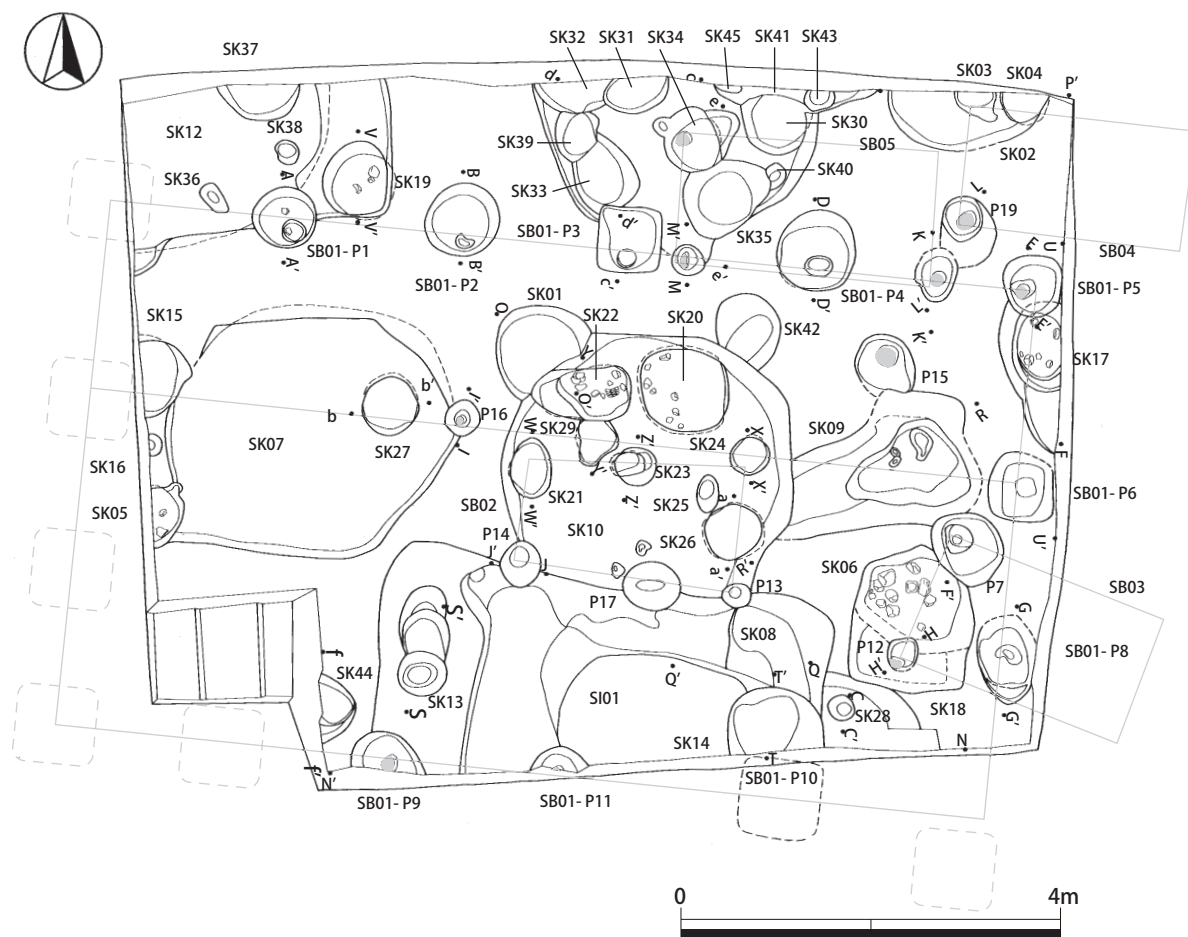
規模 桁行 2.3 m, 梁間 1.1～1.3 m。柱の掘方は, いずれも円形を呈し, 直径が 0.2～0.64 m である (第 5 表)。

主軸方位は N-70° -W。

構造 桁行 2 間, 梁間 1 間の側柱式掘立柱建物である。桁行の柱間は, 北側の列が西側から東側に向かって 4 尺 (1.2 m) と 3.6 尺 (1.1 m) で, 南側の列が西側から東側に

第 5 表 SB02 柱穴一覧表

柱穴名	東西長 (m)	南北長 (m)	深さ (m)	柱痕跡 (7列) 径 (m)
SK21	0.42	0.64	0.48	—
SK23	0.44	0.4	1.2	—
P13	0.3	0.2	—	0.1
P12	0.32	0.25	—	—
P14	0.42	0.5	0.64	0.2



第 159 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) の遺構配置

向かって4.6尺(1.4m)と3尺(0.9m)となっている。梁間の柱間は、西側が3.6尺(1.1m)で東側が4.3尺(1.3m)となっている。柱痕跡(7列)が確認できたのはP14のみで直径0.2mであった。

時期 SIO1を切る形で造営されているが、SB01と重複しており、柱間も一定せず、柱穴の規模もSB01と比べて小さいことから、中世以降に造営されたと考えられる。

第3号掘立柱建物跡(SB03)

位置 調査区の南東で検出された。

規模 桁行1.5m以上、梁間1.4m。柱の掘方は、円形を呈し、直径は0.3～0.35mである(第6表)。主軸方位はN-55°-W。

構造 桁行2間、梁間1間の側柱式掘立柱建物と推定される。桁行の柱間は不明だが、梁間の柱間は4.6尺(1.4m)と推定される。柱痕跡(7列)が確認できたのはP12のみで直径0.1mであった。

時期 SB01と重複し、柱穴の規模や柱間もSB02やSB04、SB05と同様にSB01と比べて小さいことから、中世以降に造営されたと考えられる。

第6表 SB03 柱穴一覧表

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡(7列)径(m)
P7	0.3	0.31	0.14	—
P12	0.32	0.35	0.11～0.14	0.1

第4号掘立柱建物跡(SB04)

位置 調査区の北東で検出された。

規模 桁行1.1m以上、梁間1.35mと推定される。柱の掘方は、円形を呈し、直径が0.31～0.48mである(第7表)。主軸方位はN-68°-W。

構造 SB05と同様の桁行2間、梁間1間の側柱式掘立柱建物と推定される。桁行の柱間は不明だが、梁間の柱間は、4.5尺(1.35m)と推定される。柱痕跡(7列)が確認できたのはP19のみで直径0.18～0.2mであった。

時期 SK3から8世紀代とみられる端部折り返しの須恵器坏蓋が出土しているが、流れ込みと判断した。SB01とは重複しないが、同時期の所産とするには近接しすぎており、柱穴の規模や柱間がSB02やSB03、SB05と同様にSB01と比べて小さいことから、中世以降に造営されたと考えられる。

第7表 SB04 柱穴一覧表

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡(7列)径(m)
SK3	0.31以上	0.4	0.42	—
P19	0.42	0.48	0.22	0.18～0.2

第5号掘立柱建物跡(SB05)

位置 調査区の北側でSB04に隣接する形で検出された。

規模 桁行2.7m、梁間1.4m。柱の掘方は、いずれも円形を呈し、直径は0.32～0.7mである。主軸方位はN-70°-W。

構造 桁行2間、梁間1間の側柱式掘立柱建物と推定される。桁行の柱間は、南側が西側から4.5尺(1.35m)と推定され、梁間の柱間は、西側が4.6尺(1.4m)と推定される。柱痕跡(7列)は3基の柱穴で確認され、直径0.07～0.17mであった。

時期 SB01と重複し、柱穴の規模や柱間もSB02やSB03、SB04と同様にSB01と比べて小さいことから、中世以降に造営されたと考えられる。(川口)

第8表 SB05 柱穴一覧表

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡(7列)径(m)
SK34	0.6	0.7	—	0.15
P18	0.45	0.58	0.42～0.45	0.15
P20	0.35	0.32	0.42	0.07～0.17

(2) 古代の遺構

第1号竪穴建物跡(SI01)

位置 調査区の南側で検出された。半分以上が調査区外へ伸びている。

規模 東西長4.8m、南北長2.5m以上、深さは0.38～0.45m。主軸方位はN-18°-E。竈は後世の攪乱によ

り袖部の大半が失われていたが、推定規模は東西長 1.35 m、南北長 1.12 m である。火床面は東西長 0.5 m、南北長 0.6 m である。

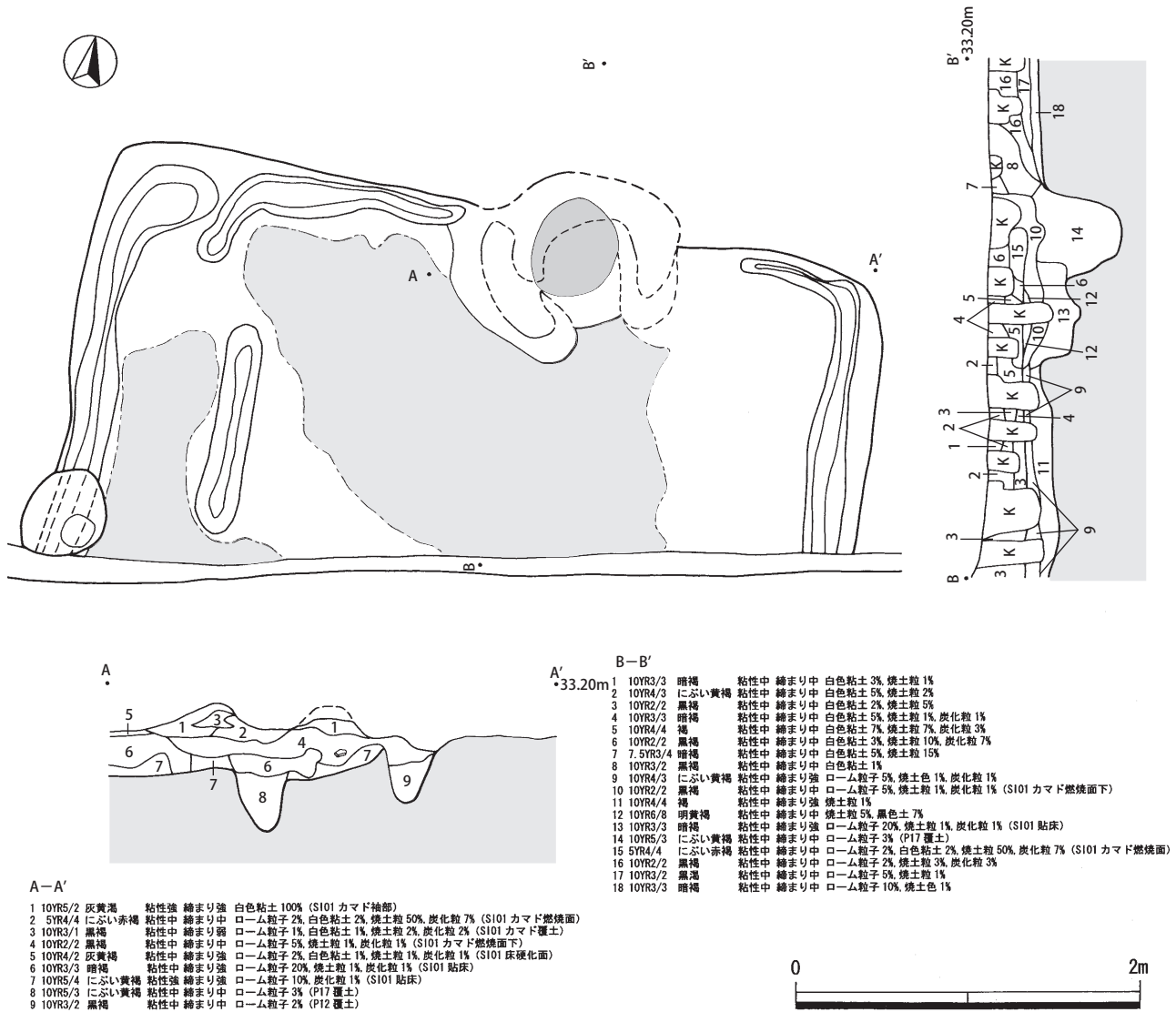
構造 竪穴式建物である。柱穴は未検出であるが、壁溝と間仕切り溝の可能性のある溝が南北方向に検出された。壁溝の規模は西側が幅 0.12 ~ 0.38 m、北側が 0.11 ~ 0.22 m、東側が 0.14 ~ 0.24 m で、間仕切り溝の規模は 0.21 ~ 0.25 m であった。床は竪正面から北西部にかけて面的な硬化がみられ、間仕切り溝と西側の壁溝の間も面的に硬化していた。

時期 概報(渥美 2011)では、平安時代前葉頃と理解したが、その後の整理作業の進展により、SB01 に切られ、SB01 の一部の柱穴から 7 世紀末から 8 世紀代の須恵器が出土していること、主軸方位が真北ではなく、北東方向に傾く斜め方位であることから 7 世紀後半に造営され、廃絶したと見解を変更する。

第 1 号掘立柱建物跡 (SB01)

位置 調査区の中央から南側にかけて検出された。

規模 桁行 9.9 m、梁間 5.6 m。柱の掘方は、円形もしくは隅丸方形を呈し、直径(一辺)が 0.65 ~ 0.95 m で(第 9 表)、建物の北側から 2 番目の側柱列に並行する形で中央に直径 0.38 ~ 0.42 m の円形の間仕切りとみられる柱穴が 2 基確認されている。主軸方位は N-70° -W。



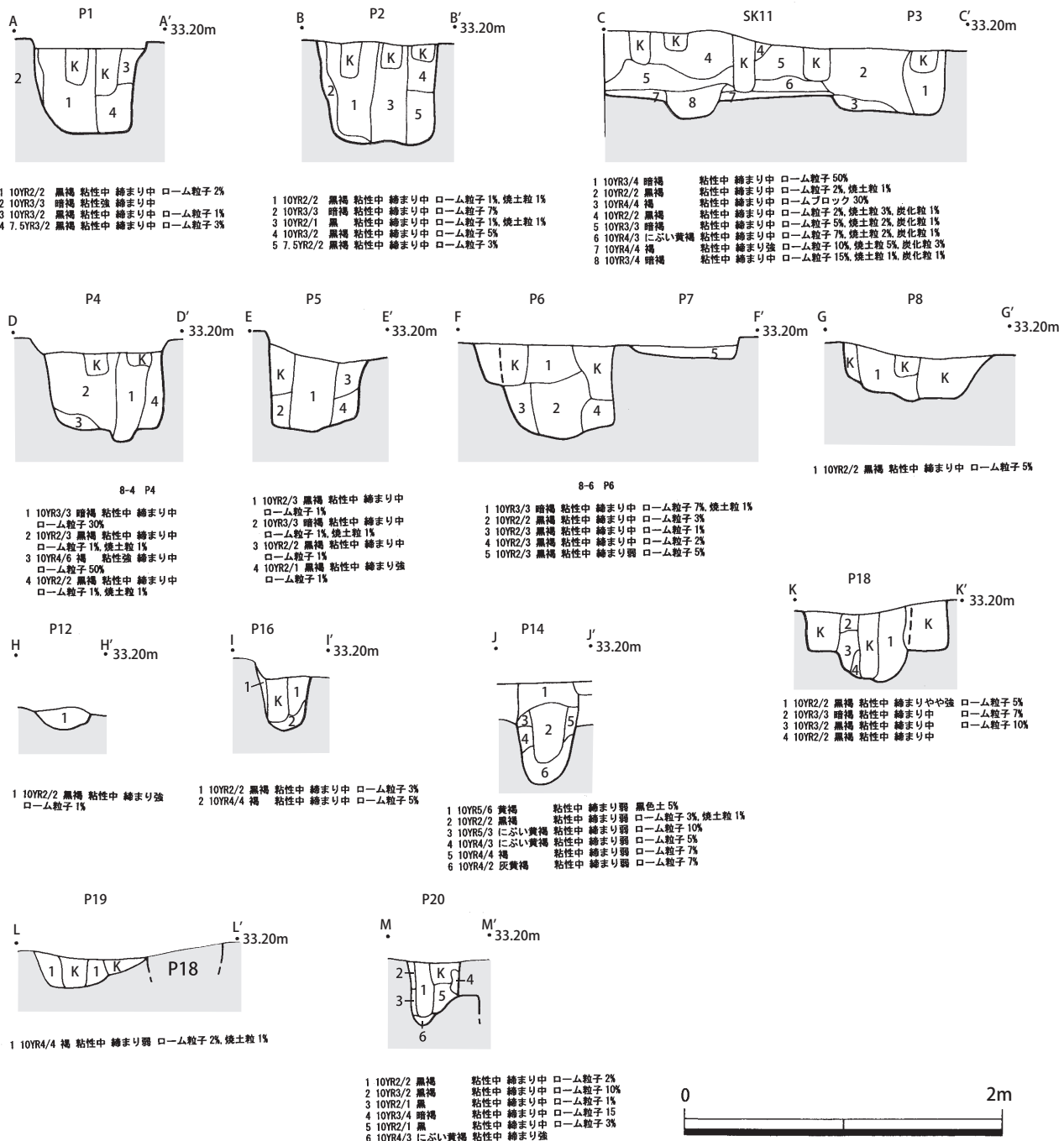
第 160 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 1 号竪穴建物跡 (S101)

構造 桁行5間、梁間3間の側柱式掘立柱建物である。桁行の柱間は、西側2間分が6尺(1.8m)で、東側3間分が7尺(2.1m)である。梁間の柱間は、北側1間分が7尺(2.1m)で南側2間分が6尺(1.8m)である。間仕切りとみられる柱穴の柱間は西側から東側に向かって11尺(3.3m)、12尺(3.6m)、10尺(3.0m)となっている。柱痕跡(7列)が確認できたのはP2・P4・P5・P9・P11・P16・SK24で直径0.1～0.26mであった。

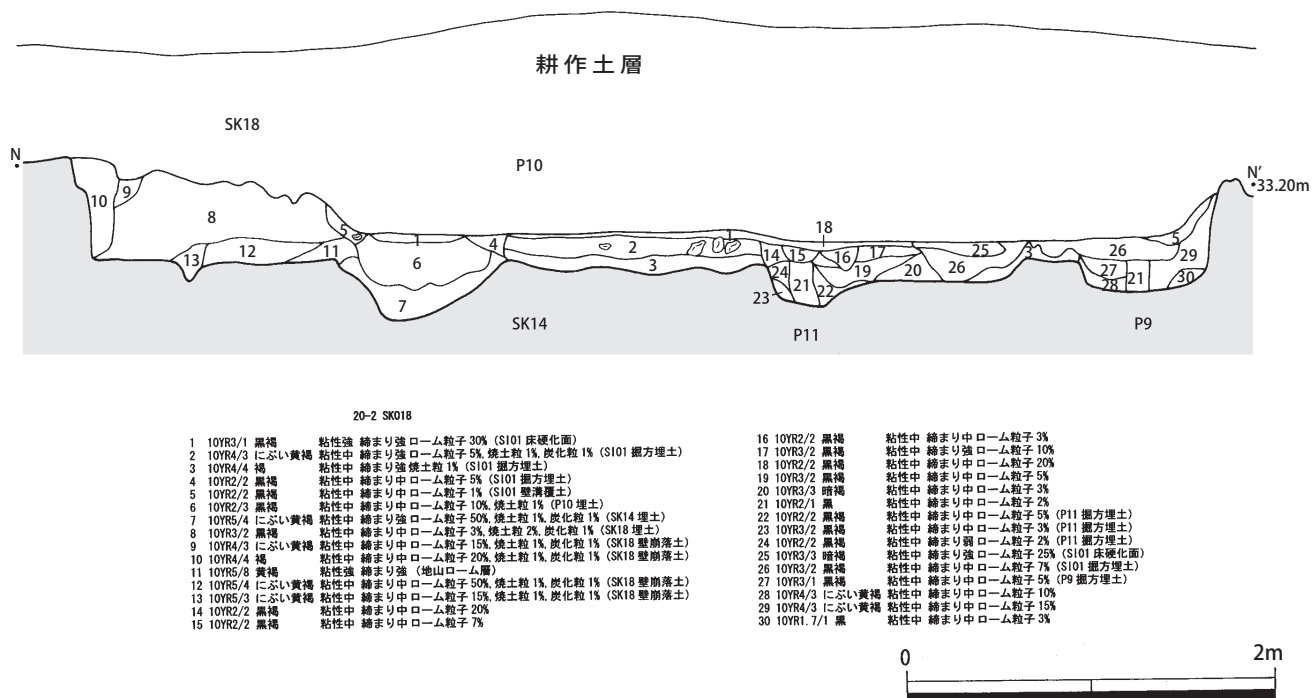
時期 概報(渥美 2011)では、柱穴から9世紀中葉

第9表 SB01 柱穴一覧表

柱穴名	東西長(m)	南北長(m)	深さ(m)	柱痕跡(7列)径(m)
SB01-P1	0.78	0.65	0.6	—
SB01-P2	0.8	0.78	0.65	0.2～0.23
SB01-P3	0.68	0.7	0.4	—
SB01-P4	0.84	0.86	0.55～0.65	0.15～0.2
SB01-P5	0.65	0.65	0.6～0.65	0.26
SB01-P6	0.7	0.74	0.52～0.6	—
SB01-P8	0.65	0.95	0.3～0.4	—
SB01-P9	0.8	0.45以上	0.65以上	0.12
SB01-P11	0.63	0.4以上	0.3	0.1
P16	0.38	0.4	0.45	0.1
SK24	0.42	0.4	—	0.12



第161図 軍民坂遺跡(第4地点)掘立柱建物跡柱穴及びピット



第 162 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 1 号掘立柱建物跡柱穴及び土坑

頃の須恵器無台坏が出土していたが、その後の整理作業の進展により、SI01 を切る形で造営され、柱穴からは 7 世紀後半の須恵器坏蓋や 8 世紀代の須恵器無台坏・有台坏・長頸壺等が出土していることから、8 世紀以降に造営されたと見解を変更する。(川口)

(3) 古代の遺物

古代の遺物は、第 1 号掘立柱建物跡 (SB01) 及び第 1 号竪穴建物跡 (SI01)、土坑 (SK11・SK12)、遺構外から古墳時代終末期～奈良時代にかけての土師器・須恵器が出土した。小片が多く、図化できたものは、SB01 及び SB01・SB04 の柱穴、SI01、SK11・SK12・遺構外より出土した須恵器のみである (第 164 図)。第 164 図-1～8 は SB01 から出土したもので、1 は長頸壺の口縁部で胎土・色調から在地産ではなく東海系のもと考えられる。2 は坏蓋の摘み部である。3 は無台坏の底部から体部にかけての破片で、丸底で二次底部面を持つことから 8 世紀初頭頃とみられる。4 は有台坏の破片で、台渡里廃寺跡 (第 26 次) T5-001 号遺構出土土器に類例があり (川口・新垣・渥美・色川 2007)、7 世紀第 4 四半期頃とみられる。5 は坏蓋で内面にかえりを有し、市内に所在する山田窯跡群 2 号窯跡の製品と酷似することから時期は 7 世紀第 4 四半期である。6 も坏蓋であるが、端部が外反する形で折り返している特徴から 7 世紀末から 8 世紀初頭頃のものと考えられる。7・8 は無台坏で丸底で二次底部面を持つことから 8 世紀初頭頃のものと考えられる。9・10 は SI01 から出土したもので、9 は坏蓋の摘み部で、10 は無台坏の底部である。11～13 は土坑から出土したもので、11 は SK12 から出土した有台坏の底部で、4 と同様、7 世紀第 4 四半期頃とみられる。12 は SK11 から出土した無台坏の底部、13 は SK3 から出土した坏蓋、14 は遺構外より出土した短頸壺の底部である。(川口)

(4) 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は、土坑 40 基・ピット 1 基が検出された。個々の規模等の詳細は、第 10 表のとおりである。土坑・ピットは円形・不整形円形・楕円形のものが多いが、遺物量の多かった SK07・10・11・12 は他の土坑と比べると倍以上の規模を示している。SK07・SK12 のように覆土の堆積状況及び断面からフラスコ状土坑であったと考えら

第10表 軍民坂遺跡（第4地点）縄文時代遺構一覧表

遺構名	種別	構造・形状	規模	備考
1号土坑 (SK01)	土坑	楕円形	東西1.1m, 南北1.1m以上, 深さ0.15m	SK10と重複
2号土坑 (SK02)	土坑	楕円形	東西1.85m, 南北0.95m以上, 深さ0.3m	P5・P41・P42と重複
4号土坑 (SK04)	土坑	不整形	東西0.5m, 南北0.6m以上, 深さ0.65m	SK02と重複
5号土坑 (SK05)	土坑	不整形	東西0.3m以上, 南北0.7m, 深さ1.2m	SK07と重複
6号土坑 (SK06)	土坑	円形	東西1.4m, 南北1.6m	P12と重複
7号土坑 (SK07)	土坑	円形	東西3.1m, 南北2.7m, 深さ0.65m	SK05・15・16・27, P16と重複
8号土坑 (SK08)	土坑	不整形	東西1.2m, 南北1.3m以上, 深さ0.25～0.35m	SK14・SI01と重複
9号土坑 (SK09)	土坑	不整形	東西1.2m, 南北0.9m, 深さ0.3～0.45m	1回の掘り直し
10号土坑 (SK10)	土坑	不整形	東西3.15m, 南北2.9m以上, 深さ0.3m	SK01・20・22・25・26, SB02と重複
11号土坑 (SK11)	土坑	不整形	東西3.6m, 南北1.7m以上, 深さ0.3～0.45m	SB01・SB
12号土坑 (SK12)	土坑	不整形	東西3m, 南北1.6m以上, 深さ0.5～0.6m	SK19・36・37・38と重複
13号土坑 (SK13)	土坑	円形	東西0.5m, 南北0.5m, 深さ0.47m	2回の掘り直し
14号土坑 (SK14)	土坑	円形	東西1.0m, 南北0.7m以上, 深さ0.35m	SK08・18, SI01と重複
15号土坑 (SK15)	土坑	円形	東西0.5m以上, 南北0.8m, 深さ1～1.04m	SK07・16と重複
16号土坑 (SK16)	土坑	—	東西0.25m以上, 南北0.75m以上, 深さ0.7m	SK05・07・15と重複
17号土坑 (SK17)	土坑	円形	東西0.6m以上, 南北1.5m, 深さ1.02m	SB01と重複, 1回の掘り直し
18号土坑 (SK18)	土坑	—	東西1.0m以上, 南北0.8m以上, 深さ0.55m	
19号土坑 (SK19)	土坑	不整形	東西0.7m, 南北0.6m, 深さ0.4～0.42m	SK12と重複
20号土坑 (SK20)	土坑	円形	東西0.9m, 南北1.0m, 深さ0.75～0.85m	SK10と重複
22号土坑 (SK22)	土坑	不整形	東西0.9m, 南北1.0m, 深さ0.5m	SK01・10・29と重複
25号土坑 (SK25)	土坑	楕円形	東西0.2m, 南北0.4m	SK10と重複
26号土坑 (SK26)	土坑	円形	東西0.42m, 南北0.4m, 深さ0.38m	SK10と重複
27号土坑 (SK27)	土坑	円形	東西0.6m, 南北0.55m, 深さ0.55m	SK07と重複
28号土坑 (SK28)	土坑	円形	東西0.3m, 南北0.3m, 深さ0.22m	SK18と重複
29号土坑 (SK29)	土坑	不整形	東西0.45m, 南北0.45m以上	SK10・22と重複
30号土坑 (SK30)	土坑	円形	東西0.75m, 南北0.65m以上	SK11・41と重複
31号土坑 (SK31)	土坑	円形	東西0.7m, 南北0.4m以上, 深さ0.2m	SK11・32と重複
32号土坑 (SK32)	土坑	円形	東西0.85m, 南北0.35m以上, 深さ0.1m	SK11・31・39と重複
33号土坑 (SK33)	土坑	楕円形	東西0.7m, 南北0.9m以上, 深さ0.45m	SK11・39, SB01と重複
35号土坑 (SK35)	土坑	楕円形	東西0.9m, 南北0.85m, 深さ0.9～0.95m	SK11・40, SB05と重複
36号土坑 (SK36)	土坑	楕円形	東西0.2m, 南北0.35m	SK12と重複
37号土坑 (SK37)	土坑	不整形	東西0.8m, 南北0.4m以上, 深さ0.55m	SK12と重複
38号土坑 (SK38)	土坑	不整形	東西0.2m, 南北0.3m	SK12と重複
39号土坑 (SK39)	土坑	円形	東西0.5m, 南北0.45m以上	SK11・32・33と重複
40号土坑 (SK40)	土坑	円形	東西0.2m以上, 南北0.3m	SK11・35と重複
41号土坑 (SK41)	土坑	—	東西1.75m以上, 南北0.25m以上	SK30・43・45と重複
42号土坑 (SK42)	土坑	円形	東西0.7m, 南北0.8m以上, 深さ0.5m	SK10と重複
43号土坑 (SK43)	土坑	円形	東西0.43m, 南北0.22m以上, 深さ0.45～0.55m	SK30・41と重複
44号土坑 (SK44)	土坑	不整形	東西0.4m以上, 南北0.7m, 深さ0.65m	
45号土坑 (SK45)	土坑	楕円形	東西0.3m, 南北0.15m以上, 深さ0.18m	SK11・41と重複
15号ピット (P15)	ピット	不整形	東西0.6m, 南北0.55m	

れるものもあるが、SK10・SK11は炉跡が検出されていないものの、竪穴建物跡として利用されていた可能性も考えられる。
(川口)

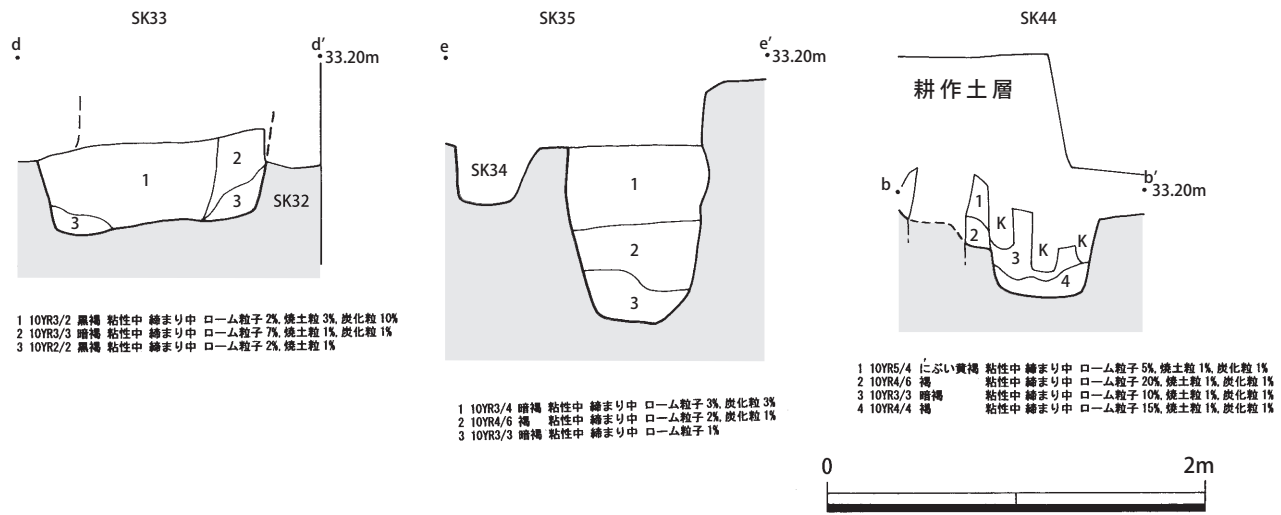
(5) 縄文時代の遺物

SK05 出土縄文土器（第171図） 1は波状口縁を呈し、沈線文と単節斜縄文RLが施されており、外面には炭化物が付着している。2は沈線による渦巻き文、3は沈線文および刺突文が施されている。4は横走る隆起線文と沈線文の間に単節斜縄文RLが施されている。5～7は沈線文が施されている。文様から1～7の全てが縄文時代中期後半「加曾利E2式」に位置付けられる。

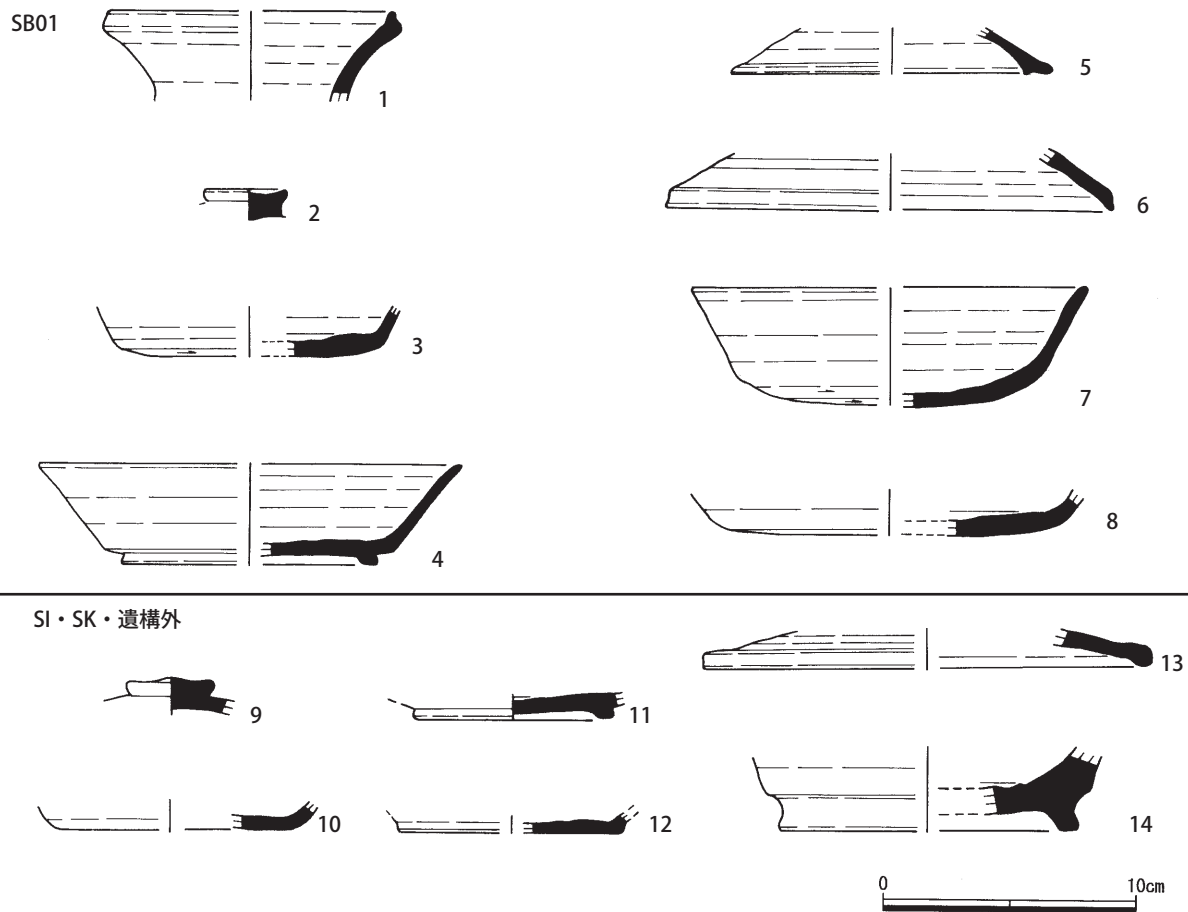
SK07 出土縄文土器（第172～176図） 1は深鉢形土器である。胴部は、縦位の単節斜縄文LRと隆起線文で「大木8b式」の影響を受けた文様が、口縁部～頸部は隆起線文で「加曾利E1式」の文様が施されている。これは、東南部に位置する水戸の地域色を示す土器といえる。2は深鉢形土器の胴部で、地紋の単節斜縄文LRを施した後、2条の縦走る隆起線とそれに平行する沈線で区画している。3は深鉢形土器で、地紋に単節斜縄文LRを全面に施し、口縁部と頸部に横走る隆起線とそれに連結する3条の縦走る隆起線で口縁部文様帯を区画している。また、胴部には縦走るZ字状の結節が施されている。

1・3・5は縄文時代中期後半の「加曾利E1式」と「大木8a式」の文様が、2は縄文時代中期後半の「加曾利E1式」と「大木8b式」の文様が、4は「加曾利E1式」の文様が施されている。

6は平縁の深鉢形土器で、地紋に単節斜縄文LRを施した後、口縁部に隆起線文で立体的な文様が施されている。7は平縁の浅鉢形土器で、口縁部の無文帯の直下に横方向の連続する刺突文が施され、胴部には地紋の単節斜縄文



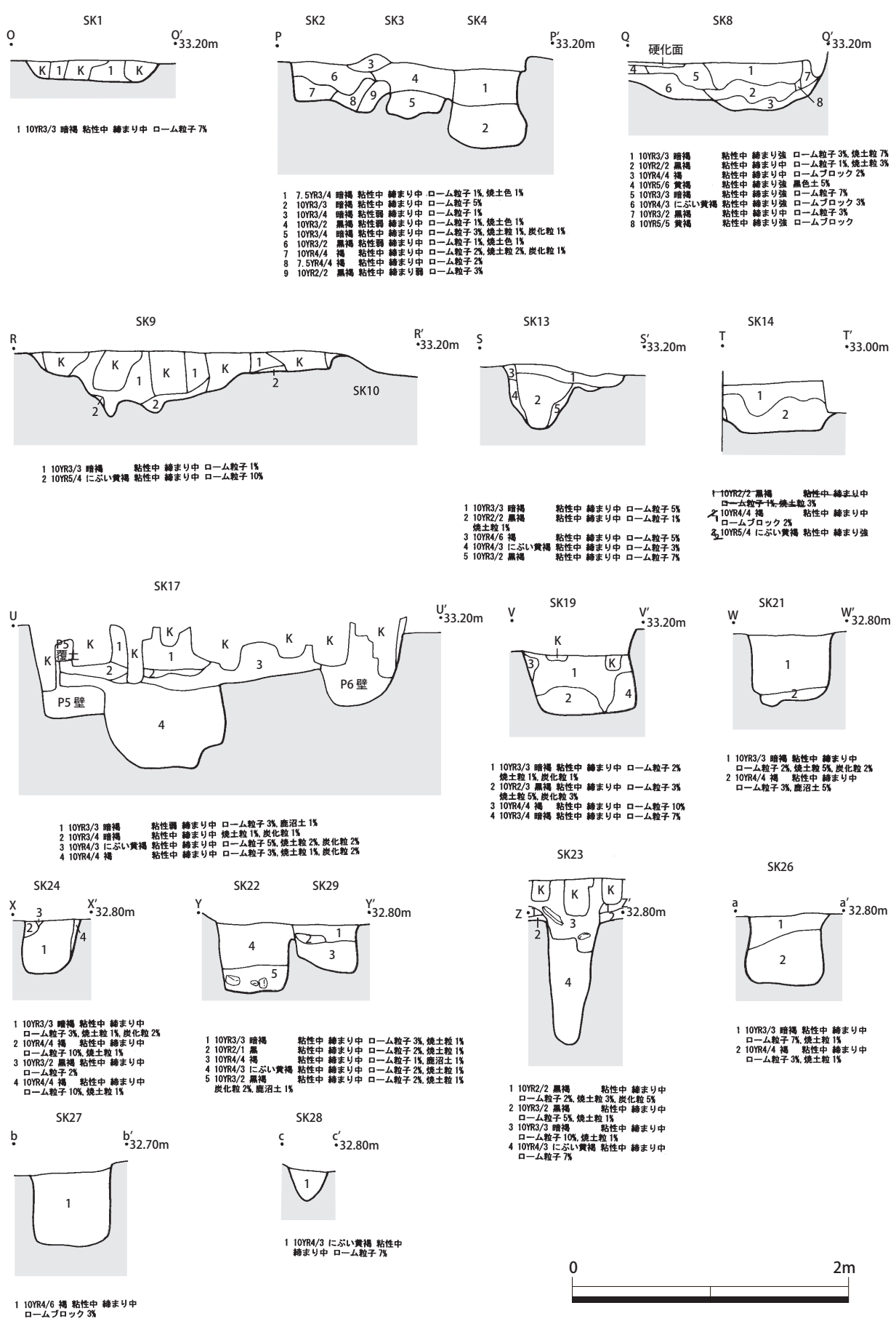
第 163 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）掘立柱建物跡柱穴及び土坑（2）



第 164 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 1 号掘立柱建物跡・第 1 号竪穴建物跡・3 号・11 号・12 号土坑・遺構外出土古代遺物

RL が施されている。6 は、縄文時代中期後半の「加曾利 E1 式」・「大木 8a 式」、7 は縄文時代中期後半の「加曾利 E1 式」・「大木 8a 式」・「大木 8b 式」の範疇で捉えられる資料群である。

8～23 は小破片のため、器形の判別は難しいが、24 は浅鉢形土器とみられ、それ以外は深鉢形土器の可能性が高い。8 は橋状把手が隆起線により作り出されており、9～12 は口縁部に突起状に取り付く渦巻き文が隆起線により施されている。13～21 は隆起線文と沈線文が施され、その間に地紋の単節斜縄文 RL が施されている。22 は口縁部直下に横走る刺突文が連続して施され、その直下に楕円状の隆起線が連続して施されている。23 は他



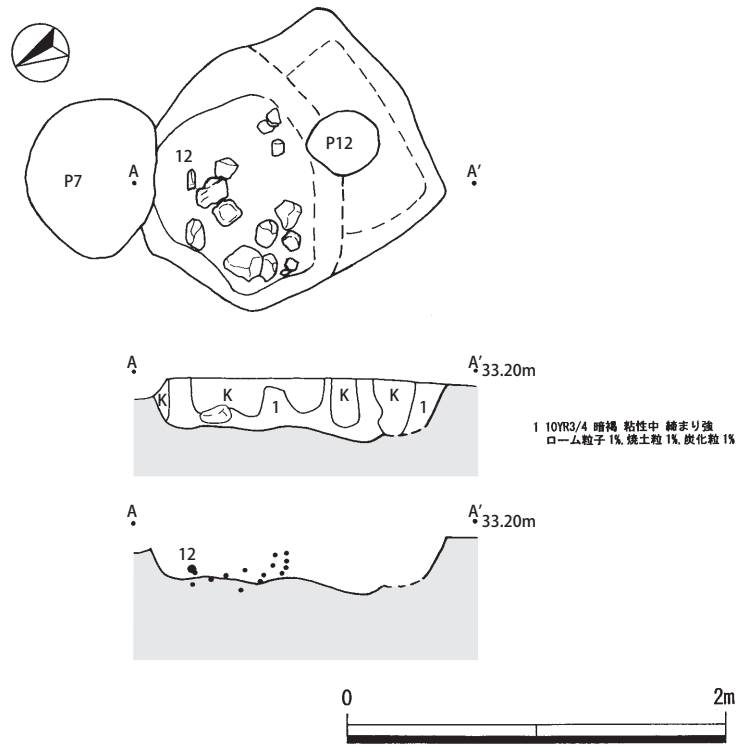
第 165 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）掘立柱建物跡柱穴及び土坑（1）

の破片とは異なり隆起線を持たず、地紋の単節斜縄文 RL が施されている。24 は口縁部に横走る沈線文が施されており、胴部～底部までは無文であったと考えられる。8～24 は文様から縄文時代中期後半の「加曾利 E1 式」と「大木 8a 式」・「大木 8b 式」の範疇で捉えられる資料群である。

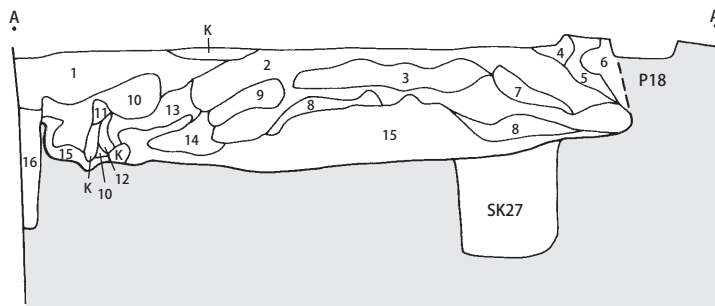
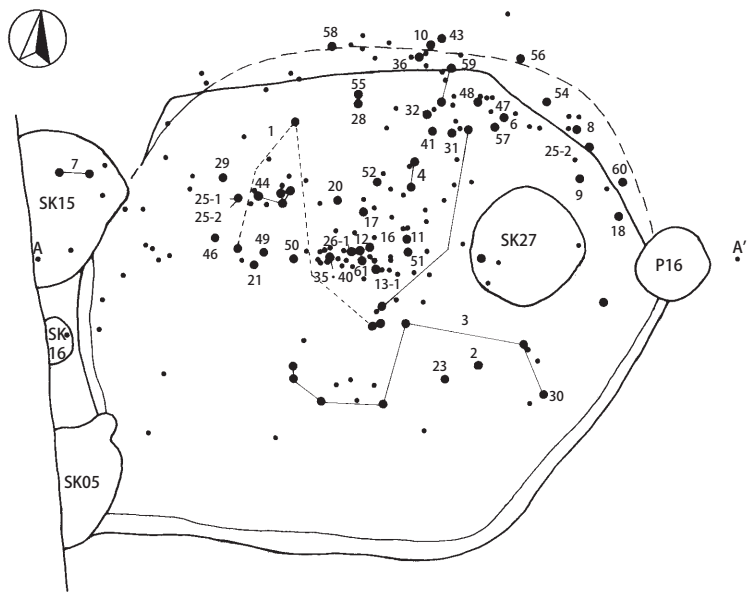
SK11 出土縄文土器 (第 178 図) 1・5 は口縁部直下に横走る隆起線とそれに並行する沈線文が施されており、沈線文の下には地紋の単節斜縄文 LRL と単節斜縄文 RL がそれぞれ施されている。2～4 は波状口縁で、2 は口縁部直下に横走る沈線文と地紋の単節斜縄文 LR が、3・4 は隆起線文が施されている。6 は口縁部直下に横走る沈線文が施され、その直下には楕円状の沈線文が施され、内部に地紋の単節斜縄文 RL が充填されている。

7～9 は口縁部直下に楕円状の沈線文が施され、内部に地紋の単節斜縄文 RL が充填されている。また、7 は沈線文による渦巻きも表現されている。10 は、器面全体に条線文が施され、外面に炭化物が付着している。11 は口縁部直下に縦走る 3 条の沈線文が施されている。12～14 は 6～9 と同様、楕円状の隆起線文や沈線文が施され、内部に地紋の単節斜縄文 RL と単節斜縄文 LR、単節斜縄文 LRL が充填されている。15 は器面全体に斜め方向の沈線文が施されている。16～19 は文様から胴部の破片と考えられ、縦走る沈線文の間に地紋の単節斜縄文 RL、単節斜縄文 LRL、単節斜縄文 LR が充填されている。20 は沈線文で渦巻き状の表現が施され、内部を地紋の単節斜縄文 LR で充填している。21～22 は地紋の単節斜縄文 LR が施されている。1～17 は文様の特徴から、縄文時代中期後半の「加曾利 E2・3 式」、18～22 は縄文時代中期後半の「加曾利 E 式」の範疇で捉えられる資料群である。

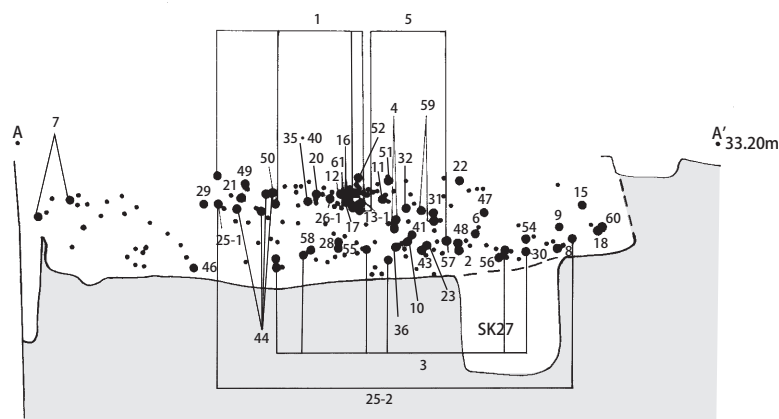
SK12 出土縄文土器 (第 179～182 図) 1 は深鉢形土器で、地紋に単節斜縄文 RL を施した後、口縁部に横 S 字状貼付文を、胴部は杵状の沈線文の間に波状の沈線文を施している。2 は浅鉢形土器で、口縁部はへら状工具による押し文・刻みを持つ隆帯を施文し、胴部は地紋の単節斜縄文 LR が施されている。3 は甕形土器で、口縁部は地紋の単節斜縄文 LR、頸部には刻みを持つ横走る 2 条の隆帯と沈線文、胴部は地紋の単節斜縄文 LR が施され、底部には網代痕が見られ、外面には炭化物が付着している。4 は口唇部に沈線文を施し、外面は地紋の単節斜縄文 RL を施した後、隆起線文と沈線文を施している。5 は地紋の単節斜縄文 RL を施した後、隆起線文を施文している。6 は、口縁部直下に横走る隆起線文を配置し、その直下に半裁竹管状工具による沈線文と地紋の単節斜縄文 LR が施されている。7 は口唇部は地紋の単節斜縄文 LR、外面は角押し・棒状工具による刻みを持つ貼付文が施されている。8 は V 字状に隆帯を貼り付け、刺突文を施している。9 は口縁部直下に無紋帯を配置し、その直下に縦走る波状の条線文を施している。10 は地紋に単節斜縄文 RL を施した後、6 本の櫛歯状工具で縦横に沈線文を施している。11 は口唇部から胴部は地紋に単節斜縄文 RL を施している。12 は縄文施文による隆起線文とへら状工具による刺突文が施されている。13 は横走る隆起線文とその直下に並行する波状沈線文を施している。14 は地紋に単節斜縄文 RL を施した後、隆起線文を施している。15 は横走る 2 条の沈線文を配置し、直上に地紋の単節斜縄文 LR が施されている。16 は地紋に単節斜縄文 RL を横走る 4 条の沈線文を施し、その直下には櫛歯状工具で縦走る沈線文と波状の沈線文を配置している。17 は地紋に単節斜縄文 LR を施し、2 条を単位とする縦走る沈線文を施している。18 は地紋に単節斜縄文 LR を施した後、連弧文や縦走・横走る沈線文を施している。19 は地紋に



第 166 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 6 号土坑 (SK06)

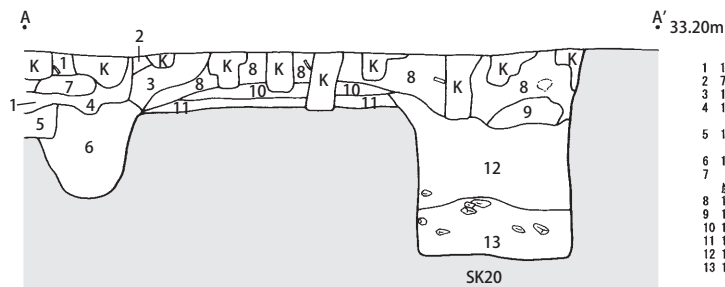
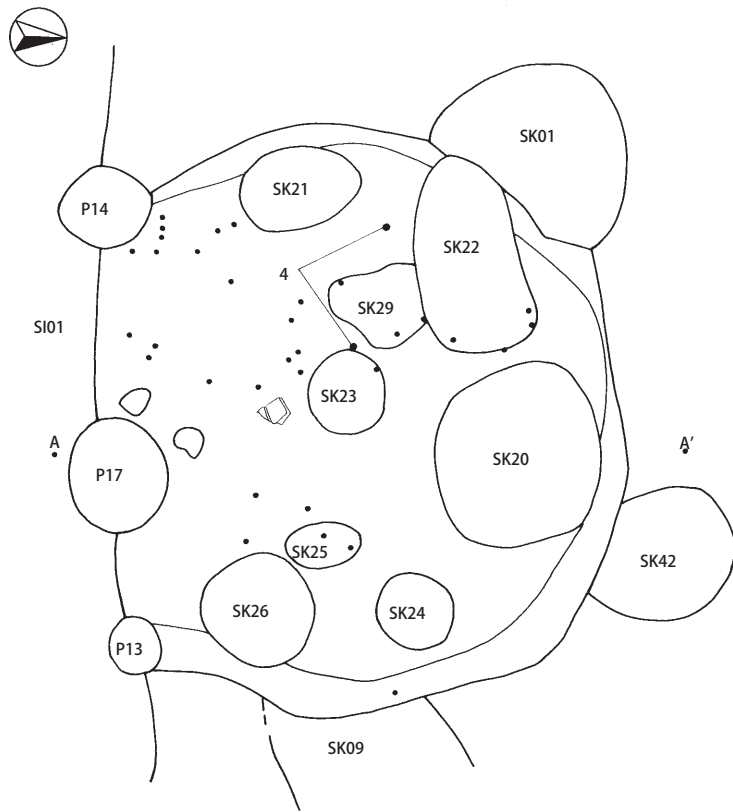


1	10YR3/2	黒褐	粘性弱	締まり中	ローム粒子 3%, 焼土粒 1%, 炭化粒 2%
2	10YR2/2	黒褐	粘性弱	締まり中	ローム粒子 1%, 焼土粒 5%, 炭化粒 3%
3	10YR2/1	黒	粘性弱	締まり中	ローム粒子 1%, 焼土粒 1%, 炭化粒 7%
4	10YR4/3	にぶい黄褐	粘性弱	締まり中	ローム粒子 1%, 焼土粒 1%, 炭化粒 2%
5	10YR4/4	褐	粘性中	締まり中	ローム粒子 3%, 炭化粒 1%
6	10YR4/6	褐	粘性中	締まり中	ローム粒子 7%, 焼土粒 1%, 炭化粒 1%
7	7.5YR4/6	褐	粘性弱	締まり中	ローム粒子 10%, 焼土粒 3%, 炭化粒 2%
8	10YR3/4	暗褐	粘性中	締まり中	ローム粒子 5%, 焼土粒 1%, 炭化粒 1%
9	7.5YR4/4	褐	粘性弱	締まり中	ローム粒子 3%, 焼土粒 20%, 炭化粒 1%
10	10YR4/4	褐	粘性中	締まり中	ローム粒子 7%, 焼土粒 2%, 炭化粒 3%
11	10YR3/3	暗褐	粘性中	締まり弱	
12	10YR5/6	黄褐	粘性中	締まり弱	
13	10YR2/2	黒褐	粘性中	締まり中	ローム粒子 3%, 炭化粒 3%
14	10YR4/2	灰黄褐	粘性中	締まり中	ローム粒子 2%, 焼土粒 7%, 炭化粒 2%
15	10YR5/4	にぶい黄褐	粘性中	締まり強	焼土粒 2%, 炭化粒 1%
16	10YR3/1	黒褐	粘性中	締まり中	ローム粒子 2%, 焼土粒 1%, 炭化粒 1%

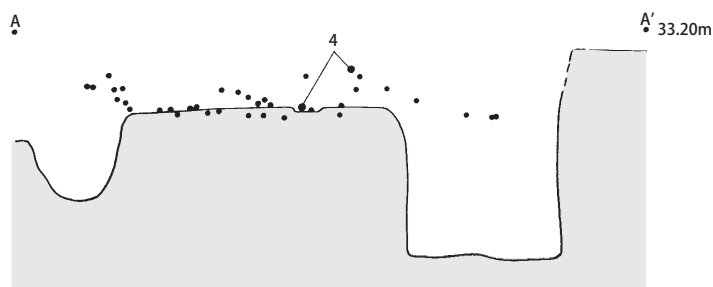


第 167 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 7 号土坑 (SK07)

単節斜縄文 RL を施した後、横走する沈線文を施している。20 は地紋に単節斜縄文 LR を施した後、横走する沈線文と渦巻き状の沈線文を施している。21 は地紋の単節斜縄文 LR を施した後、縦走する沈線で区画している。22 ~ 24・26・28 は地紋に単節斜縄文 RL や単節斜縄文 LR を施した後、渦巻き状の沈線文を配置している。25 は地紋に単節斜縄文 RL を施した後、横走・縦走する沈線文を施している。27 は地紋に単節斜縄文 RL を施した後、渦巻き状の沈線文とそれに連結する波状沈線文を配置している。29・30 は横走・斜走する沈線文を施している。31 は地紋に単節斜縄文 LR を施した後、沈線文を配置している。32・33 は胴部の破片とみられ、地紋に単節斜縄文 LR を施している。34 ~ 36 は地紋に条線文を施しており、34 は沈線文もみられる。37 は隆起線文が施されている。38 ~ 41 は底部の破片で、38 は地紋に単節斜縄文 LR が施され、底面は調整されている。39 は地紋に条線文が施



- | | | | | | |
|----------------|----------|-------|-----|------|----------------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐 | 粘性中 | 締まり中 | 白色粘土 3%, 焼土粒 10%, 炭化粒 7% |
| 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐 | 粘性中 | 締まり中 | 白色粘土 5%, 焼土粒 15% |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐 | 粘性中 | 締まり中 | 白色粘土 1% |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐 | 粘性中 | 締まり中 | ローム粒子 5%, 焼土粒 1%, 炭化粒 1% |
| 5 | 10YR5/3 | 暗褐 | 粘性中 | 締まり強 | ローム粒子 20%, 焼土粒 1%, 炭化粒 1% |
| (S101 貼床) | | | | | |
| 6 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | 粘性中 | 締まり中 | ローム粒子 3% (P17 覆土) |
| 7 | 5YR4/4 | にぶい赤褐 | 粘性中 | 締まり中 | ローム粒子 2%, 白色粘土 2%, 焼土粒 50% |
| (S101 カマド 燃焼面) | | | | | |
| 8 | 10YR2/2 | 黒褐 | 粘性中 | 締まり中 | ローム粒子 2%, 焼土粒 3%, 炭化粒 3% |
| 9 | 10Y1.7/1 | 黒 | 粘性中 | 締まり中 | ローム粒子 7%, 焼土粒 5% |
| 10 | 10YR3/2 | 黒褐 | 粘性中 | 締まり中 | ローム粒子 5%, 焼土粒 1% |
| 11 | 10YR3/3 | 暗褐 | 粘性中 | 締まり中 | ローム粒子 10%, 焼土粒 1% |
| 12 | 10YR3/2 | 黒褐 | 粘性中 | 締まり弱 | ローム粒子 1%, 焼土粒 2%, 炭化粒 2% |
| 13 | 10YR4/4 | 褐 | 粘性中 | 締まり弱 | ローム粒子 3%, 焼土粒 1% |

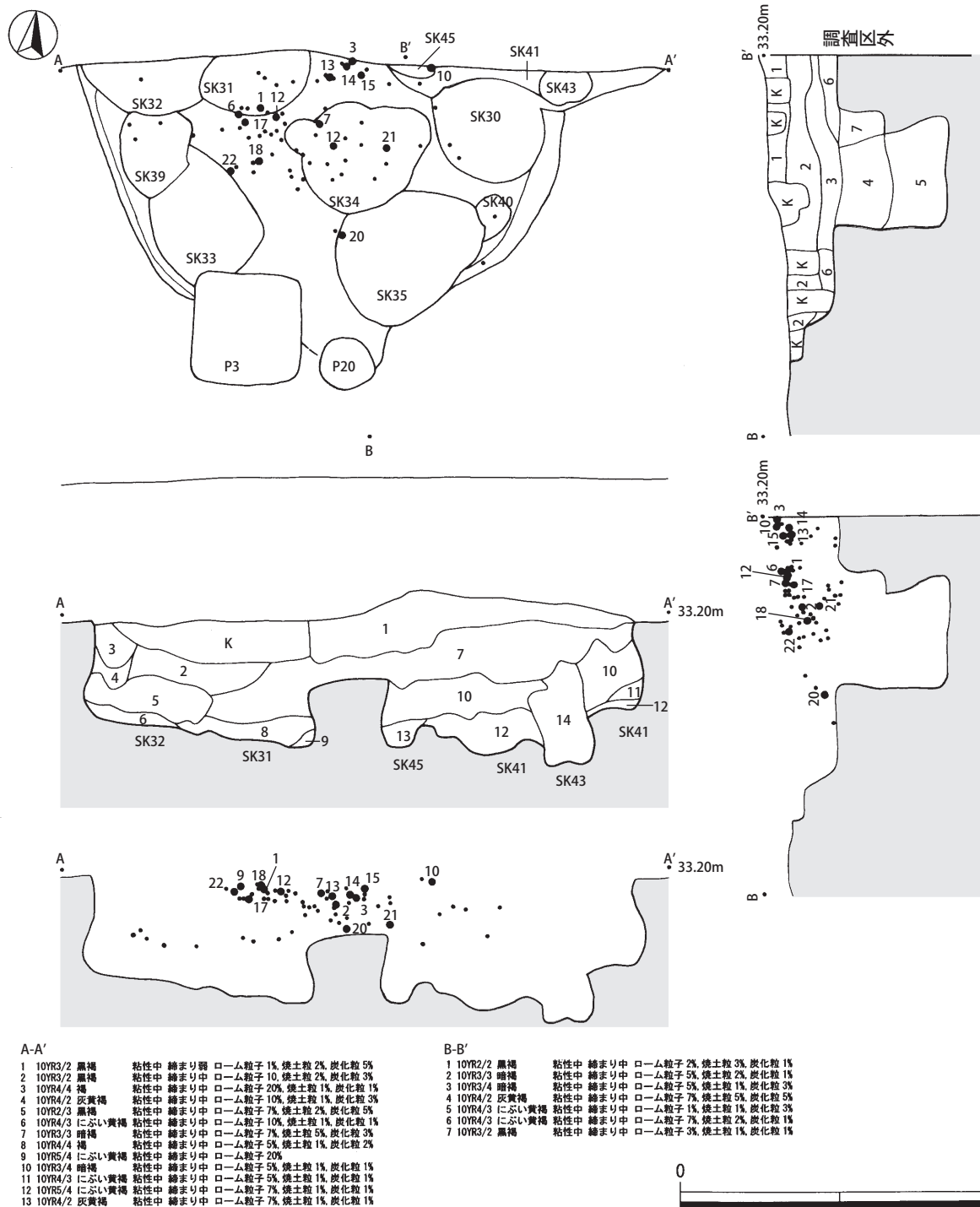


第 168 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 10 号土坑 (SK10)

され、底面には網代痕がみられる。40・41 も底面に網代痕がみられる。

文様から 1～3・11～12 は縄文時代中期中葉の「阿玉台Ⅳ式」・「大木 8a 式」、4～7・13～31 は縄文時代中期の「大木 8a 式」、8～9 は縄文時代中期中葉の「阿玉台Ⅳ式」、32～41 は型式は不明だが、縄文時代中期の範疇で捉えられる資料群である。

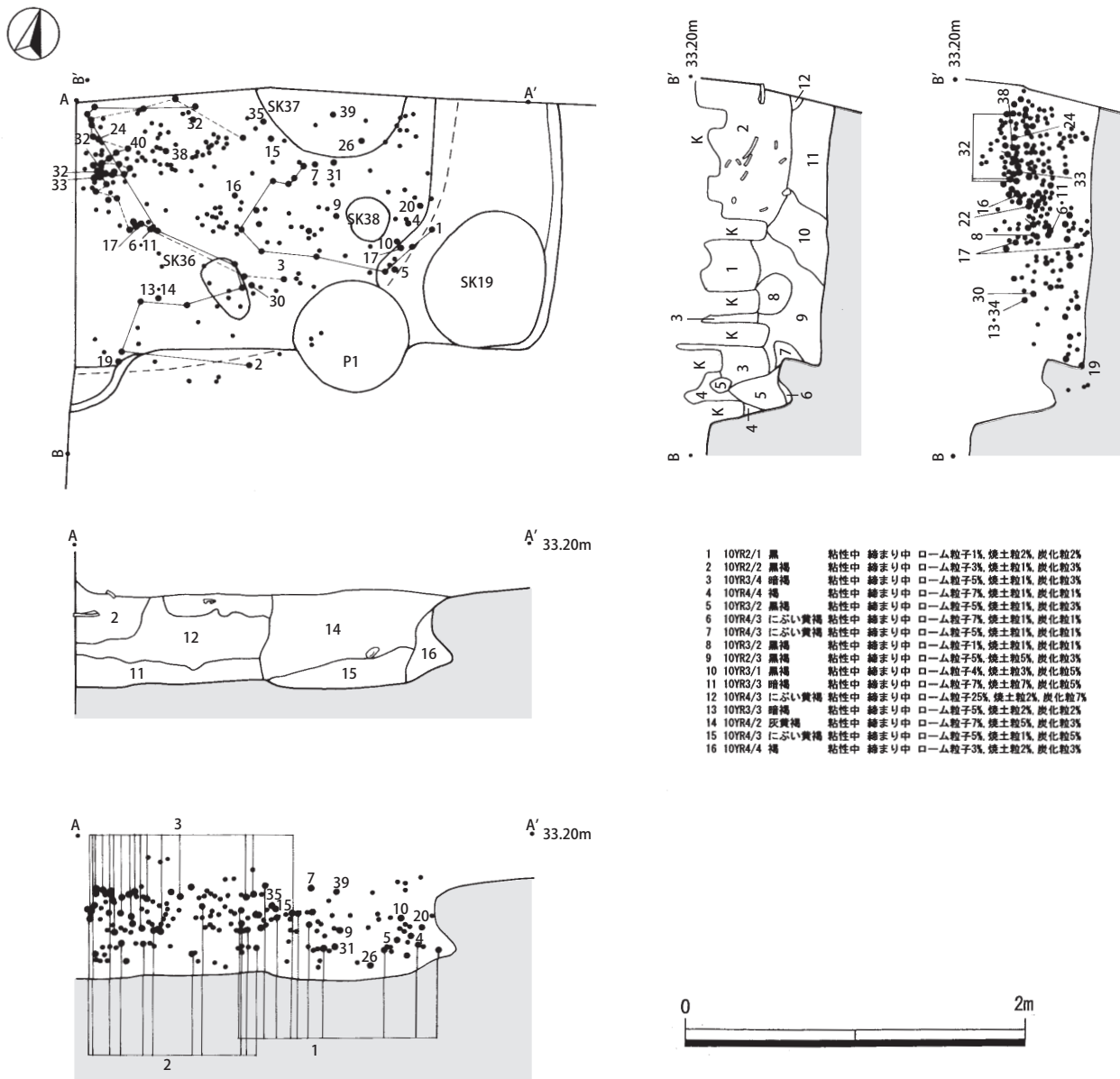
SK15 出土縄文土器 (第 183 図) 1 は甕形土器の破片で、地紋に単節斜縄文 RL を施した後、頸部と下部に横走る沈線文を、その間に並行する波状の沈線文を施している。2 は地紋に単節斜縄文 LR を施した後、横走る 2 条の



第 169 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 11 号土坑 (SK11)

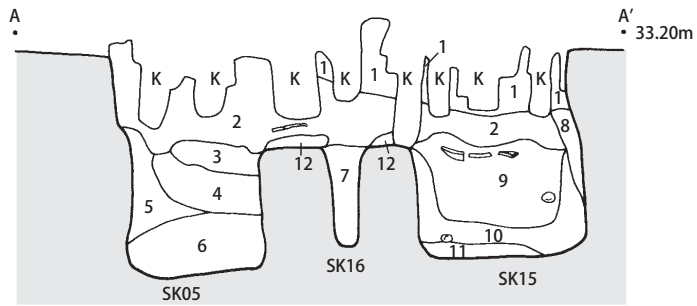
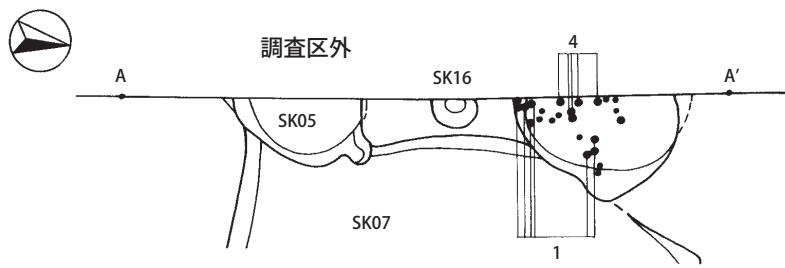
隆起線文とそれに並行する沈線文を施し、間に波状の隆起線文と沈線文を配置している。3 は胴部の破片と考えられ、地紋に単節斜縄文 RL が施されている。4 は底部から胴部にかけての破片で、地紋に単節斜縄文 RL が施されている。1 は縄文時代中期後の「大木 8b 式」、2 は縄文時代中期後半の「加曾利 E1 式」、3 ~ 4 は縄文時代中期後半の「加曾利 E 式」の範疇で捉えられる資料群である。

SK03・06・10・19・20・22・23・26・36 出土縄文土器 (第 184 図) 1 は SK03 の確認面から出土した波状口縁の土器で、隆起線文と並行する 2 条の沈線文が配置されている。2・3 は SK06 から出土した土器で、2 は波状口

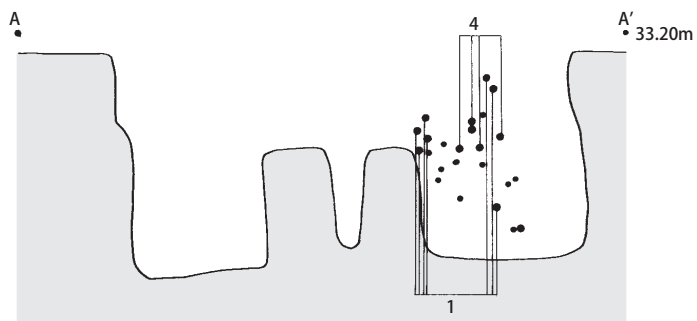


第170図 軍民坂遺跡（第4地点）第12号土坑（SK12）

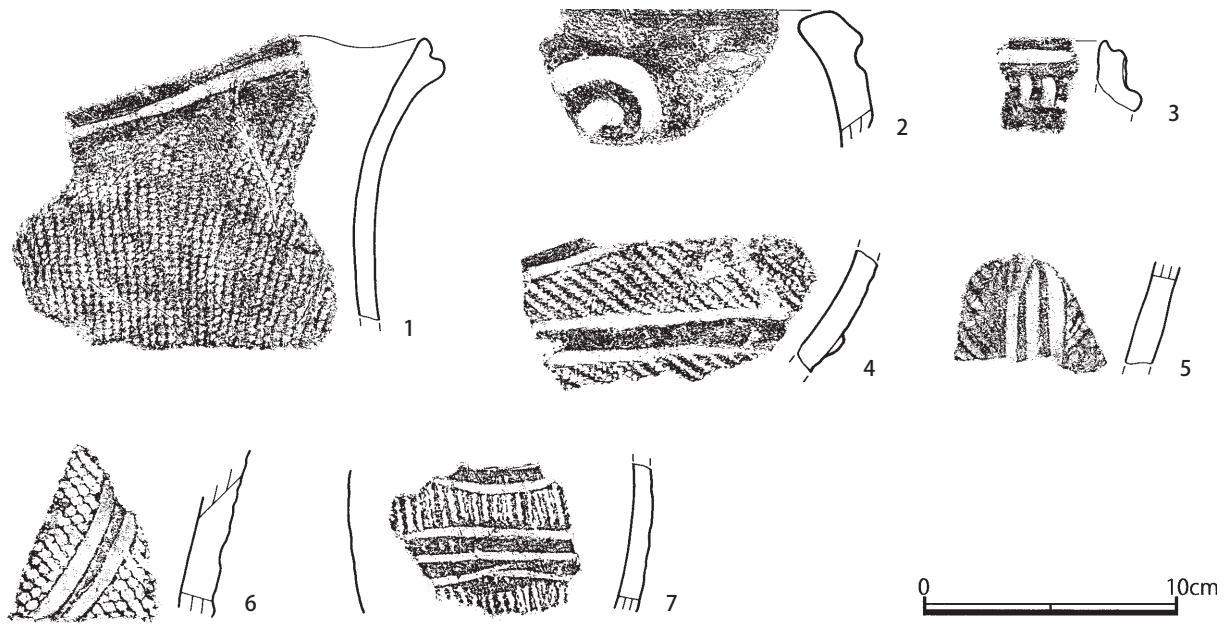
縁, 3は地紋に単節斜縄文 RL を施した後, 沈線文で区画されている。4はSK10から出土した底部から胴部にかけての破片で, 地紋には単節斜縄文 RL が施されている。5はSK19から出土した土器で, 地紋に単節斜縄文 RL を施した後, 隆起線文と沈線文・刺突文を配置している。6はSK20から出土した波状口縁の深鉢形土器で, 地紋に単節斜縄文 LR を施した後, 口縁部直下から頸部の間に横方向にS字状の隆起線文を貼り付けている。波状口縁の頂部には沈線による渦巻き文を配置し, 頸部には横走る隆起線文を貼り付けている。7はSK22から出土した胴部から底部の破片で, 地紋に単節斜縄文 LR を施した後, 縦走る2条の沈線文を配置し, 区画している。8~10はSK23から出土した土器で, 8は波状口縁の深鉢形土器で, 地紋に単節斜縄文 RL を施した後, 沈線により逆U字状の区画を表現している。9は地紋に単節斜縄文 RL を施している。10は地紋に条線文を施している。11は地紋に無節斜縄文 RL を施している。12は3条の横走る隆起線を配置している。文様から, 1~4・10~11は縄文時代中期後半「加曾利E式」, 5は縄文時代中期中葉「阿玉台IV式」・「大木8a式」, 6は縄文時代中期後半「加曾利E1式」・「大木8a式」, 7~9は縄文時代中期後半「加曾利E2・3式」, 12は縄文時代中期「大木8a式」の範疇で捉えられる資料群である。(色川)



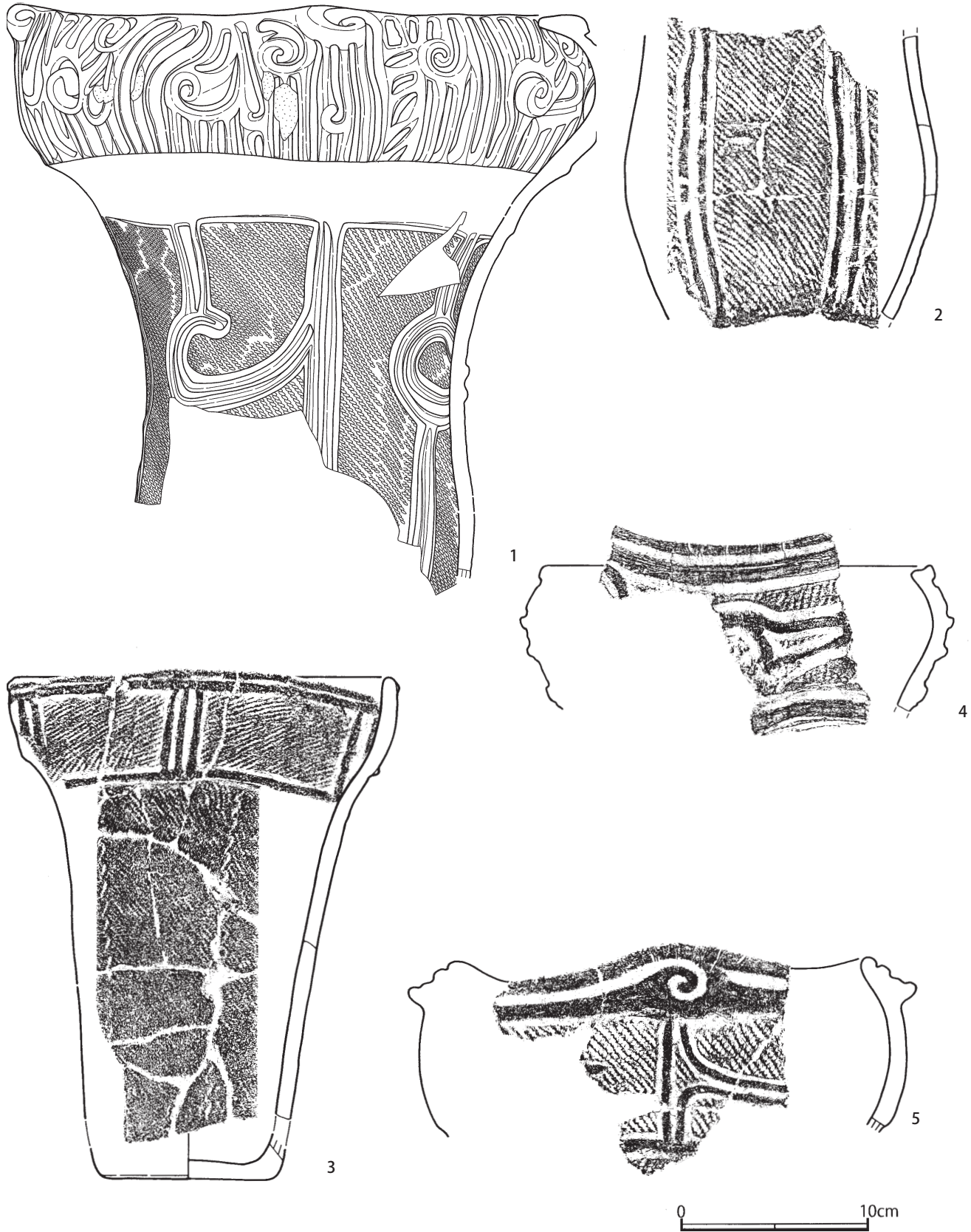
1	10YR3/4 暗褐	粘性弱	締まり中	ローム粒子5%, 焼土粒1%, 炭化粒1%
2	10YR2/3 黒褐	粘性弱	締まり中	ローム粒子3%, 焼土粒1%, 炭化粒2%
3	10YR4/2 灰黄褐	粘性中	締まり中	ローム粒子7%, 焼土粒1%, 炭化粒3%
4	10YR3/3 暗褐	粘性中	締まり中	ローム粒子10%, 焼土粒1%, 炭化粒2%
5	10YR2/2 黒褐	粘性中	締まり中	ローム粒子5%, 焼土粒7%, 炭化粒3%
6	10YR4/3 にぶい黄褐	粘性中	締まり中	ローム粒子2%, 焼土粒1%, 炭化粒2%
7	10YR3/1 黒褐	粘性中	締まり中	ローム粒子2%, 焼土粒1%, 炭化粒1%
8	10YR5/4 にぶい黄褐	粘性中	締まり中	ローム粒子15%, 焼土粒1%, 炭化粒3%
9	10YR2/2 黒褐	粘性中	締まり中	ローム粒子2%, 焼土粒1%, 炭化粒2%
10	10YR3/1 黒褐	粘性中	締まり中	ローム粒子2%, 焼土粒1%, 炭化粒1%
11	10YR3/2 黒褐	粘性中	締まり中	ローム粒子5%, 焼土粒1%, 炭化粒1%
12	10YR4/4 褐	粘性中	締まり中	ローム粒子20%, 焼土粒1%, 炭化粒1%



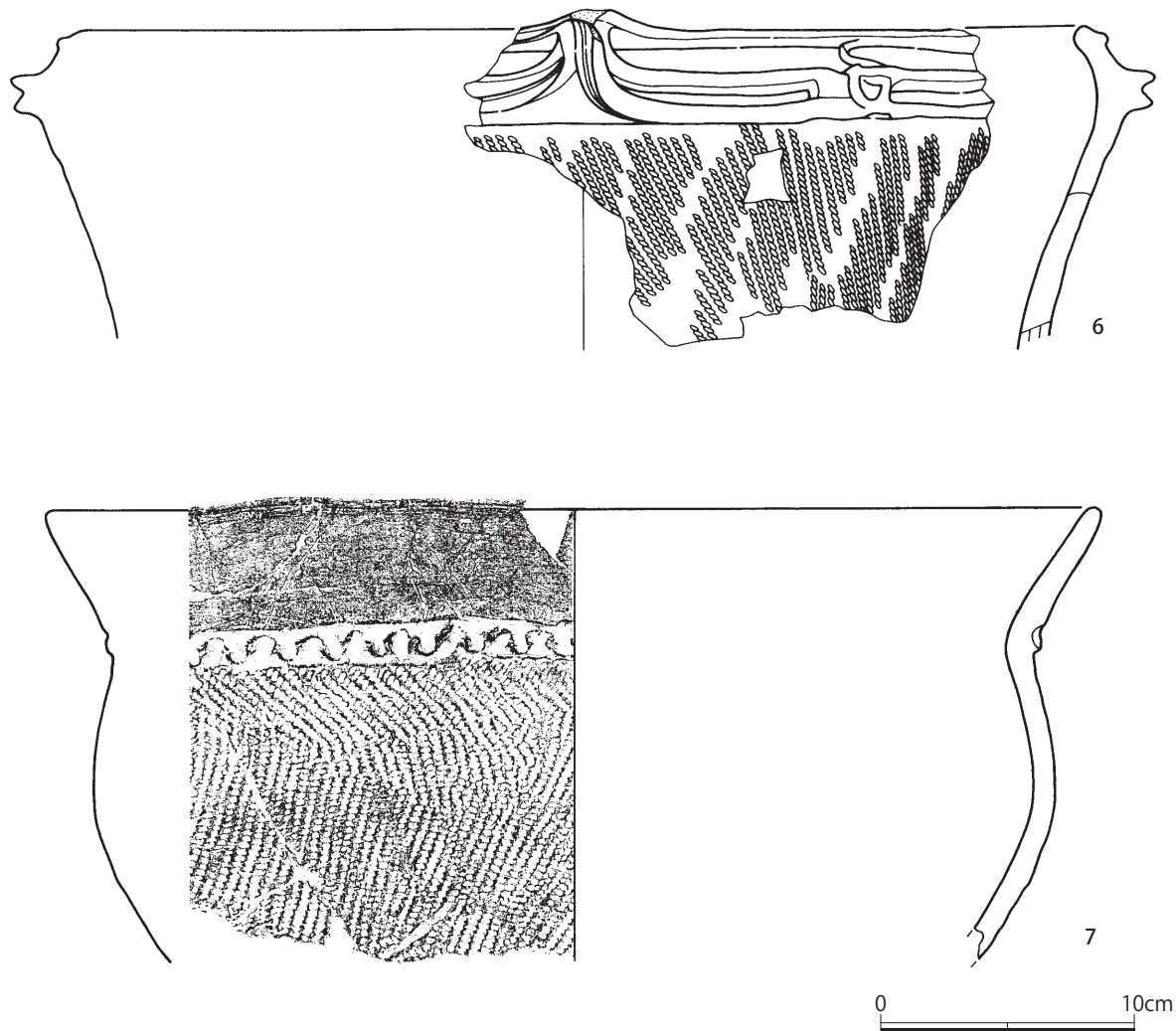
第 171 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 15 号土坑 (SK15)



第 172 図 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 5 号土坑出土遺物

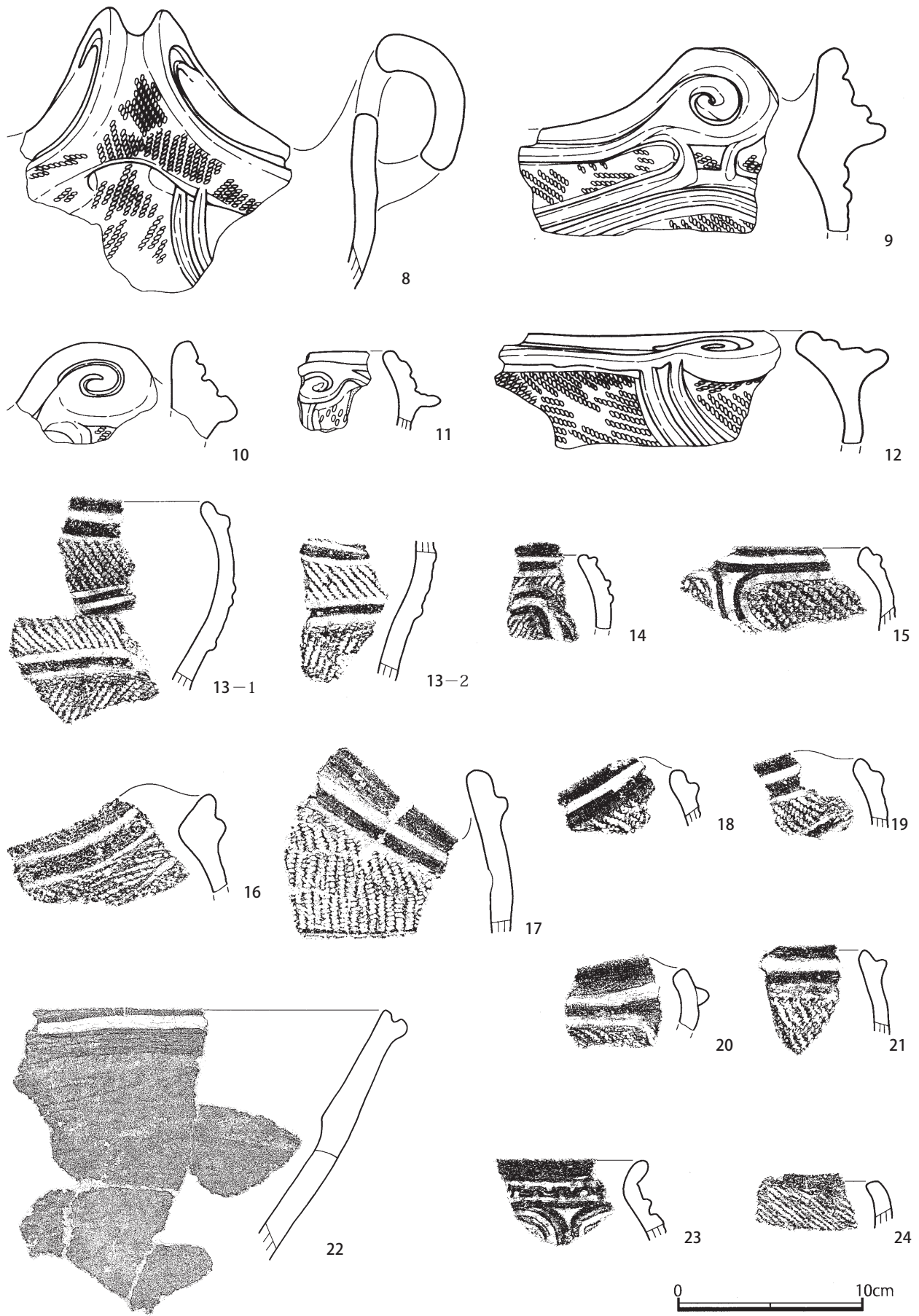


第 173 图 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 7 号土坑出土遺物（1）

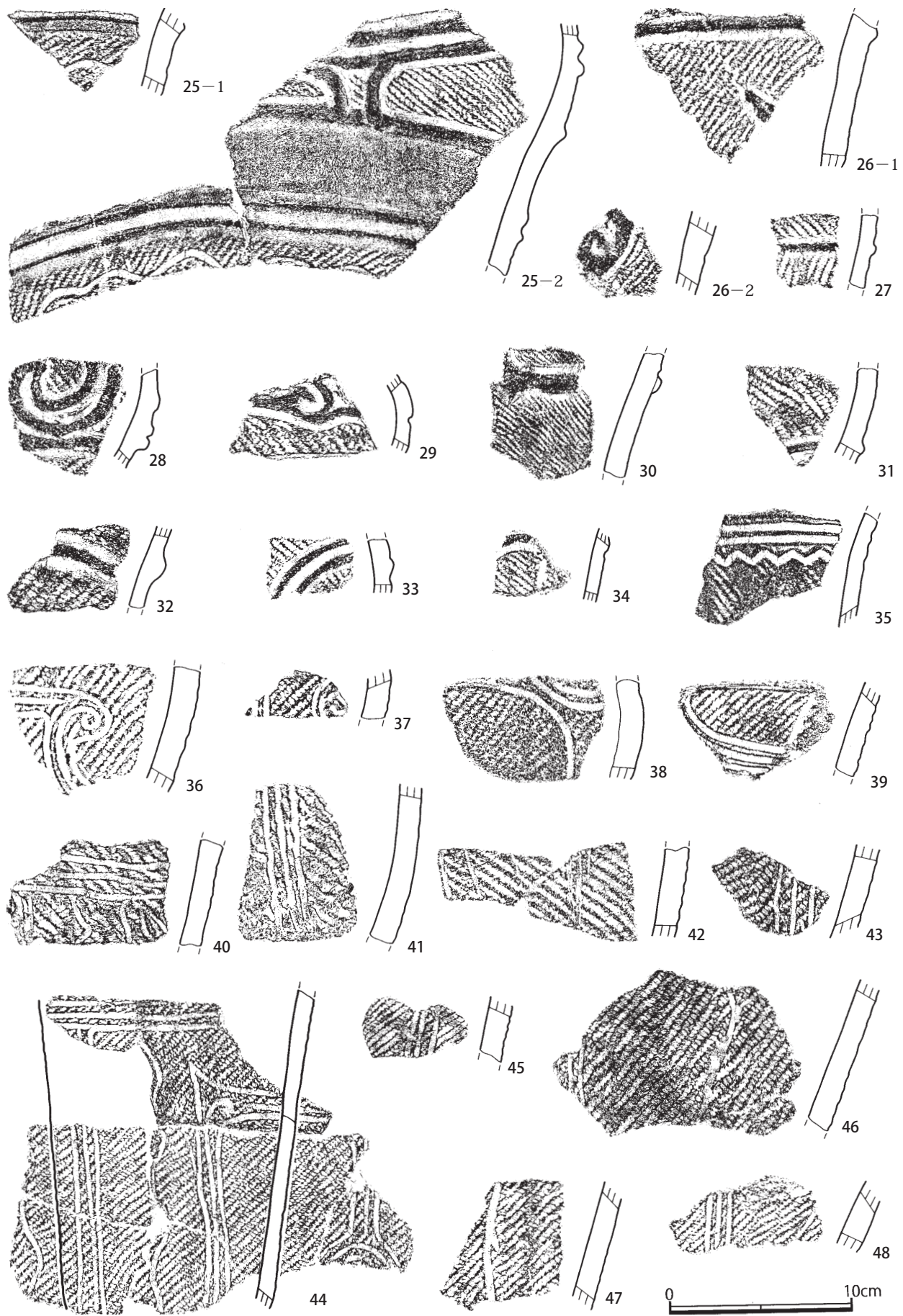


第174図 軍民坂遺跡（第4地点）第7号土坑出土遺物（2）

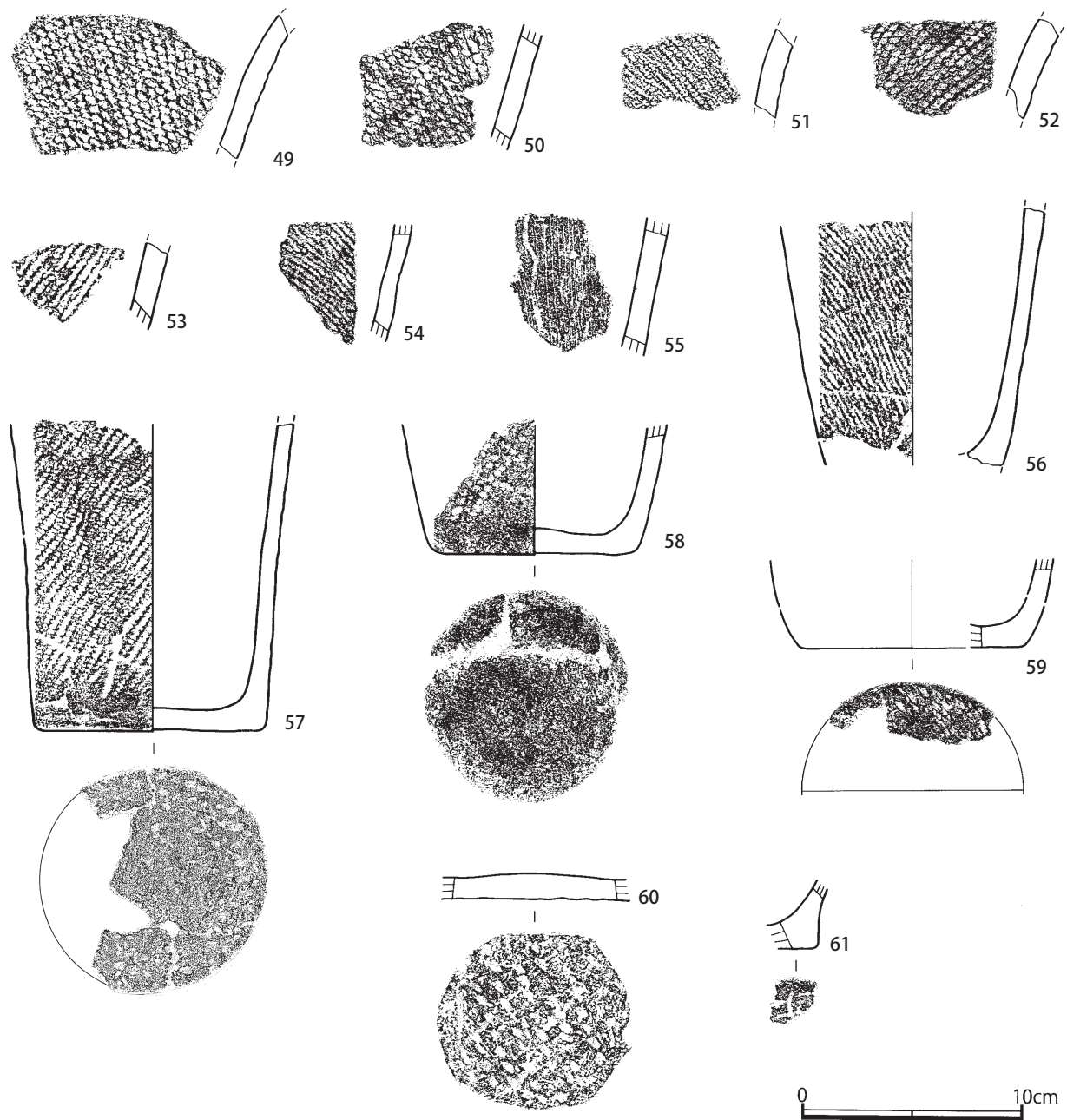
出土石器（第183～184図） 1は剥片。背面には主要剥離面と同一方向だけでなく対向・直交する方向の剥離面も観察されることから、90°打面転移方式により剥離されたものとみられる。使用されている石材は先土器時代の石器に多用される久慈川産の珪質頁岩であることから、先土器時代の遺物と考えられる。2～3はSI01の下層から出土した石鏃で、いわゆる凹基無茎鏃に分類されるものである。石材にはチャートが用いられている。4～6は磨製石斧で、4・5は研磨痕が研磨により形成された面が観察される。4はSK07、5はSK11から出土したものである。6はSK12から出土したもので、一見打製石斧にも見えるが、分厚いため、磨製石斧の未製品と考えられる。7～8はSK07から出土した敲磨具で、表裏両面に凹みが観察される。7は上面・下面・右側面に敲打痕が観察される。9～10は石皿で片面に凹みが観察される。9はSK06、10はSK07から出土したものである。11はSK10のA区から出土したホルンフェルス製の剥片である。背面には自然面と主要剥離面と直交・対向する剥離面が観察されることから90°打面転位石核から剥離されたものと考えられる。磨製石斧と石材が共通することから素材剥片として剥離されたものであった可能性がある。12はSK07のB区から出土したチャート製の石核である。石鏃と石材が共通することから、素材剥片を剥離した残核とみられる。13はSK19から出土したホルンフェルス製の石核である。磨製石斧と石材が共通することから素材剥片を剥離しようと試みたが、大型の剥片が剥離できなかったことから廃棄された残核とみられる。14～16はSK07・SK06・SK19から出土した敲磨具である。14は下面に打撃により平坦な剥離面を作りだし、敲打痕が下面から左側面にかけて顕著に観察される。敲打痕は上面にも認められる。石材には石英斑岩が利用されている。15・16はいずれも石材に安山岩が利用されている。15は表面に研磨痕が顕著に見られ、16は全面が赤化していることから炉石として利用されたものの再利用品の可能性がある。（川口）



第 175 图 軍民坂遺跡 (第 4 地点) 第 7 号土坑出土遺物 (3)



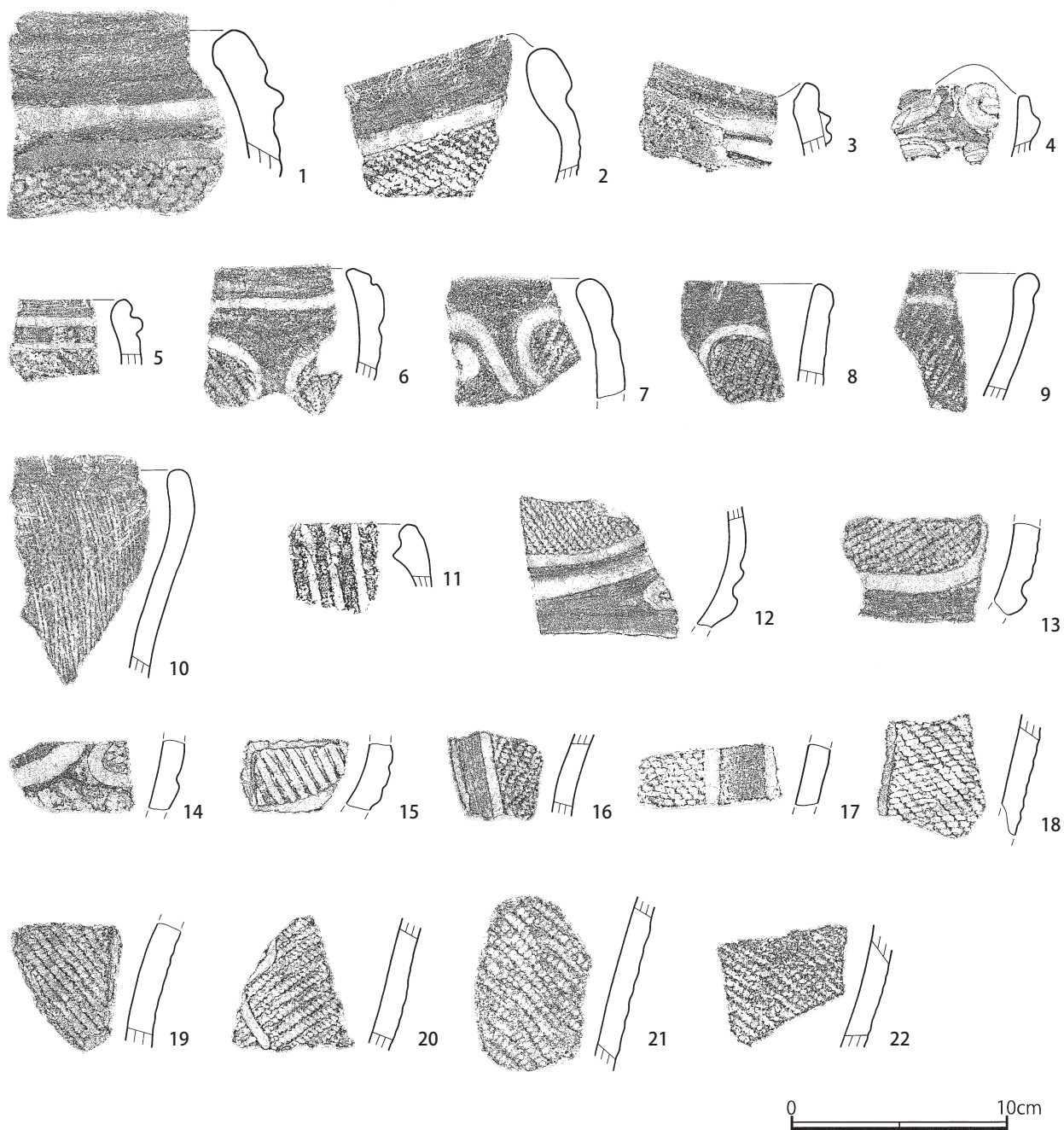
第 176 图 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 7 号土坑出土遺物（4）



第 177 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 7 号土坑出土遺物（5）

(6) 総括～軍民坂遺跡（第 4 地点）における土地利用の変遷～

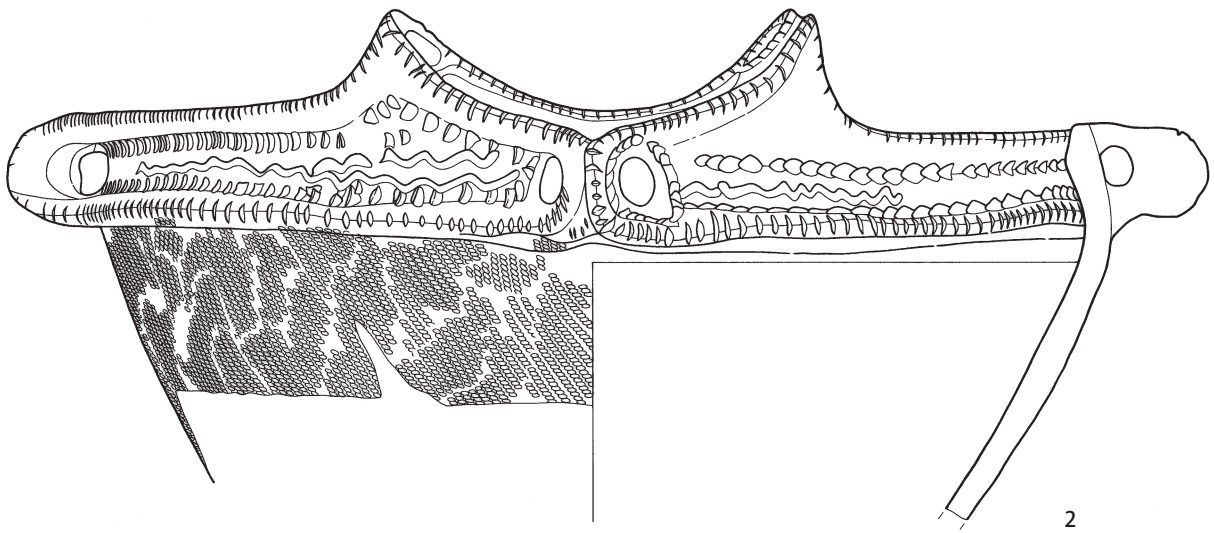
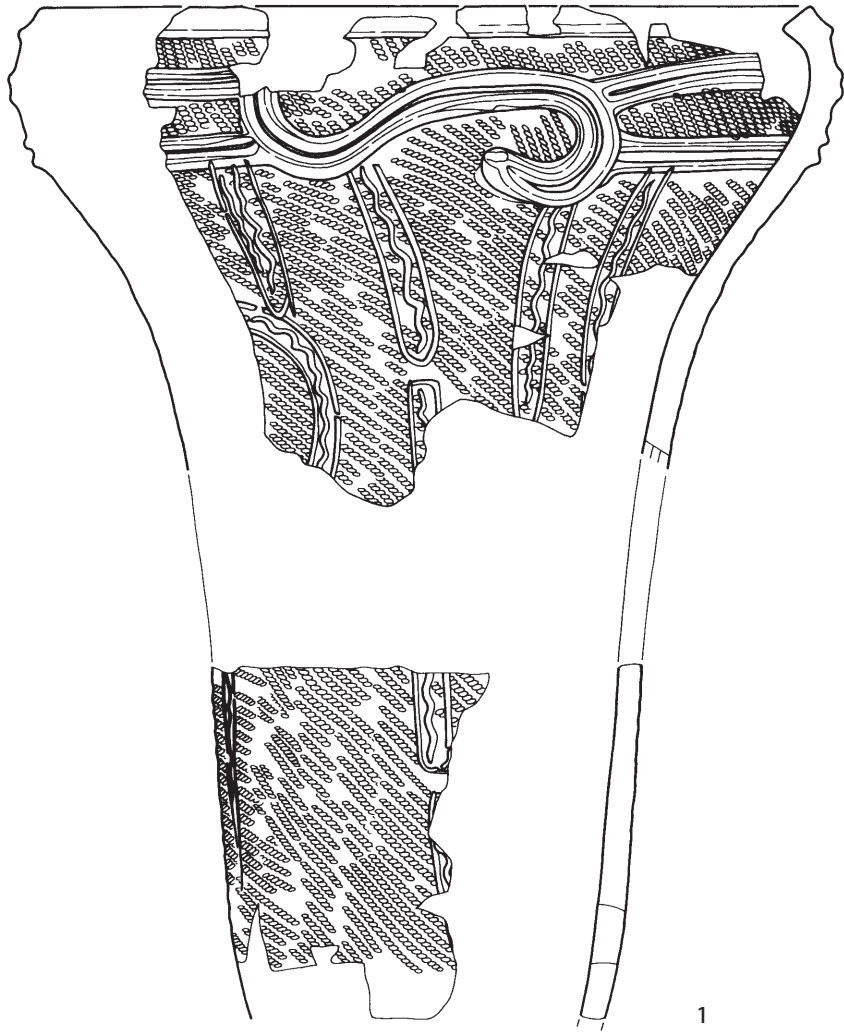
今般の本発掘調査により、軍民坂遺跡（第 4 地点）においては、縄文時代・古代・中世の土地利用が展開していたことが明らかとなった。遺構の変遷を確認すると、縄文時代中期後半の「加曾利 E1 式」・「大木 8a 式」・「大木 8b 式」の土坑である SK07・SK12 が最初に掘削され、続いて、「加曾利 E2 式」・「加曾利 E3 式」の土坑である SK05・SK11 が掘削される。他の土坑については、遺物の出土量が少ないため、詳細な時期は明確にし得ないが、概ね近い時期の所産とみて間違いはなからう。縄文時代の遺構は、平成 18 年に調査した第 2 地点（川口・色川編 2009）と並行する時期のものもみられるが、第 4 地点の方がやや古い時期の遺構の展開が見られることが明らかとなった点は本調査の大きな成果のひとつである。今回検出された遺構は、土坑 40 基とピット 1 基であるが、茨城



第178図 軍民坂遺跡（第4地点）第11号土坑出土遺物

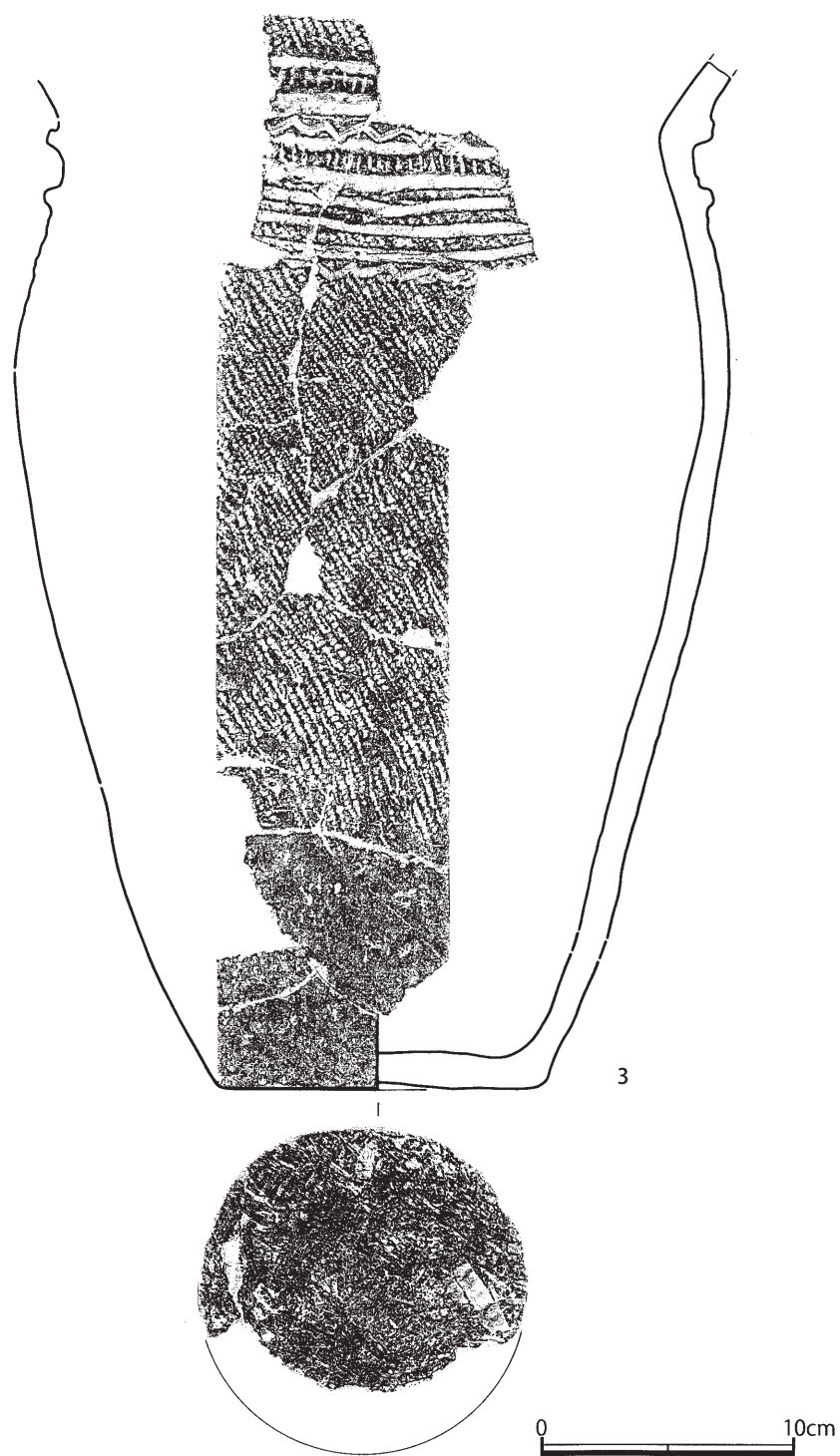
県域の縄文時代中期集落では、環状に竪穴建物跡が配置され、その中心部に群集貯蔵穴が展開する傾向があり、これらの土坑とピットが群集貯蔵穴であるとする、竪穴建物跡は今般の調査地点の外側に展開することになる。ただし、規模の大きい土坑のうち、SK10・11は覆土・断面構造から竪穴建物跡の可能性もあり、集落構造の解明はさらなる周辺の調査の蓄積を待たなければならない。なお、今般の調査で確認された遺構群に後続する中期末や後期・晩期の土地利用の痕跡は一切みられず、次の土地利用の痕跡が見いだせるのは古代である。

7世紀第4四半期になると、斜め方位の主軸を採る竪穴建物跡 SI01 が営まれ、その廃絶後の8世紀以降に掘立柱建物跡 SB01 が重複する形で同一地点に建てられた。掘立柱建物跡 SB01 の廃絶時期は不明であるが、大型の側柱式構造の掘立柱建物跡であったとみられる。その性格については、出土遺物が少ないため明確にはできないが、平成19年に調査した第3地点では、底面に「河厨」と記銘された墨書土器が出土しており（川口・色川編 2010）、「河

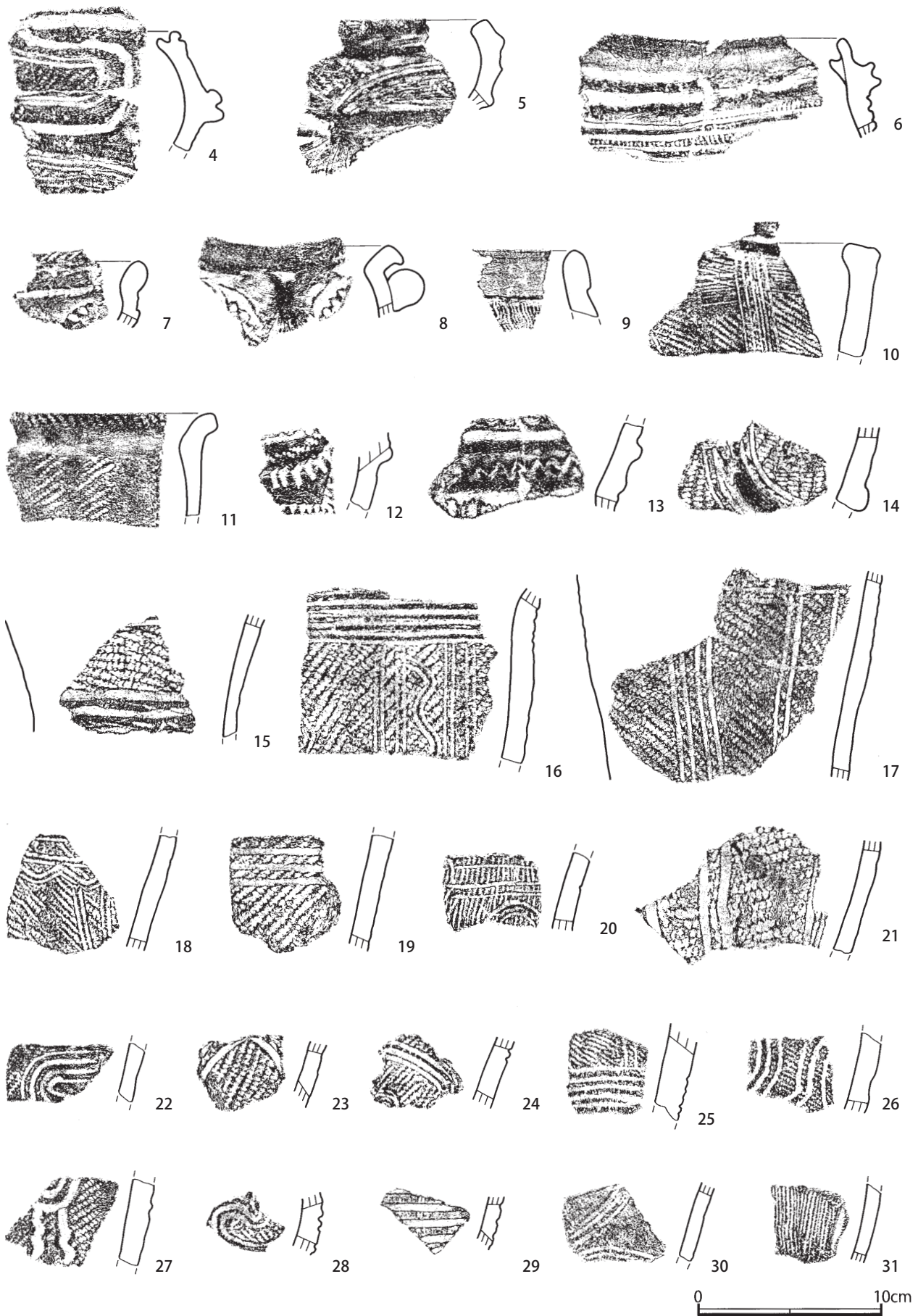


0 10cm

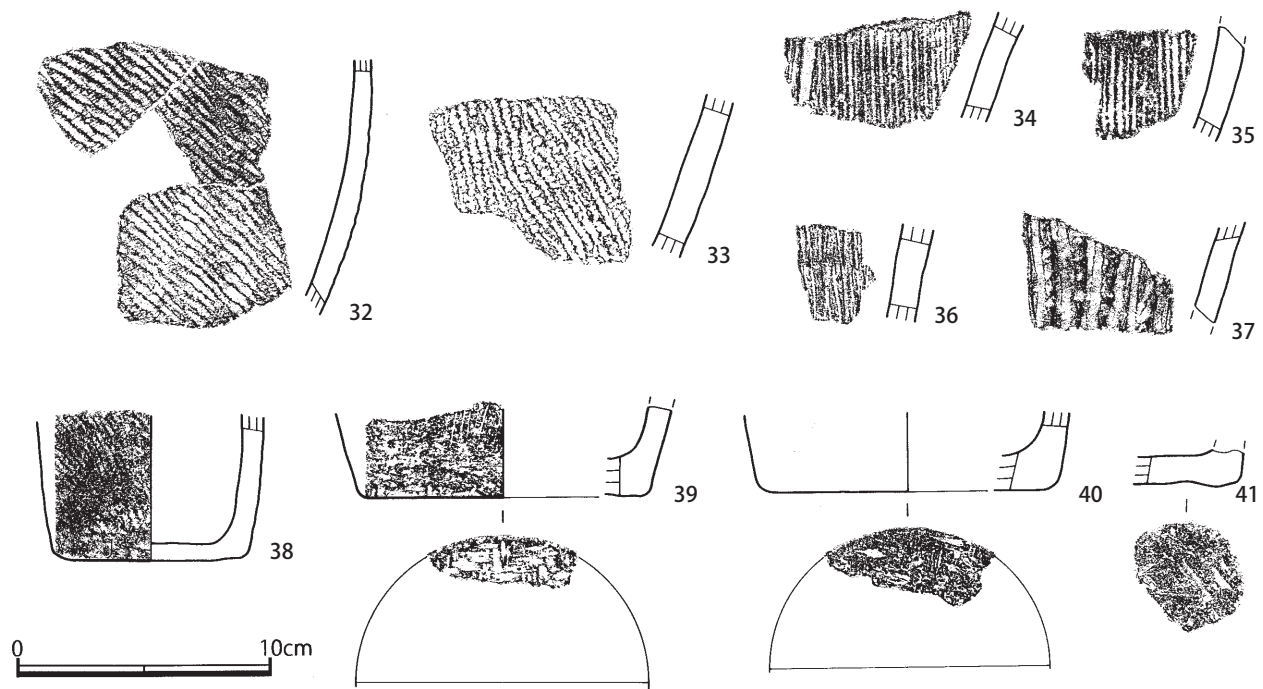
第 179 图 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 12 号土坑出土遺物（1）



第 180 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 12 号土坑出土遺物（2）

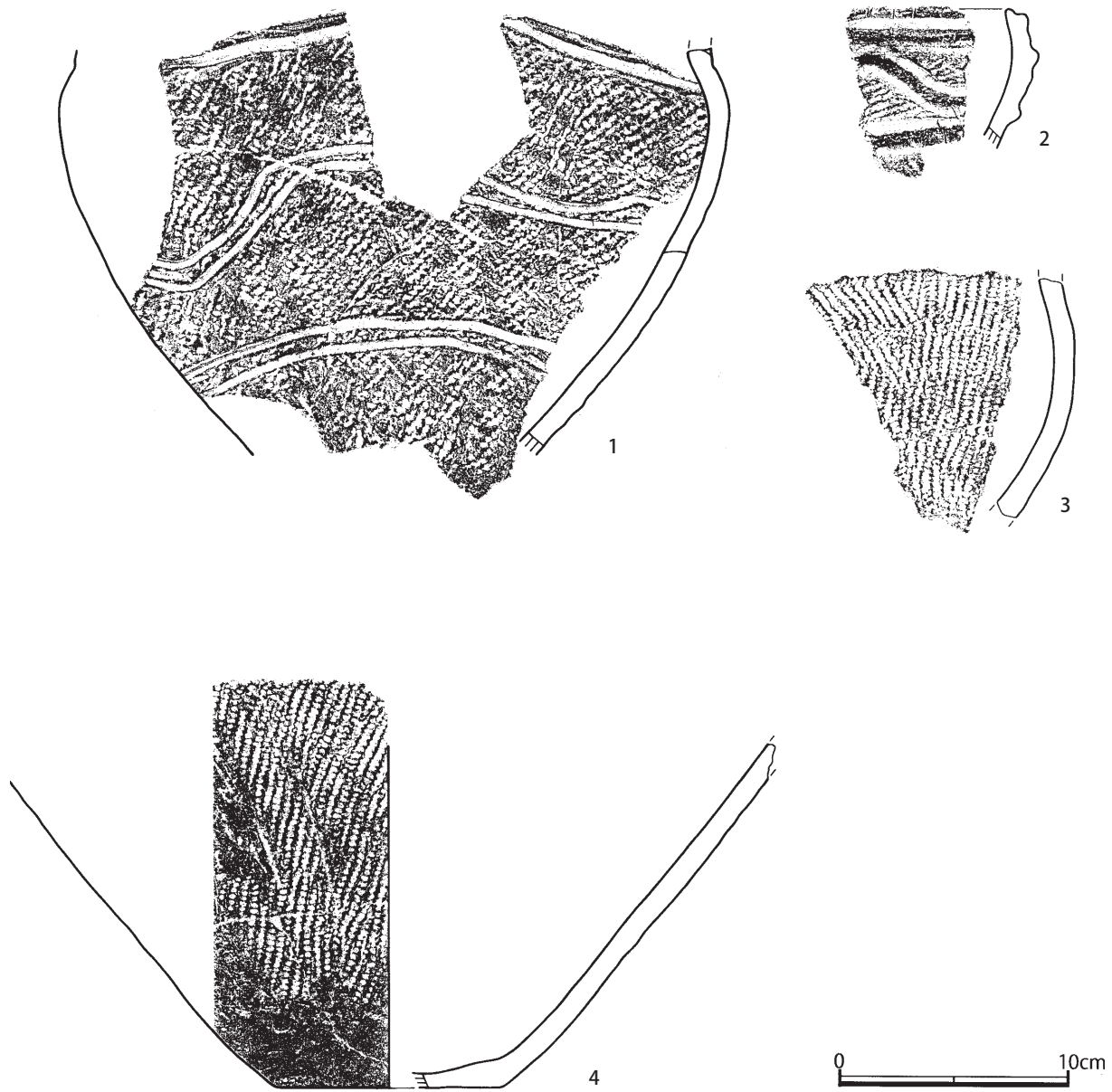


第 181 图 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 12 号土坑出土遺物（3）

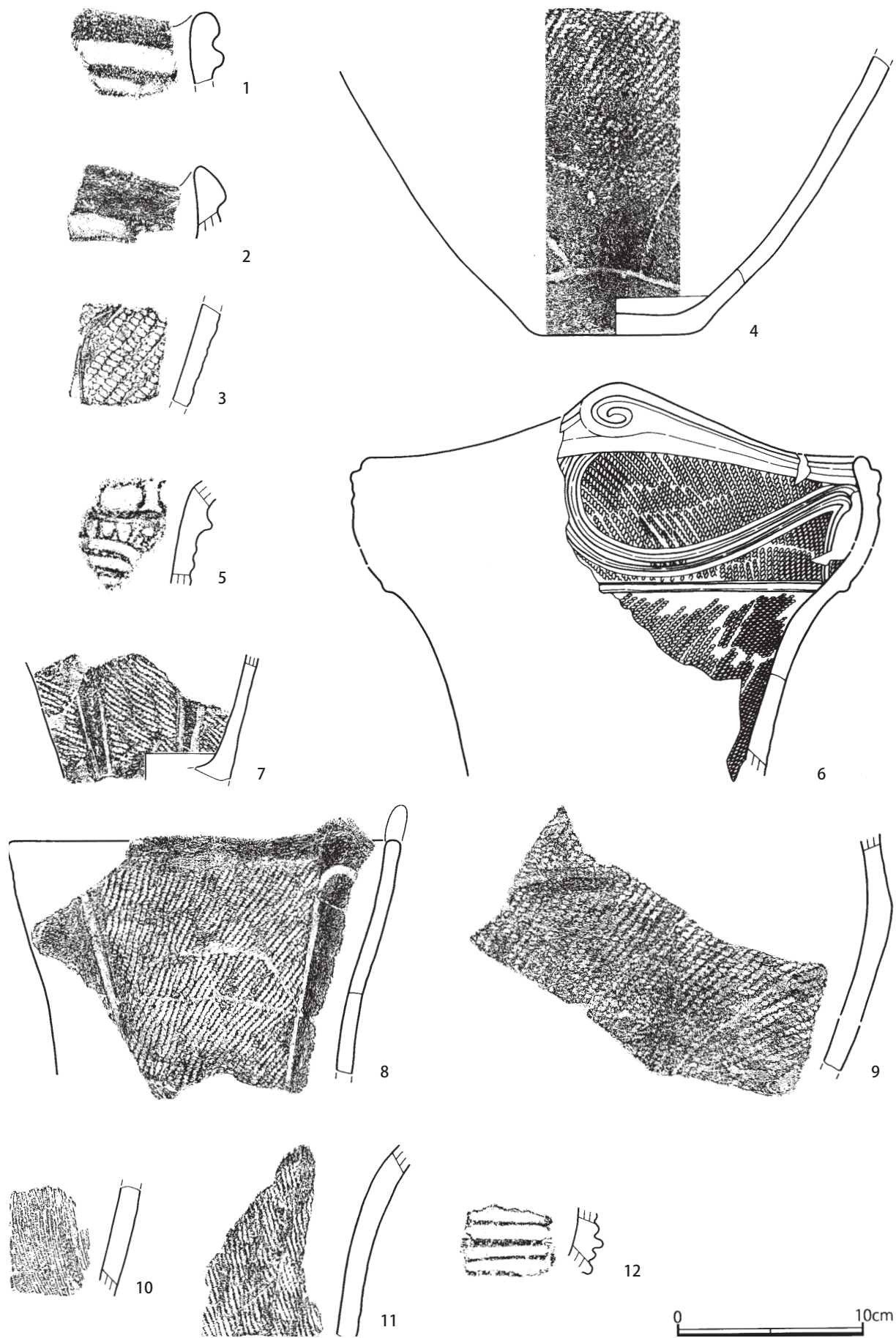


第 182 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 12 号土坑出土遺物（4）

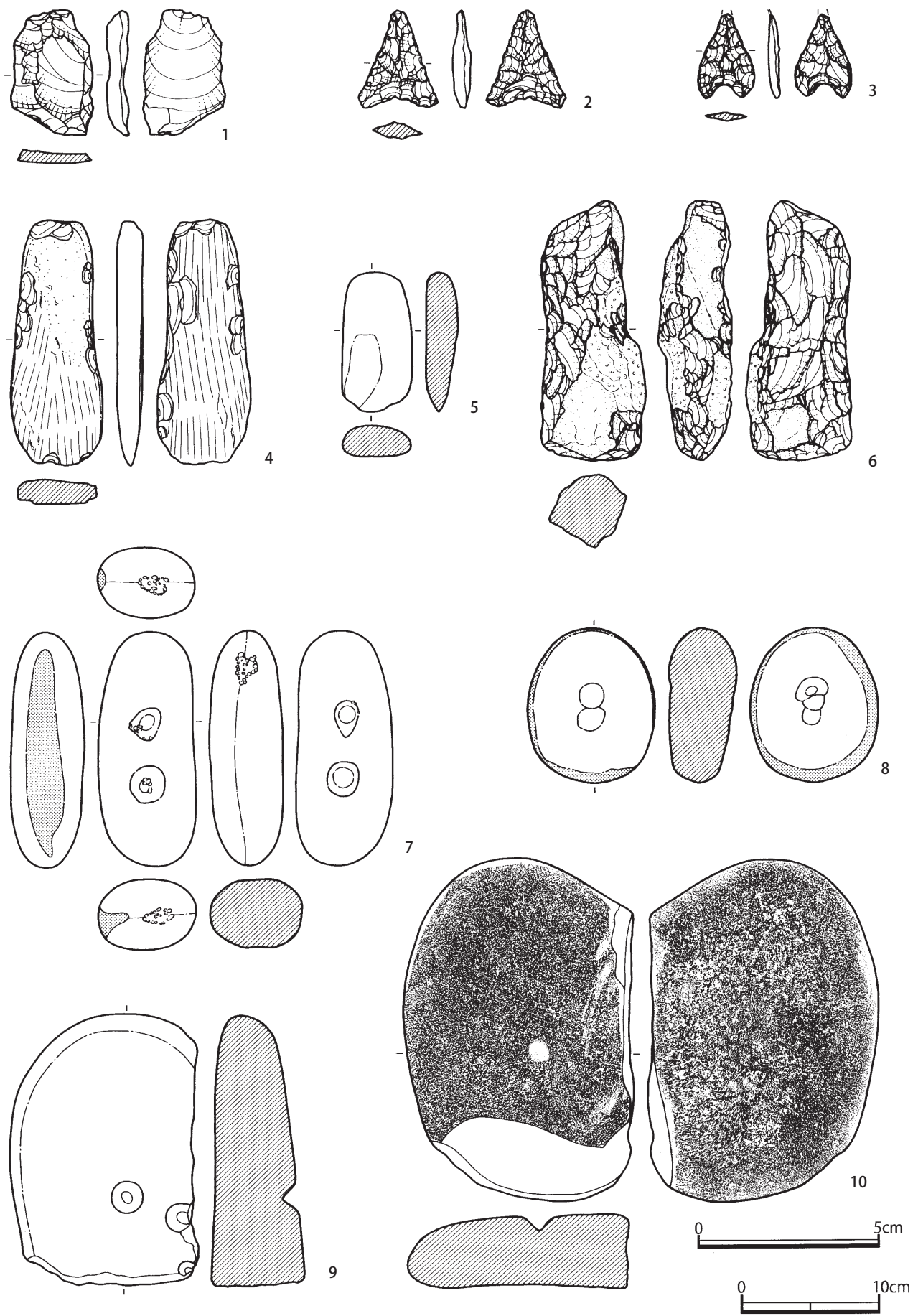
内駅家」あるいは「河内郷」に存在した厨家施設に帰属していた器の可能性が指摘されている（川口 2011）。本地点で確認された掘立柱建物跡 SB01 もそうした官衙施設との関連性も視野に入れて検討していく必要がある。そして、中世以降になると、小規模な掘立柱建物跡 SB02 ～ SB05 が営まれた。これらの掘立柱建物跡には遺物が伴わないため、明確な時期や性格も不明だが、本遺跡における土地利用はこれまでは古代まででしか確認されておらず、中世以降にも土地利用が展開していたことが明らかとなったのは本調査により得られた新知見と言える。雑駁であるが以上が本地点の発掘調査を通じて捉えられる土地利用の変遷である。（川口）



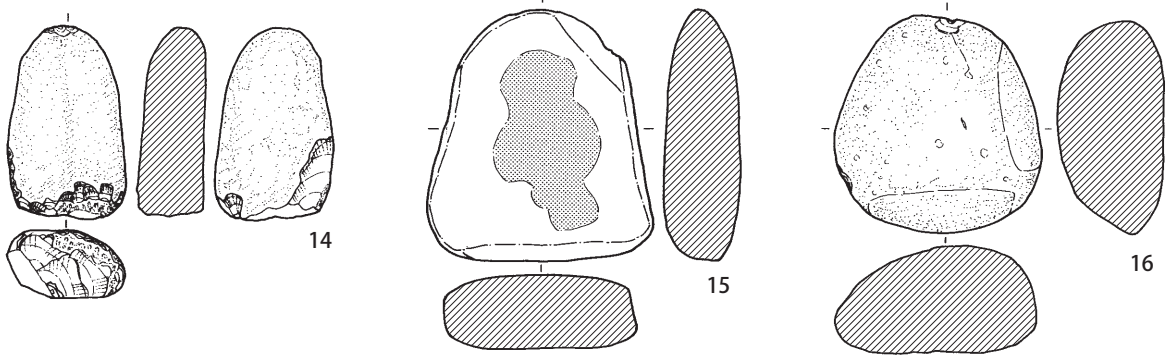
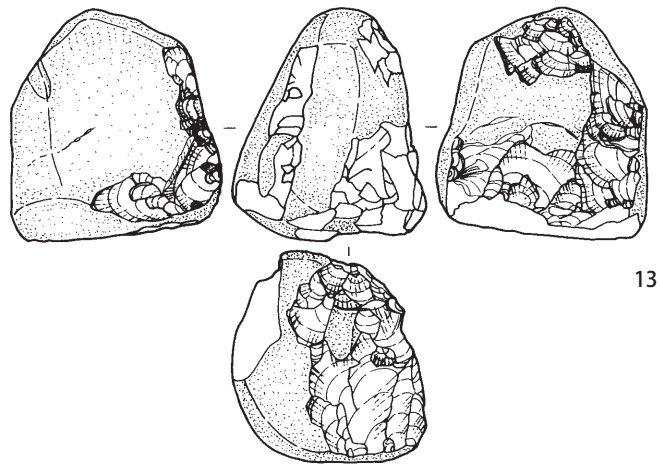
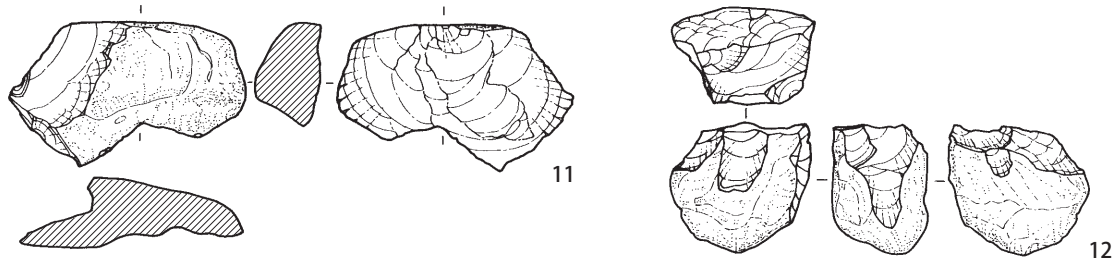
第 183 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 15 号土坑出土遺物



第 184 图 軍民坂遺跡（第 4 地点）第 3・6・10・19・20・22・23・26・36 号土坑出土遺物



第 185 图 軍民坂遺跡（第 4 地点）出土石器（1）



0 10cm
(11・13～16のスケール)

0 5cm
(12のスケール)

第186図 軍民坂遺跡（第4地点）出土石器（2）

第 11 表 土器・陶磁器・瓦観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					細別	口径	底径						
11	1	大鋸町遺跡 (第 11 地点)	トレンチ 1 確認面	縄文土器	—	—	—	波状貝殻文	—	砂粒(白・透)	良好	明赤褐(5YR5/6)・ にぶい黄橙(10YR6/4)	縄文時代前期 後半「浮島式」
	2	大鋸町遺跡 (第 11 地点)	トレンチ 1 S101	土師器・坏	(14.2)	(6.2)	4.6	外面口縁部ヨコナ デ、体部～底面へ ラ削り、内面ヨコ ナデ	口径 40% 底径 34%	骨針、砂粒 (透)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)～灰 黄褐(10YR4/2)	6世紀
14	1	谷田古墳群 (第 11 地点)	トレンチ 1	土師器・甕	(14.6)	—	[3.9]	内外面ハケ→ナデ	口径 10%	砂粒(白多)	良好	橙(7.5YR6/6)・ 明赤褐(5YR5/6)	4世紀後半
17	1	吉田古墳群 (第 7 地点第 1 次)	SD01	弥生土器	—	—	—	口唇部は縄文Lを Z巻き、回転施 文、外面は縄文R をS巻き・LをZ 巻き(軸不明)	—	砂粒(白)	良好	にぶい黄橙(10YR6/4)・ にぶい黄橙(10YR6/3)	弥生時代後期 後半「十王台 式」
	2	吉田古墳群 (第 7 地点第 1 次)	SD01	弥生土器	—	—	—	口唇部は縄文原体 の回転施文、外面 は縄文LをZ巻き →RをS巻き(軸 不明)、隆帯(1 条以上)	—	砂粒(白)	良好	橙(7.5YR6/6)・ にぶい黄橙(10YR6/3)	弥生時代後期 後半「十王台 式」
	3	吉田古墳群 (第 7 地点第 1 次)	SD01	弥生土器	—	—	—	櫛歯状工具(5本) による文様(縦位 区画→波状文)	—	砂粒(白・透)	良好	橙(7.5YR7/6)・ にぶい黄(2.5Y6/3)	弥生時代後期 後半「十王台 式」
	4	吉田古墳群 (第 7 地点第 1 次)	SD01	弥生土器	—	—	—	櫛歯状工具(5本) による波状文、外 面に炭化物付着	—	砂粒(白・透)	良好	黒褐(10YR3/2)・ 黄褐(2.5Y5/3)	弥生時代後期 後半「十王台 式」
	5	吉田古墳群 (第 7 地点第 1 次)	SD01 覆土上 層	須恵器・短頸瓶	(12.0)	—	[4.7]	ロクロ水挽き成 形、頸部～肩部に かけて自然釉付着	口径 12%	砂粒(白・黒)	硬質 堅緻	灰(7.5Y6/1)	9世紀前半、 木葉下産
20	1	吉田古墳群 (第 8 地点)	S101 床直	須恵器・無台坏	(14.0)	(8.6)	4.1	ロクロ水挽き成形	口径 41% 底径 47%	骨針、砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰(5Y6/1)	8世紀後半
	2	吉田古墳群 (第 8 地点)	トレンチ 1 S101	須恵器・無台坏	(11.3)	(6.8)	3.5	ロクロ水挽き成形	口径 13% 底径 26%	骨針、砂粒 (白・黒)	硬質 堅緻	灰オリーブ (5Y6/2)	8世紀後半
	3	吉田古墳群 (第 8 地点)	トレンチ 1 S101	須恵器・無台坏	—	(7.4)	[2.6]	ロクロ水挽き成形	底径 18%	砂粒(白・透)	硬質 堅緻	灰(5Y4/1)・ 灰オリーブ(5Y6/2)	8世紀後半
	4	吉田古墳群 (第 8 地点)	トレンチ 1 S101	須恵器・無台坏	—	(9.0)	[2.6]	ロクロ水挽き成形	底径 15%	砂粒(白)	硬質 堅緻	黄灰(2.5Y4/1)・ 灰黄(2.5YR6/2)	8世紀後半
	5	吉田古墳群 (第 8 地点)	トレンチ 1 S101	須恵器・蓋	(14.0)	—	[2.0]	ロクロ水挽き成形	口径 9%	砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰(7.5Y6/1)	8世紀後半
29	1	福沢古墳群 (第 5 地点)	—	磁器・碗 丸碗	—	(5.2)	[3.3]	轆轤成形/染付/ 畳付無釉、外面草 花文、高台二重圈 線	1/2 以下				18世紀以降、 肥前産
	2	福沢古墳群 (第 5 地点)	—	磁器・急須蓋	受部径 6.0	—	[1.4]	轆轤成形/コバル ト染付/受部無 釉、外面区画文、 摘み欠損	1/2 以上				1870年代以降
	3	福沢古墳群 (第 5 地点)	—	土器・かわらけ	—	(8.8)	[1.4]	轆轤成形、糸切底 (不明)	底径 16%	砂粒(白)	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	中世後期～近世
34	1	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次)	トレンチ 3	弥生土器	—	—	—	付加条第 1 種 L R + R・R L + L、 外面に炭化物付着	—	金多・砂粒 (白)	良好	黒褐(2.5Y3/2)	弥生時代後期 後半
	2	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次)	トレンチ 4	弥生土器	—	—	—	付加条第 1 種 L R + R・LをZ巻き (軸不明)、外面に 炭化物付着	—	砂粒(白・透)	普通	にぶい黄橙(10YR6/4)・ 灰黄褐(10YR5/2)	弥生時代後期 後半
	3	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次)	トレンチ 4	土師器・坏	—	—	[4.3]	外面口縁部ヨコナ デ、体部横位ヘラ 削り、内面ヨコナ デ	—	砂粒(白・透)	良好	明赤褐(5YR5/6)	6世紀
	4	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次)	トレンチ 3	土師器・甕	—	(6.6)	[4.5]	外面ヘラ削り、内 面ハケ→ヘラナデ	底径 26%	砂粒(白・透)	良好	にぶい黄褐 (10YR5/3)・ にぶい橙 (7.5YR6/4)	古墳時代後期
	5	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次)	トレンチ 4	須恵器・無台坏	—	(7.2)	[1.3]	ロクロ水挽き成形	底径 22%	砂粒(白・ 黒多)	硬質 堅緻	灰(5Y6/1)	8世紀後半～ 9世紀前半
	6	薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次)	トレンチ 4	須恵器・有台坏	—	(8.0)	[2.5]	ロクロ水挽き成形	底径 16%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄(2.5Y7/2)・ 黄灰(2.5Y5/1)	8世紀後半～ 9世紀前半
37	1	乗越沢遺跡 (第 1 地点)	—	須恵器・有台坏	(10.4)	—	[3.4]	ロクロ水挽き成形	底径 26%	砂粒(白多)	硬質 堅緻	黄灰(2.5Y5/1)	9世紀
	2	乗越沢遺跡 (第 1 地点)	—	瓦質土器・火鉢 か	—	(16.0)	[5.3]	透かしあり、穿孔 (焼成前)あり	底径 13%	砂粒(白)	良好	黄灰(2.5Y4/1)	近世以降
42	1	若林遺跡 (第 1 地点第 4 次)	SK01	縄文土器	(22.0)	—	[16.9]	隆起線文、単節斜 縄文 L R	口径 14%	砂粒(白多・ 透多)	良好	黒褐(5YR2/1)	縄文時代中期
	2	若林遺跡 (第 1 地点第 4 次)	トレンチ 2	縄文土器	—	—	—	隆起線文、複節斜 縄文 R L R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	褐灰(10YR4/1)	縄文時代中期
	3	若林遺跡 (第 1 地点第 4 次)	トレンチ 3	縄文土器	—	—	—	隆起線文、単節斜 縄文 L R	—	金、砂粒(白・ 透)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)・橙 (7.5YR6/6)	縄文時代中期
	4	若林遺跡 (第 1 地点第 4 次)	トレンチ 3	縄文土器	—	—	—	隆起線文、単節斜 縄文 L R、内面に 炭化物付着	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黄褐(2.5Y5/3)・ 黒褐(2.5Y3/1)	縄文時代中期
	5	若林遺跡 (第 1 地点第 4 次)	トレンチ 2	縄文土器	—	—	—	沈線文、単節斜 縄文 R L	—	金多、砂粒 (白多)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)・黒 褐(10YR3/1)	縄文時代中期
	6	若林遺跡 (第 1 地点第 4 次)	トレンチ 3	縄文土器	—	—	—	隆起線文、沈線文、 単節斜縄文 R L	—	砂粒(白・黒・ 透)	良好	にぶい黄褐 (10YR5/4)	縄文時代中期

図 版	番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 (外面・内面)	備考	
					口径	底径	器高							
42	7	若林遺跡 (第1地点第4次)	トレンチ3	縄文土器	—	—	—	沈線文、擦糸文	—	砂粒(白)	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)・ 暗灰黄(2.5Y5/2)	縄文時代中期	
	8	若林遺跡 (第1地点第4次)	トレンチ6	縄文土器	—	—	—	隆起線文(棒状工 具による刻みあり)、 沈線文	—	砂粒(白多)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)	縄文時代中期	
	9	若林遺跡 (第1地点第4次)	トレンチ1	縄文土器	—	(8.8)	[3.6]	沈線文、単節斜縄 文LR、内面に炭 化物付着	底径 49%	砂粒(白多・ 透多)	良好	にぶい褐(7.5YR5/4)・ にぶい黄橙(10YR5/3)	縄文時代中期	
51	1	環遺跡 (第11地点第1次)	旧耕作土中	縄文土器	—	—	—	隆起線文、単節斜 縄文LR	—	砂粒(白多)	普通	にぶい黄(2.5Y6/3)・ 浅黄(2.5Y7/3)	縄文時代中期	
	2	環遺跡 (第11地点第2次)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	無節斜縄文L	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	にぶい黄橙(10YR6/4)・ 暗灰黄(2.5Y5/2)	縄文時代中期	
	3	環遺跡 (第11地点第1次)	旧耕作土中	縄文土器	—	—	—	無節斜縄文L	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黒褐(10YR3/2)・ にぶい黄橙(10YR5/3)	縄文時代中期	
	4	環遺跡 (第11地点第1次)	旧耕作土中	焼締陶器・鉢	—	—	—	紐積み轆轤成形/ 外面降帯貼付/外 面櫛歯状工具(9 本)による文様	—	—	—	—	—	近代
	5	環遺跡 (第11地点第2次)	表採	焼締陶器・灯火具・ 燈明受付皿	10.0	4.5	2.3	轆轤成形/受部貼 付・切り込み有り 鉄釉、底部種拭 き取り、外面直重 ね痕	完形	—	—	—	—	18世紀後半 以降、在地産
	6	環遺跡 (第11地点第1次)	旧耕作土中	瓦・椀瓦 板状不明	全長 (7.7)	厚さ (2.0)	重量 117g	板作成形・型あて 成形	—	砂粒(白)	硬質	灰(7.5Y5/1)	—	近世~近代
54	1	環遺跡 (第13地点)	—	土器・内耳鍋	(28.2)	—	[7.8]	紐積み轆轤成形、外面 口縁部ヨコナデ、胴部 ヘラナデ、内面口縁部 ヨコナデ、外面に炭化 物付着、内耳貼付残0	口径 8%	金、骨針、 砂粒(白・透)	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	15世紀後半 ~16世紀	
57	1	赤塚遺跡 (第5地点第2次)	確認面	須恵器・無台環	—	(8.8)	[1.8]	ロクロ水挽き成 形、底面にヘラ記 号あり	底径 18%	骨針、砂粒 (白)	硬質 堅緻	黄灰(2.5Y6/2)・ 黄灰(2.5Y6/1)	—	
	2	赤塚遺跡 (第5地点第2次)	トレンチ5 P1	土器・かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.4	轆轤成形/糸切底 (左)	1/2 以下	砂粒(赤)	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)	中世・近世	
63	1	周知外 (河和跡近接)	—	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LR	—	金・砂粒(白)	良好	明赤褐(5YR5/6)	縄文時代	
	2	周知外 (河和跡近接)	—	土製品(海老)	全長 9.8	厚さ 1.7	重量 44g	型押成形/全面に 彩色(黒)	ほぼ完形	金	良好	にぶい赤褐(5YR4/1)	近代以降	
66	1	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.8-9 SIO1カマド	土師器・甕	(15.6)	—	[7.4]	外面口縁部ヨコナ デ、胴部ヘラナデ、 内面ヘラミガキ	口径 21%	砂粒(白多・ 黒多・透多)	良好	明褐(7.5YR5/6)	6世紀後半	
	2	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.8-9 SIO1カマド	土師器・甕	(15.6)	—	[7.4]	外面ヘラナデ、内 面横位ヘラミガ キ、横位ヘラナデ、 底面ナデ	底径 100%	砂粒(白・透)	良好	明赤褐(5YR5/6)・ 黒褐(10YR3/2)	6世紀後半	
	3	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.8-9 SIO1カマド	土師器・甕	—	8.7	[25.1]	外面ヘラ削り、ヘ ラミガキ、内面ヘ ラナデ、外面に炭 化物付着	底径 47%	砂粒(白多)	良好	黒褐(7.5YR3/1)・ 明赤褐(5Y5/6)	6世紀後半	
	4	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.8-9 SIO1カマド	土師器・甕	—	(8.7)	[5.7]	外面口縁部ヨコナ デ、体部ヘラ削り、 内面口縁部ヨコナ デ	口径 41%	砂粒(透)	良好	橙(7.5YR6/6)	6世紀後半	
	5	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.10-11. SD硬化面上 (トレンチ5)	土師器・環	(13.4)	—	[4.6]	外面口縁部ヨコナ デ、環部・脚部ヘ ラミガキ、内面環 部ヘラミガキ、脚 部ヘラナデ	底径 43%	骨針、砂粒 (白・透)	良好	橙(7.5YR6/6)・ 明褐(7.5YR5/6)	6世紀後半	
	6	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	不動尊堂周 辺表採	土師器・高環	—	(12.4)	[9.0]	ロクロ水挽き成 形	底径 20%	砂粒(白)	良好	灰(7.5Y5/1)	9世紀	
	7	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.10-11 SD01上層 (トレンチ4)	須恵器・瓶	—	(11.8)	[7.3]	轆轤成形/外面に 櫛歯状工具(8本) による文様あり、 炭化物付着	底径 13%	砂粒(白)	良好	褐灰(10YR4/1)・ 黒(10YR2/1)	近世~近代	
	8	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.10-11 SD01中層 (トレンチ5)	土器・焙烙	—	—	[4.8]	内外面ナデ	口径 21%	砂粒(白多)	良好	黒(5Y2/1)・ にぶい黄橙(10YR7/4)	中世以降	
	9	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.10-11 SD01(トレ ンチ7)	土製品・羽口	全長 5.5	口径 (6.0)	重量 39g	内外面ナデ、外面 に鉄滓付着	—	砂粒(白・透)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)	中世	
	10	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホール No.10-11 (トレンチ6)	土製品・羽口	全長 7.3	—	重量 86g	—	—	—	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)	中世	
	13	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	マンホー ルNo.10. SD01上層 (トレンチ4)	磁器・碗 丸碗	—	3.8	[2.7]	轆轤成形/染付/ 畳付無釉・砂付着、 外面花唐草文、高 台脇一重圈線、高 台部二重圈線、高 台内一重圈線、底 裏銘「渦福」	底径 100%	—	—	—	—	肥前産、17 世紀末~19 世紀中
	14	仙光内遺跡 (第3地点第3次)	不動尊堂周 辺表採	土器・かわらけ	(5.8)	(3.4)	1.1	轆轤成形、糸切底 (不明)	口径 41% 底径 47%	砂粒(白)	良好	橙(7.5YR6/6)	中世・近世	
	71	1	丹下一ノ牧野 馬土手跡	トレンチ上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文、押引文	—	銀・砂粒(白多)	普通	褐(7.5YR4/6)・ にぶい黄橙(10YR5/4)	縄文時代中期 前半「阿玉台 式」

図 版	番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 調		備考
					口径	底径	器高					(外面・内面)		
71	2	丹下一ノ牧野馬土手跡	トレンチ下層	磁器・碗 半球碗(厚手)	(8.4)	3.7	8.4	轆轤成形/白泥掛け、染付/畚付無釉、外面文様あり	口径 14% 底径 100%					在地産、18世紀後半以降
	3	丹下一ノ牧野馬土手跡	トレンチ下層	陶器・太白手広東碗	(12.2)	6.2	6.9	轆轤成形/透明釉、呉須絵/畚付無釉、外面松枝文、貫入あり	口径 34% 底径 93%					瀬戸・美濃産、18世紀末葉以降
	4	丹下一ノ牧野馬土手跡	トレンチ下層	焼締陶器・播鉢 明石・堺系	—	(17.2)	[5.9]	轆轤成形/無釉焼締/櫛目単位数不明、見込クロスパターン、底裏縮目	底径 7%					明石・堺、18世紀後半以降
	5	丹下一ノ牧野馬土手跡	トレンチ下層	土器・焙烙	36.0	(27.0)	6.0	轆轤型打成形/平底、内面に刻印/外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ削り、内面口縁部ヘラナデ、内耳貼付残2、外面に炭化物付着、底裏縮目	口径 41% 底径 18%	砂粒(白)	良好	黒(10YR2/1)・黒褐(2.5Y3/1)		17世紀以降
74	1	南中坪遺跡(第5地点)	カクラン	須恵器・無台杯	—	(10.0)	[1.6]	ロクロ水挽き成形	底径 19%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄(2.5Y6/2)		8世紀後半
	2	南中坪遺跡(第5地点)	P1	須恵器・無台杯	—	(8.4)	[0.8]	ロクロ水挽き成形	底径 28%	砂粒(白・透)	硬質 堅緻	灰褐(7.5 Y R5/2)・暗灰黄(2.5YR5/2)		8世紀後半
	3	南中坪遺跡(第5地点)		土師器・甕	—	—	—	内外面横位ヘラナデ	—	骨針	良好	橙(7.5 Y R6/6)・にぶい橙(7.5 Y R6/4)		8世紀後半～9世紀
76	1	新田遺跡	表採	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LR、隆帯(指頭圧痕)	—	砂粒(白多)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/5)		縄文時代
	2	新田遺跡	表採	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LR	—	砂粒(白・透多)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/6)		縄文時代
	3	新田遺跡	表採	縄文土器	—	(8.4)	[3.3]	底部痕跡あり	底径 34%	金、砂粒(白多)・黒多・透多	良好	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/7)		縄文時代
78	1	般若寺遺跡	表採	須恵器	—	—	[7.1]	隆帯貼付、注口あり	—	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/8)		
	2	般若寺遺跡	表採	須恵器・無台杯	—	(6.8)	1.9	ロクロ水挽き成形、底面にヘラ記号あり	底径 25%	砂粒(白・黒)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/9)		8世紀後半～9世紀初頭
	3	般若寺遺跡	表採	瓦塔	長さ (3.7)	幅 (4.1)	厚さ (1.6)		—	砂粒(白)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/10)		
82	1	西原遺跡(第1地点)	トレンチ2	土師器・甕	—	—	[2.3]	外面ヨコナデ	口径 3%	銀多、砂粒(白多)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/11)		8世紀後半～9世紀前半
	2	西原遺跡(第1地点)	表採	須恵器・無台杯	—	(8.0)	[1.4]	ロクロ水挽き成形	底径 23%	砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/12)		9世紀
	3	西原遺跡(第1地点)	表採	須恵器・無台杯	—	(7.2)	[1.4]	ロクロ水挽き成形	底径 29%	砂粒(透)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/13)		9世紀
	4	西原遺跡(第1地点)	表採	須恵器・無台杯	—	7.6	[2.1]	ロクロ水挽き成形、底面にヘラ記号あり	底径 100%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/14)		9世紀
	5	西原遺跡(第1地点)	トレンチ2	須恵器・無台杯	—	(8.4)	[1.1]	ロクロ水挽き成形、底面にヘラ記号あり	底径 10%	砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/15)		8世紀後半
	6	西原遺跡(第1地点)	表採	須恵器・有台杯	(10.6)	(7.2)	5.0	ロクロ水挽き成形	口径 20% 底径 8%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/16)		9世紀前半
	7	西原遺跡(第1地点)	表採	須恵器・有台杯	—	(9.0)	[2.0]	ロクロ水挽き成形	底径 14%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/17)		8世紀後半～9世紀前半
89	1	堀遺跡(第14地点)	トレンチ1	須恵器・蓋	—	—	[1.25]	ロクロ水挽き成形	—	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/18)		8世紀前半
89	2	堀遺跡(第19地点)	トレンチ2	須恵器・無台杯	—	(8.8)	[1.7]	ロクロ水挽き成形	底径 38%	骨針、砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/19)		9世紀前半
	3	堀遺跡(第19地点)	トレンチ2	須恵器・無台杯	—	(7.2)	[1.4]	ロクロ水挽き成形、底面にヘラ記号あり	底径 22%	骨針、砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/20)		9世紀前半
	4	堀遺跡(第19地点)	トレンチ2	須恵器・無台杯	—	(7.0)	[1.1]	ロクロ水挽き成形	底径 14%	砂粒(白・黒)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/21)		9世紀前半
	5	堀遺跡(第19地点)	トレンチ2	須恵器・有台杯	—	—	[1.5]	ロクロ水挽き成形	—	骨針、砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/22)		9世紀前半
	6	堀遺跡(第19地点)	トレンチ2	須恵器・瓶	—	(14.8)	[5.3]	ロクロ水挽き成形	底径 1%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/23)		9世紀前半
	7	堀遺跡(第19地点)	トレンチ2	須恵器・高盤	—	—	[5.1]	ロクロ水挽き成形、四方透かしあり	—	砂粒(黒)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/24)		9世紀前半
	8	堀遺跡(第20地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	外面格子目文叩き、内面青海波文	—	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/25)		
96	1	渡里町遺跡(第10地点(台渡里第53次))	トレンチ2	須恵器・有台杯	—	(8.6)	[1.8]	ロクロ水挽き成形	底径 19%	砂粒(白・透)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/26)		8世紀後半
	2	渡里町遺跡(第10地点(台渡里第53次))	トレンチ1	須恵器・有台杯	—	(6.2)	[2.2]	ロクロ水挽き成形	底径 14%	骨針多、砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/27)		9世紀
	3	渡里町遺跡(第10地点(台渡里第53次))	トレンチ1 SKO1	平瓦	全長 (7.3)	厚さ 1.2	重量 132 g	凹面布目圧痕、凸面長縄叩き、一枚作り	—	砂粒(透)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/28)		奈良・平安時代
	4	渡里町遺跡(第10地点(台渡里第53次))	トレンチ1 SKO1	平瓦	全長 (4.3)	厚さ (1.4)	重量 65 g	凹面布目圧痕、凸面剥離	—	砂粒(白多)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/29)		奈良・平安時代
	5	渡里町遺跡(第10地点(台渡里第53次))	トレンチ1 SKO1	瓦質土器・鉢	—	—	—	轆轤成形/外面隆帯貼付	—	砂粒(白)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/30)		近世～近代
99	1	台渡里官衙遺跡(台渡里第43次)	—	土師器・甕	(20.0)	—	[2.0]	内外面口縁部ヨコナデ、外面に炭化物付着	口径 6%	砂粒(白多・透多)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・橙(5YR6/31)		

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
99	2	台渡里官衙遺跡 (台渡里第43次)	—	須恵器・有台坏	—	(6.8)	[3.4]	ロクロ水挽き成形	底径 45%	砂粒(黒)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/32)	7世紀後半～ 8世紀前半
	3	台渡里官衙遺跡 (台渡里第43次)	—	須恵器・有台坏	—	(7.6)	[2.6]	ロクロ水挽き成形	底径 22%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/33)	8世紀後半
	4	台渡里官衙遺跡 (台渡里第43次)	—	須恵器・蓋	(17.2)	—	[2.5]	ロクロ水挽き成形	口径 15%	砂粒(透)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/34)	8世紀後半
104	1	台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	トレンチ3	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LR, 外面に炭化物付着	—	砂粒(白・黒)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/35)	縄文時代
	2	台渡里廃寺跡	トレンチ4 SIO1	土師器・甕	(19.0)	—	[7.3]	外面口縁部ヨコナ テ、胴部ヘラ削り、 内面口縁部ヨコナ テ、胴部ヘラ削り、 内面に炭化物付着	口径 13%	砂粒(白・黒・ 透)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/36)	7世紀後半～ 8世紀前半
	3	(台渡里第57次)	トレンチ4 SIO1	須恵器・甕	(16.0)	—	[4.5]	内外面口縁部ヨコ ナテ、外面に炭化 物付着	口径 36%	骨針, 砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/37)	8世紀後半
	4	台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	トレンチ4 SIO1	須恵器・有台坏	—	—	[2.3]	ロクロ水挽き成 形、外面に付着物 あり	—	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/38)	8世紀後半
	5	台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	トレンチ4 SIO1	平瓦	全長 (14.3)	厚さ 2.6	重量 814 g	凹面布目圧痕、凸 面長縄叩き、一枚 作り	—	砂粒(白)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/39)	奈良・平安時代
	6	台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	トレンチ4 SIO1	平瓦	全長 (7.3)	厚さ 1.6	重量 110 g	凹面布目圧痕、凸 面長縄叩き	—	砂粒(白多)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/40)	奈良・平安時代
	7	台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	トレンチ4 SIO1	平瓦	全長 (8.5)	厚さ 2.6	重量 186 g	凹面布目圧痕、凸 面梯子状格子叩き	—	砂粒(白多)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/41)	奈良・平安時代
	8	台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	トレンチ3	土器・鍋	—	—	—	轆轤成形／穿孔 (焼成前)あり、 外面に炭化物付着	—	砂粒(白多・ 黒多)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/42)	中世後期以降
110	1	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	SK03 確認面	須恵器・無台坏	—	(6.6)	[3.0]	ロクロ水挽き成 形、底面にヘラ記 号・糊圧痕あり	底径 31%	骨針, 砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/43)	
	2	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	表土	須恵器・無台坏	—	(8.4)	[2.0]	ロクロ水挽き成形	底径 28%	骨針多, 砂 粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/44)	9世紀
	3	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	表土	須恵器・無台坏	—	(7.0)	[1.6]	ロクロ水挽き成 形、底面にヘラ記 号あり	底径 12%	砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/45)	
	4	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	SX01	須恵器・無台坏	—	(8.0)	[1.0]	ロクロ水挽き成形	底径 28%	骨針, 砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/46)	
	5	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	SK03 上層	須恵器・有台坏	—	(9.0)	[2.7]	ロクロ水挽き成形	底径 26%	骨針, 砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/47)	
	6	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	表探	須恵器・有台坏	—	(9.2)	[2.1]	ロクロ水挽き成形	底径 45%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/48)	
	7	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	P36	須恵器・有台坏	—	(10.6)	[2.6]	ロクロ水挽き成形	底径 13%	砂粒(白・黒)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/49)	
	8	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	表土	須恵器・甕	—	—	—	外面は平行線文叩 き	—	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/50)	
	9	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	SK03 下層・ P6 中層	平瓦	全長 (24.4)	厚さ 1.9	重量 861 g	凹面布目圧痕、凸 面長縄叩き、一枚 作り	—	砂粒(白多)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/51)	奈良・平安時代
	10	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	表土	平瓦	全長 (7.6)	厚さ 2.6	重量 204 g	凹面布目圧痕、凸 面梯子状格子叩き	—	砂粒(白多・ 透多)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/52)	奈良・平安時代
	11	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	表土	平瓦	全長 (4.8)	厚さ 1.9	重量 60 g	凹面布目圧痕、凸 面ヘラ削り	—	砂粒(白・透)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/53)	奈良・平安時代
	12	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	表土	平瓦	全長 (7.1)	厚さ 1.9	重量 122 g	凹面糸切り痕?、 凸面ヘラ削り	—	砂粒(白)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/54)	奈良・平安時代
	13	アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	表土	丸瓦	全長 (7.2)	厚さ 2.2	重量 141 g	凹面布目圧痕→ヘ ラ削り、凸面ヘラ 削り	—	砂粒(白多)	硬質	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/55)	奈良・平安時代
113	1	台渡里廃寺跡 (台渡里第61次)	—	須恵器・蓋	—	—	[2.0]	ロクロ水挽き成形	—	砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/56)	8世紀前半
119	1	馬場尻遺跡	表探	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 沈線文	—	砂粒(透)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/57)	縄文時代
	2	馬場尻遺跡	表探	須恵器・有台坏	—	(8.9)	[4.2]	ロクロ水挽き成形	底径 44%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/58)	9世紀
	3	馬場尻遺跡	表探	須恵器・有台坏	—	(7.1)	[1.9]	ロクロ水挽き成形	底径 41%	砂粒(白多)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/59)	9世紀
	4	馬場尻遺跡	表探	土器・かわらけ	—	4.8	[1.0]	轆轤成形, 糸切底 (左)	底径 74%	砂粒(白・黒)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/60)	15世紀以降
	5	馬場尻遺跡	表探	瓦質土器・内耳鍋	—	—	—	紐積ロクロ成形、 体部内外面横ナ テ・ヘラ削り、外 面に炭化物付着、 内耳貼付残し	—	金, 砂粒(白)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/61)	16世紀以降
122	1	大部平太郎屋敷跡 (第1地点)	表探	須恵器・無台坏	—	(8.0)	[2.2]	ロクロ水挽き成形	底径 21%	砂粒(白)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/62)	8世紀後半～ 9世紀前半、 木葉下産
	2	大部平太郎屋敷跡 (第1地点)	表探	須恵器・無台坏?	—	(9.0)	[2.1]	ロクロ水挽き成形	底径 25%	砂粒(透)	硬質 堅緻	灰黄褐(10YR4/2)・ 橙(5YR6/63)	8世紀後半～ 9世紀前半、 木葉下産
125	1	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・碗 丸碗	(10.8)	(4.0)	5.1	轆轤成形／染付／ 畳付無釉、外面山 水文、見込み文様 あり	1/2 以下				七面焼か、 1838年以降
	2	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・碗 コバルト染付碗	(8.4)	3.2	4.6	轆轤成形／コバル ト染付／畳付無 釉、内面から外面 にかけて二重枠内「 發賣中」見込み ■ルミナ肥料■	1/2 以下				1870年代以降

図 版	番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 調 (外面・内面)	備考	
					口径	底径	器高							
125	3	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・碗 ゴム判絵付碗	(8.2)	—	[4.0]	轆轤成形/ゴム判 絵付/外面二重粹 線内に山水樓閣 文・青海波文	1/2以下				近代後期	
	4	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・碗 コバルト染付湯 呑碗	5.8	—	[5.1]	轆轤成形/コバル ト染付/外面達磨 文・「三市呉服店 」	1/2以上				1870年代以降	
	5	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・碗 コバルト染付湯 呑碗	—	3.2	[4.7]	轆轤成形/コバル ト染付/疊付無 釉, 外面「■ほ志 」電話八六五番」	1/2以下				1870年代以降	
	6	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・碗 コバルト染付碗	14.7	6.8	6.3	轆轤成形/白泥掛 け, コバルト染付 /疊付無釉, 外面 二重圈線, 見込み 蛇の目軸ハギ	1/2以上				1870年代以降	
	7	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・仏飯碗	—	4.2	[4.4]	轆轤成形/白泥掛 け, 染付/底部無 釉, 外面文様あり, 体部下二重圈線, 台接着部一重 圈線	1/2以下				在地産, 18 世紀後半以降	
	8	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・皿 型紙絵付皿	(15.8)	(8.8)	3.2	轆轤成形/型紙絵 付/口鏤, 内面区 画割内に花唐草 文, 区画割外に渦 文, 見込み二重 圈線・花唐草文・砂 付着	1/2以下					1870年代以降
	9	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・皿 型紙絵付皿	(15.8)	(8.8)	3.0	轆轤成形/型紙絵 付/口鏤, 内面区 画割内に花唐草 文, 区画割外に渦 文, 見込み二重 圈線・花唐草文	1/2以下					1870年代以降
	10	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・皿 銅板絵付皿	(13.0)	8.2	2.3	轆轤成形/銅板絵 付/疊付無釉, 内 面青海波文, 短冊 文, 窓枠・扇形枠 内に風景文, 見込 み「■八景」	1/2以下					1870年代以降
	11	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・皿 染付大皿	(22.0)	(12.8)	3.1	轆轤成形, 輪花/ 染付/疊付無釉, 内面雲文	1/2以下					肥前産, 近世
	12	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・皿 コバルト染付皿	(15.9)	(9.0)	2.5	轆轤型打成形, 輪 花/コバルト染付 /疊付無釉, 内面 葉文, 底裏刻印「 ■1.154」	1/2以下					近現代
126	13	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	陶器・皿 志野織部皿B	11.7	6.4	2.5	轆轤成形, 削出高 台/高台内無釉, 鉄絵蘭竹文, 長石 釉, 内面・底裏に 目痕, 貫入あり	1/2以上					17世紀中頃 ~後半
	14	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	陶器・皿 志野皿	11.3	(5.5)	2.5	轆轤成形, 削出高 台/疊付内無釉, 長石釉, 貫入あり	1/2以下					17世紀
	15	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・土瓶	6.6	—	[3.4]	轆轤成形・耳貼付 /青磁	1/2以下					近現代
	16	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	焼締陶器・急須	—	(5.8)	[5.1]	轆轤成形/無釉 (紫泥), 外面飛鉋 文	1/2以下					萬古焼, 明治 以降
127	17	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚 手)	11.1	4.9	3.3	轆轤成形/糸切 底, 内面渦巻状 調整	1/2以上	金多, 砂粒 (白・黒)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)		近代か
	18	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚 手)	11.4	5.4	3.0	轆轤成形/糸切底 (左), 内面渦巻状 調整, 内外面煤付 着	1/2以上	金多, 砂粒 (白・黒)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)		近代か
	19	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚 手)	(11.0)	5.2	3.4	轆轤成形/糸切底 (左), 内面渦巻状 調整, 内外面煤付 着	1/2以下	金多, 骨針, 砂粒(黒)	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)		近代か
	20	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚 手)	(12.0)	5.0	3.3	轆轤成形/糸切底 (左), 内面渦巻状 調整	1/2以下	金, 骨針	良好	橙(7.5YR6/6)		近代か
	21	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚 手)	(11.8)	4.8	2.8	轆轤成形/糸切 底・板目状圧痕, 内面渦巻状調整後 横ナデ	1/2以下	金多, 砂粒 (白・黒)	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)		近代か
	22	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚 手)	(10.2)	4.2	2.8	轆轤成形/糸切底	1/2以下	金多	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)		近代か
	23	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚 手)	10.7	4.2	2.7	轆轤成形/糸切底 (左)	1/2以上	金多, 骨針	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)		近代か
	24	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 中かわらけ(厚 手)	(11.8)	5.8	3.3	轆轤成形/糸切底	1/2以下	金, 骨針, 砂粒(黒)	良好	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)		近代か
	25	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 小かわらけ(厚 手)	7.3	4.5	1.6	轆轤成形	完形	金	良好	浅黄橙 (10YR8/3)		近代か, 白か わらけ
	26	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 小かわらけ(厚 手)	6.2	3.3	1.8	轆轤成形/糸切底 (左), 見込み凸状 に盛上がる, 内外 面煤付着	完形	金, 骨針	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)		近代か

図 版	番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
127	28	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 小かわらけ(厚手)	6.5	3.8	1.9	轆轤成形/糸切底(左), 内面渦巻状調整, 内面煤付着	1/2以上	骨針	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)	近代か
	29	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・かわらけ 小かわらけ(厚手)	(7.2)	4.4	1.8	轆轤成形/糸切底, 内面煤付着著しい(被熱か)	1/2以下	金, 骨針	良好	灰白(2.5Y7/1)	近代か
	30	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	土器・甕	—	23.6	[19.5]	外面はナデ, 内面に付着物あり	底径 100%	砂粒(白多)	良好	明赤褐 (5YR5/6)・黒褐 (10YR3/3)~にぶい黄橙 (10YR7/4)	近代か
128	31	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	硝子製品・化粧 クリーム瓶	5.0	3.6	5.0	乳白色・不透明/回転キャップ/外面にシール枠1箇所所有, 底裏に陽刻, 内面に内容物付着	ほぼ完形				近現代
	32	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	硝子製品・化粧 クリーム瓶	5.0	3.7	4.9	乳白色・不透明/回転キャップ/外面にシール枠2箇所所有, 底裏に陽刻	完形				近現代
	33	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	硝子製品・化粧 クリーム瓶	3.7	4.0	6.1	乳白色・不透明/回転キャップ/底裏に陽刻・ウテナシンボルマーク	完形				近現代
	34	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・代用品 化粧クリーム瓶	4.9	4.0	4.6	型打成形/白泥掛け/回転キャップ/畳付無軸, 底裏に統制番号「岐500」	完形				美濃産, 1941年~1945年(戦時統制期)
	35	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	磁器・代用品 化粧クリーム瓶	3.9	4.4	5.6	轆轤成形/鉄軸掛け/回転キャップ/畳付無軸	完形				1940年代
	36	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	硝子製品・化粧 クリーム瓶	—	5.3	[4.7]	乳白色・不透明/回転キャップ	1/2以下				近現代
	37	三ノ町遺跡 (第1地点)	SK01 6層	丸瓦	全長 (7.4)	厚さ 2.4	重量 284 g	板作成形・型あて成形	—			硬質	灰白(N4/)
131	1	借楽園 (常磐公園)	—	磁器・小碗 コバルト染付碗	8.1	3.5	4.6	轆轤成形/コバルト染付/畳付無軸, 外面宝文	1/2以上				1870年代以降
	2	借楽園 (常磐公園)	—	磁器・碗 コバルト染付碗	8.6	(3.8)	4.6	轆轤成形/コバルト染付/畳付無軸, 外面花卉文, 高台脇二重圏線, 高台一重圏線	1/2以下				瀬戸・美濃産, 1870年代以降
	3	借楽園 (常磐公園)	—	磁器・碗 コバルト染付碗	(8.2)	(3.6)	4.4	轆轤成形/コバルト染付/畳付無軸, 外面花卉文, 高台脇二重圏線, 高台一重圏線	1/2以下				瀬戸・美濃産, 1870年代以降
	4	借楽園 (常磐公園)	—	磁器・小坏	6.1	2.5	2.7	轆轤成形/白泥掛け/染付, 内面上絵付(黒)/高台橋歯文, 底裏銘あり	ほぼ完形				近代
	5	借楽園 (常磐公園)	—	磁器・碗 コバルト染付碗	(10.8)	(3.8)	5.5	轆轤成形/コバルト染付/畳付無軸・砂付着, 外面竹文, 高台脇一重圏線	1/2以下				1870年代以降
	6	借楽園 (常磐公園)	—	磁器・碗 コバルト染付碗	(11.2)	4.0	6.1	轆轤成形/コバルト染付/畳付無軸, 外面文様あり, 体部七重圏線, 高台部二重圏線, 底裏に陽刻で統制番号「岐71」	1/2以下				美濃産, 1941年~1945年(戦時統制期)
	7	借楽園 (常磐公園)	—	磁器・碗 銅板絵付碗	11.8	4.1	5.1	轆轤成形/色絵銅板絵付(青・緑)/畳付無軸, 外面桐に牡丹文	1/2以上				1880年代以降
	8	借楽園 (常磐公園)	—	焼締陶器・徳利 鉄文字一升徳利	—	10.9	[13.7]	轆轤成形/灰釉, 鉄文字「屋」上「七」下, 底裏目痕残2	1/2以下				近代
	9	借楽園 (常磐公園)	—	磁器・蓋物蓋	最大径 (6.0)	受部径 (4.8)	1.2	轆轤成形, 受部貼付	1/2以下				近代以降
133	1	上平遺跡	表採	平瓦	全長 (6.5)	厚さ 1.9	重量 145 g	凹面布目圧痕, 凸面ヘラ削り	—	砂粒(白)	硬質	灰黄(2.5Y7/2)	奈良・平安時代
136	1	高原遺跡 (第3地点)	—	縄文土器	—	(10.4)	[3.6]	外面はナデ調整, 底面は網代痕→ナデ調整	底径 33%	砂粒(白多・透)	良好	橙(7.5YR6/6)	縄文時代
139	1	下入野富士山遺跡 (第1地点)	トレンチ3 SIO2	土師器・高台付坏	15.5	9.2	6.2	内外面口縁部ヨコナデ, 外面に炭化物付着	口径 67% 底径 42%	砂粒(白)	良好	にぶい橙(7.5YR6/4)	11世紀
	2	下入野富士山遺跡 (第1地点)	トレンチ3 SIO2	土師器・高台付坏	—	—	[2.7]		—	砂粒(白・黒)	良好	橙(7.5YR7/6)	11世紀
	3	下入野富士山遺跡 (第1地点)	トレンチ3 SIO2	土師器・皿	—	(6.0)	[1.3]		底径 24%	砂粒(白)	良好	橙(7.5YR6/6)	11世紀
146	1	田島古墳群 (第1地点)	トレンチ12 SIO3上層	弥生土器	—	(7.8)	[2.2]	縄文RをS巻き軸不明, 底面は布目痕	底径 30%	砂粒(透)	普通	明黄褐(10YR7/6)・橙(7.5YR7/6)	弥生時代後期
	2	田島古墳群 (第1地点)	トレンチ9	須恵器・有台坏	—	(12.8)	[2.8]	口ク口水挽き成形	底径 7%	砂粒(黒)	硬質 堅緻	灰(5Y5/1)	8世紀後半
151	1	息栖台遺跡 (第1地点)	トレンチ1	三足盤か四足盤	—	—	—		—	砂粒(白多)	良好	橙(7.5YR6/6)	9世紀~10世紀

図 版	番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
164	1	軍民坂遺跡 (第4地点)	SB01-P1	須恵器・長頸壺	(11.5)	—	[3.5]	ロク口水挽き成形	口径 20%	砂粒(透・白・ 黒)	硬質 堅緻	灰 (5Y6/1)	8世紀, 木葉 下窯跡群産
	2	軍民坂遺跡 (第4地点)	SB01-P2	須恵器・坏蓋	最大径 (3.4)	—	[1.2]	ロク口水挽き成形	—	砂粒(透・白)	硬質 堅緻	灰 (7.5Y6/1)	8世紀前半, 木葉下窯跡群 産
	3	軍民坂遺跡 (第4地点)	SB01-P2	須恵器・無台坏	—	(8.0)	[2.0]	ロク口水挽き成 形, 二次底部面あ り, 出尻底	底径 30%	砂粒(透・白・ 黒), 骨針	軟質	黄灰 (2.5Y8/1)	8世紀初頭, 木葉下窯跡群 産
	4	軍民坂遺跡 (第4地点)	SB01-P2	須恵器・有台坏	(17.0)	(10.3)	[4.0]	ロク口水挽き成形	口径 25%	砂粒(透・白・ 黒)	硬質 堅緻	灰 (7.5Y4/1)	7世紀第4四 半期
	5	軍民坂遺跡 (第4地点)	SB01-P3	須恵器・坏蓋	最大径 (12.9)	—	[1.9]	ロク口水挽き成形	最大径 10%	砂粒(透・白)	硬質 堅緻	灰 (7.5Y5/1)	7世紀第4四 半期, 山田窯 跡群産
	6	軍民坂遺跡 (第4地点)	SB01-P3	須恵器・坏蓋	最大径 (19.0)	—	[2.2]	ロク口水挽き成形	最大径 10%	砂粒(透・白・ 黒)	硬質 堅緻	灰 (5Y8/1)	7世紀末~8 世紀初頭, 木 葉下窯跡群産
	7	軍民坂遺跡 (第4地点)	SB01-P3	須恵器・無台坏	口径 (16.0)	底径 (10.9)	[4.7]	ロク口水挽き成 形, 二次底部面あ り, 出尻底	底径 20%	砂粒(透・白・ 黒)	硬質 堅緻	灰 (5Y5/1)	8世紀初頭, 新治窯跡群 産
	8	軍民坂遺跡 (第4地点)	SB01	須恵器・無台坏	—	底径 (13.0)	[1.9]	ロク口水挽き成形	底径 25%	砂粒(銀・白・ 黒)	硬質 堅緻	灰 (5Y7/2)	8世紀初頭, 新治窯跡群 産力
	9	軍民坂遺跡 (第4地点)	SI01	須恵器・坏蓋	最大径 (3.5)	—	[1.5]	ロク口水挽き成形	—	砂粒(透・白・ 黒)	硬質 堅緻	灰 (2.5Y7/1)	8世紀前半, 東海産力
	10	軍民坂遺跡 (第4地点)	SI01	須恵器・無台坏	—	底径 (9.6)	[1.2]	ロク口水挽き成形	底径 20%	砂粒(銀・白・ 黒)	良好	灰黄 (2.5Y6/2)	新治窯跡群 産力
	11	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	須恵器・有台坏	—	高台径 (8.0)	[1.0]	ロク口水挽き成形	—	砂粒(透・白・ 黒), 骨針	硬質 堅緻	灰 (5Y5/1)	7世紀第4四 半期
	12	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	須恵器・無台坏	—	底径 (9.0)	[0.7]	ロク口水挽き成形	底径 25%	砂粒(透・白・ 黒), 骨針	硬質 堅緻	灰黄 (2.5Y6/2)	木葉下窯跡群 産
	13	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK3	須恵器・坏蓋	最大径 (18.0)	—	[1.5]	ロク口水挽き成 形, 端部折り返し	—	砂粒(透・白)	硬質 堅緻	灰黄 (2.5Y7/2)	8世紀
	14	軍民坂遺跡 (第4地点)	遺構外	須恵器・短頸壺	—	高台径 (12.0)	[3.4]	ロク口水挽き成形	底径 15%	砂粒(透・白・ 黒)	硬質 堅緻	灰白 (5Y7/1)	8世紀, 東海 産力
171	1	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK05	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 口唇部 は沈線文, 外面は 単節斜縄文 R L, 外面炭化物付着	口径 18%	砂粒(透多)	良好	褐 (10YR4/4)・ 黒褐 (10YR3/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 2式」
	2	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK05 上層	縄文土器	—	—	—	沈線文	—	銀多, 砂粒 (白多)	良好	にふい黄褐(10YR5/3)・ にふい褐(7.5YR5/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 2式」
	3	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK05 上層	縄文土器	—	—	—	口唇部は沈線文, 外面は刺突文	—	砂粒(白多・ 透)	良好	にふい褐(7.5YR5/4)・ 褐(2.5YR4/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 2式」
	4	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK05・06	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 沈線文, 単節斜縄文 R L	—	金, 砂粒(白 多・透多)	良好	にふい赤褐(5YR4/4)・ 褐(7.5YR4/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 2式」
	5	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK05 上層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 L R	—	骨針, 砂粒 (白・黒・透)	良好	にふい黄(10YR7/3)・ 褐(10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 2式」
	6	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK05 上層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 複節斜縄 文 L R L	—	骨針, 砂粒 (白・黒)	良好	黒褐(2.5Y3/1)・ にふい黄橙(10YR6/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 2式」
	7	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK05 上層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	砂粒(白・透)	良好	浅黄褐(10YR8/3)・ にふい黄(10YR6/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 2式」
172	1	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器・深鉢 形土器	28.6	—	[31.5]	隆起線文, 単節斜 縄文 L R	口径 94%	金多, 砂粒 (白・黒多・ 透)	良好	にふい黄褐(10YR5/3)・ にふい黄褐(10YR4/2)・ 褐灰(10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」, 「大 木 8 a 式」
	2	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器・深鉢 形土器	—	—	[15.2]	隆起線文, 単節斜 縄文 L R	—	金多, 砂粒 (白・黒)	良好	橙(7.5YR6/6)~灰 黄褐(10YR4/2)・黒 (10YR2/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」, 「大 木 8 b 式」
	3	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 中・下 層	縄文土器・深鉢 形土器	(20.9)	(9.4)	23.7	隆起線文, 単節斜 縄文 L R, 結節(Z 字状)あり, 内外 面炭化物付着	口径 95% 底径 19%	砂粒(白多)	普通	明褐(7.5YR5/6)・ 黒褐(7.5YR3/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」, 「大 木 8 a 式」
	4	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器・深鉢 形土器	(20.8)	—	[7.7]	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	口径 19%	金多, 砂粒 (白多)	良好	黒褐(10YR3/2)・ 黒褐(10YR3/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」
	5	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上・ 中層	縄文土器・深鉢 形土器	(22.0)	—	[9.4]	波状口縁, 隆起線 文, 単節斜縄文 R L	口径 45%	砂粒(白多・ 透多)	良好	にふい黄褐 (10YR5/3)~褐灰 (10YR4/1)・にふい 黄橙(10YR6/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」, 「大 木 8 a 式」
173	6	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器・深鉢 形土器	(45.5)	—	[13.5]	隆起線文, 単節斜 縄文 L R	口径 16%	砂粒(白・黒・ 透)	良好	橙(7.5YR7/6)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」, 「大 木 8 a 式」
	7	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上・中 層	縄文土器・浅鉢 形土器	(42.0)	—	[18.0]	刺突文, 単節斜縄 文 R L	口径 26%	砂粒(白・透)	良好	にふい黄橙 (10YR7/4)~黒褐 (2.5Y3/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」, 「大 木 8 a・8 b 式」
174	8	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒(白多・ 黒・透)	普通	明黄褐(10YR6/6)・ 灰オリブ(5Y5/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」, 「大 木 8 a 式」
	9	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒(白多・ 黒多・透多)	良好	にふい黄橙 (10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1式」, 「大 木 8 a 式」

図 版	番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 調 (外面・内面)		備考
					口径	底径	器高							
174	10	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (黒多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	11	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 縄文	—	砂粒 (黒・透)	良好	浅黄橙 (10YR8/4)・ にぶい橙 (7.5YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	12	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白多・ 黒多・透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	13	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 縄文	—	砂粒 (黒・透)	良好	浅黄橙 (10YR8/4)・ にぶい橙 (7.5YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	14	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白多・ 黒多・透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	15	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上・ 上・中層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 沈線文, 単節斜縄文 R L	—	砂粒 (白・ 黒多・透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)・ にぶい黄 (7.5YR5/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	16	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 中層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	骨針多, 砂 粒 (白・黒)	良好	褐 (7.5YR4/4)・ 明褐 (7.5YR5/6)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	17	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	褐灰 (10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 b 式」	
	18	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 隆起線 文, 単節斜縄文 R L	—	砂粒 (白・ 黒多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	19	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 隆起線 文, 単節斜縄文 R L	—	骨針, 砂粒 (白・透)	良好	褐灰 (10YR4/1)・ にぶい黄橙 (10YR7/3)・ 褐灰 (7.5YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	20	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 隆起線 文, 単節斜縄文 R L	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)・ 灰黄褐 (10YR4/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	21	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上層	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 隆起線 文, 単節斜縄文 R L	—	砂粒 (白・黒・ 透多)	良好	黒褐 (7.5YR3/1)・ にぶい褐 (7.5YR6/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	22	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 隆起線 文, 単節斜縄文 R L	—	砂粒 (黒多・ 透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)・ 褐灰 (10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	23	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	骨針, 砂粒 (白多・透多)	良好	黒褐 (10YR3/1)・ 褐灰 (10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
24	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器・浅鉢 形土器	—	—	—	口唇部に沈線文	—	金, 砂粒 (白 多・透多)	普通	黒褐 (10YR3/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a・8 b 式」		
175	25	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 刺突文	—	金多	良好	黒褐 (10YR3/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」	
	26	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上層	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文 R L	—	砂粒 (黒多・ 透多)	良好	にぶい黄褐 (10YR5/3)・ 灰黄褐 (10YR4/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」	
	27	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 中層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	褐灰 (7.5YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	28	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白多・ 黒・透多)	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)・ にぶい黄橙 (10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	29	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白・透)	良好	黒褐 (10YR3/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 b 式」	
	30	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	金多, 骨針, 砂粒 (白多)	良好	にぶい褐 (7.5YR6/3)・ にぶい黄 (7.5YR5/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	31	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白多・ 黒・透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)・ 褐灰 (10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	32	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白・ 黒多・透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/3)・ 褐灰 (7.5YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	33	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	黒 (10YR2/1)・ 暗褐 (10YR3/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	
	34	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜 縄文 R L	—	金多, 砂粒 (白)	良好	褐灰 (7.5YR5/2)・ 褐 (10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E 1 式」, 「大 木 8 a 式」	

図 版	番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
175	35	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文LR	—	砂粒 (白多・ 透)	良好	にぶい黄褐色 (10YR5/3)・ 灰黄褐色 (10YR5/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a式」
	36	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	骨針, 砂粒 (白多・黒)	良好	にぶい褐色 (7.5YR5/3)・ 灰黄褐色 (10YR4/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a式」
	37	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	骨針, 砂粒 (白多)	良好	黒褐色 (10YR3/1)・ にぶい黄褐色 (10YR6/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a式」
	38	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL, 内面剥離	—	骨針, 砂粒 (白多)	良好	褐色 (7.5YR6/6)・ 明褐色 (7.5YR5/6)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a式」
	39	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	砂粒 (黒・透)	良好	灰黄褐色 (10YR5/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a式」
	40	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文LR	—	砂粒 (黒・透)	良好	橙 (5YR6/6)・ にぶい黄褐色 (10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a式」
	41	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文LR	—	砂粒 (黒・白)	良好	浅黄褐色 (10YR8/4)・ 灰黄 (2.5Y6/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a・8b 式」
	42	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 中・下 層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文LR	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)・ 褐色 (10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a・8b 式」
	43	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	砂粒 (白多・ 黒多・透多)	良好	黒褐色 (10YR3/1)・ にぶい黄褐色 (10YR7/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a・8b 式」
	44	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層・ SK11	縄文土器	—	—	[17.5]	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	金多, 砂粒 (白多)	良好	赤褐色 (5YR4/6)・に ぶい褐色 (7.5YR5/4) ~黒 (7.5YR2/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a・8b 式」
	45	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	砂粒 (白多・ 透)	良好	黒褐色 (2.5Y3/1)・ 橙 (7.5YR6/6)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a・8b 式」
	46	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	砂粒 (透多)	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)・ 灰黄褐色 (10YR5/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a・8b 式」
	47	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	砂粒 (黒多・ 透)	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)・ にぶい黄褐色 (10YR7/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a・8b 式」
	48	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文RL	—	金, 砂粒 (白 多・透)	良好	黒 (10YR2/1)・ 灰黄褐色 (10YR5/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」, 「大 木8a・8b 式」
176	49	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LR	—	砂粒 (白・黒)	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)・ にぶい褐色 (7.5YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	50	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LR	—	砂粒 (白・黒・ 透)	良好	黒褐色 (10YR3/1)・ 橙 (7.5YR6/6)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	51	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LR	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	灰褐色 (7.5YR4/2)・ にぶい赤褐色 (5YR5/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	52	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文RL	—	砂粒 (黒多・ 透多)	良好	褐色 (10YR4/1)・ 灰黄褐色 (10YR5/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	53	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上層	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文RL	—	砂粒 (透多)	良好	灰黄褐色 (10YR4/2)・ にぶい黄褐色 (10YR6/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	54	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文LR	—	砂粒 (黒)	良好	橙 (7.5YR7/6)・ 橙 (7.5YR6/6)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	55	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07	縄文土器	—	—	—	条線文, 沈線文	—	金多, 砂粒 (透多)	良好	にぶい褐色 (7.5YR5/4)・ 灰褐色 (7.5YR4/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	56	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	[11.6]	単節斜縄文LR	—	砂粒 (白多・ 黒多)	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)・ 黒 (10YR2/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	57	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 最上・ 中層	縄文土器	—	(10.5)	[14.0]	単節斜縄文RL, 底面網代痕	底径 67%	砂粒 (白多・ 黒)	良好	明褐色 (7.5YR5/6)・ 黒褐色 (10YR3/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	58	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	(9.4)	[5.9]	単節斜縄文RL, 底面網代痕→調整	底径 86%	金多, 砂粒 (白多)	良好	明褐色 (7.5YR5/6)・ 黒褐色 (10YR3/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	59	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	(10.0)	[4.0]	底面網代痕	底径 26%	砂粒 (白多・ 透)	良好	橙 (7.5YR7/6)・ にぶい黄褐色 (10YR7/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
176	60	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 下層	縄文土器	—	—	—	底面網代痕	—	砂粒(白・黒多・透)	良好	明黄褐(10YR6/6)・ にぶい黄(2.5Y6/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	61	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK07 上層	縄文土器	—	—	[3.2]	底面網代痕	—	砂粒(白・透多)	良好	灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
177	1	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文L R L	—	砂粒(白多・透)	良好	にぶい黄橙(10YR6/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	2	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 沈線文, 単節斜縄文L R	—	骨針, 砂粒 (黒)	良好	褐灰(10YR4/1)・ 浅黄橙(10YR8/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	3	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 隆起線 文	—	砂粒(白多・透)	良好	にぶい黄橙(10YR6/4)・ 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	4	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11 中層	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 隆起線 文	—	骨針, 砂粒 (白・透)	良好	黒褐(10YR3/1)・ 灰黄褐(10YR4/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	5	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11 上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文R L	—	金, 砂粒(白 多)	良好	にぶい褐(7.5YR5/6)・ 明褐(7.5YR5/6)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	6	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文R L	—	砂粒(白多・ 黒多)	良好	にぶい黄橙(10YR6/4)・ にぶい黄橙(10YR5/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	7	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文R L	—	骨針, 砂粒 (透)	良好	にぶい黄褐(10YR5/3)・ にぶい黄橙(10YR6/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	8	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11 中層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文R L	—	砂粒(透多)	良好	黒褐(7.5YR3/1)・ にぶい褐(7.5YR6/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	9	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文R L	—	骨針多	普通	にぶい黄褐(10YR5/3)・ 灰黄褐(10YR6/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	10	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	条線文, 外面に炭 化物付着	—	砂粒(白・黒・ 透)	良好	にぶい黄褐(10YR4/3)・ にぶい黄橙(10YR6/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	11	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11 中層	縄文土器	—	—	—	沈線文	—	砂粒(白多)	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)・ にぶい黄橙(10YR5/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	12	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文R L	—	銀, 骨針	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	13	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文L R	—	砂粒(黒)	良好	にぶい黄橙(10YR6/3)・ にぶい黄橙(10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	14	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文L R L	—	砂粒(白・透)	良好	灰黄褐(10YR6/2)・ にぶい黄橙(10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	15	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈線文	—	骨針, 砂粒 (白多)	良好	にぶい黄橙(10YR7/3)・ にぶい黄橙(10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	16	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11 中層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文R L	—	骨針多, 砂 粒(黒)	良好	暗灰黄(2.5Y5/2)・ 灰黄(2.5Y6/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	17	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文L R L	—	砂粒(白多・ 透)	良好	にぶい黄橙(10YR6/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E2・3式」
	18	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文L R	—	骨針, 砂粒 (透)	良好	灰(5Y4/1)・ にぶい黄橙(10YR7/4)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	19	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文L R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黒褐(2.5Y3/1)・ 暗オリ〜褐(2.5Y3/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	20	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文R L	—	骨針, 砂粒 (透)	良好	にぶい黄橙(10YR6/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	21	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文L R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	にぶい黄橙(10YR6/3)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
	22	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK11	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文L R	—	骨針, 砂粒 (透)	良好	灰黄褐(10YR5/2)・ 褐灰(10YR4/1)	縄文時代中期 後半「加曾利 E式」
178	1	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器・深鉢 形土器	(30.5)	—	[40.1]	口縁部に横S字状 貼付文, 胴部は縄 文(単節斜縄文R L)地文上に沈線文	口径 30%	金多, 砂粒 (白多)	良好	橙(7.5YR6/6)・ 黒(7.5YR2/1)・ にぶい黄橙(10YR5/4)	縄文時代中期 中葉「阿玉台 IV式」・「大 木8a式」
	2	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12 中層	縄文土器・浅鉢 形土器	38.6	—	[20.2]	口縁部は沈線文・ ヘラ状工具による 押し文・隆帯(刻 みあり), 胴部は 単節斜縄文L R	口径 90%	金多, 砂粒 (白多)	良好	にぶい黄橙(10YR5/3)・ 黒褐(10YR3/1)	縄文時代中期 中葉「阿玉台 IV式」・「大 木8a式」
179	3	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12 上・中 層	縄文土器・囊形 土器	—	13.0	[40.8]	口縁部は単節斜縄 文L R, 頸部に隆 帯(刻みあり)2 条・沈線文, 胴部 は単節斜縄文L R, 底面は網代痕 調整 外面に炭 化物付着	底 径 62%	金多, 銀多, 砂粒(白多)	良好	にぶい褐(7.5YR5/3)・ 黒(7.5YR2/1)・ 暗灰黄(2.5Y5/2)・ 黒褐(2.5Y3/1)	縄文時代中期 中葉「阿玉台 IV式」・「大 木8a式」
180	4	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	口唇部は沈線文, 外面は隆起線文・ 沈線文・単節斜縄 文R L	—	骨針, 砂粒 (白・透)	良好	にぶい褐(7.5YR5/4)・ 褐灰(10YR4/1)	縄文時代中期 「大木8a式」
	5	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文R L	—	砂粒(白・透)	良好	にぶい黄橙(10YR6/4)・ にぶい黄橙(10YR5/3)	縄文時代中期 「大木8a式」

図 版	番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色 (外面・内面)	備考	
					口径	底径	器高							
180	6	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	半截竹管状工具による沈線文, 単節斜縄文 L R	—	砂粒(白・透)	良好	橙(5YR6/6)・ にぶい黄褐(10YR5/3)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	7	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	口唇部は単節斜縄文 L R, 外面は角押文・貼付文(棒状工具による刻みあり)	—	金, 骨針, 砂粒(白・透)	良好	褐灰(10YR4/1)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	8	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	隆帯(V字状), 刺突文	—	金多, 砂粒 (白)	良好	明赤褐(5YR5/6)・ 橙(7.5YR6/6)	縄文時代中期 中葉「阿玉台 IV式」	
	9	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	条線文	—	砂粒(黒多)	良好	黒褐(10YR3/2)・ にぶい褐(7.5YR5/4)	縄文時代中期 中葉「阿玉台 IV式」	
	10	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	櫛歯状工具(6本), 単節斜縄文 R L 外面に炭化物付着	—	砂粒(白・黒)	良好	灰黄褐(10YR5/2)・ 黒褐(2.5Y3/1)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	11	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	口唇部~胴部は単 節斜縄文 R L	—	骨針, 砂粒 (白・透)	良好	にぶい黄褐(10YR5/3)・ にぶい黄橙(10YR6/4)	縄文時代中期 中葉「阿玉台 IV式」・「大 木8 a式」	
	12	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	隆起線文(縄文施 文), ヘラ状工具 による刺突文	—	砂粒(白・黒)	良好	にぶい黄橙(10YR6/3)・ 褐灰(10YR4/1)	縄文時代中期 中葉「阿玉台 IV式」	
	13	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 沈線文	—	金多	良好	にぶい黄橙(10YR6/4)・ にぶい黄褐(10YR6/3)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	14	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 R L	—	金, 砂粒(白・ 黒)	良好	にぶい黄褐(10YR5/4)・ 灰黄褐(10YR4/2)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	15	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 L R	—	砂粒(白・黒)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ にぶい黄褐(10YR5/3)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	16	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	半截竹管状工具に よる沈線文, 単節 斜縄文 R L	—	骨針, 砂粒 (白多・透)	良好	黒褐(10YR3/2)・ にぶい黄褐(10YR5/4)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	17	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 L R	—	骨針, 砂粒 (白・黒・透)	良好	にぶい橙(7.5YR6/4)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	18	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	半截竹管状工具に よる沈線文, 単節 斜縄文 L R	—	骨針, 砂粒 (白多・黒)	良好	にぶい黄褐(10YR4/3)・ 暗灰黄(2.5Y4/2)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	19	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	金, 砂粒(白多・ 透多)	良好	黄褐(10YR4/2)・ 灰黄(10YR5/2)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	20	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 L R	—	金多, 砂粒 (白多)	良好	黒褐(2.5Y3/1)・ 暗灰黄(2.5Y4/2)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	21	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12 上層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 L R	—	金, 砂粒(白・ 黒)	良好	橙(7.5YR5/6)・ にぶい褐(7.5YR5/4)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	22	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	砂粒(白多)	良好	黄橙(10YR8/6)・ オリブ褐(2.5Y4/3)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	23	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12 上層~ 中層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	骨針, 砂粒 (白多・透多)	良好	黒(10YR2/1)・ 黒褐(10YR3/2)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	24	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	骨針, 砂粒 (白・透)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ 黒褐(10YR3/1)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	25	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12 上層~ 中層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 L R	—	金, 砂粒(白多)	良好	にぶい黄褐(10YR4/3)・ にぶい黄橙(10YR6/3)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	26	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黒褐(2.5YR3/2)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	27	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	金, 砂粒(白多)	良好	黒褐(10YR3/2)・ 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	28	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12 中層	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	砂粒(白)	良好	にぶい橙(7.5YR6/4)・ 黒褐(7.5YR3/1)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	29	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文	—	砂粒(白・透)	良好	灰褐(7.5YR4/2)・ にぶい褐(7.5YR5/4)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	30	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文	—	金多, 砂粒 (白多)	良好	橙(7.5YR6/6)・ 橙(7.5YR7/6)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	31	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄 文 L R	—	骨針多, 砂粒 (白)	良好	にぶい黄橙(10YR6/3)・ 灰黄褐(10YR5/2)	縄文時代中期 「大木8 a式」	
	181	32	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文 L R	—	金, 骨針, 砂粒(白多)	良好	黒褐(10YR3/2)・ にぶい褐(7.5YR5/3)	縄文時代中期
		33	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文 L R	—	金多, 銀多	良好	暗褐(10YR3/3)・ にぶい黄褐(10YR5/3)	縄文時代中期
		34	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	条線文, 沈線文	—	金多, 砂粒 (白・黒)	良好	にぶい黄褐(10YR5/3)・ にぶい黄橙(10YR6/4)	縄文時代中期
		35	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	—	条線文	—	骨針多, 砂粒 (黒)	良好	灰黄褐(10YR4/2)・ 灰黄褐(10YR4/2)	縄文時代中期
		36	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12 上層~ 中層	縄文土器	—	—	—	条線文	—	金, 砂粒(黒・ 透)	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)・ にぶい黄(2.5Y6/3)	縄文時代中期
37		軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12 上層	縄文土器	—	—	—	隆起線文	—	骨針, 砂粒 (黒・透)	良好	明褐(7.5YR5/6)・ 橙(7.5YR6/6)	縄文時代中期	
38		軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	(7.6)	[5.8]	外面は単節斜縄文 L R, 底面は調整	底径 45%	砂粒(白多)	良好	明赤褐(2.5YR5/6)・ にぶい黄褐(10YR6/4)	縄文時代中期	
39		軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	(11.6)	[3.2]	外面は条線文, 底 面は網代痕	底径 16%	砂粒(黒多)	良好	にぶい褐(7.5YR5/4)・ にぶい黄褐(10YR7/4)	縄文時代中期	
40		軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	(11.0)	[3.1]	底面は網代痕	底径 22%	砂粒(白多)	良好	にぶい赤褐(5YR5/4)・ 灰黄褐(10YR4/2)	縄文時代中期	
41		軍民坂遺跡 (第4地点)	SK12	縄文土器	—	—	[1.3]	底面は網代痕	—	砂粒(白・黒)	良好	明赤褐(5YR5/6)・ にぶい黄橙(10YR6/4)	縄文時代中期	
182	1	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK15 上層	縄文土器・甕形 土器	—	—	[17.7]	沈線文, 単節斜縄 文 R L	—	砂粒(白多)	良好	褐(7.5YR4/3)・ 黒(7.5YR2/1)・ 黒褐(7.5YR3/2)	縄文時代中期 後半「大木8 b式」	
	2	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK15	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜 縄文 L R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰黄褐(7.5YR5/2)・ 黒褐(7.5YR3/2)	縄文時代中期 後半「加曾利 E1式」	

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
182	3	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK15	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文 R L	—	砂粒 (白多・透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)・ 灰黄褐 (10YR5/2)	縄文時代中期後半「加曾利 E 式」
	4	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK15	縄文土器	—	(10.0)	[15.0]	単節斜縄文 R L	底径 32%	砂粒 (白・透)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)・ 黒褐 (10YR3/1)・ 灰黄 (2.5Y6/2)	縄文時代中期後半「加曾利 E 式」
183	1	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK03 確認面	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 隆起線文	—	砂粒 (白・黒)	普通	浅黄橙 (10YR8/4)	縄文時代中期後半「加曾利 E 式」
	2	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK06	縄文土器	—	—	—	波状口縁, 沈線文?	—	骨針多, 砂粒 (黒)	良好	黒褐 (10YR3/1)・ 灰黄褐 (10YR6/2)	縄文時代中期後半「加曾利 E 式」
	3	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK06	縄文土器	—	—	—	沈線文?, 単節斜縄文 R L	—	砂粒 (白)	良好	灰黄褐 (10YR6/2)・ にぶい黄橙 (10YR7/3)	縄文時代中期後半「加曾利 E 式」
	4	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK10	縄文土器	—	(9.2)	[14.9]	単節斜縄文 R L	底径 62%	骨針, 砂粒 (白多・黒多)	良好	橙 (7.5YR7/6)・ 黒 (7.5YR2/1)	縄文時代中期後半「加曾利 E 式」
	5	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK19	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 沈線文, 刺突文, 単節斜縄文 R L	—	砂粒 (白多)	良好	明褐 (7.5YR5/6)・ 黒褐 (7.5YR3/1)	縄文時代中期後半「阿玉台 IV 式」・「大木 8 a 式」
	6	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK20	縄文土器・深鉢形土器	(27.6)	—	[21.6]	波状口縁, 隆起線文, 単節斜縄文 R L	口径 20%	砂粒 (白多・黒多・透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR5/3)・ 黒褐 (10YR3/1)	縄文時代中期後半「加曾利 E 1 式」・「大木 8 a 式」
	7	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK22	縄文土器	—	—	[6.8]	沈線文, 単節斜縄文 L R	—	骨針	良好	にぶい黄橙 (10YR3/4)	縄文時代中期後半「加曾利 E 2・3 式」
	8	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK23	縄文土器・深鉢形土器	(21.2)	—	[14.5]	波状口縁, 沈線文, 単節斜縄文 R L	口径 19%	金・骨針・砂粒 (白多・黒多)	良好	暗褐 (10YR3/3)・ 黒 (10YR2/1)・ 橙 (7.5YR6/6)	縄文時代中期後半「加曾利 E 2・3 式」
	9	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK23	縄文土器	—	—	—	隆起線文, 単節斜縄文 R L	—	骨針多, 砂粒 (黒多)	良好	にぶい橙 (7.5YR7/3)・ にぶい褐 (7.5YR6/3)	縄文時代中期後半「加曾利 E 2・3 式」
	10	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK23	縄文土器	—	—	—	条線文	—	骨針, 砂粒 (黒多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/2)・ 褐灰 (10YR4/1)	縄文時代中期後半「加曾利 E 式」
	11	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK26	縄文土器	—	—	—	無節斜縄文 L	—	砂粒 (白・黒)	良好	灰黄褐 (10YR4/2)・ にぶい褐 (7.5YR5/3)	縄文時代中期後半「加曾利 E 式」
	12	軍民坂遺跡 (第4地点)	SK36	縄文土器	—	—	—	隆起線文	—	金, 砂粒 (白多)	良好	褐 (7.5YR4/4)・ 褐 (7.5YR4/3)	縄文時代中期後半「大木 8 a 式」
153	1	周知外 (安楽寺遺跡近接)	トレンチ	縄文土器	—	—	—	縄文, 押引文	—	金多, 砂粒 (黒・透)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/3)	縄文時代中期前半「阿玉台式」
	2	周知外 (安楽寺遺跡近接)	トレンチ	縄文土器	—	—	—	単節斜縄文 R L	—	金, 砂粒 (白多)	良好	にぶい褐 (7.5YR5/4)	縄文時代中期
	3	周知外 (安楽寺遺跡近接)	トレンチ	縄文土器	—	—	—	沈線文, 単節斜縄文 L R	—	砂粒 (白・透)	良好	明褐 (7.5YR5/6)	縄文時代
	4	周知外 (安楽寺遺跡近接)	トレンチ	弥生土器	—	—	—	付加条第1種 L R 十 2 R, 縄文原体による刺突	—	砂粒 (白多・透多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)	弥生時代後期「二軒屋式」
	5	周知外 (安楽寺遺跡近接)	トレンチ	土師器・無台坏	(12.2)	(6.6)	3.3	輪軸成形, 糸切底	口径 21% 底径 34%	砂粒 (白・透)	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)・ にぶい黄橙 (10YR7/4)	10 世紀以降
154	1	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 2 SIO1	弥生土器	頸径 6.1	—	[11.6]	複合部無文, 複合部下端に棒状工具による押捺, 櫛歯状工具 (4本) による文様 (縦位区画→横位区画→波状文・縹杉文), 外面に炭化物付着, 内面一部剥落	頸径 95%	金多・砂粒 (白多)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)・ 黒褐 (10YR3/1)	弥生時代後期後半「十王台式」
	2	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 1	弥生土器	—	—	—	隆帯 (1条以上指頭の押捺による調整) の貼付, 櫛歯状工具 (5本) による文様	—	砂粒 (白)	良好	橙 (7.5YR6/6)	弥生時代後期後半「十王台式」
	3	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 2 SIO1・02	弥生土器	—	—	—	付加条第2種 L × L, R × R, 内面剥落	—	金, 砂粒 (白・黒)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)・ 浅黄 (2.5Y7/3)	弥生時代後期後半「十王台式」
	4	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 2 SIO2	弥生土器	—	—	—	縄文 L を Z 巻き (軸不明), 内外面に炭化物付着	—	金多, 骨針多, 砂粒 (白多)	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)・ 黒褐 (10YR3/1)	弥生時代後期後半「十王台式」
	5	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 2 SIO2	弥生土器	—	—	—	縄文 L を Z 巻き・R を S 巻き (軸不明), 外面に炭化物付着	—	砂粒 (白・透)	良好	にぶい黄橙 (10YR6/3)・ 黄灰 (2.5Y6/1)	弥生時代後期後半「十王台式」
	6	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 2 SIO3	弥生土器	—	—	—	縄文 R を S 巻き・L を Z 巻き (軸不明)	—	砂粒 (白・透)	普通	にぶい黄橙 (10YR6/4)・ 橙 (7.5YR6/6)	弥生時代後期後半「十王台式」
	7	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 2 SIO3	弥生土器	—	(6.4)	[2.7]	縄文 L を S 巻き (軸不明), 底面布目痕	底径 17%	砂粒 (白・透)	良好	褐灰 (10YR4/1)・ にぶい黄橙 (10YR6/4)	弥生時代後期後半「十王台式」
	8	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 1	土師器・甕	(13.0)	—	[5.8]	外面口縁部ヨコナテ, 内面横位ヘラナテ	口径 8%	金多, 砂粒 (白多・透)	良好	黒褐 (7.5YR3/2)	8 世紀後半
	9	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 2 表土	土師器・甕	—	5.8	[2.1]	外面ヘラ削り	底径 100%	砂粒 (白・透)	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)・ にぶい黄橙 (10YR7/4)	8 世紀後半

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
					口径	底径	器高						
154	10	薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 2 SI03	須恵器・有台坏	—	(9.6)	[2.2]	ロクロ水挽き成形	底径 35%	砂粒 (白多)	硬質 堅緻	褐灰 (10YR4/1)	8世紀後半
155	1	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・無台坏	—	7.4	[3.3]	ロクロ水挽き成形、底面にへら記号あり	底径 100%	砂粒 (白・黒)	硬質 堅緻	にふい褐 (7.5YR5/4) ~ 暗 灰黄 (2.5YR4/2)	9世紀後半
	2	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・無台坏	—	6.8	[3.6]	ロクロ水挽き成形、底面にへら記号あり	底径 100%	骨針, 砂粒 (白多)	硬質 堅緻	にふい黄褐 (10YR5/4)	9世紀後半
	3	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・無台坏	—	(8.0)	[1.4]	ロクロ水挽き成形、底面にへら記号あり	底径 42%	砂粒 (白多)	硬質 堅緻	灰白 (7.5Y7/1)・ 灰 (7.5Y6/1)	9世紀前半
	4	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・無台坏	—	(8.2)	[3.4]	ロクロ水挽き成形、底面にへら記号あり	底径 27%	骨針多, 砂粒 (白多)	硬質 堅緻	暗灰黄 (2.5Y4/2)	9世紀前半
	5	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・有台坏	(17.8)	—	[5.6]	ロクロ水挽き成形、底面にへら記号あり	口径 4%	骨針, 砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰 (7.5Y6/1)	9世紀前半
	6	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・有台坏	—	(7.0)	[2.9]	ロクロ水挽き成形、底面にへら記号あり	底径 33%	砂粒 (白)	硬質 堅緻	暗灰黄 (2.5Y5/2)	9世紀前半
	7	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・有台皿	—	(11.6)	[2.4]	ロクロ水挽き成形	底径 30%	砂粒 (白・ 黒多)	硬質 堅緻	黄灰 (2.5Y6/1)	9世紀後半
	8	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・有台皿	(19.4)	10.2	4.4	ロクロ水挽き成形	口径 14% 底径 69%	砂粒 (白多)	硬質 堅緻	灰 (5Y5/1)	9世紀後半
	9	平ナ山窯跡群	表採	須恵器・有台皿	—	(10.2)	[3.2]	ロクロ水挽き成形	底径 37%	砂粒 (白多)	硬質 堅緻	灰 (5N5/)	9世紀後半
156	1	中河内遺跡 (第3地点)	トレンチ	土師器・碗	(17.0)	(10.8)	6.9	内面黒色処理	口径 32% 底径 49%	銀多, 骨針	普通	橙 (7.5YR7/6)・ 灰 (5Y4/1)	8世紀末~9 世紀前半
	2	中河内遺跡 (第3地点)	トレンチ	須恵器・無台坏	(14.6)	(8.4)	5.5	ロクロ水挽き成形	口径 31% 底径 43%	骨針, 砂粒 (白多)	硬質 堅緻	にふい褐 (7.5YR6/4)	8世紀末~9 世紀前半
	3	中河内遺跡 (第3地点)	トレンチ	須恵器・無台坏	(12.6)	(7.6)	4.4	ロクロ水挽き成形、底面にへら記号あり	口径 8% 底径 32%	骨針, 砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰 (5Y5/1)・ 灰 (5Y6/1)	8世紀後半
	4	中河内遺跡 (第3地点)	トレンチ	須恵器・有台坏	(15.6)	(10.0)	5.8	ロクロ水挽き成形、底面にへら記号あり	口径 4% 底径 43%	骨針, 砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰 (5Y5/1)・ 灰オリープ (5Y6/2)	8世紀中葉
157	1	寺内遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 4 表土	須恵器・長頸瓶	—	(8.4)	[4.4]	ロクロ水挽き成形、内面に付着物あり	底径 21%	砂粒 (白)	硬質 堅緻	灰 (5Y4/1)・ 灰 (5Y5/1)	平安時代
	2	寺内遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 表土	土器・内耳鍋	(32.0)	—	[5.8]	紐積ロクロ成形、体部内外面横ナテ、内耳貼付残0	口径 7%	骨針, 砂粒 (白・透)	良好	橙 (5YR6/6)	中世以降
	3	寺内遺跡 (第2地点第2次)	トレンチ 表土	土器・鉢	(22.6)	—	[2.9]	ロクロ成形、外面に炭化物付着	口径 11%	金多, 骨針, 砂粒 (白多)	良好	黒褐 (2.5Y3/1)・ 黄灰 (2.5Y4/1)	近世以降

・括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

〈第4表 凡例〉

*「胎」の記載には、次の記号を使用する。

「金」: 金色を呈する風化した黒雲母片 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「銀」: 銀色を呈する風化した白雲母片 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「骨針」: 白色針状物質とも表記される海綿骨針 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「白」: 白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「黒」: 黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「透」: 透明で石英と考えられる粒子 (さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

第 12 表 石器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
51	7	環遺跡 (第 11 地点第 1 次)	旧耕作土中	砥石	粘板岩	10.3	2.1	2.2	73	
54	2	環遺跡 (第 13 地点)	—	敲磨具	安山岩	10.9	7.3	3.9	444	縄文時代
66	11	仙光内遺跡 (第 3 地点第 3 次)	マンホール№ 10-11 (トレンチ 6)	砥石	不明	9.4	4	1.5	118	
157	4	寺内遺跡 (第 2 地点第 2 次)	トレンチ 4 表土	砥石	粘板岩	9.4	3.6	1.7	65	
185	1	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SB01 ビット 1	剥片	珪質頁岩 (久慈川産)	3.55	2.3	0.6	4.35	先土器時代カ
	2	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SI01 下層 縄文土坑	石鏃	チャート	2.7	2.3	0.5	1.7	縄文時代
	3	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SI01 下層	石鏃	チャート	2.35	1.6	0.3	0.92	縄文時代
	4	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK07 下層	磨製石斧	不明	6.85	2.6	0.7	20.96	縄文時代
	5	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK11	磨製石斧	ホルンフェルス	10.3	5.2	2.3	202	縄文時代
	6	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK12	磨製石斧未製品	硬砂岩	19.1	7.8	5.4	952	縄文時代
	7	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK07	敲磨具	砂岩	17.4	7.1	5.2	984	縄文時代
	8	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK07	敲磨具	安山岩	11.5	9.4	5	858	縄文時代
	9	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK06	石皿	砂岩	20	13.9	5.8	2,550	縄文時代
	10	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK07 上層	石皿	安山岩	25.1	16.6	5.4	3,950	縄文時代
186	11	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK10 A 区 No.10	剥片	ホルンフェルス	7.7	12.55	3.8	288	縄文時代
	12	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK07 B 区	石核	チャート	3.4	3.8	2.55	42	縄文時代
	13	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK19 No.2	石核	ホルンフェルス	12.3	10.25	11.2	1,793	縄文時代
	14	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK07 No.52	敲磨具	石英斑岩	10.3	6.4	3.6	355	縄文時代
	15	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK06 No.9	敲磨具	安山岩	13.4	12	4.05	1,044	縄文時代
	16	軍民坂遺跡 (第 4 地点)	SK17 No.4	敲磨具	安山岩	11.5	11	5.9	1,038	縄文時代, 全面が赤化

第 13 表 金属器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
66	12	仙光内遺跡 (第 3 地点第 3 次)	マンホール№ 10-11, SD01 (トレンチ 6)	鉄滓	鉄	8.0	9.4	2.0	204	

第 14 表 銭貨観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	銭名・銭種	初鑄造年 (鑄造年)	外径	穿径	最大厚	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
8	1	酒門小学校遺跡 (第 2 地点)	—	寛永通寶 (新寛永)	寛文 8 (1668) 年	2.3	0.6	0.15	3.0	銅一文銭

・計測値は、残存する状態での最大値である。

引用・参考文献

- 渥美賢吾 2011 「3-4 軍民坂遺跡（第4地点）」『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 2018 「黒色磨研土器からみた常陸における古代土器の様式転換とその背景」『婆良岐考古』第40号 婆良岐考古同人会
- 渥美賢吾・色川順子・川口武彦 2011 「2-27 台渡里遺跡（第43次）」『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 渥美賢吾・川口武彦 2011 『台渡里3—平成19～21年度長者山地区範囲確認調査概報—』水戸市教育委員会
- 石丸敦史・渥美賢吾編 2009 『大鋸町遺跡（第8地点）一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 伊藤廉倫 1995 『茨城県水戸市 堀遺跡—住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 井上義安 1988 『水戸市大鋸町遺跡（仮称）元吉田第三住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大鋸町遺跡発掘調査会
- 1990 『薬王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市薬王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 小川和博・大淵淳志編 2006 『台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 川口武彦 2011 「軍民坂遺跡（第3地点）出土の墨書土器」『茨城県考古学協会誌』第23号
- 川口武彦・新垣清貴・渥美賢吾・色川順子 2007 「3-2 台渡里廃寺跡（第26次）」『平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2009 『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2010 『平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2011 『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 斎藤 洋・新垣清貴編 2005 『大鋸町遺跡 グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント
- 佐々木藤雄・関口慶久・大橋 生・林 邦雄 2006 『大鋸町遺跡（第3地点）—市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 佐々木藤雄・林 邦夫編 2008 『台渡里遺跡（第39次調査）—公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 佐々木義則 2013 「木葉下窯跡群産須恵器有台坏・有台坏蓋・有台盤の編年」『婆良岐考古』第35号 婆良岐考古同人会
- 高野浩之・米川暢敬編 2011a 『台渡里5—市道常磐123号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第60次）—』水戸市教育委員会
- 2011b 『赤塚遺跡（第5地点）—河和田住宅建替事業（第5期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 常陸古代窯業史研究会 1998 「水戸市山田窯跡群確認調査報告」『茨城県考古学協会誌』第10号 茨城県考古学協会
- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』内原町史編さん委員会

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅういちねんどみとしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	平成 21 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第 105 集							
編著者名	米川暢敬・渥美賢吾・色川順子・坂本幸子・関口慶久・川口武彦							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒 310-8610 茨城県水戸市中央 1-4-1 ☎ 029-224-1111 (代)					
発行年月日	2019 (平成 31) 年 3 月 22 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
酒門小学校遺跡 (第 2 地点)	酒門町字千束 1436-3 の一部	08201	004	36° 24' 38"	140° 29' 34"	2010.3.10	8.64	個人住宅建築
大鋸町遺跡 (第 11 地点)	元吉田町字狐塚 2341-13, 2342-8, -13	08201	011	36° 21' 14"	140° 28' 54"	2009.11.12	27	個人住宅建築
谷田古墳群 (第 11 地点)	酒門町 587-5, 589-4, -6	08201	069	36° 20' 58"	140° 29' 54"	2009.8.25	37	共同住宅建築
吉田古墳群 (第 7 地点第 1 次)	元吉田町 84-10	08201	072	36° 21' 29"	140° 28' 15"	2009.8.12	15	宅地造成工事
吉田古墳群 (第 8 地点)	元吉田町 102-1	08201	072	36° 21' 28"	140° 28' 12"	2009.9.24 ~ 9.25	74	宅地造成工事
周知外 (吉田古墳群近接)	元吉田町地内 市道駅南 6 号線	08201	—	36° 21' 39"	140° 28' 26"	2009.5.25	2.9	側溝新設工事
福沢古墳群 (第 3 地点)	米沢町 429-7	08201	074	36° 21' 10"	140° 27' 55"	2009.4.16	6	個人住宅建築
福沢古墳群 (第 4 地点)	米沢町 429-1, -4, -8, -10	08201	074	36° 21' 12"	140° 27' 55"	2009.6.9 ~ 6.10	132.5	共同住宅建築
福沢古墳群 (第 5 地点)	米沢町 421-1, -3	08201	074	36° 21' 07"	140° 27' 54"	2009.6.8	12.6	個人住宅建築
福沢古墳群 (第 8 地点)	米沢町字上組 420-1	08201	074	36° 21' 07"	140° 27' 54"	2009.11.12	28.5	個人住宅建築
薬王院東遺跡 (第 2 地点第 3 次)	元吉田町字東組 573-2	08201	128	36° 21' 27"	140° 28' 38"	2009.12.16	142.5	宅地造成工事
乗越沢遺跡 (第 1 地点)	元石川町 645-6, -3	08201	140	36° 20' 03"	140° 30' 21"	2009.6.1	9.75	個人住宅建築
若林遺跡 (第 1 地点第 3 次)	見和 3 丁目 1389-1	08201	016	36° 22' 17"	140° 25' 22"	2009.7.21	6	個人住宅建築
若林遺跡 (第 1 地点第 4 次)	見和 3 丁目 1389-6 ~ -10, -15	08201	016	36° 22' 17"	140° 25' 23"	2009.7.28 ~ 7.29	36	宅地造成工事
沓掛遺跡 (第 2 地点)	見川町 2563-212	08201	167	36° 21' 27"	140° 27' 37"	2009.7.21	6	個人住宅建築
沓掛遺跡 (第 4 地点)	見川町 2570-1, -4	08201	167	36° 21' 33"	140° 26' 41"	2010.1.21	41.25	宅地分譲
高天原遺跡 (第 2 地点)	河和田 1 丁目 1541-2	08201	014	36° 22' 27"	140° 25' 03"	2010.2.19	9.35	土地調査
塚遺跡 (第 11 地点第 1 次・2 次)	河和田 1 丁目 2430-1, 2431, 2432, 2433, 2435	08201	015	36° 22' 25"	140° 24' 44"	1 次 2009.6.18 ~ 6.19 2 次 2009.9.2	1 次 50.25 2 次 43	1 次 土地調査 2 次 高齢者専用賃貸住宅建設
塚遺跡 (第 13 地点)	河和田 1 丁目 1637-1, 1638	08201	015	36° 22' 26"	140° 24' 45"	2010.2.10	12.8	共同住宅建築
赤塚遺跡 (第 5 地点第 2 次)	河和田 3 丁目 2536	08201	042	36° 22' 17"	140° 24' 28"	2009.6.16 ~ 18	274.3	市営住宅建替
河和田城跡 (第 11 地点)	河和田町 486-1, -3, 485-1, -3, 484-1, 3	08201	102	36° 21' 50"	140° 24' 57"	2009.5.18 ~ 5.20	216	宅地造成工事
河和田城跡 (第 12 地点)	河和田町字中道 3810-1, -5, 3810-4 の一部	08201	102	36° 21' 49"	140° 24' 52"	2010.2.19	12.6	個人住宅建築
周知外 (河和田城跡近接)	河和田町 2898-4, -10	08201	102	36° 22' 02"	140° 24' 45"	2009.5.12	—	公民館建替に伴う現地踏査
仙光内遺跡 (第 3 地点第 2 次・3 次)	飯島町地内	08201	120	36° 22' 24"	140° 23' 36"	2 次 2009.6.23 3 次 2009.7.6 ~ 7.10	57.03	排水路新設工事
丹下一ノ牧野馬土手跡	河和田町 101 外	08201	331	36° 21' 55"	140° 25' 38"	2009.10.19 ~ 12.2	12.8	宅地造成工事
南仲坪遺跡 (第 5 地点)	加倉井町字元光山 341-6, 340-3	08201	117	36° 23' 10"	140° 22' 41"	2009.6.4	30	事務所兼工場建設

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新田遺跡	全隈町(市道全隈前次線 工事地内第1地点近接地)	08201	212	36° 25' 49"	140° 23' 23"	2009.6.4	—	現地踏査
般若寺遺跡	木葉下町地内	08201	282	36° 25' 16"	140° 21' 54"	2009.11.19	—	現地踏査
文京1丁目遺跡 (第1地点)	文京1丁目1898-6外3筆	08201	023	36° 24' 14"	140° 26' 36"	2009.8.26 ~ 8.27	112	土地調査
西原遺跡 (第1地点)	渡里町3387-50, -131	08201	026	36° 24' 38"	140° 25' 27"	2009.10.23	5.4	個人住宅建築
堀遺跡 (第14地点)	堀町字馬場東342-2, -3	08201	064	36° 24' 33"	140° 25' 23"	2009.4.27	13	個人住宅建築
堀遺跡 (第19地点)	堀町293-1, -8	08201	064	36° 24' 29"	140° 25' 16"	2009.10.23	12.24	個人住宅建築
堀遺跡 (第20地点)	堀町字前ノ内395-1	08201	064	36° 24' 26"	140° 25' 14"	2009.11.24	38	共同住宅建築
堀遺跡 (第21地点)	渡里町字高野台3228-7, -10, -11	08201	064	36° 24' 33"	140° 25' 39"	2009.12.15	10.5	個人住宅建築
西原古墳群 (第14地点)	渡里町字野木3387-31 外(市道渡里33号線)	08201	080	36° 24' 38"	140° 25' 24"	2009.4.1	3.4	道路拡幅・側溝新設 工事
渡里町遺跡 (第10地点(台渡里第53 次))	渡里町字前原2819-1	08201	121	36° 24' 27"	140° 26' 13"	2009.7.13 ~ 7.15	90	共同住宅建築
台渡里官衙遺跡 (台渡里第43次)	渡里町3009-1	08201	276	36° 24' 33"	140° 26' 03"	2009.6.11	—	個人住宅 浄化槽設 置工事
アラヤ遺跡 (台渡里第55次)	渡里町2953-1	08201	024	36° 24' 32"	140° 25' 46"	2009.7.16	23	個人住宅建築
台渡里廢寺跡 (台渡里第57次)	渡里町字宿屋敷3001-3, 2998-4	08201	098	36° 24' 34"	140° 25' 58"	2009.10.23, 11.17 ~ 11.18	11.5	個人住宅建築
アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	渡里町2953-1	08201	024	36° 24' 32"	140° 25' 46"	2009.12.15 ~ 2010.1.13	119.5	個人住宅建築
台渡里廢寺跡 (台渡里第61次)	渡里町字前原2844-2	08201	098	36° 24' 25"	140° 26' 05"	2010.1.25	21.75	共同住宅建築
南台遺跡 (第2地点)	上国井町字阿川台4079-2	08201	036	36° 26' 45"	140° 26' 18"	2009.4.28	8	個人住宅建築
大井古墳群 (第1地点)	飯富町3516-1 ~ 3482	08201	089	36° 25' 28"	140° 24' 48"	2009.9.10	13	狭あい道路整備工事
馬場尻遺跡	飯富町 (大井神社境内)	08201	147	36° 25' 28"	140° 24' 53"	2009.6.25	—	現地踏査
大部平太郎屋敷跡 (第1地点)	飯富町3621-1	08201	208	36° 25' 44"	140° 24' 41"	2009.9.10	6	個人住宅建築
三ノ町遺跡 (第1地点)	城東2-8-51 (酒井家屋敷地跡)	08201	292	36° 22' 18"	140° 29' 31"	2009.6.22 ~ 6.26	52.5	横山大観生誕の地整備 に伴う範囲確認調査
借楽園 (常磐公園)	常磐町1-5977, 5999	08201	324	36° 22' 35"	140° 27' 08"	2009.10.27	12.58	現状変更申請
上平遺跡	栗崎町地内	08201	193	36° 20' 39"	140° 31' 18"	2009.4.28	—	現地踏査
高原遺跡 (第3地点)	大場町1101-1	08201	247	36° 19' 51"	140° 31' 51"	2009.4.2	8.8	個人住宅建築
下入野富士山遺跡 (第1地点)	下入野町字富士山2013-1	08201	270	36° 18' 29"	140° 31' 13"	2009.7.6 ~ 7.8	12.5	土砂採取
遠台遺跡 (第4地点)	杉崎町721-3	08305	002	36° 22' 56"	140° 21' 03"	2009.4.10	14	個人住宅建築
舟塚古墳群 (第1地点)	大足町舟塚1290-2	08305	006	36° 23' 18"	140° 21' 44"	2010.3.29	10	個人住宅建築
田島古墳群 (第1地点)	三野輪町98-2, 大足町1526-1, 1508	08305	007	36° 23' 54"	140° 21' 41"	2010.3.15 ~ 3.18	33.4	那珂川沿岸農業水利 事業
一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	牛伏町181-1	08305	069	36° 23' 33"	140° 21' 45"	2009.4.9	24	個人住宅建築
息栖台遺跡 (第1地点)	鯉淵町1119-2, 1124	08305	132	36° 26' 46"	140° 22' 38"	2009.6.4	12	個人住宅建築
周知外 (安楽寺遺跡近接)	元吉田町2056	08201	—	36° 21' 27"	140° 29' 06"	2009.2.2	12	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 。'。"	東経 。'。"	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
薬王院東遺跡 (第2地点第2次)	元吉田町字東組 573-2, -10 ~ 12	08201	128	36° 21' 35"	140° 28' 42"	2009.1.28	82.5	宅地造成工事
平ナ山窯跡群	木葉下町 789 - 1 外	08201	291	36° 25' 20"	140° 21' 02"	2009.1.9	—	砂利岩石採取に伴う 現地踏査
中河内遺跡 (第3地点)	中河内町字中坪 194-1, -3 ~ 6	08201	065	36° 24' 25"	140° 27' 24"	2009.2.13	7.5	個人住宅建築
寺内遺跡 (第2地点)	大足町字寺前 1189-3 ~ 5, 1190-1・2	08305	071	36° 28' 15"	140° 22' 01"	1次 2008.10.29 ~ 10.30 2次 2009.1.13 ~ 1.14	185.95	墓地造成
軍民坂遺跡 (第4地点)	上国井町 3585-1	08201	046	36° 26' 35"	140° 26' 24"	2009.1.22 ~ 3.19	66	個人住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
酒門小学校遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文			銭貨(寛永通宝)			
大鋸町遺跡 (第11地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡1(古墳), 溝跡1		縄文土器, 土師器, 須恵器, 土師質土器, かわらけ			
谷田古墳群 (第11地点)	古墳群	古墳			土師器			
吉田古墳群 (第7地点第1次)	古墳群	弥生・奈良・平安	溝跡1, ピット2		弥生土器, 須恵器			
吉田古墳群 (第8地点)	古墳群	奈良	竪穴建物跡1(奈良), ピット1		須恵器			
周知外 (吉田古墳群近接)	包蔵地	中世	溝状遺構1(中世)					
福沢古墳群 (第3地点)	古墳群	古墳			土師器			
福沢古墳群 (第4地点)	古墳群	近世	溝跡1(近世以降)					
福沢古墳群 (第5地点)	古墳群	中世・近世			磁器, かわらけ			
福沢古墳群 (第8地点)	古墳群	縄文・近世	溝跡1(近世以降の畝)		縄文土器			
薬王院東遺跡 (第2地点第3次)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安			弥生土器, 土師器, 須恵器			
乗越沢遺跡 (第1地点)	集落跡	平安・近世			土師器, 須恵器, 瓦質土器			
若林遺跡 (第1地点第3次)	集落跡	縄文	土坑2(縄文)		縄文土器			
若林遺跡 (第1地点第4次)	集落跡	縄文	竪穴住居跡1, 土坑11, 主柱穴1, ピット1		縄文土器			
沓掛遺跡 (第2地点)	集落跡	古墳	土坑1, ピット2					
沓掛遺跡 (第4地点)	集落跡	古墳	竪穴建物跡1, 土坑2, ピット3, 不明遺構1		土師器			
高天原遺跡 (第2地点)	集落跡	古墳	溝状遺構1(古墳)		土師器			
坏遺跡 (第11地点第1次・2次)	集落跡	縄文・古墳・近世	土坑1		縄文土器, 陶器			
坏遺跡 (第13地点)	集落跡	縄文・古墳・近世	溝状遺構1, 土坑3		縄文土器, 瓦質土器, 敲石, 磨石			
赤塚遺跡 (第5地点第2次)	集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世	溝跡5, 溝状遺構1, 土坑2, ピット4		須恵器, かわらけ			
河和田城跡 (第11地点)	城館	中世・近世	溝状遺構2(中世), 土坑2, ピット群45(近世)		瓦質土器, 鉄釘			
河和田城跡 (第12地点)	城館	中世			土師器			
周知外 (河和田城跡近接)	包蔵地	縄文・近世			縄文土器, 海老形土製品			
仙光内遺跡 (第3地点第2次・3次)	集落跡	弥生・古墳・近世			土師器, 須恵器, 瓦質土器・ 羽口・敲石			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
丹下一ノ牧野馬土手跡	野馬土手跡	縄文・近世	土塁・堀	縄文土器, 瓦質土器, 陶器, 磁器	
南仲坪遺跡 (第5地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	溝跡1(平安), ビット2(平安)	土師器, 須恵器	
新田遺跡	集落跡	縄文		縄文土器	
般若寺遺跡	集落跡	奈良・平安		須恵器, 瓦塔	
文京1丁目遺跡 (第1地点)	集落跡 古墳	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	土坑10(縄文), 古墳周隕, 性格不明遺構4	縄文土器, 埴輪	
西原遺跡 (第1地点)	集落跡	縄文・奈良・平安		土師器, 須恵器	
堀遺跡 (第14地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	土坑4, ビット4	土師器, 須恵器	
堀遺跡 (第19地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡1, ビット5(奈良・平安)	須恵器	
堀遺跡 (第20地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	ビット1	須恵器	
堀遺跡 (第21地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安		土師器, 須恵器	
西原古墳群 (第14地点)	古墳群	弥生・古墳・奈良・平安	掘立柱建物跡1, 土坑1	土師器	
渡里町遺跡 (第10地点(台渡里第53次))	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	溝跡2, 土坑2, 井戸跡1, ビット7	縄文土器, 須恵器, 瓦質土器, 平瓦	
台渡里官衙遺跡 (台渡里第43次)	官衙跡	縄文・古墳・奈良・平安		土師器, 須恵器	
アラヤ遺跡 (台渡里第55次)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	溝跡1, ビット9	土師器	
台渡里廃寺跡 (台渡里第57次)	寺院跡	縄文・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡1(奈良・平安), 土坑1, ビット4	縄文土器, 土師器, 須恵器, 瓦	
アラヤ遺跡 (台渡里第59次)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	掘立柱建物跡1, 土坑5, 溝跡3, ビット44, 性格不明遺構2	土師器, 須恵器, 瓦(古代)	
台渡里廃寺跡 (台渡里第61次)	寺院跡	縄文・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡1	須恵器	
南台遺跡 (第2地点)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡1, 土坑1	土師器, 須恵器	
大井古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳		土師器, 須恵器	
馬場尻遺跡	集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・近世		縄文土器, 須恵器, 瓦質土器	
大部平太郎屋敷跡 (第1地点)	城館跡	奈良・平安	竪穴建物跡1(古代)	須恵器	
三ノ町遺跡 (第1地点)	集落跡	土坑1(近世)		土師器, 陶器, 磁器, かわらけ, ガラス瓶, 丸瓦	
借楽園 (常磐公園)	庭園	近世		陶器, 磁器	
上平遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安		平瓦	
高原遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安・近世		縄文土器, 土師器, 須恵器	
下入野富士山遺跡 (第1地点)	集落跡 古墳	弥生・古墳	竪穴建物跡2(平安)	土師器	
遠台遺跡 (第4地点)	包蔵地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世		土師器	
舟塚古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	古墳周隕		
田島古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	古墳周隕(24号墳・28号墳), 竪穴建物跡3, 溝跡1	弥生土器, 土師器, 須恵器, 埴輪	
一聯塚遺跡 (第1地点第2次)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡1, 溝状遺構1, 土坑1	土師器, 須恵器	
息栖台遺跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・中世		土師器	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
周知外 (安楽寺遺跡近接)	包蔵地	縄文		縄文土器, 土師器	平成 20 年度調査 (追加報告)
薬王院東遺跡 (第 2 地点第 2 次)	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安	竪穴建物跡 4	弥生土器, 土師器, 須恵器	平成 20 年度調査 (追加報告)
平ナ山窯跡群	窯跡群	奈良・平安		須恵器	平成 20 年度調査 (追加報告)
中河内遺跡 (第 3 地点)	集落跡	古墳・奈良・平安		土師器, 須恵器	平成 20 年度調査 (追加報告)
寺内遺跡 (第 2 地点)	包蔵地	縄文・弥生・奈良・平安・中世	堀跡 4, 性格不明土坑 6, ピット 20	土師器, 須恵器, 砥石	平成 20 年度調査 (追加報告)
軍民坂遺跡 (第 4 地点)	集落跡	先土器・縄文・古墳・奈良・中世	竪穴建物跡 1 (古墳), 堀立柱建物跡 5 (奈良 1, 中世以降 4), 土坑・ピット 45 (縄文 37, 古代以降)	縄文土器, 土器片鏟, 磨製石斧, 石皿, 敲磨具, 石鏃, 剥片, 石核, 土師器, 須恵器	平成 20 年度調査 (追加報告)

※北緯・東経は世界測地系による。

水戸市埋蔵文化財調査報告 第105集

平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成31年3月28日

発行 平成31年3月28日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 茨城青写真製本株式会社

〒310-0061 水戸市北見町6番31号

TEL 029-225-3951

『平成 21 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書一』正誤表

ページ	訂正前	訂正後
120～129	第 11 表 図版番号 82・89・96・99・104・110・113・119・122・125・126・127・128・131・133・136・139・146・151・164・171・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183	第 11 表 図版番号 83・90・97・100・105・111・114・120・123・126・127・128・129・132・134・137・140・147・152・165・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183・184
129～130	第 11 表 図版番号 153・154・155・156・157	第 11 表 図版番号 154・155・156・157・158